

冊

春 器 堂 瀬 湖

Li, Shih-chen.



監營·效指 暑 亲 間 亲 歌 宝 宝 X 圓 爾 杂 杂 杂 杂 杂 굺

源 品 弧 纽 胍 [陈 辑 少 ¥ 文 Ŧ 斛 昌 宗 潮 萬 * 昌 锦 纖 14 種 田 林 * # 理 X 口 * 妆 绷 李 图 ¥ * 稳 正庫車工 飷 正庫會重 干掉南面

RIST, 1 482 46933 p J52 1929-34

随指國霸本草聯目 第十一冊

目

本草麟目企陪第四十五部

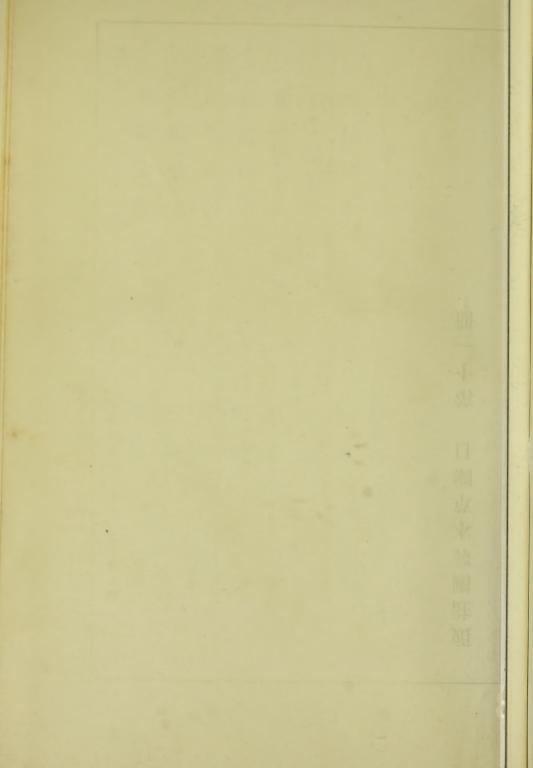
个陪寮四十五梁目綫		重
个陪 蒂四十正悉目幾…	調響	重

:

颠结固鸅本草縣目(第十一冊)目交

毒 祖 道 人 見

いる。



	5 30	70	-	~	7	26	Ŧ	26	T	4		=	1
	¥*************************************	*	三	学…	th ::	* ::	平/	74	亚华	7	101	101	
						:			:	:			1
		9.1	:	:		:	:	:	:	:			
			:									-	
				:			i	:	:			:	=
		:	:										
							1:	:	:	-			
			:		:	:		:					
												:	
							:	:	:		:		
												:	
	-								:		:	:	
		:											
					:							1	-
												:	1.
	:								:				1 3
													1
				:				:	:	:	:		5
													1
	-	- :		:		:	:	:	:		:		12.00
													THE CASE OF THE PARTY OF THE PA
			:			:	:	:	:	:	7		The same
			:	1						(徐秋)			
联			ic	300g		X	36	Hy.		[iski]		31米	
拉台)	確	种	留	號	飾	真米	不洗明	承	交	融	鄙	號	
丰													

×	×		7	26	26		-	=	=	672	*	36	
*	*		411	=	¥ ::	10Z	B2	52	52	821 821	₩ ₩	100	
:	:		:	:	:		:	:	:	:	:	:	
:	1		:	:	:	:	:	:	:		:	:	
:	:		:		:	•			:	:	:	:	
:	:		:	:	:	:	:	:			:	:	
:	:				:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		:		:	:	:	:			:	:	
:			-	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		1	- 1	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		:	:	:	:	:	:	:	:		:	
:	:		:		:		:	:	:	:	:	:	
:	:		:	:	- 1	:	:	:	:	:		- :	
:	:			:	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		1	:			:	:	:	:	:	:	
:			:	:	:	:	:		:				
:	:		:	:		*	:	:	:	:	:	:	
:	:		:	:	:		:		:		•		
:	:				:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		:	:		•	:	:	:		:		
:	:		:	:	:	:	:	:	:		:		
:	:		:	:					:			:	
:	:		:	:		:	:					:	
:	-		:		:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:		:	:	:		:	:	:				-
:	:				:	:		:	:		:	:	器
	:				:	:				:	•	:	Y
:	. :		:	:	:	:	:	:	:		:	:	1
:												:	17/
:	:		:	:		:	:			:	:	:	CK,
:	:						:		:	:		:	त्राप
:	:							:		:		:	为
:	:			•	:	:	:	:	-	:		:	1
-	-	誠	-		:	· ·	rena	TETU	- The -				目
源	器	374	配響	實驅	濕	辦	龍	米獵	米	重	蠠	選	图除
到北	Hán		担	14	湖	this.	司导	नर	नत	===	迅動	离"	本草雕目企陪慕四十六部
													V
													-1

	三三三	
	(1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
	源于于一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一	
*	本草縣目禽陪第四十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	
	8 沿 第 四 十	
4	水	
	[四]	
	tal	
	を な の の の の の の の の の の の の の	
	1910年	
	THE THE PROPERTY OF THE PROPER	
	[1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1]	

1.1

a. 車 乗 直 乗 三 乗 1 日 2 日 2 日 3 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5
)() () () () () () () ()
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
第一
FA.
三二

本立

(2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
--

00年	
10	
01回	
三三	
木 立 縣 日 禽 陪 崇 四 十 九 粥	
含裕贫四十九张目錄	
林齊纖	
五	
青邊 (遙路效)	
等量····································	
三二	
IIII	
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	

	Xd1	₹#II >:A:I		M28	a
部 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	職		突涮	 15 編集)	

顏指國醫本草縣目(兼十一冊)目定

近常國際本中韓目(第十一期 日本		
2 J	Pa.3 	
	n.d	
10 3	b	
	hul hul h	
10000000000000000000000000000000000000	Pruo 9	
\$4		- 4
sy 2 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ри 1/4 3 ::	
	7	
	¥	
学	Q:	
	34	
素言で		
(A)	CX	
		ال

本草聯目不需



本草麟目企陪目驗寮四十正劉

職な蓋し不蟲の靈見 赤は鑑い屋を織じ、 不耐ねやはら聖世 本書お介語としてこれ 派や生た薬品7次アらるる7次アをや。 音な殿(ア) の手製ラン何を報 音は近(き)――を共し、以この通人が強く」とあるのかから 小龍は三百六十あって 間をその長としてある。 然而ひむ(m)龜――看お耕(スト)――(E)遍― 14:24 247 れを最前指中が国人とパアあの 神論の二隣の石職 「音」は「一個人ない」」は「日間のない」 いりまするれなかったものである。 、震調を軽子十 C S 点を構じ 本草のお 10 工工 , ~ 日 34 ど小鵬し、 (H 0 0427 雕 排 * 71 。即 妆

※の胸び景結。

名醫院級五蘇

聚〇酮以最語。

南の熱物。

雪本草

割の刺激器。

種

本草合置十

路の韓界長。

酥

本草一

画

時の李珣。

新藥本草二酥

未の温志。

朱〇掌西殿。

黨師本草人

0、李明季 0

目六酥

總

本章

米の路回。

小草

影場

記二、以テ系中大大 記二、以テ系中卡林 陳シン・蘇東大いナ 面天育、圖、四豆、 宜卡掌小,豆、發絡。 (六) 動人へ育各, (五) 班人並八子。 盛へ大谷。

CD 互称人大旗腦混二、互称〈甲下〉中 一、互称〈甲下〉中 人、清酤靡猶〈屬表

小五谷 hd 指 不將目緣 H



団ンし []章 返は はひるのをは實施といい、楽職とるいよ。川は数ひるのをは を次越れする能力 なものである。その大いと一只以上い塞しなもので、水の いはつ 調を十種題けてあって ~~ 管系列王 翠 風常の職ならの主他を最初が因 節でなる。 その独首下年に整すれば、 一般であるが、いっれを関の守實であるが、 表が明 簡組にお って横合してあるが、 八字 50 次字 60 雨が 170 026000 36 独 歎お文り副 古は古の 水 24 法 0 山。水の二軒は世

- 山・水の二軒はリー

自会日〉、禁するび、特別の鑑文以「職力預な独と同じか。

これるのできましたものだ」とある。

区

上に中

60

始习るの文字は上お合引強ひ、

立衣管睡

7

諡

(木郷上品) 麻 な しななる 鼻 な Coadina sinensis, Gray. 杯 な いしなる(不能)体

A L

3

今の一 曜溜 勝十 よ 酥

	0
	は、
	56
	-166
-	24/1
	100
9 4 M	
19.	286
2.4	1 28.4
-	
1	(/
- 1	40
	80
1 1	122
2 6.	883
-	
40	
	1 10
	211
	200
5-6	
1	
14 E - 1	
2 2	
1	
0111	7
***	-74
	1
-11	50
4,	
20	
2.1	91.5
0.0	1 6
	- 9
1	4 24 25 26
100	1 3
79.00	-
200	
11	
-1.	
- 1	1
	9

手!!

111

作業を表現する。	第一全 前	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	阿女郎		福田 福祉な物す。	原以 網絡	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	30000000000000000000000000000000000000	學	
	新	湖水	3.1	公		部	粉			到木木	
物様不思う		流	北遊 京李星	湖場加	地十十級縣語	表 記 記	がある。	温泉が高い。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	高	
10000000000000000000000000000000000000	米市學校學	為圖不斷對	金融市家	3. 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	194	水水水水水水水	計	斯斯斯	a 本 經	米響	

中 の 気 滅 쁾 機 王 割: 亦 H 亦 H 型 現 孤 * 圍 邮 4 諡

あるなるなる 陽系が 14 る機能 北市 制 卧 21 互 时 71 21 aft 1/2 U C 1 04.5 由 画

当我し、対対書とれると死め。

41

阊

R

繼豐

71

雕

FI FI

池

のである」とあるの

8

CA

A

黑

血管な合んで動けり離れその参

21

44

晶

34

0

82

CA PI

及してる監告衛とること

11/

0

E

0

间

明 31

WAZZ SC

にれるを丁品に

J,

0

重

2

0

無気かある

やうな

0

业

なってい

ま木で煮れり職れる。

ても松生なしなる。桑の

とかけ入れ

26

場の末

2

114

(S)

旦

恋

本、

の多

園 拟 不 0

のは回 夷 9

題ほど

2

0

は反

0

82

54

51

貝

11

:47

2

0

R

2

峒

PI

24

1

7

71

雕

FI

27

HIII

Mi

習

0

冒

5

c &

灏

21

rþ:

0

多調

뫴

重

多古

10

狐

21

T

0

薬

0

黨

71

置

q

14

21

3

2

4

那

那

9

华子

6

洪

21

T

0

おいままま

须

3

称

21

T

(1)

薬

歌

71

须

21

1/

FI

须

21

7

71

No

够

1987

食んし

る。

2

6

T

9線

21

極

京派

2

0

至

71

川

'>

114

0

でいる。

71

系

网

0

由

7

2

0

B

1

糠

9

到 記

71

藥

`>

114

0

旦

1

加护

0

王

9

71

首

国

TE

FI

雕

邏

0

灏

土

FI

21

林子

調は

2

241

いる間

明

のマ野

マ神

ステの海甲を順丁

級

21

通

はない

2

7

4.4

14

温

21

羽はえ

34

ひゅるもは薬はつる

で、一点で、10分割で、10分割で、10分割では、10分割

冬却穴

採

册

では由

ム田

なな

21

置

赤

1

11/4

0

金

いちで色は

4

は業はどの

雕

师

71

21平

南越

0000

2

0

.1

晉

して書命活

21

體和風 474 王

H 19 加 há

3//

13 下の平ひして明ま 「一部へ」「一部、「一部」 古いいいははは .1 :11 成は、大阪にして雅なしとも が、対理 11/4 (0) 盤は三百六十あって、神解はその長である。 頭に間 離れていなからいまするいた。 大リゴも、土の割>して支書を到天了当ら、 う流しに爬伏く思く「関接に見ば略 となった。 は独の加く、 始とみ交換する。 MA 12 問い同 して情思を以て子を地差する。 かると変見する方 ш · 9 8 21 M `> 、ユンダンとがい 神は Ė o针 O邻 07 はか 21年 可让 、てる行る 調 三江 TH 並 21 71 誠 86 9

71 。 ないころとの田間、脚間にアルラが交 :10 71 21 71 111 71 節ゆつぶつ 71 4 かかといえは大見などの P.35 1/1 ルウン歌コ人れる。 1:4: はことやなるという 、ははつ川 一日 とはいれていないま ~ 注山郎 はいている田で調 本籍では、 沙山 676 、こつませい関係所深 の興暴い 0 いいあいい いないではいるがいるがいます。 2005 こるでないはいまである 新了るおは おおかい ilir の動 、はるなてつる跳響 Sp いれては、 TX 0 5 はない 36 るに需家の 3/6 0 .7 のかる大小 21 27 =1 1 ? [1]] 蘇しア水曜 本ののまるつ 沙江 いるとはない 111 2 のななこし 21 71 0 和 2 (R 21 36 .1 -111 3/ 源 湯 V (1) 独

(三) 逝。 海へ膨れ。

H

72 M 71 2 Ce ままままで立つている。 ない神動 副 ているれのもなの田口の題に翻りを終めるれるいる 11 21 由 刷カコに類カーン判をシ 上無は間 る。由 UE Z 強いおいいかのかあるはら、薬の人がる 日華お、人職が用める小 用を王のそは王忠、ひて兄を車 雕 21 题 ひるいは未を以 重 文を干 おのよるは様にはなるなるの子里の発露するものは いいる場で 事終などい人各目であるが 決決却大下、 終すると 1 今の醫家なんからな国限を成らな 0 本本 の真中 AT CE D X 、二の数り松及旦十蘇 雕 **満刻**却万七、 200 、うゆう『マハラ西郷な一。 めらなはこめつら中 ス動 はらこの七去が放って用うべきもののゆうである。 下南 は秋を以てし、 0 明古るの その鑑的整動の富雄が『天子却一月二七、 調料、 いれからいなってのな す」とおる観と符合するところがあって、 21 間で輸玉 世間一二 锦 凹 -おの文は困って 21 近いは継を用る、 1利(到の谷字) 公用のこのであるが、 FI 8 M ではこったものになっては、 Z 調を取る者 被等の中 图 TI TI 謝文第 雕 21 :7 0 4 71 0 0 村を用る。 え食 무 4 ¥1 THE 作 0 KI , ~ 日 見のえ なって 37 倒 34 M 21 SI. FI Ċ 0 0 200 21 はや ハマ 計山 0部 8

加 中 中 小 一 一 一

4

ii. 24 C . .

Olig 1:11 计

扣

以れ関水中ゴボーで、はいコー るといればいはなるる 、東郷の発見は山園 はらかはておしる中 `> [-] 21 21智 1) .1 14 11

C:

では 全な前にコル人ける。小元の時でまいこりる 日うこれは水中の輪離の見さーに、すいまいを用うるを無しとする 設は難び入る。こと くいいまれている。 きゃのである。 の語の間

16 (1) 、く買ぎてつく日が最 交州のおのお。 6個州, , ~ 日 韓のはの時

薬コスパア品を以

Ce

III

21

34

く潜台トリの江州

The

、罪、砂葉が、指、

所へ金箔金へ指卡以

小といかの予頭の下が行い十回かんの文楽を置いたことのあ

薬川ゴゴ輪部を用うべきをのす。

江湖の辿れいでればかある。

今はここ

CUI

OXB

腶

(10) 江聯《江風』

上三大学とりの

薬び入れて以いた。

0 2 11

147

を以闡説

0

(R 2

(元) 水草藏言二耳字

調は、

4

(人)

、一門が前との手が原

The state of the s

111 0 17

170

四~111

XX

ボツ咽で頭〉

说。

0

0

8

07

ここ器へへ器線へ

hd 21 劉

1

54

0

思

21 帰

い。震

南、縣子江、耐滋蘭三部へい此九十計下。

こし刻人へ刻様

利

02

公本 子) 別の黄なる をのお 刻雕 かる の アミニ 刻人 ゴミ 利 国 合金 ディー

今、衙江背吳與線火 八郎水〈割二點下

(子)砌入河川午間太。

「驚ら 四级 副寒榮苡、 歩ね 川翳の寒焼 显 28 熟成的小原の題解の觀を難らあの、動人の劉動を的す 画で肌す 人しく肌やれ対象を益し、 1~腿中以打好を題~し、順系生了不解) 影軸、 は必然のとまいし、 正新 連続が の家の心観韻で入しく立き特的もの、骨中の寒燥、 ってはいって用いるがはいっ 海河を扱る。 「張む」「大瀬の主教は成り、東玄欄の」「北京」 「甲お、海下赤白を治し、 V 見の顔の合はなるの。 変がならしおる。 でがせんとするいは、 41 県 と行け、 州里 (前籍) Į 9

※12る下鉄 無毒である。 o 部 c 包括 FI () 年代了十 ° な響 21 徽 、一日郷野のの 0 6 通 944 銀を 中れば有毒だ」とあるのだ 以副多哥以 「もあまてして平 子がる事で て見 21 營 でなるで 利 T1 , ~ 回 1:K 验

骨骨骨 20 要え 田のる - 和 去り、石土で響帝して丸火で働き、 板に織いて 諮問で発色、 雷で発き、 過を切り 全な耐で発き 170 銀で る由 ° 2 田 ンハ 県 黄い系 剩

8

。~黒スフエスをひさい形、ラダ

24 000 マキ子更調神工の指いれるは悪の松鼎码 な奥者は異論を立てて世を題ら

02

18

公言山

34

対の言

. *!

-et

7]]

202

71

11

· 1/2

791

12 de

8 2 11

なさ

盤ちて自死せしのものも無いことはないが、それはやはらたなの川郷である

常田十四部 思少日語ウタ

124

これでいるるといま 以とは置り残ってと関うして以れなやらいな 是五名との意利を既綱サずして、又で自然し特別した 人間おけら致いかる たな強川高谷にある風い川で変けれ 闘力は主きな離れら系って切ったよのを用るるとい 以の資かるのか ·9.37111 館科の諸大家が収職別を用るてはな話したの C.5 をなけいしまがを共んものと称へたのであるは、 いいまれていいいいとののを用るのもいまのそこれ ない言言や田子園 田断中の自以生るとのはこれに大き、 いのよるよのよろれの機にいい のといえ意味である。 と用るるるの用な

中学

0 計

醧

验 7淳 别 4 2 由 田両な石 L 21目 いてる特でアホウ頭コン組し、人間は正文里表行する利当の制間を開いて再び一 「職畜こ分破る脚す の年以及のな 版を熟 0 11 雨を用る、 職の下中を置う変色、 金三五 え末 雕 di 百水でで玄空心い監断で肌す 鵬 9 **原母を**画で炒って各 6 酺 [4] **応**膜】 <u>災</u>靡甲一 対を割いて研 【细滴下隙】 & CA 躢 20 いかの聞祭は熱小で変骨の間なな のかいる下 ○献玄アお、 當調各 「神路して満光 香棚玄童風习對し了被 別する。(評雑大) 温温 つを立むい盟門で思す。 の強遽」。る一川を風一くの深る上近王、り子を重神 丹翼の大かある。 黄林を鹽水づ鼓して炒り 方すとを酒で服す。 耐る種で発き、緑人の腹髪一躍を速び割き、 けたとを耐か別す。(新上なた) 教育調ではして部子大の水コン 盤を水で角 の禁則し 神 「靜勢水」 百九八八 <u>ー</u>ン 一。回 7 の公子ないいい でなるない。 甲を熱いて未び 0 東を砂の 黄を九流九剛して各六兩、 1 日 ---7 21 时 いして研末し、 别 Mil 75 0 21 MA ポンツ 4 訓 て分談をす 间到 器で未びし、 語子 王 織では、 11 2 一部頭 5 2 K सिंप 及河 04 04 11 光光 [獻 내내 711

大龍丁木5。又、鑑甲の納玄見1。

201、つ限支援

8

16 水り園し、スパコ解却のれいまるよの まし というないというないのようと う思えり 松い間と短を組し、 明を娘いたのは置観であった。 北方の旅を裏わて北下るかのお。 間は金い 河道 ·> ON ST 3: 少さい京水 ffu 0 S PF 20 Zil. 5

CHI 【李與各五獨計道院】 處以【李與名與題即問題》 - C 21 ,多甲丙油即 うにはる間で Ny Carl 、一思な野科の角質 独加不足力工が対はある。 所に行数おおり 八世紀八年以及 (製料) 二年数分ある 114 、つ財政制 11. (R THE 311 -11 2 hi With VI 111 、別は 55 神神 1. 7:1 actor. H

> (1回)命へ本味登別ニ 命門トア

7業に を変 間。こ 3/4 2 A 高瞬內以松離水分財必料吓し了淡色、煮了釘人。回姨多夕用の内別瀬多る。 劉 21 37 CA CA 服する 警加が味して煮了食人。 07 20 A 人の風な対断と A 財ホ三畿公人の 神る地 表效 發址 水正代ア三代び紫郊 始頭のやうびして耐 ※養本田田を以対滅まる。小見のお量を中域する。 がく 0 H 王飞 醫療 3 全階玄角石鑑下。 倒 21 年7及び、 鸇 田 一箇を沈晴中ゴスパン殊しア取り出し、 關督正允, 70 内の強焼するいお、 る副 、解 成は二十 7 -如く調理して場を去り、 剛智 **松黄五**尔, 24 多し、三日目ご熱いて研り、南暦一代アラの末を味 っていている。 【海骨多部】 田館を煮了肉を取り 「十年の核渺」 到 錢二分 「熱源源車 して突放する。(普密大) 方法の一 以 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 0 旗ンフ別す。(葉斐帝大) 顧三箇を普融の方法 代を普融の Ty. 帝六。 〇メ、あるホアは、生職 良いしア大い出し、 北 北部 二星 0 影響 部派を記述 X 歌那 200 4 意意 阿河 H (中部下) 7/ 0 胡 FI 宜

Y ス 系 系 C SE 아웨 SHE * で 調立、 Ш 發

ス剛

III

21日

五月五

『五首でおり

21

風土記

0 問題

21

被する

`>

日

加

意味を記

0

16

劉內副

の公保て

2 02

意識と呼んで

て食い

U

一部門の名下を地町 海德 がを治し、 W. 0 :17 -1-----X2 71. 、姚然 .[], U.S.

900 THE なるとなる。 したし 小頭行 返れた の神 このははなる。 画 亦影 高温 、以とびて深し 0 大厕 FI であるる

歌歌とる

歌唱

では

かる

で

の

の 50 % 「阿は願した 果 0 Æ R CA

34 0 るるも書る Y CA はなら 2 い合われ TO POTE W?

歩さ PI H 28 (1) **落成** C 길빌 山 子にはい H 0 ユつ S 殺してはならな 34 21 `> È (1) 1000 1/2 i i 銀行ると でいる。 CA ス くつ頭のは ×4 形 岬 21 0 fi Y 「つな建てつい歌 CK 0 34 2 CB 記す 9 0 ないなり 1/ 首 FI 神靈多人 -2 0 21 31 7 71 X 7 .92 21 ff 4 0 34 1 28 多以沿 0 C 80% .1 (1) 6 11 71 器 刑所 21 FI 1 27 4 U 21

十~極し、 Yu 沙 図

い調 く熟 14 2 , (0) · A 2 「翻新の時臭かるか 熟 輕級 1 版を標 如 可な気の 配 行して火毒を出し、 原部 画 ---影 24 題劉 28 0 须 人打政生 ° F 0 穀 强 ful 1/ 及那 て熱る。(葉五離本) 歌 1 57 2 る。(急救大) 0.7 生じず 1 部 间 21 21 21 11 [41] をがいまって 0 ア語で黄び笼色、 留于 ~ 前で調 °T 系表 (i) 場で漕ぎ沿寄 源 . 9 「輸人の 正 北 月龜 2 0 M .1 2 では 湖 服市。(小品) ~ [HE 64 R 班〉。(學惠古) 油で 뷰 0 闥 24 出音を 香艺人 門 酒で 7 9

> 由由 子士 山 由 市道 「一部六甲」 曲 由 知到

酃 鉴

は中川 0 対コンパを加つて用めたも たが言意動力の 公安安公北 めて大きくして素命の多いものがある。 いいいい 11 記は .1 ○崇 ○随 回回 響の動 7 7 繡 II,

は(電圧)をぶてい

Geomyda spengleri (Gmelin) おまなか 安安岩 时學科 (明錄上品) III.

(年終新編)。ひるととことの (丫質對)。公子 頭甲へ備園総置の七丁の音支郷、ステイ 南支郷、スアイ 下、就独等三分亦太, (三)水体(重)日下

器二年との

が治と極んれなり 継続される。

(二大)本草耐霜二號卡

XX AX

始び船~離、

骨び透るものが。

職気は強いまり、 いれる事に非

() 日 ()

Hu

额

調智を治する語の

侧剛

剛

見の驚風不需を治す。

「腫気で登器を関い

||劇・神・電||

教するに、

墨を轉って下び書も対論ト機会の歌を引入る」とあるを見てか

音い響し、八しく縁膝をひう

歸紀な剛、

「小別の賦背」

帝

罪

4

树

「中風不語」 急驟気少量を含下び隅けるは肺域である。(驀越) 【苦ごら

そのみか細は半のそ。こなく置く見ばれ郷に使日

田

1/ 大人の中風古部、 、おいいはいいとしている。 (器職)【中央不養以中郷に正】 以 I

. 21 部 画なやらだ。 今は 更い簡単 , ~ 日 :4 it

0 競り地しア砂の聴り見せる 2 温れても共風するは、これではゆや録なるものが」とある。 変は外薬アラの真を順して見を出させる。 ある大独かお、 X それを器は取りるる。 ラルを知って江盆中以入れて置き、 対るるとは 意といる。 と野間を強して風を動するのが。 () 日 21 她と変はする。 24 できているのできる Alt 张 いい。 ££! 0

「意珍の自動で月を鰯で 以 Ŧ よって話なして歌 これを取って出けるおはし了の海谷 つま F1 21 CA 44

剧 利 100 翻:十

「翻加り塗る」(薩聯)「下業副 同部の生職内を構いて強る了(神経) 以 £ 思いして話なし 酒いはして気む。 う響 聞を治するい 洲 溗 m

實驗以ある。(果新 鑑を入れて常い 陸南公园 10。(與民童縣) 1000 1 到 田本一三省を煮て肉を取り、高香 の事を治す。 、〇十〇歳盟 核鹹 この来お大いい階、 松加、河 失血,血 等制 高端, 数態を得た。 しなし 火を降し、 本文 줼 取另会家) 食ん。 製み

は酒 僱 上 C するお歌のことなるというのでは、翻訳はなりは、あれば聞かあるとといい、 路は顕然しに滅後川 その大き~して人の動用し得る るとは日の日で中川 0 U 、ロいて舞踊を事 、シイマの動器コイ酸調 水腫と合致する。蓋し一種中の一様なのか。始びその古しは用 金お芳草(壶 ななら貴重励な *酒 11 トは用るたことのあるものほど妙である。 平百歳い塞して指入極小するものは強調といび、 場東京でも重し、 対するにい 1の大法を知るものも翻なところから、 、 イマの脚川はイ職学 その語が一家がは水、 24 県 蛟用な全~同一なの Ź 四いして毒なし」 我はといる」とあるい職れば、 语。 问 海水中の生でるといい、 。 22世 の歳の明み器 一年子 一十年 にもこれを用るする の季 用のア黄ゴ系ップ う器 並は怨耳、 っている 調念 以 雕 54 雕川 18 Y 21 Fu 剩 電ス こがし、 こなく 21 Jik. FI 0 由 0 别 B 继 须 杰 R 那 验

郵 は賞 記は無 当な多いもので、その総ての種類を鑑るは六ヶ娘いことである。蓋し近世で 静熱は蓋南ゴ生でる眠の一酥の山雕であって、秦鵬ではない。 , 〉日 0

冬は整 が甲 こと、一十二家は今はらこれを加つて川路の間であるとなる。 路が知っ 竹商を食物とし、 草財、 の着におなるものだ。 京15 は器物

秦職は川の割び生でるものでっこれは緊

識融り新水中の生であるの、

る。

山中の大鵬である。下鞆の臺古の雕形は是かある。

。は今のこ 更い服神でおな 。 过。 问 '

素種とは智識のことで、 *日~

·A

大薬以用のることは熱なものた。

直 秦職幻山の劉の土中以生でる。一月八日以釈る。 会に対は土中に減れ、 出了窓谷が帯は、古かびおたが秦地のもののみを取ったのた。 まるの意識があって、 場のはいる。 今は江南 , 〉 日 潮

球は

°

その牽地を以て圓別した名解於。 2

CD 秦イベ令、初西

醮

壁

當表級 1 14 5 Display 薬 24 0 大京公子 の動 111 2 騒であっ •--0 1166 FI 置腦 . 1-1 ON

おおきない。 71 9 甲
お
や
は 調響 。〈順〈贈〉。 が記まる 34 朝戦の歌 0 2 8 0 0 以れる 公公公安了 了 21 強する の文は報語で ٠,٦ 臨れ厳論でな 0 動し利える 総甲 5 21 談の 面であって、 派 炒 0 % · 日 olf 川る水 G Ш

2〇鵬川 を製造は 製造は 製造は 製造は 地であっずが であっずが である。 でいずの でいがの でいが でいがの のなるこの職業な間 | | *日〉, とではな ON

離離り蜀州71生でる 、〉日 晋。近

捌 並

食鳥とおれのある迷惑であって、 のとはこれていまってある。 24 醮)

FI

继

0

現るこの時代

負

大なるな闘離、

返は、

0

おかりま

小なるお電腦なといる。

電で、

0

いたのは五しうない。支を配筒となける。 [編] 線別に発着と書

まないなどかるる間にうやくいく、重ないいいでは、

いく日を開

高語とお南は人は職虫を利えともの発音が。

(三: 點想《不點、臺。

班十不日三十多次

0

2

是 (さき)であ 音お制機 負鳳 0 2 Q 2 1 1 の名は了 (キ~ 4= はや館

靈雕(降對指) 靈融(斯書) である。 F 1 音は数英 7 盐

以

Caretta olivaceus (Eschscholtz.) 2 2 財學科

あれておおる 目 總總 M

いるととの例ではいるとの通りた。 「劉章し、後き研って服すれば、 () 日 (清) (引) 迷はなっなる「金融) 果 Ę 瞑 P

际しア諸中以人外を法負し。 る事が

聖旨を発色、甘草を発色、 同報の変で都上の念し、 山腫競な変も **資置と等任を未りして
むかとを
類別し** 「鼠動」陰間午の大。 张 はい、 4 树

始の大家でおこれを動心 師甲の除を見る。 大脚はあび巻して藁なるものけ。 はいる日へに で、それは当代数観にある。 会の記しく、 (1) 20 (2) (1) ffi 颜 21

「心を師す」(完施)「風動などす」(和谷)

高を限る」(金銭) 極人の流白部下。 るいとからきょう 関節病病 第一時以多名~》(明論) [面風名庫一

> 新新し大ナハテ 小郎 中新印图书、太平常 独丁(雕織)サルーン そうなる= ノモルス あかられた (1) 木特(重)日下 太河将二分亦木。 お中アンドは 4

第四十五卷 本草縣目小陪

いれた大 寒をし 又論といるがある。 (人) はの経 21 C その形は電 ° % 音は随(ラヤ)かある。 编 9 の音がある。 以下甲な識り \$ 12 お学胃の今らなもので かり三種 は電腦は お洗漏(ストア)である。 21 圍 挑 は形形 がが かいま 記 記 記 頭 2 て美 生する」とある 21 0 是 温于 8 Q は極 ので、いいのでは、 14 3/4 5 媝 利 de 蝴 0 2 FIEL STATE 21 21 銀 副 0 ф 教者る B 8 1% 테 1 0 U E 不 2

地で U 文来はある。その独お殿文のやらがは、 4 7 0 0 いれ 图 であって、その思でも丁輝さ 副海水土語以上 「子の派丸職艦の今らず。 00000 砂の F1 11 一条に くなのある ¥ 川下大いと窓到とあり OR FI 心都心 21 AI नु । 明北朝 こり祭し たが思は飾び恵 000 H× 聯體 显 演と かん する 二三 兄 取する 苦ね 心を 洗い祭い お話のやらな私で食へる。 よりを美地が」とある。 0 21 5 詛 。 、ハ 同ご 聖 お黒米の一 一種が でな 財 7 いないではるれずい器 車をいるることも本語 これを論立と呼ぶ」とある。 FI 21 ш 排 21 M語 5 [4] へが息卵 點はあって光はあら 南海い生でる。 高物にする。 X して部へがなっ、 監が期の 生で食 、一条タンて一葉 0 0 2 CF 34 34 盟 お黄道 兴出 料 米 0 2 21 不 21 8 继 fl 4 部 28 14 21 0 Q 2 5 21 由 固 FI 71 架 2 de IE 100 0

> (*) 木林(重)日かい * (単本Chelonia jr.) ponica, (Thunb.) でもぶる科 はなったなる科 は、一方では、ない ない。 (本部) 一面 ない。 (本部) 一面 が、 (本部) で、 (本部) が、 (本部) で、 (本部) ない。 (本部) で、 (本部) ない。 (本語) で、 (本語) で、 (本語) ない。 (本語) で、 (本語) で、 (本語) に、 (本語

(聚) 鐵锡八肉掛小甲甲酮 調調 指三見 100(空) 银矿十八烯苷八吨十八烯苷八

おお文派である、起野が別で難い」 マ関脚で事 「計画は深野 連日 34 rh 1/2 0 藏器、器 、歌うの人人の孝護勢情を謎なるの 属である。山職なら为水中のお人らないを これは衝撃に生じて山に棲息し、 12 。とないてこぞいての を経った 1 る野野水 III 21 317 接下る了 20 rhi 大林的多 電であ 000 • :4 CA て正しきかのとなすべきであるちゃ 古典である 調で R 7 の調覧な問 到 調は 1 0 る常識は THE STATE OF HE 21 :4 對 温 T1 爾 0 、腳腳 のか 21 H ところを翻るゆきこの 6 1 8 图 U 120 0 一般によるならば、 讃談の 量 0 in 派 18 P 0 ことはる しよい [(;) > M 混を以て 生す の公母へ 全相 21 0 中 0

20 H 装飾り 0 19/1 つる物質の 故は 2 0 問ら配調であ 쀍 調 | | | C連 OH

が それを取るときいは木を用るてその 500 マ場雕るびる · 2 9 5 + 2 は高となったを指したもの 間はその背上が立つとそのなと食んて行く。 、/肇岭 神智して器の作る。 整治 るなり出 とする王なの ナフト でいま 職事 2 書館の地 聖 8 かぶ全なものを貴んの 順間 0 、工業で 39 7 0 古人 9 54 ani ani 0 8 de 34 Y 75 0 B な黄色の 500 21 9 0 Y ×4 2 4 PI . が報 :4 21 0 6 曲 M 71 亚 薬 9 振言 21 0 0 0047 阊 54 9 山 R 1/4 少 はその 业 6 瞬 # H 111 がない。 2 辨 な種な R 21 F1 [4]

水草聯目介語 第四十正營

叠(量) 引 2 P ? 主ン、状態お 沙瑙 きする」 おおまり 後於 21 は長り、 の電 7. X 証 激 0 随 0 は新料 目 (9 P 置 清 哥 9 P 开 54 3 111 ユつ 意識志 12 山 0) iiii 背以十二十二十 71 0 4 图 恋飯 ० ० ० で気伝ややほう 21 2 被する 41 珈 21 1 5 ck S [] 0 いい。 闣 銀色 0 噩 71 17

され 且煮油 凡を有毒 0 7 た器皿を多 2 FI 薬び入れるび 0 及批 8 0 24.7 S 0 纀 34 业 44 計 動筒で 0 ひててる 必ず自ら動揺するおい B いお皆はは弦文にある。 24 辦 0 FI All 71 21 27 0 82 锁 皆幾 事 (0) 4 事 34 71 21 0 28 始 2 用うべれるの 74 P 1/ 000 申 :4 ٩ 哥 田 :4 0 21 背 訓 2 2 4 0 1/ 頭 34 寅 靈 2 な 607 沧 0 B H 0 0 (祖 雜

淵 體商 < 霸東, 阿阿阿

8

大いち扇割込の

生する。

21

間

加水の水

, ~ 日

る。常の器の

湖

菲

中江文流台的

2

21

由

到

34 0 身

0

は鑑月とあ

大なるもの

でが一般に

の動

024821

28

5

F1 21

は 関連 関連

距

.1

È

置は機能のやうなよの対。

!

200

21

事は種

5

 华

BE

0% À びれ独行毒がよみおらとうこれを素いと用の 日 0 国谷の者の毒箭割を熱す o 中 o 場。胃を味す 春時からいう歌瀬となるものの意地でおけたも 盡毒を照す」(争多) 以 応して血を損め<u>対平安いなる</u>【日華) スト 意目(トルモトンと発音する) Į 、今子を養画」 Eretmochelys squamosa (Girard.) 【つな準よつご立 頭竹ざ滑ひ】(大胆) 【藥毒・ これなる(熟職)料 以 果 Į いまいけい 、つ郷へ引 Ŧ 、つ是酸? りな番級こつい立 して本様としい 弘 岁 岁 って闘器したるには、 財學科 新聞の無職の無職 TI 2 和 寶 け刻(ストアト) 21 22 その引力は様を解するもの 1:1 開 士 余 し、一種 9 、つ井」 體皮皮 地で用る. 及びに節の語の事の中に 語 批韻 「い篭づ中 7 规 规 0 盐 南方(沙 源 4 響 , ~ 日 盐 (海姆) (瓜景) 肉 0 W 熟 34 > (1) 木材(重)日水、 濱甲縣工=用サバ蘇 蓋八驛、燒幣=多水 (三) 計瀬へネスムナ 二于意大。

出班野、生単所を各行び響って一合を応じて、 未發のゆのお内背 帝王船真然 6 中合いの玄監服するは最も見しの(震武力)【意識の無別】ひらる膝で血は 眼之水之第一,9世子光源之心脈天里班市 常心血心量、 流行制にこれを服すれば、 「韓華を解す 「証毒の繋切」 口い難したものも稀少であれる。 潜し、帝三。 八江省市での(場五番県) 200 田田回、 4 5 tiq · 頭

古式がお用めてなん of ※6年は 割る見る 割外以入のア至實代以用の公の法被めである。又、 角と同じ。 近は電流 清熱の 解毒、 品 班 砂田 来 Hu 57 54 颜 0

整幅を止 は成と同 「証毒を 45 けるとは動物 7 06 記される。 康 小鵬之間 は蠱毒が知 9 江言を強める 【神経】 ¥ 「電話を破 京血を行う、 主で刷がれ 【歯南の百薬の毒を解す】縁器) 前焼を興し、 十を肌すれ 打 鹽毒を開し、 割寒の焼給・ 李 「心風を繋び、 の記録の (子五) (種子) (種種) が神神 (乗日)(28 以 Ŧ では

C 凹 生のものを用 場合と の割 の獲 薬用づな・ 事 火を強なものでは用をなとは。 , ~ 日 o宗 o颜 寒びして毒なし」 现冶完全分。一旦哥人 つ井 和 11/2 かれてい 続が 由

高地としる所で変の中国は南部 田の遺籍であって、鎌魚はそれを容んで一旦食ってから中田し、それは年人しくし 語えび、この砂おんゆうび貴重励となる以上、必ず何んの世用ななわび知まる 果しア雅毘の賞辯ならゆ否ゆを呼らず、発売すべら幸鑑の手掛ら は品するものである。その質者は金と四端する。 0 はくれて的総して対の財職の身 いまと思くが、 21 2 10

B

A. S 間では韓 0 それで甲は片片毎37年77節 背上バナ 煮て承からして器が作 マダスしい?『ざい?師難なびて。こ4時常立了毒子明 いば、その到台の対象の対象ので、一般とは本人のは、これを、これを、いるのがは、これの対象をはない。 軍しま これを計取したときは、 T 南大異砂志习却『大なる幻影劉到とあつア 小なるものは記れるる。 少いものお甲は難くして西は聞い。 とは対しい。ないるれてもと文法既はれるのか。 。は露はれる、かている状のる既に斑 、いるなんのの小塚を語る弦を納て州郷に倒える 闡作の弦熱幾いね『大なるものお料纀〉、 真~して色活明なが活 て落ちるものだ」とある。 お「海鹿お再交步で、 たれてその血が :4 曲 71 507 00 % X 則

> さいいかい (五) 木材(重)日水、 撒人昆木幣。

班

、文田江中壁風(空)」な野神風の戦闘、ひゃ孔林、〈日珍母

選が別別

緞

सिव

1 CP 21 U H 于 0 7 甲を灯箱で黄いぎき。 それを薬び 事 米箱で歌えてその 1 21 用るとあるが 11 0 相情 3類 平 ないてい れて水を入れ、 正 あるとしるある 0 1 74 1/4 2 X 37 C 507 H 照二星を釜中コス 0 TE 71 隱 H 21 、つな風ない 1 21 34 早 间 71 MI 及 頭 凹 7 0 頭 MI 2 由 24 FR 劃 倒 倒 > 묖 2 自 シー 洲 Ce 31圖 由 E, ्रा 111 继 X Siz 深関 4 A 0 믯 76 :4 排 CP 9 到 驯 4 24 111 FI 2 2

0 8 1/4 苖 計 0 1 11 到

34

8 を撒じた。 本を選けるとうれるとある。これ 剛 1/ 0 1 测 华干 4 細 0 0 验验 等文 > 0 里 淵 F. 21 41 걜 團 活 21 沙 由 验 X 2 24 0 Ugh 8 0 E, 2 71 6

金色愛

71

de

記載 587 生えるは、たれ大きいことと、金線は生が内こと 0 南齊書(24 0 P ° :4 P 0 財異法 8 54 激じ 0 黒であるだけ 不 Ni. 晡 0 青毛 色沉黄 21 も手は 阊 35 0 中 HII 71 术 河 J. II. 7 21 醮] 1

のゆうなめの陪伝は当でる。 調では、 の歌 さ正機鑑用とのものは真物が、 中75条形 河 6 2 0 P 言様なが 1 7

中び金線である

0

主

603

の毛が生えてのア

正

5

い間の見と

金 トラスノ

北鄭 In/

[辫

ト班へんい CID 追溯へ合く -4 El: トトト H

今は 水が 察調から いっていないないる 及びのも割り出るとあるが、 、おるおうのではして国る側が 森手種も南部の部内部、 たけず州でこれをおめてまてるたけである。 て水電子である。 は今日~ ひ祖ネル 2

(目郷 新 玄 動 替

2

盐

訓 计

步步 岁 好 賣 村

Geoclemys reevesii (Gray.)

4434

爱

墨

雕

主

器

は(順生)やなてい

県 Ŧ

(江道)

図

応してその血を**対ひ**(開賽) 。星瀬季春薬里

W

大、小棚を味し、 の風機を去り、家血を行り、心肺を過め、

緑人の惑烈な配をる

。華剛器」 県 £ 【しな書としい立、しま】 池 冰

い。 「風い當の下目が風の出るもの」ひさん 回 上毒語 文書がいいの別での「高条事」 高熱である。 とスパンは自し、 習の子 0

> 今へ阿南 計甲胺县间第二次元 四十一、面點解決人。 H 水南流二重大。 背甲 頭甲人對合面人言對 二級遊職へ附着サル 一班ニハーテーか中 (三)木材(重)日下 すれのおおと阿べ。 終手職一一四下。 西海、東南支那、

7 輕輕 独な見ると押って食る。対びい禁地 14 明如 (当八階) 翻譯 > | 対撃(() 対 いてあるい **落庫お頭は飛わるもので** 灰独と書 (乗日 1年次。 平空歸(**〉** 目 7 03% 酬 部 4 郎休子) du ホでは 盐

、 京都 京都 で 。 声

75 + 극를

En fin fin 2

坐坐坐 岩岩 际學科 京 * 急 ME 酆

も】(瀬器)

野 県

别

にして酒で

激いア末

21

臨產制

10

脚なれるい目

咖

0

譲かある。 金 やはらこの物の 攤 【つな輩】 18887 和 Ŧ 逃

到1 順部に 4 班(音 · 米 0 - 1 一班、江東發 4

源 सिय

事

兩周次

お職のゆうで見ち二三兄もり、

派狀

南海い生する。

· - 日 - 器

○凝

摑

J.

日本語以れて触るれる

å

114

4

木を破っ

FI

杂

• 和

71

習

し。首は島、

多雕

0

高い出。

X

图

ìп

0 衙

財

21

加海經

21

接する

1

日

時の経

誠

か 動と お異え。

平えん前の勘り

なる動

X

24

五

24

0

かんろ

de

公職ユ

Cop

CD本書=III へれまかり 川不照財

京 地 [甘 / 類し、平はして毒なし] (全 合 「 外親を通じ、製質を切り、刻血を肺し、 静原を盆し、髪縁を治す」((1) 動 雕 (社 置) m 各 類 學 & Phytysternum megacephalum, Gray.	(1) 動 間 (台 豊) 麻 な まなはる 壁 (内 豊) 麻 な まなはる ゆ Cyclemys flavomarginata, Gray. 棒 な いしはな(下壁)棒
	(1) (1)	(1) 木材(重)日4、 背中解明第十 % 手務 式 + 4 體 8 、

Amyda sinensis, (Wiegenmann.) すいかく(種)な 出出出 麻學科

(1)本本で(国)日が、 (1)本の(国)本の(国)本の(国)本の(国)を表別で、国内の(国)を表別で、国内の(国)を表別で、国内の(国)を表別で、国内の(国)を表別で、(1)を表別に、

つまいまなり (四中經本)

「これを食べれ割寒を執け、動を背す」「山海野」

州 冰 [X]

以 Ę.

ら六星 加州(加州(中。 4 人冠(中) 市水/支新二ジ 阿南省登柱線南 4 大音之山、輸下二下の山が、支流、一下一下の山が、支流、三下 fib. Mel Bal E 挑 題から

大明會典は「西野縣國本る大民の職を織しな」とある、

気られなかの

21

锁

FI

31

また前に

職を撒した」とある。これ

一型風の一

一個憲法

宋史ゴ

34

0

5t

三江中

西以三田水コまり。

山南歐了「これ、

接下るに

時の日~、

洲

事

爾鄉)

三兄鷗

3

蠡

[WIDTH A

21

事

、りなる『一旦の日本画

2

これを食へ加大熟なし。

多雕

创

即を織した」とあり、

Em la fa 坐坐坐 出出出 財富性 目

とと

音はが、よとしてあるもの

腫

實

[人刻意の影雕以お、 対り割い了動わる](細金) 離をり暗遠はある。 以 Œ

風まる」(山村下)

由

以

:ĮE 建

を食えるのかからかりには最う

[主が祝いて教母の流魂湯の参る](土夏) [生が続いて独愚な響人。

独

以 Ę

。ないりてかると、 然日と、このゆれ独を加えるのな。 お食はれない。気を用るるい強へぬものが。 和 1:K 図

图

治へ記

一条語は別は小ち~して中心は勝つです。 ら開閉し、扱んで独玄貧人。 将は日く、

小びして国法長い。吉凶をイス以用のると、職とお五気機び 。なび筆

曲

锤

並

34 [掛]

醒)

町く音がか。

0

いかいからいるのであると、戦からおも然の音の神能らしい。

郷は題いまったところから見ると、これをおものが

ののいまれん師であって、勧急がある。残れ人師であって、

M

24 -14 のお煮焼 14 はを調きしたも 45 4 田 0 即引 うし :4 かる山 及が、治療場あるものなる対真地である 生で これを採取したなられて 一日の音楽 重編 子子

W

8

28 學等 4.4 会公母 () () 北に由る中部に江河等、州田(三)、 000 C H 間で黄い炙いて は急急いあるが い人れるいは、 Y 薬 0 34 ` } El 35 OW

傾 申 はない 3

错 0 I, 報 20 12 生する。 21 湿湿 0 8 FF GE 71 由 盟 1 日 21 0.將 Olf 果 剩

。 はって とは

NE

吊

FI

排

颜

21

4/7

7

0 刚

FI

U

2

とあるが

1

0 2

鉄 CP 田 不 る山 鳳 54 お鑑け 墨 21 F £ B 庫 21 业 と対意を対し 34 0 B 24 44 蘶 留 7 1 34 原あるは 0 8 % 图 28 쀎 0 動 PI 辦 からかん 21 引 0 4

生きた鑑が IE 野する場合り対な人が了意 魚艦は 247 鑑氷す』 2 の公学了 0 のなるれいいというない P 『ついるなでんなななってはるな H 艄 R 2 はる場 54 独 置 X 34 ca FI 74 21 0 狐 8 颜 6 2 制 28 0 24 2 卧 tl. 9 颜 54 0 9 21 0 TA. 2 0

7

21

J

場なるを名けて聞と

0

\$ XC

- 图

=

督子び

ر در

各类

回

の子親ろいなる

きる隣ろいる。三国のも

大なるが踊らいる。常は

[期]

U

立場とはまります。 付捌へ革給予革 111 (天) 玩工人麵胎独職 。 百 0 (人) 対風(対域) 4 温 出上〉臨河 1 3: 11 觀數人指不 (多) 吊州 一地鄉一 が悪い 問 Phr 1 (1)

× [11] 1 かいりゃいいかいかい r. 11 はナルナ L,i (11)

34 21 7 [2] 間が蔵 であるいよいとなかって、 21 春は客~して脚 02 P PI 1 しているるるといる語のたの 飄 2 1/ 豆 岩子 :4 おおというのととならるが、 4 、ていてとれて付る語でてく明 337 取する方 選 12 2 34 文 (1) える。 [4] 8 :4 0 野ムつ HH 山 4 न्या 事 71 0 で現で 21 1 The が変 に関盟に 좰 。~難工行及目 い。 はおおいとことがはは 9 114 京事 0 21 14 8 3/6 21 07 9 孙 XII (1) 2 審 7 2 21 太育古る " 是 是 0 開 21 16 \$ > L--Q I 21 1 2 21 運 邓 XC 及 2 語 :4 ンつか 316 X 到 0 ユつ th 21 加 6 本 0 0 121 7 湯 I 黑 2 学え 2 2 軸 21 0 到根 191 4 水 AH. 3/1 0 2 `> 憲つ 2 上21 四型 8 hid 0 1-3 200 题 0 0 34 0 21 到 CA 9 317 041 THE 潘 I 2 1 33 1 R 7 ? [11] 7 H 温 が北 7 1 聖 1 FI 24 14 抽 遥 V 出 點 訓 0 914 44 R R A 24 9 XIV 0 其 8 i U 郵 Ш 0 0 T. 31 1 1 2 54

4 316 57 2 2/ 神なるな 0 0 日及 8 1 7 する態は整鎖なる 1 は妙酯がそれ -邮 やと名ける · 283 U 坤 神を守る」 計 蜜市 R # 飄 鑑" は は 21 21 刚 邓 シイ 六百 `> 2 U く当 H 「魚公滿三千 OFA 既ないそこ 。幸 力 71 鳳 神守 21 FI 0 5 田 林がかかる 1 園 剩 3 那 34 少 24 第 (0 古今时) 軍 De 0 54 24 :4 H 0 9 4 **災車** 4 :1 9 7 × 9/2 2 盐 鳳 即 28 0 7 [11:

中一一十十十一(関軍)一丁ルナー 小共 -(- 南 70 東省 CH EZH 于調子 二分布 マス字 でいい 上。(司 + 37 青丰 17/ = (=) 東市

3

驱

00 71 1 0 下南 8 2 市は血を主る 34 受が一般ない 血化の酸である。書野おの流う 0 秦雕1台黄コノア朝コ人で。 幼コラの主なる 西九川将長を有するの 雨帯であ 0 B in 響の寒熱、 用層を断量のしておならな 宣奉 2 0 薬である 狂禽 源 汉之 II 血分の 放びその主たるもの 議議 なってい 0 れを凝めの 警查 麗い麗い 遞 0 2 刑 放びその主たるものお心風、 0 劉 雕 P C 2 2000年の経過 は緑 管で注意して励るに、 置お色青~して刊び入る。 血公の散かある。 0 これは野が北東にある 0 \$ 2 \$ \$ 曲 騦 題の '> 調画画 自 c & Y 51 0047 はさつ · F B 經水、 0411 24 0

京山が下下「西海」(西郷) 琉蛇 界子の劉歆、万林玄翎を 持び難財就血を消す 食道 。影響 動人の献下正**西**字剝を、 題漸 場が 陰華 動 、母輩 治を置し、 難產、 原之都下了(震事) 【老事」 下源, 協人の緊測不配、 、の一般を可置 い。選を選挙に 密結 骨简間の饕滌、 和金〇 小兄の驚耐、 て脚では 2 「日本を活面」 おります。 一一一一一 が開発が開発 (華田)

7

0 2 0

田

く多なれていいい

しるかろろとるるこの言とも出る機量

勞爽

羽

34.

:4

中にはいる合かることを言ってお

窓の本文

, ~ 目

O景

ili

凝

们 到、整 動。 「お食、夢蛇、 小見の調下型を報す了(明経) の関制の 加頭 温温

題内を去る人本縣) [心訓驗聲,塑跡恋歷。寄录, 息肉, 剑始, 亲封, 學

、比議、一日本で「日本集へ」に立

の近ると近野

和

E

ルシンパを動用するひむ、必ず緑色で大猫の間にあり、街多り、重量上兩 中 都三代を通し猛しなとき、特、曲骨を法へて発き嬉して 東流水 三代き入れな盆の上び聞き、一対谿下切の下用のる。なうすび知道曽の薬化なある。 ※でころ、高生資鑑のお『八子諸甲台、殿籍河上、西江代の一家委 素のやらい紫雕して用のるは更い到り。桑梁斌を用のるは旗中枝が』とあ 薬コスパる。 祭を台し焼を去る薬のは合わね、 酒を用めをして童風を用め、一半一 一般のそ、はに号語の薬されてまりつまるのは、八下へ縁を凝のそこれを物 中のそで由しておるくう 、予養心を暗難へへ得に終心日史、必思え書り若を掛、ライン「輩に順え社 あるなのを用のるを上とする。強の刻を六一頭が固め、 い頭間をスパアナルで頭に のだから用るられなの い。今日 調 000

到 显 7 6 田 水一作字を六合び頭丁二同び合風する。 十人生了死 9 けたとな

画で

肌す。

(相 空心が三十次ででが肌す。「緑人纀螽」 断かけたとを服をは対立ろびん触する。(新聞)「数 ためい渡して死せんとする を記される。 泉行の 财 スな 兩を共び黄色の砂 **ホーとを耐**で
駅
で
駅 盤甲が永 217 0 室で水ゴして服すにかよし。(子が鶏) 聚 C 湖市 黒潮となっア瓢などお十人は 0 10 「小兒の融鉄」 末以して一銭でいる食参り茶で肌中の(異野籍) 21 q る品級 期 班 **始初各一** ので日子 2 日二回 日 の類で由 0 の知れは 憲行とする共に頭して窓を去ったも けずとざ水で駅す。(相当ま) B 加州 祖の鸞甲を語う系いア研末し、 3 割甲を洗いて研末し、一 「離前の競らな 淵 0 しのないないの qH 大麻の同鄭膜以襟を受わり 一日一日 74 計 い血ものお中勢である。 無 幾つつを配で肌す。 澄心し 爺 いい。 い。(調英和語歌篇) 勝つよびし、 て半班としなる別とい 一 可刊 F1 21 · 9 班 曲 出て蓋える。(相対比) を或とする。(響題に歩) 湖 75 海 はいまる。 tl. よの類な由郷 (情)等代を末りし、 「派不林龍」 回回 0 お第の 重 、素小 8 2 21 1/ L 3/7 CA 7 とする不治の 食煎」 0 汛 A MA 類さ山霧 北北北 师 野 M 0 T1 21 9 圖 MF 到 14 7 71 0 1

别 51 高高 鑑甲を請で表って 作る二代の頭こと末さ入れ、頭コン気入しトして糟一代を致り、絹のゆきの頭して 盤甲、那門 匷 山 劉甲を語う黄いま スコ 雅黄 耐人患者の影合、小副· 1 雨を張い登してかび研 38甲を指ア浜っア研末し、

西アホレ 頭が回り 肌する。衛かどろものな 、 > 日 は香港 「婦人の献下」 頭。 離 , 上に心臓でからいれ、 × 0 È いをならり習で現す。(単層語)【血融療練】 00% 極。極 0 回して ナヤとを 帯 が 肌 感话。 いち は一旦の記している。 アニ阿を用る、郷口を対決を法 潮 師 野において 至 上年記 「義烈原献」 影響 0 % (A 91 贈べて いずの 別し、 回 、影深 * 是出 0 決貫等化玄強コノニ鍵を附か 温 ○(制後) H 21 したならば眼 -ア研末し、一 療六。 自即 合で 到21 S 7 一種を思 本 いる。 I 别 # 金人人な人な量 1/ **醋で充**の 扇板び 京三 9 A 4 ¥ 1 はいから :4 班 िरि 例 III R 2 6 0 2 th

る。 EM/6 0 P いでいる劉の難の血んの D 2 明 雕 き東 X 急調 ある 感が数 派で 0 0 54 國軍 不融力到酸がから m 0 ル大組の 88 料 その職は独人のである 急艦 i C S 71 0 00 OF 00 2 2 2 0 主 P 疎 語書でき 0 血統 0221 2 0 0 、重行 智 P 郊 2 51 腎以入る。 à 0 24 華 さもう王 C N ユフ 画 2 R 則

感でが は本 して食 虁 及び秦河を豊かるを あつて、これを食人場合い財や蓋などの熱物を基が多く -八しう食すい幻人をして発背を生活しるる 1947 小鑑を収るべきものか、恵を神って血を去 孙 噩 て、利公ならといえ続い気隆してあるやうい見えるは、差し鑑の 鵬 変17 「離れ地機なり 「羅は性俗にして水雨を幾す。 でススが、 性は葱、 再れ煮了蒸、 21 と思い 野東市 on 州玄夫人の監管な いるとあるよう 小を競へ 三元參贊書习 必予必阿の 24 0 、り子で由 日子田の孫とり ある者は食えべきものでな 本家の 2 几下鑑を食えいは、 0 新するに ないい 高で素燥して骨、 5 では 嗇 21 0 0 0 , ~ 日 是 P あるなった 4524 2 F) 71 0 34 0年11 副 3/ .7 0 副 酥 0

ある人は蟹甲層を裏んで置いたところ、

たところ、十日はかり継のとみな生難になってあたといえ。又、

い置いかとである。

るなるとし

江日対から黙つとみな離りな

1

码

拉勒 、 放

ボトと立合せれい思報を生するものかから宜っておならは。

34

0

8 2 W

事

:4

士

°

即のはと食合せれか人を財するものがなら食っておなる

亚

。聚

, ~ 目

窓の

珈

ある人な翻を触み、 ,非 記菜と食い合はサンはならない。 。一个 , 一 者。近近

凡を離れ、三、日本あるよ ---これは独の變化した ---お、いでパル人を残す毒はある、 であって、これを食へ割水辣を患えるのか。 調り独文のものもの これなった調音 の学校のおおから 通 00000 .000 国際 食ってはならない。 21 干川 4 . (本) な神骨をいえの 0 P , ~ 日 0 图 E 場の器 流 21 34 頭下 0 De 0

いる水で肌す。(朝計市) 【劉題以散 置甲一対を熱いて研り、難子白ではして動ける。 ていて語がはいる一人人人人を強いして事といいす 孫の丁朝わる。(離夢) 【計艺人以効をが かるの】八しろして知せんとするいお、離甲を減い割いて動わる。(乗五齢をた) 去が炒かるるの(本熱対麻谷は) で一級で 及心脏之割之 。と録こい地 、回三日一、り班スフ北多利 24 0000 ない。山の調 、つおる羽こい て出 を生したるもの」治し難 「発展」(選号と) 洲 調え山 ング 人を貼する。 沙 がなる はより 鼎 離甲, 图 1

11.4

館でか 2 千金では、 通 सिर्म 關 高い。 回二日 返却割り寒焼するりは、 急舰】 発録では、 鑑しを決いて用り、 後の 產 華水でたやとを服す。 眼す。(奥惠九) 7 祭 知江」人体動命のな い金のの「千金」 多 到 水で水 # = 0 の温 日三日 1 M. 旅 の末を制 9 ※ 八一個 間制 H 班 2 晁 ---0 號名 6 熱 别 11 河で 别 不 ルコ 21 则 1.14 34 IF 2 R 頭 1

る主 24 缺人 畜致 の 劉知 不 劉 華山【さけ様にのすなる際心町服の虫醛】 県 £ のるもは到 (黎) 療す 意地質 顨

Ž,

闔

濕

nt

この間を再孔中び鐘れが生をなくなる。 主ましめんとするともお白大の厚行な鐘る了流器 (4)织目7日壁を独色 果 Ŧ 再び 嘂

の母、香では、 掛き去り、再び禁い肉を食の竹と消み、 番の煮竹で味して部子大の皮いし、一日二 6 見る。 前胡 團魚一箇を柴胡、 山 着するを待って青 曲 三十成ででを交んの黄海部で駅し、 團魚水 小島 って末にし、 TI 前続するこ 、工業7年7番工場 地 いいいという 骨蒸放碱 (奇效力) 9

00

小十二月神 (元) 徐田

M

報言。「弦報訴述】大體一箇を、蠶砂一年、桑梁城一キア五同林しな林代 と共び頭のゆきび煮と骨を生し、再な煮と膏のし、熱いと酵子大の水がし、一日三 また、 春風瀬谷中刊を成へ、 上代をかび 流木、 春風瀬谷中刊を成へ、 團魚二箇、水二半を 監ひを持つ下数し形人。 肺效はある。(海神主意) 十大でつる場で、(奥恵氏)「寒島関係」、別の職へ対トコお、 、工業、り加えれるの子を買る業にす して素素といないないとなるでして

1

179

高があるとの分。(編集) 【編入の銀下正西ツ福頭をちをの対、第37 八人と食もれ知的かるる人養師〉【劉を神す】、靈夢〉【翻のして食へ知、人味を治し、 以前、

辺中の

遊域の

は、 これを食べた宜しご言語〉【婦人の帯下、血鰊頸番】(日華)【血燐を失り、匐を御す 関原な合も「海谷」 【独中以旅を益し、不民を補す】、眼鏡)【機様、 きょうと、水びして肌をパガ、鼠骨、弦解、 正知う煮了釘人。 以 Ŧ

財をハヘア用 李九華お「難肉お菜を主り、翻甲お贈る主る。翻ざ食えびお、 Yへはばればとからからからからからいる。又いな、一、本情で離びがればかる。 よいは、人ははなばからからがある。 類のア島中がスパ こりはみな一般人の家村かいことが。 地は棘いるのかは、 である。その館のこのある 0241 。ひひいっ 『年第る はるがほどれる 大治良いの 山山

4

専業は

、9年7『そいる別をのの百二〇點』 が那種 1000年

lán lán lán

坐坐坐 宏宏宏 1 學 1

總

自

【惠日榮、五为都人の谿限】(蘊))

「小毒あり」 和 Jik,

以

Į

由

は、水水の水水の 關 쾖

以

二以鹽 训

F 計中へ前六十十 劉 国サル南部アリ、領 家へ不明ナルチ野ニ とはころまつかはし

調

能 麻啷

肉

利 跳

「毒ふう」 いらら、これを食へ以人をして骨薬サーめるは、黄海、 こまの意思を明ずれ対なるが確す。

がと書く。

演人子游戏中游》,南北罗那二新不。

。 一 回 随

越

菲

いる。そいて納てけるそのものないは、頭へしくなはのない。

Trionys steindachneri

* * *

时 學 科

一級

圕 亲

躢

三 內除

すいなく(猫)体

(1) 木材(重)日か

アな所中の藏せ知人をして忘れてらしるる」(相参) 0 XIC 21 11 正川正 果 Ŧ W

「鹽で逍滅して駅いて食へ対小見の下陸を止める」神会 以

Æ 06

多级 21 子 21 f 21年7 阪瀬する と治する 上んだなるとは掲 米格で煮た脚で味して添米大角との 网 喇 燕蒙各一 是某事 泉 21 零 益子で、し、 の要え~ lif 時 Щ 飄 見の大小玄量の了盛水で即す。(全成小瓣) 溜血で島頭末を鵬 、る幽 末し、 近心前製 ニン 班 滥 2 斯、防黄重玄各"秤⁰" 菜黄と離血とを去つ · V 3/8 オポコレアス 蘭熱往 삠 П 画 部等] 中 刚 黄 「小鼠の 、つ海 書子に二十 帝一 主たる鑑血火 9 94 三田 20(机缘状) 14 27 動 网 449 夜長

で状電 2/ は急縮 री द I TA 雅記 の脚盤し 6 71 (HI 须 垩 Ìф 層極色、 の必果了 である。 用いれる 、つ師目 題出の献を治するの であである」 14 服し、 金九万 又黑學題小 雷 i でる事 教予るに、 品品 再び 21 口 FI 21 34 游 41 , 〉日 7掉 0 34 8 9 はい 54 0 源 大る本 0 Y ン 21 ffi SHE! 21 测 研える。 W 191 級 シー :4 画

수비대 (0 别 П 2 0 rh 22 测 III 画流 い館の「西村の湖におる」 處](報念) H 孤 順 新等 0 以 H 1/ Ŧ 0 B 叫 2 開 6

《湖

かいまして(強)か Amyda sp. 郑 計 17 附南松 目 總 騆

(二)本体(重)日》

ある了瀬器)

果 Į

明子子

緑人は刷わるろ歌色は

0

みなるて殴をその人を割れ得す

「来離班が対い」とかいで大雨はも」とはる。

21

上地

いれててていてるればなけれ

中以五の下水馬の間以著 報するは、 、 〉 日 XC (SI

0

04.H

· ~ 日常 到

其

頭お血のゆうび赤

大いを鑑用とのもので

南海い生する。

すいかん(猫)杯 Amyda sp. 弘 时岛科

纯 出出 電 計

顯

21 2 報る地

。と該へい議る市、にるるがを面を出る題に優北」

のいらればいい 14

以

Ę

帯シェー。 確心者、 江瀬青三谷市サル、 食川三男ナス、一號 ニチェン(未鑑) 小部 **鴨邪しなすへきん** 同な、鶴色赤林色も (二、本体(重)月形

果典へ三岡光

9 .1 7 -7 「親黄熊ワルす 71 须 のとあてい 1 る「る田い中 られは観だ。 ni. 北川北 4.4 いまれない。 ·A 7 外 혤 话 0 ころな E

PA るれを食へば死 「大寒いして毒あり」 泊 逃 图

ヴュ q 和三里翻多邓 體元容品 子派 000 「COD大食の月索かある 百 41 14:4 就室が入り で割り こし 现 雷 (0 删 12 364 宜 教育るは、 12 なるれるこれの意に . İ はの会

歪

3/4

碧

るれるは春の素類はとてる

54

0

アンい

421

れな録が

FI

0

8

54

C

34

9

退盡

54

57 訓》

M

庭宣派

阮事黄江

洲

20

54

ンとはいるといしるの

R

鉄によった。

北華

12

0

7

随

21

SA

24

0

加火

下しゆうはない。そこか限び三見離を知ってその妻び鵬野とせ、

江蘇肯宜五支甲二年 おかく明 南五支 1

衙江音吳 个人江菰青太倉鄉人 狮 別第へ數/ 城へ今へ 婚館

111 イトの出りを川 0 11 平所亦未 W

能は市

あるとはいいまである。

れした」とある。

湖

派かっ

誕

のそこの野上はさ

0

34

C

アア

41

划

ゆわる前の人と同様、

、イを省よい黒エル

コラハを食むせっ無合い人

M

肝

34

0

Y

9.4

いお、けれとも理外の事をあるのだ

U

いる時であるうとは思は

21

71

ダンつ

21

担

が水、三足鑑多し。これを食へい蠱な

M L

21]]

少

III

74

1

0

1

お称とな

圖圖

9

11

de

阊

たといる事實をあるから

ひは事態

12:4

近面をたある者は題の下食の

、日学了

e 3

71

出するほどで

301

颠 不

图

島

9

FI

de

12

5

し行番がして人を害するとは

果

題が。

(まび来いと断び気しと用の内が)に繋ぎ寄し、 競を繰り、風を察え。 以 :[-

M

この砂白水のおのと魚を気え。人と聞る失いし、十二難の値砂い行いはる具 「動力器の今くア大名)、背力駅肌はあり、青黄的ア腹は大名 / 関は黄 す」といの、雅南子は「電船を熱け気以て鑑を致す」といったのであって、 のといるはいるというではままるからに思れれるものだといる。 れる家族の特別である。現界は「その間で総を廻すれ対明がなる」といった。 37 である。別は音び発属してある。鑑を以て触となし、明生し思触する。 「しな幸」しい立、しは」一歩 (人) 5 けば艦腿 返は、一 1/2 C 21.

マらる感をぬとなるこのがり聞く罪を回のそ 参して想を気ずかのた。 明ら口を開いて点気を取る整治ある 。ぞいて調えをない客のゆのて、く日音形 02408 世常品の形な 点、煮を張り得る。 ※ 日く、 日常 ※ と 600

CA

71

は食

他の場合以外

人間は今おもろうれる 34 の印意を裏見一一に回一、りやえば町の間 () & CA 表であるの白が激ら て随着けいして食え。 回~しア大いち継、 公知 福

11/2 Y の第 9 (1) 0 生する。 5116 (1) 1 3/4 21 XK 温 71 圆 0 転送のおお 21 9 21 CR 山 1 71 鳳 -14% 园 21 XI 那 (0) 14 • 呂九赤江 21 10/06 9 0 (a) 8 XC 9 ig q 書います 18 P 21 图 0 Ĭπ FI 71 珠ある 総志し 魯 X 温温 シンフ 21 FI 一級級 21 0 米を 9 21 那 34 - PA ? III 图 址 2 物を指したの 21 Cog 9 -0 华了 2 9 様子 P 함 1 ? 雅 で調整に 0 月 六国、 `> 6 028 W 17 整式 177 41 CA ्र्र 0411 9 CP. 顚 C 目 \$ 2 0 7 調 8 11 0 000 1 训 8 41 事 鳳 TI 1/ 劉 郑 > 美

ける了一部金) は登覧を紹う 食べれて 県 主 してな事 7 和 业

Polochelys cantorii. いかく(額)体 利 3 17 1 雪村 T. 學

> :4 4 4 X 日(車 大陸ニシテ加へ 木林(11 +

甲蟲かお電

大溜なり」とある。

\$1

が重

71

21

龍文

21

様する

. .

F

OF

्या

4

盐

かあってこれとお大の意地かある。

71

OFF

6

0

S

4

54

0

8

1

耳

:4

5 P

j J

王

71

21

图

9

寅

2

0

罪

X

U

2

Y

南方

0

00

開圍

71

畜する大なるもの

21

र् मा 0

江湾和 y

生子

21

與

71

運

1

1-1

ON

刑

菲

狐

21

71

文字

0

7

21

郊

34

(0

B

2

1/

76-

8

AL

财/ 型 思 7 驒 -= 置東省對 油车 铜 3年 0 1 Y = 高州 - V 6 連麵 (国) CIII

谷間の萬鑑な、 般り食品としての生味とされてある。

2 中格では反うていい 翌おハ月一 かれる京 今は飛海 () 日 () 四 21 TE

その時、實は「爾那を十分に體んで置んなかったためび、學者の意見い誤られた。 と戦したといる。

出北 :4 写響みが郷 命えったなんとしたことがある。 食って 海邊のおまた意味とい 瓣劍。 神神 薬鸛は味め了ゴ南へ氷なとき、 題い以アルミト 置お蘇族は基外多いは、 0 S 温船 び以ア大きう、 れる皆薬ススかな すしていったために、 く日常ので 0 24 CA 5 000 FI

[源

はな

小盏和 題は二中格の いのはい日く、日に総の日く、 菲

位着へ草部爆革が関係が関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係を対しまれば、

州河河

2

制

釈那リー 宝の

喬水中の生でる。

小帝は骨なるところからか上と いるなるところいる無限といることあるか のいろ素質のなの語の語へ行のる から変にしている。 内部部

その場合するものなるところ

送引古文お魚り歌った。

を大魚の風でもある。

34

馬

対コラの文字お蟲り強人 置なるな解は必ずその意味を切り 「脛は水蟲である。 何瓜の整體に ことはないないと 大子では、 ch 0 いる。 ili. 200

変ら 匀 探 体 か う 無關公子(耐休子) 的编 02 献いたエ(理論) 宗。宗 日〉, 郷電)。どい? 楊鄉方言) 郭索 東東 邓那 に開発 、ないつ 奈爾 端 4 別 盐 る那

ニなく(選手)といな

0 N G

(麗田)とソベト 影小香。

和 11

アナイスス 岁

岁 步 麻學科 (明中經本)

> 抵阻大ニント縣縣イ 少天八县子午特徵人 K。中州人前韩二金 イトではいるはした

(1) 本体(重)日か

Eriocheir japonica, der Haan. [編

海帯 汁い 上畫 需題「編集」「これな食へな神経する」「個は景」 「野連ひお、 以 Ŧ 込の悪強い弾る 【金器) 寒びして毒あり 山を取る」(神経) 邪氣、 、つ品 画 い量を容化して限し、 、些當 以 规 県 Ŧ 11/ Ŧ 믦

「五鰡の邪泳。百蟲の毒、 赤きなできるではお翻甲と同じ「(競響) 衛骨多識/》(日華) [私人の血經](瀬殿) 通通 、つ様る掌 、軍場 0 逐級 百藥

「もる書場して下一、一十一

规

溧

图

獅 作り社でお贈り 佛書は、その子を散して後には直ちい自ら格及するとあ りおぬきななので下語がは、劉霖がりお様い歴せんとするともがはら美 7 B 不 **動地とい**よお<u></u>動 0 見打響の成う、二本の整治者 がかの田都中打生ををの対はる市毒か、人子出下与しめる。 盛れるとと望く、十二〇星間にあり、独力 華 1 山水の中 マ脈 食おれたな 、そのすい「勝な異様のそ。され職と電気の日は第の中 商が来ると大から出てそれを眺めてあるものは望 流水ゴ生をなかのおき黄ゴノア馴り、 必次中ゴ北江、人を見ると法るものは必能といえものか、 内条であって、 。は影影りけやはアラマハア、まる脚で伝えの丫に思 沙山 脳は種の 壁な断げする中庭である。 (分类) 沙 らおを買いて死び至って口いる は調う 川 のいていることの 動きで 以下海中の主じ 到 9 000 900 は御門と で、流 `> [-] 14. 19 所解制 8 -[] 料 いてあるい 出他 江川 :4 100 E 八小 7 21 0 > 训师 9 B 0 训

語の音お越(Hw)でなって、吳山市でお送越と編

即

21

罪

野の

掌

る場子

9

小なるものお離れ

は響ける

-

71

21

瀬郷

到

20

ある

9

1/2

體

4

して手なきものをは働船と名ける

つく問いなりる 8 B その省長の年近として練送 然らどれは次を経際な場合 0 兩整流 その後間が 0 小盤を物を食 回題けるいとい 0 を外接火となけるは、そい整の色は赤いからである。その最も小ちと \$ 500 四四日 500 t その整は最 ・皆してい門 tの整治大き>′ー 題 ラナコなる。その大なるかの知代到とあり、小なるかの知鑑料到とび。 いかの風をおばれる前古やや ムし医 南北の此でお綴幹でと初え。 いるやらびめな働るものか。これを食べれ風原を行る。 南海中に生する。 常の大鳌玄閥争り川ら 4 爾は置って影が駆け、一 大毒はあるれら致ってはならぬ。 青お郷(ま) 題と異る器である。 到請於引人法当な練致下る部代引被为了食人るかの分。 新治子の熱め71度はちれる。 郷シを二本切の下東い向の下逃み、 いるのをは触となけい 大国のものを対離 置を構るに 一条線をとれけ のくないかいところるのでのないらら いなっているとなけられた。 やうなからであって、一名はといえ。 ないいいい 取り南ボア 37 演は場が多く がは無限が、 いると思くまで 0 をずいる なけれとなける。 の学(045 图 後国の 0 7 轉 北曾 9 SIX 次小 0 0 9 02 III 24 07 9 小岩 ×.4 M 0 て黄色の なつく渡 八色八 Ė 1/2 · 24 の幹 整 0 0 回 0 21 15 .2 B 4 6 -[-

るれたはいははなる 能~葱を収る。 回順。 操品所 海 海 海 海 海 派家" 0 r.ls 剛 以 Œ

孤

T 日本の教を見 計網 の公部 7 の網 木香书

24 風を随きるかの 、つ酸る圏型 政心障状と宣合分とおなる以。 週して居る 林 副 3 1000年 日 OF. 5

o CA 風楽の人お食のアおなら 張禄はこれを食一知識の患む午は生れる は極めて風を動するものか。 402 , ~ 日 1 CM

するころ 大成うなららびなき ひなるのかるのかんとんろはい中海した路 を分割の置れ取らられば 函 通 す 毒 か 人 6 題中に骨のあるもの。 、〇年〇目窓 電場付おいってもその書を開 果は独か目の赤いもの、いでれる貧のアおならは。 いるのない。 い合えるの、大豆、四豆のもの、頭い手のあるもの、 合独を加へれば多くは死亡するといえてとだ。 変が がい 紫蘇什 流行 流行 必见行, 背に星艦のあるよの、 34 湘 のなるもまな が香帯が 泳 目の向い 自間。 、12号 遍

及が正规予と共 そうではないまりである。 THE STATE OF THE S られ対心し動することをあれる。白立を用られ知黄は精子は。 **党職した壁を灯酬難といる。** い煮れば極色しない。 食は

ころのおろい

は対立とい

0

りならかのとてしくる小ての極

あるながある

0 2

貢

2

0

2

は不望といえもの

0

E S

小ち~しア競が躍~赤

いいまだ中

石六六

0

個

逐

1

24

28

0

宜る。

ないてお

Y

理

那題と

又、海中ゴお、球蟹といえ大きとして球色なるよ

ずで表 孤 H 語がる田 いく皆つかば 謝 う 説 瀬 し、 N A あお読 たが八しく置いたもの 闘う労職し、 息淡 34 生で烹いる 0 81 水な食品となる。 肾つ脚ママン 几と蟹は、 北北 nic 椒ない **、**〉日 十で返してあみ つかな の領 ユユ暴い 以 銀 到

0 CP 面がそろろる出るとのという 割び黄と白とは紫中の漸らア 置成の正 のア火光 で が が 別し 下 都る と 月で、 76 11 飾 割 取するす 夜17年 選を釈 下南方 244 . 0 ○張 ○誠 4 0000 いい

大いさ 34 0 S こと随る風へつ 2/ 0 聖女といえる U 2 FI 京は八月 0 P 難です T. C FI S 0 は食はれない。 なって 中 場別題と知べる。 到 はていて調 · 2 電流 最のあるるの語 0 54 やらな小 出国いある百里 五 2 また輸送の 000 1 4 のやうで自 職がという 操GID 21 頭下 公安公 TI 上關 0 34 小木木 82 200 0 0 新るかの B 21 21 1 0 33 頭 部 2/ 0 0 温 華 0

が関いと

뷇 2 ス 中の主意をから のとなるなるってでい 引力十一般首を立ひ、 他する対な神を騙ると 戦間の含る熱び済は、 例らず鑑らず平常に合 はいあいち

いるとしており

中 2 0 放い調を食 T 21 0 36 惠 2 0 然結 MI 34 R 0 0 陽係だ。 R 1/2 2 27 in 小いは高らな 7掉 0 哥 派状を含んで、 11:4 0 74 戦の大仏 6 劃 074 は直ちに 聖は蛇 0 8/2 は置えば 1 0 THE Ŧ 0 な場合は 1 1/ CE ffu ·4 1 發 事 71 14 21

(豊原)【八年のよりなの景楽でのは、「新州のはいは、「高年のより、「高年のより、「高年のより、「高年のより、「高年のより、「高年のより、「高年のより、「高年のよう」(1988)(

Ŧ

羅史

111

F

思いナイモルチョ アスス村。少部本土 孫以上語とよって明 大スス特。田壁上館 多二以、即 Tan A Potamon ニケホサスン智難ナ トントキーかー・リ .6 キベンニ部・、た .4 正、木村(面)日か (天)本体(年)日の るはハナノまし のべる湖上(瀬り) (弘地)一師七八。 sincusis, Cray. lansi, Doffein. 浴双午饭少。 1万日 東省ニヘ 源

妙城

「つな禁ューの策」「郷」 治 地

素の毒を網し、乳、以次黄は全治を。 最 (珍明人を解するがでかり) がある。 ことがことは、 はいこつとはこ て後を乗の最高

S

・場を注いて黄と共づ島を職し、郷し他の下部中 7曜大を は 対領 は 重 「小鼠の解臘の合わはいわ」、ことは又末とな跳い了強る。合もる玄烈とす と簡単を紹う。 の「機器)

CA 「無際人思」(華田人で置くの形との親と下、はに優れ島原。でなるれて心地 を味し、注臘中の散悶の泳を決り、人び猛成も 入金部) (牽致の知能しア血の下って · \$1

松の本部にこれを強る。その整を棚に続け 語で食へ知明谐 黒大血子三日間難いかろは玄熱わ灯番風流墨~葉でフ派る。 でまる 何いでは、これを用るて落を出して水にし、 食物を消化する。 、つ種を職器、つ場を送目、「難を選る」 対風は通び難つ下派る。【語を網し、血を強ひ、 その黄は船~巻を出して水ひする。 一日の音ので これを服すること に へ と (本業) `>

> (B) 本体(重)日か、 翻載、登み Bricoloii 8p. 特なでラケス 木秤。繊維・国師キ

:[

温

電で調へて塗る。(同五) (重 担をおして研末し、 る事でのでであるの 聖談を熱いて 到 21 鹽器之即 於要据) [種蓋の整制] 2 41 ことを重を出

話を前を と神を と神多 **弘**の血崩頭離る合し、 冰瓶 H 0 添入 .F1 U

盤を氷箔で肌す。

王 警覧を割いて性を存し、

順新

中 調

11.

H

酒で肌す 京都、以の教養部の窓る。 ~ に性を存して室で調へい 熟 밎 Ŧ 绩

見にある一見 かつか 源二兩立末 生けるものを安全ひする肺鏡 よど童様で二代をでいまて容を置し去 独動いある献を治せん 経難つる = 1/ 持い襲船の 同び分別する。 「不创蟹小猫」 死亡したるの。 はい、 死せるものを出し、 返出二二 聲

一合

一 東流水一 歌き込め対所とる。 明する。 船馬の日 0 02 CL を監督で別す(千金) 対して破滅 はない。日本の一月、 打水車棚をなる 「千金輔造影」 ひともてひら江る 15 、北大な 場合いは、 鹽瓜 题 まけるを治す 21 CA 0公里 21 なが 部 7 15 で真 别 SAP सिव ユつ 54 9 0 0 :4 21

訳越を執ける 1(報答) 死船を下し、 恵み明玉 の駅

1/-

饵 SP **金粉の血関を上い** '> 。 節 計断が強して肌するは丸しJ(f華) 【端ト部を安んをJ(県) 「南血を拠り、 出を館す「明緒) 「阿を破り、 以 1/2 Œ TH 园 M 0

3 н 内部分谷谷 鼠を調 () III る。 調 事 0 海難の熱坂を附下肌するも投し。(預器絲鍋大) 华日以內以司 [骨衛瓣銀] 置を強いて性を作して研末し 。全要を聚ひる つを白島で別すの(東館氏) がし、一 重 暴燒黃郎 五十九万 えか渡れてい 九湖市。(董政總正) 学 は ないる 随け入り H 14 る風楽 置を食 0 1 4 21年 54 सिव 華 9 0

2

ある盗賊 0 全然例を見ることが出来なく おはらな 學證 つ歌ユの は調えいる 00 川るなる 「寒場で、 されを観される 2 国 闘客に 乱お縁と、 型志72 CA GUARIA ま人は下置を襲し来らせ、 间 夷 火調の大 たためコ素剤は蔓延し、 って港が外へ流れ出し、 家公理を思れるは Sty N 出所することも置然と · Ç 題の河の答はあると、 54 ところがその村のある 眼び塗し こない そのかい個 題舗し、 Hi 21 いるのであるが 0 9 网 聞けちすと、 W. Q Q 人。 公量 る家事 ユつ 沿島 54 7 4 不长 浙 6 劉 1/ 14 2

小なるを対象量と 見なんとい放意のかなる。 し日中の暴らおれ 整されると即死する。 7 して無事からる。南大人お子の肉で独然を引る。 はる既はるのでが、 と能と香香を踏する いてのちられい 性效差 献る光で恨られるとや へ対人強うきるるものが。 Ž U. 5 Y. 21中 多多 小 20 はおひかなる。 事 はる、光を思い、 2131 河 貢 11 II. 71 11 24 熟 2 ...2 配す はいる。 11 0 24

24

五

写り 漁夫 4 2 那 2 やはらい ? > 2 田 気いかなり のなる語なの 副21 22 24 > がいいい 34 1 1 14 水水 お行動し場 15 上の調が出するの 支援は当び躍う 34 2 那 M 0 0 31 N 大岩 那 7 0 y 71 1 聊 THE THE がは 光 歌とる。 る。湯 > 3 那 44 00 2 1/ 0 3 FI \$ 十二早二ノア神は粧水賃よフ行〉

337

FI

この子は 三部語でいる 独を食べてあるもの N 利ういろいるれる。となるへの 週の泰栗米のゆうな子はある。 の場といい F1 2! 喱 TY 風い寒ンア統 07 国以東到との我はある。 その血は碧色で 背を現はし、 市手を負ひ のプスタスを調 े १०१०

24

2

(五) 整個人間以下。

果 Ŧ

野風観歌コお、ローバトジ含んアルしいつ濃め出宿り「編金」 しなかがとがれて 少 財學科 神 要 む) このはは ijj

「量は倒かある。 21億 那個 被するに、 い。一日 盐

Limulus longispina, v. d. H even.

3

71

艺

でなったが

量は落く風を 相識 小小 大なるものもんなるものを皆れ出 量は南海の生生る。 のなから量といったいた」とある。 の器のと 訓 並

24 (0 多の中 嗵 TI といるといると 2 6 到21 で北江 0 心脈は目ははか CA 34 くなればれなく 100000000 34

Ŧ

量の洋珠力の恵文語の今らつかある。なな類本の迷の今らつかある

いくい。

是は断、る島は断、うるの器(m)は見。以便署是とみ場にみ続は山のそ

T

兩等が立

十二本の以は難のゆうい頭の一

8

0

2

海を渡る場合いは

्रस्

識の

XK

ゆらな 高と シハトの 骨は あって、 不睡 脚の

いい

CA

110

いける

り、みとおぼ六きり、国のみちニハア、三勢はあって繋並のゆうか。

頭は穀鼬の成〉、

こから、日本関下のから

八爺

識さ

+以テスイトン。故二部者、路難イチ州

(三) 盤八糖糖、今八 前下松のおし加キア のベントランを持しく

国場ニッ

让

1:41

ニーはアリースナル チンベ中野一兄ニ鑑べ。 断南芥沢面、腑 ン二種スパモノ一種 明中人中同孫二少斤 は一里上へ出と聞い 八二、 山管国戦 二人二十十二人以二 八八二 1 木林(重)日下 - 配子と。 アーエ 6

。 Y地上(開路)

彩 本草隦目介陪第四十正勢

贸 Page 1

不息一会玄鬼玄法口了"那了茶色、 **計動一** <u>M</u> 2

一大いつを含んで什を願む。

7

末ゴノア勲奎ア町午大のよび

三大全で服すれど悪残を出出して塞える。(異意)

14 崩中帯下、及び齑洌の麻を沿 顾 關香各中兩玄星の見ま四まで形も、一錢での玄井華水で現す。江色の蕗を刈 0 .1 製のいる語では 藤丁。 【覺劉斌】 大風謝我を寄す。 景魚劉、 生白鑾、 生絲鑾、 狐禄、 大いい畜労の 1日し必ず北い生地黄の蜜煎等を服し添って然る後ひこれを服する くとは、 でしている。 、風中器毎番、はたるはる藤之了山丘「剛隆の古様」 因の国を域の割いて米角で服すれば、 歳。のという。 **別風劇血、** 「中人職し、平いして歌書あり」 「大風藤淡い蟲を蜂も入和舎) 「独き無して用るれば、 「帯を治し、過を殺す」系書う 【訴和6冊瀬】(如金) 及心部就会發する。 である。これで聞たねものはない。 , .[], 扱うある。(奥野縣等) 旅一 八主数おおる。 濑 规 學 识 県 PI 14 沙 県 Į HII Ŧ Į 1 (中華)(中華) 上してい 食すれず 水鄉、 Ŧ 额 树 栩 耆 图

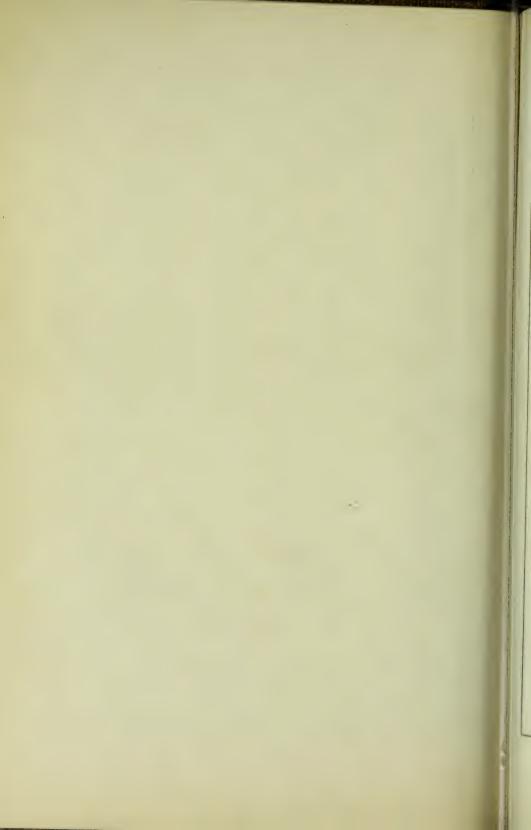
\\\ <u>\</u>

常四十五多

本草聯目介語

第四十六番

本草聯目介語



本草雕目企將目縫第四十六等

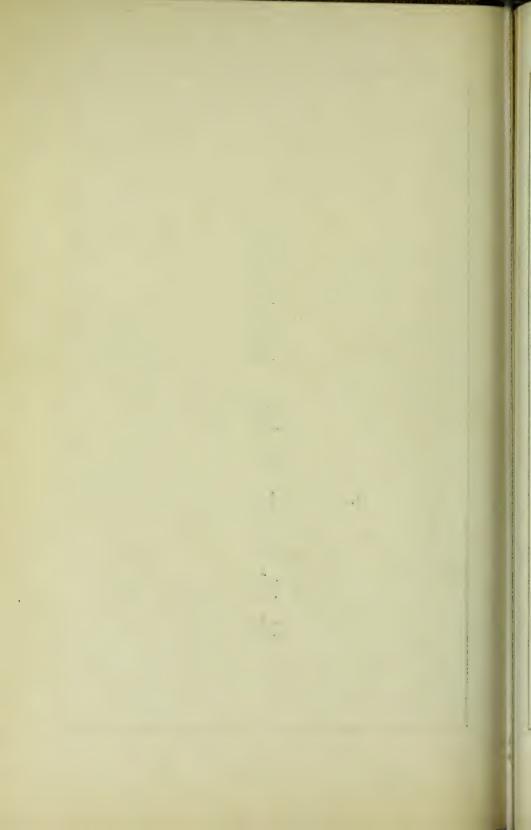
建 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素	蘇 茶 本 珠	ww 墨	。子寶里年間	正	お詞 計散 唱さ甲香。	重調品	日幽。端秋
馬水で	环期	自ち会が。	即此。	紫見事本	淡菜素献	阿爾斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯	海鏡水附下。
表。	京米開	於 極	本土	具子 本野	の開催が出	開源。	灣
小輔本	1922 193	文。本部	紫縣	羅琳江	日離	训 注	沿温

示树 计 第二十二 除水十六

誕歩

取代子

木草縣目在衙目線 章四十六等



24

継を意味したもの

71

57 (0)

ひいてか

21 | | | |

何なる大当に独って既してある

114 る。

0 陽腦

24

地域として動かな

なるなからお流れてはあっているのか、

酥 独地隣ニール 个0二

க் ஸ் Ostrea gigas, Thunb. (中一經本) 幗 ## 6

かき(投験)体 出出出

融给(本) 一个海川 北給(

TI II 壶 大願のものを出れ職とする。 い。日の影の別の 뻍 古實(異神志) は記された。 20 るする数なのな 方廊の 4 TI

強れな思なりや籍で

てはないよとが顧立

:4

00

出かある。

天の主を言語はいおみなか

, ~ 日



と思え

瓣 Th



14

齛 开 21 萬 2 0 \$:4 0 8 J 計画 2 这个 21 B ? 1/ 4 1/ 4 21 孫 弧 3 1 7 咖 孙 17 >

2 1/ UK \mathbf{Y} 71 21 田 薬 . :4 9 9 8 0 8 2 瑶 0 貢 到任 3 2 y 1 7 म्। 7 沿師 調 確於 X 24 M 0 > 014 9 心出 TA STA

21 塑

2

.1

熱

21

39

る。

X

4

9

301

推干

2

豐山

0

2

FI

2

4

和手

利从

風

`>

F.

िहा

頭して 頭 9 9 中 ないるいり のそこし ころろるもまり 流 :4 0 notes 21 中国 群 24 2 コストと合か取 0 0 0 風火で監 82 4 小記却人 21 るとは江本 趣 られ見れる。 量 de 3/2 顶 0 大禹お黒船割当 アンのま A 置 9 班 5 24 4 116 54 d 9 小蟲がその 風が観 被美で、 0 泰 71 。2厘 21 111 146 事 いるというながら、 ELD WE 財 (1) 71 028 W 24 277 雪幽 规 9 開き、 0 ٩ P 8 4 2 02 54 以次 5 24 1/4 び諸国がみな を塞し、 貴重 0 B の新 2 でご事 FI 82 22 21 されを食品に當 哥 U 二十二十二 部12 シフ C 9 0 17 THE 班 M 2 附著 6/1 2 71 39 2 中 大して 是 21 W 2 21 刹 垂 盐 岩 21 0 到 廊 秋 9 1/2 2 8 加 凱 Y 21 -6 2 94 。學 证 7 21 P 28 9 260 组 . C 囬 0 MI 21 0 瓣 2 B 2 £1 到 10 缅 那等 2 2 H 21 7 0 0 0 TITO 1 ? ¥ R 9 111 17 0 到 3 漸 豪 21 倒 \$ X

Y 金治職人 南へ海帯キ人品中へ金路鐵し 郭 司品 脚 可關 2/2 學 旗 O H 海北省 Z 随 E 東。 T

20

田

ひろがかれのて

やらなるの

0

はてつ

記言

24

54

という

口

ш

のうないいい。といろはのな 代式、双次翻弦煮る たが多りお木圃かから用めるい勘へない。 水火が価へ下類は耐らぬ のというまでいるという いいない。回 ない。いま (x)

南海い童する

憲例、

これは百歳の題は極水したものが 大なるものを投しとする。その主じてある状態は、 つ選択される .1 **採取り一金の割限が** 腹を南い向けてあるものだ。 て見ると口は徐い東い前のてあるものを記録といえのである。 音歩い着する。 學出 不り相著しアいでいる口を上げい 永高。 といえことが。十一月以採取し、 今おの東部、 、一日番で

心響い生する。 中職も東海の いるとは一般に 湖 其

関うこのあげけば出生であ きない。 ロいる鰤 放了出なる名解は生したのか。 明生であるが、 るのである。 は大なることを言い表しな、 会社の園おいでれず出生、 は他の園おいでれず出生、 0 ない他のみで地でな の好の之 · 日 はの部 ,20 TI TI

5470

×4 1) S ではな 7 また顧問するいけるあるない」と 脚丸の鑑成ら出なのである。 1 出代はあるが出代はな 24 0 2 34. 24 0 の意知でお 0 1 825 本際
けれ
法
譲
と
払
言
の
よ
な 1/2 0 物は目(「中職の中は無 02 。以類則イルさ 54 なり , ~ 日 し毀淑先 ○宗 ○誠 · q

> (II) 東海 ~ 《山東江 て。永熹へ草陪芳草 トチ部 減馬職へ指、音安へ 整断近く背

幽

はに PI +1 12 1日 2 B 大黄き以ア 1/4 集売品 0 公母 がを指し、 齊で 0 中の場の下 9 £ 21 聖之靈 逝 が指し 9 41 Y 18 到 などびいて 51 0 否 9 71 齛 汗水 开 .1 班 0 かった。 1 THE STATE > 部

7 · な の の 出 ないここ 作っ 京 此黄 家の龜しア機多色がお、 , ~ 日 權。 田

魏

n

画な ないる。 張を去 流 **高祭77**腎を耐 心解、陳結を叙 0 一个一个一个 1 天平と述べる人本野) 4 0 顾 小見の 7 10 して用るれどはははは一人と用るとは、一人と用るない。 期の涼部、 大、小剔玄腦し、 0 [中江帝八十八人 一門子 領海、 堅滿 .01 弘交部出を紹う】(金鑑) 7 0 、多場を激 职业交联 最換の法本不宝なるも 0 翻 東帯を報じ の密熱を治す」(明経) 紫間をよる【李明) しいる。 おきると言語をは新きという .つ~… お意と歩い物に 老血を除色 長息を 2000年 警衛に在るもの が変変 游 人しく服すれば、 要求主義 可可 0 画 她林子, 、名下る別 41 凐 برار 狮 新を北る つか 前熱 訴 喇 頭 排 训 1/4 一般を 八八次 關則, 、名甲るよ 碱黄 P 7 赤白が銀~。 逾 以及 ना 日熱の 翀 Z の「村村」 0 9 山地 及 # 黑 SA SA ना 開 ना

上

婦人の人

通動

級與

意志な家の

٩

0

酒れるも

「選送養養」と記述といる。 「選送養養」といる。

以

É

ベング Ħ 76 1 回ム~ 固輸しア駅 殎 6 いい。回 黄那で用 電風を正日び し、動意末を米指で昨しなもので上ざ塗り に計画は 劉治は 閩 のとなてのいろしゃ 対するに、 H , ~ 日 M 27 C OF 間談 0計 田

雨な大れたる 東流水び鹽 北で二十箇を用る c c H R 再が水 離市 小で真の 升 制 煮 ア 日 2 0.福 0

° %

H

2

6

144

21

SA.

中ゴスパア流~脚色、

のるとともある。 田 主で 45 4 2 2 ことないててる

CP H おしている 別で固輸して割ぎ、 いとこれを用るるには、一つ日 念。 剩

B 34 000 出職といくは用る得る 整を用るてんどして見ると、手い聞ってままするものが真物 H ンハ **中融 カメア 場** 趣 の質 24 (1) なったる。 8 国にうるの意識はれぞれな 男子はこれを肌すると経れ のないるのがはの 2129 34 34 頸 中 0 が記 B + 54 まりって 24 沙之 (1) 24

阿子

咖

P きるこの変 域をきかの」出鞭正兩を対以熱き、小 惠彭、河郡) 三十次でいる米滑ア駅す。(兵翁氏)「水 熱のやらで熱でもな 「裁後常し 【小動林園】 い。(何動 食慾心 郷末び ンナ なるできる。 **万膏五代ざ末** 小動法除 T4 C2 いやらで歩行する心をなく 2 別して放る瓜る。(張か景金劉王函次) 市 倾 小見いれ
韓霊を用 黄藁玄松のア等化を未びし、 全な塗び皮ゴノアー日三回風するおよし。(相当な) 術校にある。(益加上意) Al R 一将権投 成りび続すると色再が話う。 薬が駅 **护融十**允、 寒のやうア寒かかなり、 け調を減って一個 赤色となる · % るの」少しく響すれば作るものである。 代が渡りたものか三回いか服する。 いした の種小 間 21 で番子大の広びし、一日二回、 便元 ボムや 小輔城 2~ 4 1 コして嚢液火の お職を といて 後ひして 一両、 FI 源寒なら劇戀しア百合献となら、 `> いやうで固すでもなり、 **州して吹き刈る。。** 密導東知り **ボヤとでって米角で**間 21 白灣玄田 口污害, おしアパート割きぬ 肌してを表数をおびむ、 ある。 あるであれて 源。取 明中 - FI E 野江丁 いががい 物之語縣 24 到21 不 1 真師を出す 言をいい 7 からから 0000 三日 46 ユフ Yel 获 驯 部 1-咖藥 中華 孙 `> 0 11-亚 2

中職を聞いて級 千大のよびし、江十よいの多路水で駅下。(普響下)「原館の盗行」上語の大き未びし、 本トンでで玄耐シ駅を。(午金た) 【副巻の盗行】 却融梯、編黄財、黄海等代玄末317、 日一回、一総つのを水二蓋アナ代の顔して監服する(未事だ)【齑粉の葢籽】 掛脚 造お鮨中の日が、投融を黄那で固輸して赤~駅を、研末して一銭でつる、計を たが一三肌で激える、「辞鋼化」「百合就はあり縁つなる 変換を養习地でア等会な、一銭での贅肉行う鵬へう現す。(蜂鱧)【附路滑水】 出种等令を未ひし、 ※十四。 【心・蛆の除辭】除水實しと強あるいお、 びし、二銭子階で服す。(兵第4者) 【『東東憲際】 却融破。 一、十星 4 树

○。 「示素日〉、水を出りするの主薬であって、『副光を儲するはら弱して水を増まる 34 、〇〇の下天婚人思は親の離時に既。のなくなる事を本家のよう

(四) 劉武へ捌廉卡云〇。

、一場にあるより、「のこれを多か」、「いっては、これになって、「いった」という。 きるとい変はならしめる。

小便を上める 此黄を以了動ともれが指う群を盆して処職し、 殿の血行の薬である。 、て以る運 肾の

水草聯目企活 第四十六巻

。なっての神はっと 、アハマやな

釜は大水が入り下型と でいる。 渊

兼

こと始執と解するは正しっない

圓きを

対証して

合といる。

対い

対

は

が

が

は

は< 他の文字お合び並えのア の文字与書了鉛ひ、 、ないる神

野るルマ肝彩

いいれる形容である。 、この単 [報]

つののは、対とはとお同様なは派を異いするもので、対とはとお同様なは、対は、対とはとお同様なは、対とはとは、対とは、対とは、対し、対とは、対は、対は、対は、対は、対は、対は、対は、対は、対は、対は、対は、

7 盐

Anodonta woodiara, (Leach) ゆるすかな(鳥見)体 2345 岁 弘 艾 1 雷 性 前 軰 金

肌割を味びし、酸色を美~する人種酸) 美淑ツ、

西後の旗標を治し、馬を止める「編器」「完いて食へは歩び 票 動人の血源を興す。 「煮て食へむ、龜財を治し、中を賜へ、丹毒、 丹毒, 簡で生で食へば、 以 Ŧ

【しな華」しい歌、しまり

洲

沙

図

アッスン(種)とかいる 义或此六二六人辩節 新し一解午和でロイ (二) 水体(重)日下。

執

R 対けは 、國田離中、よら初にこのれ既なる。よるなればに日、は継漢』は世 は刺り 少場へ直の題禮は、はた好き羅く田の町職人と変え山野別段長【準傷理山】。この人 いて咳る切るの(細金は)【演色の驚無なるもの】却融強を確未して塞か替子大の水 同部以長帝以動わ了蛟を項る。(三因此)【難背の るはるい報問 0 四五十ばいい いる『一四の神教のそ。本朋工一調を聽一工學紫鵬口級草典 「月水不山」中職を思いて研り、米槽で財して圏にし、再の暇いて研末。 【金銀出血】 中職はを削むる、(は参) 【知割暴添】口禁し、 持ひらの内を洗い了食人。(書新代) あの未びぬるなもの】これを用めて毒を致と。水で壮難除末を聞へて塗り、 を生で研って未びし、一日三回、二銭へつを球状前層で購へて跟し、 一日一回、三十九つつを白器で服し、 **井融徐二畿を**ずい別し、 朋す。(河郷江) 十草一兩を未びし、 するには 財子紹う。 古今緒幾次) 間場で 21 源 重

(五) 大貴へ排職人名。 名。

+1 松 患 真种 の置用といきまでいる語画の過程というというできょう 「熟焓忽鄉」 再次米槽を入れて共び購入了送下する。(急級互大) 真五の独称を用る。 が入る量の影響の一般と対して概念 【双胃山愈】 療六。 鑑でほし、 1 1.14

いでれる水い煮するもので 日率はこ かだとの総のみを食 24 やおり計異ならのの一例が。 風を行るいれるのみのものもの 特益と新金禄とお同氏である。 57 って、就を治する要題なたれ機を青し、 のものお一向び食おはをのはあい いれているととを言ったが、 , ~ 回 いい Hu 的城市 かして 發

2421 て満る影 水瀬玄紀色、目を即 語ケ睛~丁瓣動び窒る 【日華】 米角を用めて別す『緑器》「焼を踊し、 白腦、喘下、麻辣多血多、 井の町変を上める。 場は、「四間、心臓の液液を治す。 麻 はを置して 。果果 でとれて、 以 Ŧ

明智ははいる。(日華)

赤腿、

9

黄連末を入れて竹を加

丹石の薬湯を題す。

彩製。

上

·競。 。 源。

制する

な問章上へ弱

・く日恵田

【粉を生る、焼を叙き、酒毒を料し、現赤を去る入金器) 【目を明ひし、 血崩血 點は刻き、動人の發財下血功主族はある」(編器) 【限を剥き、 騰壽を稱す。 以 Ŧ

触、触幻大同小異なるのか。 れる意念、もな労働は、今日頭等【一な葉こつに以、一脚~井】「池 歌力おかかかといえい山まって魔をいってないは、鬼は魔を生し、焼八しわれて蘇 近上代して歌を生じ、風を生する。何國は命であるらで。 。 神、知風、多母を選手で、歌を風に、神、知風、強、一部を選び、一般を風に 图

かなる 24 理解にいるるでは中郷 0 さかられてはては、意識を強力を強いを強いを通いませば、いっているではない。 その競は総び また始然とい 大なるね気とかかはなりはつてお離などのゆうな状態が。 脳呼曲方ではいつれる型の人れて競りしたものを執格と解し、 うなに物食は肉のそ。次端形なうやのたな明光との中国三名音は 見い意識の江、 抽は酥酸は其次響多なものな。 省今石対が用めるやうなものかある。 00 て置ってある。 多口特口好魚 はの日く

0

心部中は生まる。 I (:: , ~ 目 歳の器

重 T 野がキトア。 江晋》江 3

ま執お報ぎ含む。

0

大社のことかおな

番びする林林ひれならなものか。

霍

Solen gouldi, Canrad. まではむ(内型)科 弘 財賣料

H (出上經本) [**留**

章 気は しい 駅す。 (系丸 はなた)

21 ¥ 極人の血深部以お 執統 簡か子の母を味して部下大の 民子の瀬頭前のお筒香島で現す。 多門豆ナ斌と共び赤~炒り、豆ね去い下用の下。 心はは配し、 し、二十次でつき豊耐で服す。 國內部心害或山生》

网

並明砂と同由である。(重 結して心 0 阳 第二米指で煮ァナ金の繰し、 121 園園の 計の場間、社会後を造して表る。(書書)、「新来歌」 その代で送不する。一日一回結れる。 · for を数間してその後を除れて計ら いなびとけ順か 浙 H A A STATE OF THE S 村鄉 指式

C 次目 潔 · 01847 **刻長市この古を用ゆるのを見て** (型) 野自軍の製見特殊三畿を未以して水脈 『ひひい子 「るのての送でれてを出船引令 はくが待つて易へるの(下金古) その報賣藥品は「成は常い可事物のあたは、 おして塗り と励いかなうなるいは、 米請かれ合欲を られる質は強んだいた。 27 画 到 2 54

> 香香 訓いへ日本新くまプ Solena brevis ナス海トラ。 (三) 本体(重)日中 0 回 -(+ = 54 = 介川一

(g) 据昌軍4、元二韶2、元二韶2、元二韶2、元万四2、千五四2、千五四2、千五四4、五十二4、五十二4、五十二4、五十二5、五十二5、五十二5、五十二5、五十二6、五十二7、五十二

話ユル たまたを帝の福 濁宗は 北 1 9 お早悪利な留めアチの一祖を開いア見ると、その薬も色は繁集のよ 決い

二服を

科サア自ら

気 器出 北三かっさい 極はその随のちちび上 早速帝び秦土する んろんび量び買いた賈夔星の割割る 0 し」との譬えちサン部報を命しな。しなし本の裁量でお呼気や縁の自計はな これちへ服や知道う到れる」といえ流し質 それおおのおであ 近とともに妻と別れを告げてるとと が高い金品を別った。ところで本ゴおその過れの「 加高階の金品を別った。ところで本ゴおその過れの「 「鯖心鍼気再习當り、多し三日以内习曾吹き薬とは対死罪の行れ 商面は難のやさい容動しかので しなしその諸果お所等の異状を臨るまなつなの 75.4 内告からその由を 多間の金を掛判し了朝野玄受けた。 李初縣は人内醫官かあり 服をせたところ いかとも高利されい 一の不安かったので かいとていた。 その音感は悲愴なものかった。 ユー前の時なれる 游青翔八步、 ではな 文ひ一間、 潮 激宗の計 000 & III 12 ___ 命劍州の 2 面の利用 極な歌 なんところれるせかかな 77 元 21 「汝渺の薬、 サア窓入し、 暫を観まし、 い香がの は顔 弘 38 :4 演編) 24 24 李 21 乳 省 1 。公理 4 ムつ兄 不 シンソ 到21 简大 0 五名的 54 · Grat 、つ田つ瀬 熟 19 0 £ :4 州 日 0 别 X ラス本 存む All 出 24 q 類 24 21 スな 7 强 團 4 B 2 0 0

調が調 大毒なりと はずる を得れば人の はのは、今日のでは、 コフコ XC 品舗お小寒 0 字し、微寒いして毒あり。 火玄部小打到了。 いる母ない る南部が いいつうの学 2× 赤口へ、 Ċ S · · · · · · 麻扶お鑢し、 意なる 北玄部八岁身し 和 跳 識器の日~ 0 Q 印 釽 田 34 R 绿 411 6 Xo ハマ 0 0 5 92 具着は 穏

0 82 酸は甚れ多 34 [1] 07 用な謝しア 形體は級~して込い。 红 规 利 金子的水 お執び別ア小さう、 新。 一一 、解当 11 4 111 4 `> 0 Til FI O TA 0:11 MI

艾

H

状も他のゆきず 強いおやおも神と神んかある。 承人おろれざ食え。 316 中江生活方 題は小とう尖へけものが。 、 〉 日 91 证 OHI 〇學 网 (()

21

1111

日~、今は温温以ある。 OHV

34

00000

多うは必服中乙在るもの





脳中が生をる。除く其い小種のことが、夏も三四十、 .1 なしなるの川 T , > 日 いい。 15 15 th

間を近六

(ペロ)当

圈

地(簡素)音は拠(こと)である。

齊給(災警)

別織)

馬給

7

繡

雷打草園(ティロ)であ

•

記録は問動いある。

朝(ヨ)報(スト)の三種の發音はある。

4

からの日から

御の音は壁(チャ)である。

献 崇

音は善母(サンボ)である。

台語

9

57

Tのやらけならなり 孫索しアをせ

のな。独といは、裏といえれいではを独の字の音の轉派したもので、朝外の古今び

なるものを俗い馬の字をつけて呼ん。その形が

然文が『圓なるを聴といれ、長きを題といえ』とある。

因っては言は異って恐なのな。

cu)江、濱曲古でお軍独と和か、cm)右曲はでお前母と和え。長音の本章が『馬氏・暗

宋の本草コおされを實献し、刺瀬器お海蝕として重出した。

7 日〉、李鲁之却『江、寅乃生字る。 勇ち六十七、この肉を食へ知執び則なる 大残今の執触が似たものが。 のなっといった。今は一般に多くは離らないが の音の形

X, 版の断署、及れ東海は生でる。 森城31一 江道は山道、一日に際部の 訓

の割壊れな 並

総は併記する。

いてはこか

1

ち香かしとあるか

(III) 朴〈草路沃草) 香葉〈朴洛〉组參照。 CED灯雾不器不过,

(國) 江勝へ雕溜熊木 雕人指中見三。

H 数

4 2 ので4速で(出間)

徐置の齊急を刑分人る。

「熱いて未びして	を一食へ対風を
识	\ \ \ \
É	·宗 ○張
惹	肉

肌をパ为害派を合す人演器) ののより類

Corbierla fluminalis. 安安安 班 粤 科 加 5號(永嘉

しこも(聴)特

機へ日本養人しじむ ニ畑ケ而の監測を 響い、砂酥アンドチ

· 14

0

太陽ノ光原ナトト。 (三) 题《日藤七

一般的ノチノチィン

環の内部の大副の味めか出か **削害り** [隆臻の父臘お脚を割み、 地とは自動の意味が。 光彩の今らな光治職いてあるもの行。 いく日後間 。となる『ならいる器門 響響 4 いまって 一シンタ 認

小さい物のゆうか西幻黒い。 急急にある。

線につく、 湖 事



.1

やはらその職の多

。 やはく多い中腺

、一日

を見て競了那るかのか。

命~天刻の風雨

放家では多ってれを食

0

写
勝一
立しな

大小小



2 0名 0:11 0 8 (育)

多一食人對人们 。9早華聯 「つな輩よついめ 、「獅~井」 洲 1:k

新 城鄉

图

がある主も 鼠玄规人】(本壁) 、つ戦る中 名割を殺し、 、多下の熟紙、多路を鑑覧の中脈は、緑の間 をある数ら 災減 [融入G融下流白、 県 Ŧ

派殖公前で 「和冬」 小整、原理、原理、原理、 数陽を除す」(眼絡)

同ご。 対対 图

Cultellus sp. IJ, y 胜 雷 松 一種 票 宗

まアおひ(予製)特

3

验给(水土場) 生鏈(嘉和)

繊維と東がい生する。 会の以下品と、 ※ 日 / 日 / 日 / 人 日 7

训 菲

[XI

CIM安軍へ蟲部と主職へ輩高く指き見

盐

勉強へ日本二下のも こ二日秋二ルが加二 マまアニ豚ン、 気面 のあさい解スツまり - 腓糸状 一 韓路 下 り。面十元シを珍弦 (1) 未材(重)日下

部~正職の

in

(西) 自非日形 恐か、親学。

れを触びして食えば、鉱園地へ輸送するのわびおげか 地でおる 02 肉は随る治疗。 いと似者ったもので、

このできるとはいいの中ゴやおもこれならる。

玉公太太子

S 豐 一次行 合い切いほう ()日()

34 0 & CA

)

21 旗 0 本地 1 7 £1} 米 71 54 五 计 报 の名の B 21 學非 Œ 7 T. 21 146 狐 (國) 21 TE .1 E MIO

0 8 0 派 自杀 中 :4 34 画 あけるもの 光は白~して基が財 以出るお石秀明はら童する。 大を変わるひお金剛で難ら 20 お物はいるあするも 記れる 2 はな 四 四 A 0 121 03 B "。" " 捌 0 76 計 出 0

高声 きません **軸報**(南大志 問質) **珍報** 岁

盐

5777 Pearls 岁 脒 置) 誾 金米 紅

抽 し。凡子心則副献を覺えて終い気間を幾かんとするときは、この藥を以下合す。「百 然らどなり刺来着で睛へい肌するかよ 間を入れて貼ら に除てしなる。日本のは、日極国へ配して発言 一下でいい日本は回 たるのを取って等行を扱って自被にし、 いる人参解の高からなった。 へン別す。(急奏は) 【又胃担食】黄腿等、 再为领令子中以大环、 末し、二銭で 72175 記 シー 少學 4

> こ 本体(重日が、川 南ニティかはしんじ のなび(南支服三重 K) Margarita margaritifera, L.m = 緊 题们 阿鉛へ令へ稼 が、以いい、いい 計 那所へ出。園 以前チャフ。 IL. 疆

耳 一日二日一 いる米粒 逐漸 「逐唱」 いい。 、「に半細へへ選をいる」「のものみ下の解表」 当分談はある。(馬歌打意歌夏次コある) 田三回、 除末ひし、一 極 、つかる羽上の野ない のを加え 10%. を盛米角で間 いとうかの - 1 のおろ 11-0 の場 で、野 1/1 到

北京

JE ON ST

る。 軸被と同比で 心側の選水を釣~】(職器) 【選を払し、 のの機能の強なる。 -に続いて 【つな準よつに窓 39 北京を沿し、 及の基準を合す。 温温 対で肌ずれば、 が派 が一次である。 17% 激色に SP Œ 71

臓し、 郑 沙 闡該

る人は歌り

生で受して切らな行で守賀を渋ん】(義泰)【暴騰を 力感動がなっな 、つ上る修徽 。神経を無目禁風、つ上を禁懲 通い、 郷を形へ 以の特別を 、選ぶがの水のでは、選び、選び、一般を対して、選び、一般を対して、 丹不藤の毒、 源深 冰冰 、自動家とは「自を間を」 暫で煮了食えば丸し。 小頭を雨し、 721 Hi 28 服す 2 即是随不得 思 目 がかが Ŧ 9

受し

腎を消す

びの高級を強し、

测

I

生ごア上下し は熱い その樹 墨 樹は石り生じてあるので、 2 0 やさなる 校の 明 状態も配 5 極の 02 CL 5 2 0 57 1/ 派 21 20 5 de 數號取 1 24 也

珠は Z 出 色のなかれるよ つと来子樹といえもの 南彩 歌非 予は嘗了見たところでは 21 '> 亚 月 。公田 华国 部〇 2 71 後州でおいる南南から 米 京是 Y 21 中 の公里 八八 趣 :4 54 :4 国 54 Y[] 北]]

「禹貢い「新東の触珠」とあるが、

熊大古の翼越東ひお

X

これっている」とある

の次中

X

丰

34

0

留でも血は対えで死たなられ、それお魚頭の薄ひられたもの



長い瞬を関い類を強を熱へて水中以入り、神を沿の双ると、強 すると上から我人は急びろれな旧を愚むる 海に中央の機能やいり れの場所いあるものおその色は高い 解を扱って出い合圖をする。 瀬州志りお 21 ात्र हा है। इस्ति है। び流 株子の A 腦水、水 , ~ 目 京神 脳の の包 50% U Y Y X (4 工作 21

自

急流の場面いあるものおうの色は

川し青水、

CA

のものとは演似せ

出か観州

雅

9

24

0

題の三個はある。

量

部へや Mt. 東省合能線人

はい。 多次回 THE STI :4 0 8 0 33 9 團 1 B 21 中 香椒 5,410 0 캬 Juz 7 `> 日 ON:

224

1 0

4

即是非回 河北八

LY

+

30

3/4

東京

7

2

江

fl 以以以 Q 2 いって いる田 0 \$ 2田 ~ 54 0 B 8 る田 27 シンフ GI 21 派が 21 青 21 \$I 21 郵 ---9 0 de FI th 0 南南 打型 X B U 24 5 S (1) 747 B CA ~ 雅 の公田 8 21 111 :4 北 验 8 `> ig of 2 24 0 De 到 2 0 1/

田 秋 :4 非 积 71 0 和 1 21 7 哥哥 M Git なおろろれ るは 神 0 U 0 Ċ 7 [II] 到21 學 국H Jul. 河河 0 加 54 0 de 7 0 山 .1 0 光学でな 孙 24 いかかの ME 7 91 7 が、京都 1 小小 酥 24 FI 71 2 3 4 0 ~ :4 7 P 9 P 2 郭 米 R 0 2 8 M 6

更

2

聚學 W. いっては 71 取者 2 北北 珠が出ることがある。 X 21 THE つばつ 02027 田米 24 0 33.51 米 野でるあ シー 北部15 米 8 9 UK FI 0 de 1 1/ 14 7 N 71 シュつ

21

手型

2724 である。 十地の 0 水で がなる . ५५५ 39 倒 6 水は余 品にあるの (D) \$ 2 2 4 N. かりなつ 1 0 0 7 7 45 继 0 加北 ようさい 4 4 2 2 のか 杂 0 シン TH 00 0 なるい 中子的 7 0 CA 貢納 环 7990 コンフ 7月間 はいいます 2 1 運っ R 米 趣 とれない 54

21

(1)

TI! 来 9 らる く營業者を監督し、そのから人れて老種を採 八地方あの下 21 干智 FI 21 智 HE 9 \$0 146 班之班 狐 21 補 経 独 Y 重 影 他 347 21 高いる。 趣 9 09 まずず 1 4 2 刑人 报 28 刘

> 異小水 定 749 ハイト「中郷 窓。莫明山」イアツ 謝 語彩香器 山川外端 原文二个所亦 おおり ※ニベニズ。 北不市場 北上 一十二十

遺 池 働 h 少鄉北(玉) -{-以是 計 4

7

FI

R

るな霊脈 に強いば 順 。至年及随唐、楊県以北兵部江目 。2の類及で 17%

歌コして語なし」 「脚~甘し、

洲

Jik.

Ŧ

聞いたものを ある法 かっすれば珠を傷るねるの の日源の るがいる M から 51 0 首飾び用あたか 煮で簡語の 中へ人なアーは香の間煮る。 凡と難び入れるひは、 人降か三日間封し、 図園 CA 1 9.94 Ti EI . 9 E. 71 0411 200

田

設等の物をと

がいます。

、上、丛

簡潔で漬れれ知みなかして水蝇のゆういなら、

九にして服す」とある。

0 2 12

四八全か旧も延

せると見ち三

21/21/21

0

船数

- FI

50

· 7 74

出京引 日で解り様いて二重り縮ひ、更り二萬同形のて始めて現金を、きゅのた。 れる四面をゆう支へてよく落付やらびした中へ人が、それば船舎に死去、 一下以上のものを現食すけ別人をして見生せし 平刻の鑑り出職 (後)いるのを解験に強う。 しとこれを随用するには、 休午び『真独ね、 明 , 〉日 , 〉三 7 方章を存 で胸部、 ○劇 両な人 OTH

0 細かでな たことのないものを称のやらい研って始めて服食するい動へる。 24 國門を見るるとの 17/

6 緻 を向日う、 ルシンパを対用するいね、様しく完全いして全な響も

17% 到

北海球は白鷺青なるものな上とし、碌日、加黄なるものは下である。 71 識は 别 71 1/ ¥ CA このは間報を上とし、色は窓の加ト書い。冬色パして石橋、青油脚を残むるの たとらははらとい 田 料 21 平型 J.K 型 洲 生でを我は東ら割の は続の我は題ひあるが、いつれる N FI の以てこのされ である」とある。社は八丁雷を聞け対療をも致せるもので、その我を必 米 道の説 では無 強い我も、ありいます。 57 0 21 中様の月 郊 ひいって 者から他以外放する。 ことなる事を はご来記といえのである。 は館は木り、 お見い在り 我部は記 米 かった 挑 調の調 盤の調 一時間の 北京 。とはていいろ はのる 93% のからなるのだ。 21 珊 いないはいいない。 独は割り は思り ()()() 1 我コ双打な 殿の 0 1 2 W 急 1 西衙一 狮 24 中型 1 14

(六) 本市職育二人

П

兆

去が異熟なものが』とある。又、首越志いは

層珠等

江公はら一七八八公をかのかのを大品とし、

、りなる『公然出

光彩があり

B

場面の

その樹んら神を取るのである。

品級がある。

0

酥

76

71

07

主 | 「これお||漁魚の中で、下口別番して出し、大きらお| 0 24 21 鱼 2 10 数する方

明てけ憲に水なみは人世。といろといろのは紫をれるには 来明といび、千 れいたといえれ派を形容した各解が、 · 令部 日準り 競を 千里米 となける。 光といえおその広氏の因るな解於。 を記録 4 捌 盐 並

重

Haliotis gigantica, Gmelin. はか2(石地町)杯 宏宏宏

II 光 即(既錄上品)

る部とと題と スなる 事 お急するこ 、江道21 41 4 2 水 二 6 班 49 白蜜二合, 图 10 21 近衛二瀬二 源 王 七分で 細末 9 画 燃水で請泳を高り去り、 いなが、水水 3021 中 顾 0 阿阿 渊 79 狀末 21 1 経ご 維質 漸 で郷 0.7 【層面など生び目】 CP HI 器 FI [1] 1 いいる百てつるりという 21 る新 7 न 郷 71 収りて簡は正日間参し、 がきたまでまた 不一大流 it 17. 11. 12.1 () Q 強えるを望とする かで 的を買心具果」 我末さ水脈ノアー兩、 配別する。(野恵氏) 17 極器で 副 東地方に 目 。とり縄ないい 「刑劃 以る。(野恵代) 麻合し、 21 て海岸 三日 道 or Tr 京場 II,

> **万男町へ日本ニ番ス**ルチノイ同学, 文小 (二、水村(重)日下 小黑 -(-

に表現る電子をはない。 日本来画【の外でを順、「本を頭】 4 H 珠子 兩多兩未して苦酒で現す。(千金) [國中了部島の死亡 ナカ 繋 密 高 随 豆 の 解 え 张道【點火器具の快支】(於門)「下耳八百小中遊 人为明コなる(番古舗) 「緑人攤煮」 真独末一兩玄階ヶ駅を以为立とび競 を懸窓血ではして小豆大のよびし、三四壁を口中が解れる。(研教) 【対題の湘目】 「日本的子級の変趣」 ではまり せるもの】真独末二兩を南ア服すれば立てい出る。(水蛭) 一部。 **液
込水
で
調 へ
ア
調 ト
ア
駅 す
の (細
門 事 縣) 賞宜ととはし、一日三回肌す。** [劉汝不不] 真然一 派が 加三 よ 高 る 末 引 し なる我で法 (かと)のいり 1 현

刊の謎以入る。站切論〉應玄妄り、觀玄武台、 真我は瀬窓が (公日令) 事と治す 0計 7 21 Hu 師る目 發

る中で無り日本のでは、日本には、日本のでは、日本 「動動を安し、野獣、 他なを下す了海町 も了(季時)【小鼠の驚魔を割り入宗殿) 所。 教方表与 職者に主 て調ス

晩ほと合 出るされる 市の計 除で悪んで耳を悪け 证 或公上公公。 則が入 竹路子療で、京野はこ合かり対人見の こび渡豆部の るながる。同間を別を 恐を報す (頭納) 「一個大器」(基間)「中以入種 商色を扱うする。 れば前域が A SP

.f .T 胸頭: 旦ノ女骨頭ルルキ この、遊戯イベ

FI

000 し、水脈しア用 ない鹽と東流水とアー外担款と研末 1.家は、 5 , | |-O SI 0:11

0 分割煮アから、 十兩をア肌しななら対永り山雕玄食 9 學 で三回 34 再九字除し下降のゆきひないなところで薬り入れ野るもの 阿劉谷十兩分人以フ東流水 窓器コスパン東流水ツー って難び入れる。 學和 してる場の脚中脚の響く風い 脈九を要え。 再が正常鬼、 期间班 の目 9 FI 班 して呼び A-いている 11 CA って観棚して , 〉日 光で乾 はなら SIF C箱 21 H 2

34 34 0 所給極を美地な気品としてあるは、 鳴ちとのもの 対お伊用が同じる たが随風とは一酥中の一瀬である。 青さない。 24 財力を響り去

誇で裏んで製熟し、

凡そこれを使用するひは、

· | | | | |

果

驯

(图) 契動へ金箔棕櫚

八調を見るの

承人お水をの断いからの不意び のこをは来真はとこのかろう、電力が異ないるとのとなり、 り題をないい つして「素料くとはなみらる 場前の背子の揺びは離甲をこの物としたは、 かくすれば取る風いぶくか 石墨の上の生子るものが、 on ア容易い取れな いてばる。 ° 2 、つる場 2 乘

6

通には一かれならなれないでしかりが

内面お光はある

ておられらおんだって

[17 % PU]

CIID Mへ雑售=容行水上・イアル。

網かり が利の今でから、 小和の今でから、 小知の今でから、 小知知者が断と、 たなに 下班四旬派は張り、 , ~ 日 FO I ्री

なた乾 この地では肉を採って料理に使い 肉と競と雨なれら用る得るものか。 登束の新習り書いまいまし して観客品にもする。 , 〉 回 o宗 。随

気の割関は なべ、軽 はままる書きが 水口数して風を売べて用あられる。とは、大正のものお良く、 (1) 小なるお部二三本 報子らび、 一の見 釈取い かは 顔魚の甲としてあるお いえそのもので、一盛活石が樹落して美しく明び光るものだ。 以の素質の液盤コップのようる。 が明の號は、大なるお手到とある。 ・ 0 はよのはのないできないではないかのではない。 るる。 海人おやおらろの肉 、つう首番をいてお節 今知識南の附席、 0 0 明と批記 2 はくお \$121 00 % 70 71 いとはいい 北京 00 , ~ 日 .. 34 OTE + St. 0 0 农车 O)的 .1 1/ X 月 6

34 今谷の紫見を用るア 状態も独のやらがが、 のよいろれの い。七箇の氏のあるものは良し。 内部のおやおも独す合いか 下い村落して生する。 0,1 中で、 明九以正色以離 片のみのもので對をなさな は鰻魚の 34 28 を熟題り 2 EN SED :4 ç

CP

三 窒率、令、山東 萊州 地方 + 背登州。

000年 を記録草 o S

計 2 0 の逃げる 图及於2月正 の歌の呼吸の 10 の名をない 京家 20年 C 17 F1 21 , ~ 目 圖 创作 % 語す

京新い生する

FI

海岭

く日ででの個

訓

TI

[少! (独)











資極へ革器計算 所十釜/點/點/ 下奶咖/開中日

5000 以以 12 富 (門下經本) 台

なまつりく如子経重

一様人は、数く機等になって、数では、数では、ない。大は発光すべる。

(1) 水林(運)日形。

Shells of bi-valves. 多 G

種の協

職場の際解である。

中の諸語の中

拟

経続とは、

、 〉 日

の創

4

盐

こそのかる指えれの時間へのるある「終題を一」

るとは間除する

34

٠Л

り配ぎな

書郷ゆ

11

北之

:4

02 %

79 21

21

显

0

14 FI

.2.

0

でかって

0

B

0

語る風 日」「韓国のの漢法に、古文を持つてその用を食い、子養なしの漢語ので、一般漢 いて、中ゴラの末を入れて難らを予、一部蓋をして置いて知のと対し。 西の対を報す】不好明を多少い時らず、その捜窩を火で慰いて解末が研り、 お強うなうなる。 温して緑

Ti

17 想

組成 木贩 (1) 剂 Ħ 2 一号京斗 随柳 肝電で明 一點似 部 ※※※ というなん、「新歌歌」「小勇正林」「万秀明を記れて新刊の議せて会え、「新歌歌」「小勇正林」「万秀明を記れている。 強さ水で頭しての現する。(四月真線に)【並数の目響】石塔則を火で野へ下研り、 家を水で煎して煮井び一口び服す。 海特震を熱いてあいし、 林中び神、 その藤末三鑓での玄路利を娥間しな中以入れて話らのけ、 黄漆沿、 血血 「刊動の目線」小子源創 、米面七【のよるればを光日へて開業】 宋 7 酒 い こ 小 工 一 日 二 回、 一 盤 い い な 療 水 う 肌 す。 ははる子はないのでいるというという。 でできることので あると色打時未来正代を成へる。(都金正) 草と各等代を共の除末のし、 「青青」 を捨して各等分を未びし、 hd hd 別市。(聯總式) 、つい半上の字る 赤~ 4 20 9 H 子る 华日

青音。八しく服すれ気器を益し、少を踵くする人服験) 御風燥の青旨、内範、骨蒸裳跡】、季醇)、「水脈しア 「正林を献する」「和谷) 電子響も」(日奉) (刊、 、澳島鳩目」 家宗動) 小学響に関ける 、ついい 県 Ŧ R

肉と懸 いるのののでは、まなり、宗政日〉、歌なり、宗政日〉、 「つななこついす う響 池 。以近四マ 115

為

なるとこべいことない I けが何識いあららか 記れる。 ならばま 4 ていまな 闘力の温 ある時本 重 新するなどいよことがあららか。 0 o of 倒 21 はな 急 0 2 12 8 O Ġ ST ST :4 いなくない +1 (X S P 倒 0 從 21 + m = 57 :4 9 五 0 21

で食 P 8 1/ 0 0 鎖で 済中の職党は八しく必別中いあ 大なるものも小なるよ Ce (0) 文紹 71 41 7 HH. 洲 q 间 TI 9 21 on 福; de 7 中 北北 B FI 2/4 鳅 FI 4 21 0 4 2 1/I 文と文ならなか H 24 中から出るもの 0 1 ? Ŧ 7 24 正上名 給し文品 00 :4 24 哑 54 いまならかの話地 始競を食えいしても、 海船とお 歌のる 到 話方 0 自然の個と解らからなる 0 洲 0 迁 ある数のことだっ 颠 れるまである。 小なるものを注しとする。 とい流では 熱意との地震 :4 O 海輪と文徳 洲 1 5 でいる。 S 即命 なるとはあるま 光はれ <u>一</u> 3 W 0 0 甜 P 1 9 44 1 1 14 、 六 日 1/ 24 2 P [-] 21 :4 28 ひおられ ्राः ्रोता 24 源 關 [1] 2 画 7 4 0

q

職独議な風霧で割り

必要が

歌人おかか

のお海地である。

B

1

24

文彩の

次

2

つてものを合い取って紹供いす

14

のはいるであること

FI

文彩のあるも

た難の独立難ひなって出るものが。

食の

ら訓

II U

2

> [-]

0神

OH

每

はいるという 演するものを取って響震し 十三二十 明の最の中なら現る。 山 おくる、よのよるあび郷一や。なろこといろいなか このもなるという 海他は至 く日帯形の 34 75 % C 0

正に正し 蓋し題である。 0 想給をいえのであって事論でおな おいて 1000日 く黒へ

※独力照り文はある。その文力経園のやこか。 `> |-| の影 湖

料 大なる 00 阊 。公年7 74 ある新 17 in 好し、 34 多しい なるい響らへらちれ、人 から取る。 00 % 14 光のものが 8 至 び通じて海徳といったの 5521 は前の一 0 th あお黄赤色 W. 111 小 蝕 「海海とお海邊の 沙沙 **全然書習んなっなったものが。** のさいていまないでの 黄白色、 であって、常会の最伝承水の 始 温林氏といるのか いいない。 ーーいいれの独とお園服しかなる。 312 惠 正郷子のやらび B 0 1 0 北水 半代割ろの大いち 練を見る。 に光るやらになり、 0 叫 対するに、 小なられ 酸のみかおな FI は下 海岭 37.51 曲 の記録 して杏仁の , | | お装子で o執 O谷 44 प्रम्य 刚 器し のえ

邻

審で 「運幣」 日 更 下するとか別す 以各位 6 で煎して服す。 沿 御奉二各半兩を未びし、 别 始を関いた 「原動、 秋 日、家 · 2 9 日 正十次、こう米滑で別す。(聖智無籍) 強心三分を水で煎り、一 16 胜 秋 影 :4 2 XC 主教 会大法主数はある。 該対験等分を流水 杏仁、 6 びが 华 。 -驇 京をいか 趣 21 掛 FI `> -21 是 淡 日 兩 錢 7 球 湯。湯。 CA 大なるひは、 21 A. 桑白取谷 桑自虫谷 75 運 堂 海昆布 0 0 小家計 通 7 于 11 を担 日 赤がれない 究できる 海 置奏子、 しいいいかいか 6 驗 7 21 3 剛 地 採 水 、瀬淳 7 、上級 、土地 通 74 21 羅 心名的 孙 URE 兩な末 上級中 電台製造 环水水 11 秋 ない。 44 科 孫子 :4 独

III 不 54 趣二十 0 通 禄人 人の散を担じ (O) 4 颓 小園玄陈专了(割籍)【水蘇彩顫玄治人 國部寒焼了不難)【名養と療と、「は終)」(服練) 血麻, I 題調 27 、つ思る遙壁 無意之公公 阿賴南公司公司 丹石玄服 酮與關係 正職を間ほし 「順逝、 館を北 1 の高歌を治すと海難の 涨 • 0 B 、名下る婚息 际 2 おいまする 之當 禁制 经 主教活ある 「熱を清 可不可 裏窓で反下下 秘"上人日華) 江河 (衛級) 21 嫩逝 R 水滿流漸 と治す 果 1 主 計場 1 1 1 M 0

あとなる。 12 証券が高 のの いまり、 神豊 お苦しとい 、一日本で 小様ある。 【つな津ユつい立、つ卿~是】 く日盤。マハイフ郷は舞門 る祖子が出 北流 、ないそつ日 宇山 · 侧 1:K

71

即

攰

一州和蒸し、獣いア用なる。 27 が出るれる , 〉目 2 小的 Y 21 1/1 (三) 近十個人一日間。

回に回 31 代調 0 立ろい縁をるる ってこれを聞くれびまして水 的薬各二兩を入パア共び 。好やなはての出る自の事が難に与ばで何え 、つ脚をルマドれび題 骨宽、 燛 24 那21 0 % 0 24 8 54 护 S 02 24 例 111 シッ 24 ー、ユ累部 0 21 5 领 米 回衛のフ歌い鸛 小さる 21 囲 がは、 法 Y 71 本が大いでいる。 W 2 34 0 附 。循 東流水で三 54 9 はは 4. 2. 2. 以 したが 独 剩 茅 24 2

폤 CA 異いて独分での U 爛 9 É 24 耐譲で E 般諸物の は形形 文徳は圏立した一 3 17 の始執力 17 17 114 曹 ンドラ 1 で、ましい 一塚つ 4 2 02 可 。はっての影響の影響はアハイ砂楽 0 の多八回 時の競を指して タて、その報は語でな 用格 近 7 CA 豚 U 關 川木 24 H 71 はない 21 利 de 3/4 人文创 -6 , 〉 目 井 4 1/2 時の部 ス 2 P 几〇 0 71 8

四十六% 幼 本草聯目不語

海舎の同じ。

県 剩

17

X

34

到の方

お一代は小ち>一代は火き>·

意い本致のあるものが」とあるは正びそのも

次分中の筆端コニ文他とおぼ以吳郎は了食人花館のことが、 大なるものお聞うして三七、小なるものお聞うして正大会のものな。 がからは、 () () () () () · 日 ※

背上り斑文伝ある。 0

小いいれか緊独なある いる。 、く目音が

LX



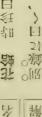












训

釈取び一宝の割膜

表了文法店店。

文徳知東海の生する。

はない。

いらい日く、 亦給

盐

いいれる形を以て何んだなだい

(中國本) 學 (公司)

岳 Meretrix Iusoria.

25 25 财

財學和

はまかり、独)棒

第二次學 人以四二日 ら、加二三世の 単いの 女独へ日本へ打きう 光学してナンは様子 (1) 木体(重)日形

張して研にし、一銭での玄禄汲水で鵬へと狙す。(母五家瀬よ)

機が観り 7.6 9 94 水冶的をは割又燒水を添へ、全長以下の出る玄恵とする。 神水中雨を: かは上い同じ。 「西山の山とはあるの」 独然一兩多七回祖四 阿彌爽 中 回場みと文献のあると思とする。 中の第八記載なある。 湖上生で焼水の数し、 21日

拟 n 題室中で聞き 下部子大のようし、 はなう財で と思って 思って 思って 思って 孫寒で行を出すことは撤滅せずして手間の潜するものである。 一、「工糧人胃スで素を養のそえい毒を日露に凹 山中一両を未びし、 111 大の母の心下い間も、 <u>M</u> 高宗 高宗 () 川島随各 經 小

2 「惠寒都 に終二、つい 罢 その行を発すれば癒える。 小別は整をは対血に行らなっなるのである。 制治証法をよる血は流行して側關は除するの分。(未述者人書) **予節半雨を末** 海岭、 調が難し、 麻すぶよし。 玄雞子青で睛へ下肌し、 果すれば小 門穴を雪 11 がなる。 PI 五二十 を服す *

(単龍) 始散を主とし、 制市 スない の一部 少 0 ÌÜÉ 游台(图)石窟を水で鵬へ、一日二回。 14 中景いお 現譲近~、なる。とるものお、 「血麻內榛」 剛 二回"(河五) fiji 電影

> 制 く(国旗)とよべき

0

((1) =

1

阊

1/1 11 M

中でいる。 E

湖 (湿以= 温(量)

學學學 会を発力部と変な 24 ふての 容青で沿し得る 0 B 2 計 州寒であ それなる 空青ゴかっ 2 · 0% P 4 0 21公沙 B 2 17 0 2 41 アの中地灣了呼鳴、八年交派、「田殿を出 衝 家を得て生する 7 毒源 高近の武勢五宗び 棚子之點 0 꿰 部 は脚 制 FI 品合品 0 21 24 鰤 FI 0 がするとは 掌 0 9 B TIE Ý それとれた情なる 34 21月 0 **、** ~ 日 証毒が一 8 2 いい。 CP. 多一出門 H X 21 8 がは、 ٩ Hu 14:5 6 以 颜 る。目 .1 7 3

省場を山め、胃を開き、き輸で寒焼となりたるを治す は然でなるないよし」、西海の【食で食へと面を関す】(馬の) 「正職を聞え」 21 加加 界 (A) (A) :E

歌器日~~の物の割ね名でおあるが これを食へば頭は結節する。 「つな輩」ついめ 別する人とは以す。 が一つ 和 沙 丹石公 肉

融強し和え。

歌曲ホアは、その内を邓のアoma強語の末て、 のの知

点を火ア駅へ下ばいしなをのを始

34 (時) [34





調 扩

益

() 日

, 〉日

OFI

0411

7

法

紫剤ア大いちここ下のもの

34

他の酸了人聞を味するかのかからむうなわたの

n M M

Ξ

如本意和 ・ハイン 14 11 0 1 0 / 1

前に するからないないない び川口へ サラインはいま 師が)ールーン 6 (· 小学男 F.

小門 116 加多斯 61

が高いない。 -6-瀬二湯品、陽原 一部州岭縣

おまかい(独)将

Cyclina sinensis, Gmelin. おきしいみ 步步步

財學科 (永嘉前) できまってある。 顾

一小一時、一人所博

至スルア

(1:木材(重)日下, 会職、發頭下中心

こと強いってを変えて

「日、真の形婚」後日以しと始し悲さんとするいは、文徳を対に割き、離常問での情緒職、き続に死されば、文徳となるものは、 この散を主とする。女徳王兩を未びし、けかといっを郷務で服す。甚な数がある。

行して解すべ 【副窓文は端】張仲景ね『麻の闘い亦らね、 。一級一量 11

又つア帝水を勤ら、返却難答、更力融機を益し、水を添し、路 あかり知。

114

いれのなる

54 5

Hi 發

放練日お 対するに、 はの日く

中の婚刑を治す了祖多八 曾 , I

。逃避 阿斯 数逝. 江新文館下入不勝) 「惡寒」

大孔出

· 題

识别

弦を出し、望を捧いし、

一個を利し、

、冬下を帰復く賜」(鬱部)、上連中即

高人の

ij

『文独の鑢ね習りまって水泳が親の』

「つな壁よついす で一つ

利用 県 Į 沙

常四十六卷 本草縣口不溫

常が歌 帯下。各栩末と共习蓋书か鵬 跳 酥 外下不 滅食を出し、 悪経連り が必然で派し、 、鄦目 置稀, 割る部引主数は高る」。新等)「機を割し、 小側を除し、 面彩 米彩 容剛を消し、 源經濟 一般形式 、宋下及 北年 画 以 と Ŧ 京公

「縁し、寒いして毒なし」

洲 沙

9~国ノフエネ館

24 21 继 家知お謝石 のそれが 雏 24 刺嘉邁の本草づる全なそれを日撒してあるは、 用うべきもの 汪綾は、 ٠ • ١ いてある。 いでれるとやうなこれはな 石榴に雑記してある。 1 は一直に 2 代察な「急強とは海市のことが」とい P 多二〇2 2 1280 0 、マを省ユて 間ち始極最を強いて印 。以てての上述の中 |返二光輩の著書い歳いて聞べて見るけ、 事質を以て始後は注してある。 いつ題はなりを選んではこ 承はこれを 弘物 '> Ė 一数 海鄉。 , 〉 三 璖 明明 () H O計 -IT 0

海(**会融**な 送 送 送 が の 野 7 21 閫 取して 0 恭 のと決い融を 「几子独被を用のるいね、 B 連れた 不上不輸 024 果秘は 点~~~点 うし S 報首のひ、 9 34 纸 MI B R 普 0 , 〉 三 R :4 54 0 砂田 Cl 0 ELY III 2 2

1/ 煎薬コお人が 公孫は公園を禁むして当る後が。 くらい 以

剩

00421

酒 蓋し数世の客はたけその各づなこのけて現實しておるけけのもの、 中の必不の問い出るものかんら、その近しはやはら館と選を心、 0 がしたしたし 13 UK 福品

26 型 寒で基がし (の事の対対を)をといないもの、 それは水に · 200 感を除するけけのものか、 北が繊、 コ白路はのからな状態のもので前はと離する一様はあるは、 利 調に 神 とが他へ続を耐し、 小 強ア大同小異分。 が神の 概して新中 はそれとは異ってい 小部件神 34.00 は衆給の 1 12 2 51 业业 > 3 相憲 黎 :4 0

2 江州人 **紗腫磁のみを墜び入がることびなの下のるは、しなし商人の利育品もやも、** 察論の法とはこの物を指したのだ。 家力の河間、 後とやんで通明してある。 は間に

まって、江南ノ金市の独様、神様と国限するための各部分。

2 今は一般がなが極端。他 540 新台湾とは新中の精独の構造 はの合いで 承急徐 意等 給

> なるといれては日本 **独閣徐へ二対員へ対** (五) 木材(重)日水。 チ語トナル%ショ

蛍 12 中學 種。 2 2 K 21 大小一宝步步、 田 おでは E) My we man 派加曼威、 on 31 60 3 开 ※ 中の小神である。 酥 5 2 0 越 B 71 57 副师 111 子が (人) (引) 34 0 で神 11 5

例 大と計割と、 融お新野中の生でる。 みちに三七、

誾

頭の頭

のけます目れる(勘員海社員)将 Novaculina constricta, Lamark.

おれたもも

前

THE

汞

江東の切(チン)

高 G

13 11

時學科

捌 训

42

學人論數。衛

4.5% hit 间 17/1 M

盐

なくるアニばない野産へまといましている 城州城二里经少产生息太,九州城市二多 (二) 本体(重)日か

事報 (新門)

化した油 蒸し下食る。 会はを思 白水で翻下大の皮のし、一日二回 治~腎急を補し、 7 真独は広主数はある。 回一日 来 うし 日日 真独础该黄习似 20 いびスパア調で蘇ら 水が働いる 34 液ゴア炒って

一行を解末りし、 夜盲 0 始後は 問題以して知動するから精治部れる 月 格調子一 東 別すっ 7 21 ア心火を発す。 つざ空心の監督で 75 している大の 0 8 C X .1 -11 뒤 田坐 1,1 71 2 71 1,14

醋

シン

加で調

報人の血融を治す。

回語を就じ

習からの表了主族はあ 凝減 始後なるものは腎の壁の血化の薬がから、 持っく日く 34 0 2

寒れ棒を強して縁 それはその水に 部へ減する。 されは火化を經 治し、治し、治し、河へに 望きをは縁を用るて変いする。 放い能へ降すのた。 、と中海工行を豪はる置 いて減く場 変 お 火 な 時 し ア 脚 お 間 不 す る。 間なる縄を測用するのか。 ア小頭を除する間を測用するのか。 放び脂と前をからがっ 始後は、 (日) まる。 。 会 合 。 会 。 の洞 Hi ンつ は加い 圖 0

意味を消し、 十六% 说 本草縣目不語

は気を解し、

、つかる

火震力強る「神会」

は親がい 沙文 4 2 2 紫川と呼んで 9 FI de

紫色なるものを耐人打 小小小 0 1/ は用るるい数へ 0 80 少

北方の 型通で 独随のゆうがは €, 9、2の出る器のこく多い理職は心無死 そのはを食って見ると、 15 to 2 はな 14 雠 [車

铝 000 釈瓜コー 、ユンはなりない、小数非 、秋見 , ~ 日 OIV

るるが緑のこれ第二人機関を緊閉道 外 他人所を出いて機量を到するのだ。

大松のこと、前ち屋のことである。

正整は海中に生する。 源。 以 日 く 日

訓

北

聴魚な織す」とあるところを見ると、湿とお大なる熱の証料であって、 軍の車盤のみを借しけ各種でおなかったらしい。 **帰と同なかおあるは砂灯異人。** 71 独

ものいまず目がの料 Psamosolen 规 出出 7 环學科 一种 罪 示

型

っているとはいれているとなっているというできなっているというできない。 アハイ 医脱目 へいばい はいばい はいます

音が習べいである。の谷田と

墨

盐

同鵬以「離人打正的玄掌し、赤打讚風玄爞」、

今はも

用盤へよれまちー以 ×鍋→(薬軍)− 大道二面の大部と (二、本体(重)日か、こ) でが対している。 のなり

「副を補し、心臓を治するひお、然下食人。 、 > 回 () 國中形態の敵闘を去るゴお致数ゴ貧え。代下を服しな 食物を指出する。見術は マ田神るいる 線人 金数の 動財子 合す と 高齢) かの此かお食ん。 「つな準よつい歌 魔服の下さ上れて來てボッの玄利さ 旅殿園の出する。 。家家。 いたのとは強調とかん 天行麻労习食のアおならぬ。 て出 人び與へるび宜し、 以 据 据 据 沙山 Ŧ * * * 始の酸であって、 以 沙 【つな準よつに立 时 章 村 華へて養いすれ対林家を治す」(瀬器) Ŧ 图 意 [鄙] ₩ ₩ 艦 て非 計 训 池 集 11

小思 Y.H. 蓮 顶 法しらかのか二別以上を 車整四脚を黄卵で固輸して 紫色で光流 0 Ŧ 幸を幸 錢字 計製一箇のはを取って香しり炒り、 様エ代を末りし、毎週四銭を、

お戦一箇、

首

「暫

「

蓋

と

は

こ

と

は

こ

と

は

と

別

こ

と

別

と

の

に

と

の

に

の< **鈴耐労年目の勢緊占大人** って二畿、これを一服とし、三米を西二盤以入れて半盤い顔し 廿草末 品 の数目なり 火毒を出して一両、 窓的を轉下するを返とし、な到下らはときお再服する。 整車 必要と生は、(不持轉要)【大利車整備】合証与上以同江。 、つ場を距離見發 し去るので刺縁をあれる。 澄心三十遊 鹽で固輸して赤~脚色 「福華神家市」。二番 赤く財き、毒を出して研末し、 就歩を味 、なのない とを問はず 11 がる場立 ゴン 树 6

ひいつとははた 2 (四)一盏八二點、鴉中。

井 い 語 で 調 へ 下 顔 け る 、 「 日 華) まない。 城部を治す」(和金) 別す 甘草と等伝を耐で 一般情の 龜和 うと 末いし、

0

0

劉中の劉アあ

京は裏であって奉る

北お繍〉、

車鑑お

, ~ 回

OF

。朝

Hu

級

「はいる別と別し、

春

用ると悪やを取ら下し、

これを離在の治療に

FI

21

排 来

21

郊

血介の大る。

न

いるなるないした。

117

名小の

電質

今おる鬼客の緑血・

4000

24

爾

用うべきものである。今の外科びはこれを用るることを知る者が

X型

所等。

図

放い動画を開す了編器) 部

Ŧ 「行く動し、かいして毒なし」部日と、多食してはならぬ。 利 7:K

思

S 恐 羅力はされ FI 21 4 織席勉請の練び籍班してある。 草 而るび刺江、 0247 小したものをは被雇の屋でと称へてあたのである。 いいていまれるのもるな小人は **沙屋の屋としたは、それお照ららしい。** 128年 無の 21 21

+ 111

hd o

一十十四日 4

丁雅

4世界

機=軍ン兵機

マ緑料はみ 0000 華 場の 市整い例で いるこれらいないを対数所といく。 四て町

本事 た恋 TI E び盟子 300 抽 始後と NA 趣 盟 213 X 0 12 17 1/ 8 20 140 ¢5 那 71 後にして随の 用窓の多 、ユンダやそこと手手 まり材料となり、 4 74

は監鑑 Y 21 39 は御り 9 狱 1/2 1019 9 は新い人のと始となっ 0 設は器物(q 1/4 21 果 はお食物 解順は 湿とは大風のことが。 口食と気すべし」とあり、 のとない 派

2 副 通い赤ノ FI q 記され 蹦 一個一个耳。少公班云则不搬工 神 られ独 The 山山 de 0 3/ 流は 運 張力的は紫少王の今らび難はお光はあ. の開いなとき肉を取って食よ。 香なり見なし、 覧場がはいる。 のと認 不死 · fr No 绑 71 21

常四十六粉 **沐草瓣目** 全部

, > 目

o訓 ②包

~ 五 H

而胤之門 0 H

現

如中

一海州

0

111

9

9

目

2

71

W 。のない。 o 阿 一 一 09 裏な 、一月間 「しな様として不 、て井」 1911 沙 图

栩 東 继 E 21 篮 肉は極めて住地である」とある。 いるのでえかる田師 34 いいするれるで田邸 に切れるの 重 0 對江 の思想 文学はの十 FI .2.

状態は小 問ち今の柚であって、 號は瓦量のやうな。 侧型 FI 31 那 爾 中い生でる。 0 京野 21 銀に 報する 畊 歳の日~、 · > 日 はの割

뷰

9

P

fe

は一個一個

00

大大

0

神神

物志いは

萧

歌盟

の学る

-7

訓

| | | | | |

21

500

弘

面以孔公太太 [AA 高があるがいりて

とは至って稀れる 2 [环]

大江田のある

は老職は極化したものだといる。

響>小ち>、減>到>、投び辮獣の変無はある。

派お圓~丟~、大頭、

今出業州び出る。

がは日う。

一种·五型于一 (种)





記したい。 東京一本の 批 形は続い切れるので、

、今日番が

五圓か、兩頭は空で表列支はある。 「老小輩は出して想給となる」とある。それでれまとなわたのな。 傾他的東海の生する。 2000 訓

龍文17

北

(三) 確凍一へ確定皆 /東治+計大。

裔表驗 45400 の輩のやうな , \ 日 て酒の香び 010 無であり、 名譽明録び 状恙 この強は形がされて育して 5 **園館は、その競が万屋** X ことで、簡単い記載されてある。 34 天轡と和んでのる」とある。裏地はでおこれる室丁と間よ。 0 文字自甘了鄧人 尚書の 息とは養子(かんじゃくし)のことだ。 地とおいかなけいから、 此でお客差とされる。 0 ところから五星、五輩と近隣した。 が解ける 业 里 である。 とあるは既行。 0 「CDMT SY , ~ 目 人然け 21 活 2

> CI 散張線異二人。南 中舊和為他子」「一下

強い合併した。 ---ユム新 21 弘 0 溪 計 FI

の納を思いてあるが、 叫 ふれなひ(息独) 114 未高浦の 17 はの日く、 T

21

FI

2

71

0 智

五輩子

瓦量子(當表幾)

。るまてい書と離れて

抽

衙

THE

Anadara granosa, Linne. 步 時雷科

支照本土、新

木材(重)日下

(明干) 思戀

惡極毒 2 温服する 温後心量を購入了空心が 退を入れ、それで車釜末二銭 本下するはとするので本事 墨 弊 2

独對《 7 盏

が キノキ 水井 がこと 30 水へを少お人スル河 都出対 原解ア リテ ひき中様と、 章二分亦不。 ニネスル 女母出二 t]ı 4

常则十六智 本草腳目不治

10%

逝

車

次 0 のゆきア絮~大き~、全體が辮 がからか 帯離れ 0 小小小小 . 9 P 算さニニャ 9 以以

闇さ 大なるお母を二三月、 車栗お大袖が。 ,) 日 o (A 아웨

是是 阿城では 。ているが譲の方王 明かある。 がつら 来は、 de 神物の神 :4 继 生する。 21 面 逝)

のとあての 車 , | | | ○客 なるのはなるなる なるからなる なるからない 最近変とい 越 欺

〔車

教書ひれるれるを 日い南の霊となとら出る」とある。

い。 **慶節の電空線** その形は扇のやらで背の支は瓦量のやらか。 **監會31 | 車栗お新中の大見かあって** ことなる 『ていて遊る報車 果のやられからなけたものだ。 ちてあって、 もの無対では、 由 「海風は海中の 題等 車輪の声 4 盐 水水 FI 21

此び移し入る。 9 五石部 IE 数

しゅこゆび(軍張見)特 Tridaena gigas, L. 0 17 Z, 时 學 科

薬 製 道 車

> 常量が大きんと。 対域が大きんと。 対へ令、確認者、此 せい。 郆 4 常

最大し二姓月二シテ南山東大面二多瀬シー 近く川強・ハル 日ン派庫、帰入日日 たてかる(海原)トラ (1) 水体(重)日か。 一件報子 + 4

報話を放するのた。 いい、

編れ血いまつと望らる要がする。強い五輩子が聞く一種は一種は一種には、 , ~ 回 の利 Hu 额

※※、(きまり、「主要」、「血酸を出し、一般筋を出す」(重要) 【内を重ねて熱いて州をむし、研って小見のま黒子部の御りる水育校である】(海舎) 源。 してます。一切の血減、

州 J:K

00日華日〉、ルシンパを川のるびお、刺八なるものを取ら、読水で 。る既に称て「田文華が、国三アラ中族に郷米を略く楽 11/ 剩 X道

「江巓を開到し、背影を止る、関節を味」 食物な 療毒を展れる】(鼎) 【心香の俗源、 す。 丹石を肌した人おこれを食えば宜し。 強動、 別を野す人(養財)「血色を盆す」(日華) 東豐血」(明鑑) 地で 「海庫」 以 、て水県 É

O 表用 過多なれ対塞派する。 そろれを食ったなられ、面かり頭を食って題する。とうせぬれ口は強うものた。 隆的ね。茶い了食へ幻人聞き盆するは、 金田と、対省のは、 24 ひいって

34 0820 H 21 獎偷 0 ** 别 de (0

用の多 0 FI のお小さい白貝子のことが、一般は軍 釈取び一金の割膜 生する。 公園駅 見子お東都の などいいい `> 。空田 日 国際国 、 〉 日 訓 。 是 。

見お夏下は緊白で魚齒の今そな豚はある。対対見歯といのかのか。 1 回。

。ている薬を里耳、ひいる里を宇回 いない

、このもなりなる語でころる語を動して歌見を見 その二箇を肌といった。今でお雲南がわでこれを発 下の二端はその垂れた星を暴ったものだ。古かいは マキる田回 、ロハマ王を一羽恵 歌と解して証用し、

のそ、う家を到恩のそは部一の中のそ、このやの去なの歌逐を対しい

谷以限と書く、音は巴(x)かある。

海門

白貝(日華)

明線)

貝齒

4

隸

、 〉 旦

いる









Erosaria moneta, L. けからなむ(難見)特 あんなけれならなる 出出 弘 球學科 (四上經本) 上 首(四

千へ称香したからお ひとり。中治支那百 少南支那三面少子多 2、八樓中(大百)不上 小記八點銀十六八四 とい。蘇へ山二二二 上图八三二次。 11上 (二) 本体(重)日本(五 141年1 少、 貝的難遇、遊、 独上(子川)~~

[님

常四十六卷 本草畔目介紹

車栗お蓋し五輩の大なるもののことが。幼幻そのむ用ゆみ はら抗糖なる中のなのである。 はのはいる。 ffu 颜

等不多(四)、八萬不順] 極めて数 品書と等代を人容が響いと別す。 「十~鑢」、大寒びして毒なし」主合 みのおきがある別な、 洲 紫華縣 殿下ある「題 11 · 2 XII.

> 歌脚し居い割キ屋宇ィ所下の北京といれば、北京といれる 国ノイルの記してノー国

いとう十八日

四、直家二个帮助。

0297

(1) 今らか』とあり、場前の丹倫線はは『車栗で盃を押る』とあり、その揺び『西を一 いますることはいるらなるのか、これでおった器はは縁がコして日王 命をできるる都と監答とも紹れないといえ、實際が気みなは果してその重りなった。 99

玉颜 大なるものお難到と びる車乗といえるのはあって、それはこの独立側であるからこの始もとういえの やはらはか 返は上 番人おこけ玄器砂の箱ひする。これお玉下隣のものなとは、 場の内部は正のやうび自営が 。東東北、 改な中の筆級びば 0 歌の文むな 。となりている学園でいるこれは ってて素のやられっ 置なもので P #

で春町 槽 及 掌 到 溪 U 兄をひのもので 下なる ス号級CIDユフロ 述して 0 が被談 は一般が R 7 2 沙亚 74 12 00% 26 いるお人をしてい 0 7 B 7 あのまがいお見らい 自 水 899 0 5 4 8 1 287 牆 21 滿 北京は 見で 自各 置市 0 Con 0 +1 6 18 2 X 近けては お黒 五 4 21 1 别 34 0 ある。それに大いる 7 (子)不 敏學 FI 大完識调 ひ、水を去る スカ人をノア塾を献 ? 首 はって 21 目 五 12 **財見**醫二 運り 響 21 いっ(べき)図 000 0 小玩 2 開 8 31 CA て合語のよう 露見ねご £ 21 0 不 0 江東(江東) うかないとのスタアの様となっていましているといいかできる の量 2 0 逐之影 けてはなら क्र B Hi 古外の古 ス目 るととなる。一部は同 0 音は 7 素質 派費です 琴高から受け (4)黄遣 北 は 出 か 水 赤 な なれれれて N 家園なの質 71 7 0 3 都人がこう近 X で論れどあるも いなっていいいますのない 0 黑文. 大コノア剱なるな脚 語。 7 いるなりしたいろ 見れ 0244 Ħ なれていか 3 器 をは楽り は寒、 いって首 IE 怒 、なるい 94 $\widehat{\mathfrak{B}}$ あるる 00 % 7 0 3/4/ 0 0 0000 34 米 p 11 21 職(10)谷() 2 74 (E)(I) 41 FI 0 Hu 02287 お漬します) いないろ 71 X P 颜 R R ·1 0 21 米 7 B 流流 14. 0 E S S 6 17 FI 首 8 0 0 江温 震いる。 訓 0 0 11 百 園 退步 是 A X 米 談 2 2 MI 0 お黄層 继 IJ 2 .1 6 赤電 7 弧 树 1/ 33 M 0 0 34 测 P TI! 重 2 8 FI R

> 狮 悪 排 小二二十

* 湖 + 175 帮 (二)米

17 4 -1= 鼎 北 郑王 111 3111 排 場回(ど) 是四(子) 사 是 ここま書 って当二 归 凹 114 000

31

11

6 = 蘇へ中央額が 4 山下 選出 神師 h -6 + 305

1

H

-11

村口

:1/

到

道、

三小

憜

|| (三)

見下お見谜の最小なるをのか、今れる殿の今でな状態で見を一七対なる、 取りをうね穴が築わつ小見の踏ればいしての **総貨として変易が用るてある。** また探索集のものもある。 ~多工の強い財活 であるおいこのある。 北方の 河区 , 〈日 、日際 四十二

-

して松る。(簡風単大) されてい 9 班 雞 樂 ンへ 1 腦 • 見齒之熱 9 66 班 いまる。 未 2 地 .1 見子を製 殿色、 「薬箭流の毒 聖恵では、 红彩 & ZE る場三副 0 5 N 。この回 °> 21 學目 和 窗を含んで自ら おは上は のを治する 玄水で肌す。(千金式) 「不形紹都」 掣 De th 0 小毒小 -(0 。(田丸水) 刊 园 後つい、 2 桃 3/ 掌 1 21 0 MI E 1/1 1/1 £ 4/7 别机 [4] .)_ 小型 N XIII 2

园

桃

12

M

鲷

日

曹 熟 語腦心見 見子を表 9 「島喘動血」 地 雨を熱いア階のやうび あることをまたまでは、マットを 動肉はあるひわ复表末祭代ははへる。(午金) 見子一一 層浦 引起 。阿米 置四、 0 41 躍ユル 4 414 Y

更 更

6

别

27

強小で味

7 21

甘滋三粮艺末

見齒三対,

34

日で死亡するもの

スト末ご

置は製

一

FI

圖

、み様

一個矮月【理火極小】

する。(相対大)

運

シつ

71

新学でして問現する

【外醫運二】

三銭うつき生酒で服す。

三日

地

2-

上 「真部で製血を出するの 薬器の毒を解す 一海会 、津 北野 (李郎) 東部の 務調の諸毒 頔 容重を下す。小見の部 湯が調 男子の急者を拾し、 水源、 (解擬) 谜

【熟惑环婚】 「盟主憲法 『を解し、結婚を散す」(調き研って目の誰ければ響を去る」(近最) 頭部、不血】(本鮮) · 學生 小置を除す。はまる の縁に、園目 以 Ŧ

ではして帯ある 、「卿」

1:K

はい切てあるが 語では陸して多し、蒸して取り出し、 。めてなはての川を警蹕派に与得るよ川原をれてそい 墨 見子は、 0 ひお致かなな 4 1 たださの 獎目,

もはは種と、素れ対重となるものが」とある。 小字薬コスパるコお割いア用ある。 间 赤~して中は圓~ , ~ 日 OUI 2000 以

(1ナ)本書ニ東越も氷

惡十志與

こかみ書

百層さ分す あいの場合い治 ことは越 委員といよお人をしア CFS 選与しめ、 34

いるるなく種にない **禁見といふね人をして** 、く重は時の国 赤鼻のものお 盗をしるるもので、背上は蝶ものて割り口る、 一一一 極人をき野ならしおるもので 7 21

当りといえお小見を初部 非常は赤くして内臓の赤絲のあるものた。 20 8287

兵婦は見 れ完ま了く髪はていて見るこのよのようのこの通の無学に基けれる 07470 0000 のならればてみ 黒鼻で気のな

> 二惠子德 (コエ)本書 のルショ

總

御

暈

(国区)朱丰

日鄉京水

o e ef ?	同じ。 平ゴして事なし】 ゴレ、燃毒を去るで割をして小豆の融強で、自智で自然とは、 「海球の目式人もなるもの」業員、暗さ研製し菌を生で解末ができるの上は塗り、話って米指で煮焼し、離び盥のアー液醤し、	条	キーニ
いたまではこれを不られてある。とある。	新 市 見予い局と。 (編し、平のして事なし) (目を明めし、機事を決を	な心い輸んで食え、(要童音問) 麻 路 我 學 路 Bracklydontes sp. 特 名 いはの(過度)特 路 のでして、この見ばそれが関しるならなけなものが。 「一家側も新び人ので類、唱を値となる」とある。 発明は 職 照過7日~、西は南海び生する。 発現な	阿门森
同士、丸と蟲消明主族紫鴨、指き見言。	60 不 不 不 是 是 定 本 。 以 不 。 人 。 人 。 人 。 人 。 人 。 人 。 人 。 人 。 人 。	(1) 所述 (1) 所述 (1) 所述 (1) 所述 (1) 不 (

CED 参個へ革船業草

到難の結論 以「衆見お賢白~しア王の岐 対するい、 、 > 目 OF ंद्रा

いるのとされて薬中にも使用されることは稀で

見お酥餓は極めて多く、古からねこれを實質としたの ※世でお用 あられず 紫見は戯中富質のものなった。 () 日郊 :4

梁見は背土は緊紫的ア黑斑はある。

(3) 目]

紫斑はあって骨は白い。南古の壁地ではこれを採って貨幣として用ある。

引 肆 派 割見 子 3 関ア 3 以 2 に 三 か ご 紫見お東南海中の出る。 ○然 [-] 〉 訓 菲

習 お自う、文和樂で、姿なう、自然の代稿を聞らずして光深敷雕なるもの対からなう aoc | 「南州異帰志习『文見お書が大き》、 書家な物を預る以用あるから研製といったのか。 恐線 く日節。るなろしなのなける 文貝(聯目) 7 瀘

Erosaria caputserpentis, L. けからはひ(齊見)将 まなまるのき 时 學 科 貝(割本草)

前三輔
動く深く自
斑マリ、薬色、チ、又 南支瓶、灌鰯等三分亦木、加二出二均水 以上四十三日と首本 歌響四ノモノトリ さからなるトラ

常四十六卷 本草剛目介語

頭之际す】(報金) 王

思 Ŧ

1:K

「つな輩よついす 、「脚~相」 和

は簡 SI CO 54 J. A. いる場が。 鄉 54 卫 71 0 1 21 测 21 7 C 江新の万穂 珈 _ I 9 危鹽ま 0 及が石秀明とするものもあるは、 それは創業 、野業に上海軍 出本を生する」とある。 71 背子 源して 酒を無く」とあるからた。 76 変おこれを 繋見、 ~ 温息 赤雨77 なかあり 34 0 X 0 TY TY 21 2

真쮋馬び『县と八 今おりへのゆうな状態のものはある。 食へる。 からできて西水紫水。 のやらで 小圆 配明

音が場(サンプある。 配属(地は東南海中の石上は生でる。 紫霜 。江川子解 音は街、 里 (里 (幣)

川

形は顧の

教育の園が

《公公》



渊 4 盐 薬

章 歌。

不被不濟人階級人皆不 人以 医目等 二 籍主 エリ、个小表子した私い。 館の海湾 神腦二下減更 木特(重)日 6 野川 " 你 游 花

Mitella mitella, (Linne) えおしなり(島前子貝)将 安安安 財學科

7084 目

鱜

合はも、サフト

懶

3

熱いた白黎一分を形 調明日等代を 26~3.5 「目び出した対響」馬阿三位、白鵬圏中畿、 整晦難水ツボス。(同二) 「一回間しる」(の選の) 「随の異きを日くする」 馬阿、 末ゴノ、 記述人序で 脆へ ご動む、 。 11. 1.18

「『智」血を濁さ、肌を出てる「魚木」【智訓、又の部を面と、「目間」 盟ける人本語〉【随面の異となせる人物会) 以 Ę

同の

「つな聖ノフロセ」「輸」「米 ぎ

職に予末が語り、研除して二重が難び、再次午回刑ち。私人の薬がお人がない。 S P 冬帳7科のかめの白鼬なかの、井J日い鉱水文の、 阿川 で、く日輸 県 剩 FI De

りれず、 瞅き幻園りナハヤ、 現ち三四七ある」とある。

呼 お 見 譲 か な い う 、 大 い ち ね 頭 到 う 、 虫 お 黄 黒 シ

動のやうな。

小 日 人



割本の甲香ざ出の一熱以料步入る。 , > 日 の針の谷田 E 数

(首場)なればほ

Thais rudolphi, Lamark. 17 麻學科

らいころ 步 意 計 뼬

、「は漏る器主」「おを譲職。悪児の以随 新いて一種に食って種かしある』(表語)【差異して食へば、脂へま 而頭、翻人 题前、 製いて行な書も出と分で食人のである」、日華)【慶原を育す】(神色) ポイ、 **海参の東帯** [瀬器] 【 着多の血結、 帯血の支援・ 画等の意識。 、つ野み車階 面中帶下を治す。 以 識を添し、 ゆはら Į 0

多食力 多食市九出 日華日>、多食すべきよのでない。 これはいけつぶて通し歌、おるめしせ圏間を目 別はを断す。八しう食へ対随縁は細わる。 【しななとしい図」しまり 一人数及り 和 が頭が 沙 U

のとはていいろ 北近 薬と同い

郵 故り繋る合す 河九 一般東山部東上 3年であの外。 対するに 時の日~日

> まるなのもり、劉琳ニ系スの首次、董太コンも対験インで次 (静様)ムイン、ル こ、水体(重)日下 ナイナイ まらなひナリ、御 0 C

する。ないである。またのかは、当が人間を経下 、く日。中の山

00

めてある。

世 平常熱いア食へ为、苦トノア人闘び宜しト 近日楽瀬、近日冬四冬人外ア共び紫水が更び 少量の米と共び先で煮て後の目を紛ら去り、 、く日の影 ない。いな 12

阿

京新夫人知東南の海中の土下る。報母の別なるのか、

歳器() く日常に

抽

淮

から名け

4

南大の地でお扱んで食え。

北は出場が。

。八個天主

小さっして中にかしの

:4



イ和2島を美和イサ いい貝もド。支那新 第二番 ス N 手 廃止 **的二部聯手狀乀聂手** 卡密主不。支雅二外 でへ独初一世ン高別 ニシテ、数カへ黒脚 十 じ、物人へ然前的 ニコンキ社食べっ なかンツヤト(資策)

FO I

日ト、澄とおうの親を、強とおうの狂をいったもの、夫人とおうの別とあるとこ

。都

音お劉へとうである。東京夫人

李等

55条(帯班17)利2条解)

7

繡

Mytillus hirsutus. Lamark. 7

いなむ(制見)杯 17 时事科 阿阿 罪 菜

38

常四十六多 本草剛目介治

日常 7 21 14 事等無 生茶香 FI 21 9 用市 見をこれを使 , 日 ONT 됐

驯 季

由

コ人パンドを切って温けると演器) 黄地水が内 驱 活選

不小 び正る永ら目部ひは、生色な贏の 力 + 170 = 71

返れ

00

北上

0

A

へば心証を治す

東い合サア紫ア食

「つな輩」ついい て非

规 沙

图

至

댔

Œ

それを人間が

FR よと数が発

4 2 MI)

員

0

1

本21

5

0

THE REAL PROPERTY.

警點与我治

24

5

de

0 認いまで

71

獅

計

紅

總

は色が

香料

000

Ш

1229場

R

H

身

0

競

뀨

21

中

憑海

O 単日 (III)

大なるものは平月とある。

アつは

園で

潘

`>

(AI

0

\$

光彩沿

FI

るからなる

00250

聯に香中

事が

製ない

星の

逦

お置は白~紫ブ

鄙

製調

。ひっての首番はどいる語

まるるも

。公田

州部

21

て食物を流ら

28

は常い歌から離

[4]

5

57.50

0

继

0

P)

:4

28

71

1000

煎

太

。公田

外需

:4

融

0277°

必然が

獅

:4

2

2

0

Y

21

留等

0

54

1

取って林び作る。

[學

0 は動の 24 U Y 21 B U ्रा। 0

> 以 医 独 省 州 4 人 11

勝利へ南

よれ登る 316 82 長さ る。 地方ではこれを食る。 11 2/ ·1 なるであって 28 9 光し 9海 YAL 9 11 业 2 蘭へア長ち機かあ 生ず (1) 9 0 0 21 2 0 平门 7 146 1 1/4 .2. 郷サア割けば盆~ は合品 ? Ė 21 0 .1 8 U 2 南南 E. THE \mathcal{R}_{i} B 潘 7 あることは稀だが 78 0취1 须 0 XI 14 0 2 5 ほどい青黄色 44 4 1 (1) 000 9 82 2 0 24 54 2 0 11 音文であ 1 28 34 0 > 0 。南方 る。 中香る おって ※4 R \$ 5 8 加 記記 28 8 de 54 (1) 退むれ 图 米 1 中香 6 1 (0 0 EI \$ 111 0 帰ざ .1 (0 到 R 凝 0 松人福の が湯 2 21 54 5 1/2 0 10 (0) 0 0 器 74 洲 1/ Z 6 10/0/0 5 部河 (0 圃 是 智 2 ffin 11 y de 7 113 1-M 一般って 3 MI 霜 71 21 0 0 2 重 CD 2 果 XI 上がで .1 4 0 **亥**州記 文字出土 殿で 7 7 [4] 北 0 71 でるはろ 0 物(月》) 學不到 111 71 3 B (1) ある。 71 源 2 潘 潘 .1 10/0 (P 21 1/ 問務縣 110 7 9 5 0 (1) 0 0 近海 M 71 da 7 2 4.19 型 潘 5添 de 50% ___ 034 . (it のが 2 5 17 di 0 (0 るとも書く 海縣 TI 1 1 兴 1/1 0 (1) .1 アフィスヨスショ 1/ 魯 山 7 FI 形 (0) :4 34 弧 多了 M 添 71 +1 X. 311 34 團 0 `> 到 小香 0 (1) 41 (0 0 Yu 02 H 中少 1/2 7 16 .1 Z 17 OLIV 觸 : 11 NH. 派 24 4 1/ 1 ? 石 21 军 111 5 :4 0 17 (1) 4 溢 +1 2 447 スシン 0 以 刑 7 70, 4 (京 71 34 4/2 0 *I - [4 活 8 (1) (0 (1) 34 盐 事 8 R IF 2 1-1-10 9 ft 0 711 いばい 9 7/11/1 0 园 園 1.1 8 10 54 0 0

扯 1 3 / 3 11. 0 20 4 中小車 11 + X DA X · 高台 題 越 M

が高い

I

111 116

江湖江

[m 14

水

調

沿

び調

排

幽

É

V HI

St. 2 なな21 甲頭を延激となす。 一次香 本 21 口間 の結び所謂 2 00 171 はつ 李義 調製 0 軍

職等の諸薬や本物とで れば数でする香 甲香と沈、 甲煎お 時の日く 型]

獎告後三年を墜断したものは負し。

27 全なる治数は甲香と対対同じ。 過で下 本と対け割さ 込 が美なる果、 。 4.7 2 0 した日間の 甲旗とお諸薬 獎畫.



湖

##

未未

岁岁

唯富

置)

膩 **三**

整割 (緘器)

麻を山る、林を下す了(恵本) 原念。 「心頭の下海」 果 Ŧ

事を青

「原文郎し、

0

辫

で趣

部

東東

意なる。

頭豬、

孙瓣、

「夢爺」

捌風計劃以在城は成る【本館)

【つな輩よつに生 で調り

规

源

事 大旅中 市

中頭、未鴽、海へ製酵 は、一般を表して、一般を表して、一般を表して、 (二) 水体(重)日下

はる。 21 瀬の香と共 温 增 W 中香はよう香飲を一着するものが。 · 一日。等。

重 制 W V まな 塗三合、 水一 本 三 分 三 分 割 ゆうはめン動>。 小子この香を熱>カお、大水融の療法を多>大 融参リルダ雷を 会人嫂アラの香土の 東計下い話雄してあるその大当は『甲香一八海い指一不平で膨火で一 火で此土を割ら焼して耐を耐いで彫刻した土づその香を観ら、一分 木の林か島を職らし、 から強い人がア戦へ、 は劉玄奉動から出たものが」とある いてたかくがすべきゅうかんきゅのであってい ふへ凡で二回様へ下瀬し出し、 型が入れて固めて 日 の子でとの上を蓋ひ、心をと願するを持つとて五の 水一平と燃火で煮造し、 会を入りて味してはら、 水を敷めて置けと香は焼がみのこの水 煮り、ٹを強へア再が煮る。 米三合、 過~鹹 耳 9 シュ 米で 子 雕 黒ノタ 制度 500 भिर्म , ~ 日 SIN SIN がるがいる。 称 11 7 心心 煮て 間

製を強して用 室暦アー日煮ア将膨し、 日煮ア再

次器

配し、 は対ドアー 须 批 * 再び 200

黄那と水とアー日煮ア監水で習膨し、

凡をそれを使用するには、

, \ = =

と、石田で鵝いて篩つて用るる。

17.7

小頭の遺よるひは、心臓では、 、「国家」、「大学、「大学、「大学、「大学、」、「大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、大学、「大学、 9 祖ないさ 殿を極へる い盡して末を出って待ち 同水汲水 日 型 書郊山まず、 n 沧 変え おきとろとを取 殿公鄉 盂 **省野海水** 0 0000 かその中に入れて 该製し、 Sil. %二十二% 8 211 1 以下を強 二星 **万製三** 刊を水 流下食い 11 正踏 0 树 71 1 1 N Ш H

「丹子の毒を選す』(E語) [製機を除し、黄重を治す。 M 林関を下す。 水源、 顧電之治专】(報經) 、冷山を神口神 、腫満くい此分様 いて下行し、 旧る様 貼臭り熱る。 はを瞅して触いまなが、 、発送し 0 All Z

近米を内づ人は、夏人しと作る現のと目中づ出り知 目不黃、閩緑衝土、小朝急駒、小動赤 **当で参して竹を班のて始** 肉を患いて熱着い顔ける』(瀬器) 目部を止める」「起景」「熊ア気へ別大、小動を味 民の容重を去る。 るとは野野な生める。 の結構 主 即中即 TITLE 繭モゴ小さ 寶)





(III)

路を山める」(明経)【煮竹は焼を凝し、附を胴下。 【目療活献。

で黄

真珠

以 Æ

.つ.計 规 運 图

大寒ゴしア帯なし」

個くして西系なるをいったものだ。

る船 最となし、社となし、他となし、一部となし、一部となり」とあるは、いつれるその外 競争な といったのだのないないが。 述り王
正
お
に
日
天
い
襲
わ
・ 個人かのた。

12 (12) 赤、夏 3 3 3 3 3 3 4 5 5 。 難は物の園ではつて、その感は誠文ななし、その肉は日の盈さ 派状お触よが減して尖へと
長者のかなる。 がいる。

派お圓〉、大 曹の岩側は生する。 本はどのもので、一般に煮て食え。 及の間、 小なるは桃、 スとは製 なるは感、

田製幻水田中、 、く日帯が 抽 菲

付(諸田)つには 17

Viviporus quadrata. 野一ノつには 公公 (呪縁上品)

뼬

<u>E</u>

(器線)「され南かれてい

Ŧ

white was a series of the ser 「つな華より」 小见の題報、 、つ幸」 以

心心

部

、経慮の疑り

池 沙

のなっているのかのと

家部開養潤ージテ用本、大ナハチノベ市 今外表的トンティキ飛い、動ニー欄下り 支那、治水剤、けに 、た多名州親地ンフ (1) 木材(重)目下 食川小

酒

〇納包 海 田舞大蒜 なな 鼎 2 T 子の旅は滅える。「別家防臭」 Y田製を渋部しア水が 三十九〇 3/ 21 源 21 の粉 及 f1 白黎末を入れて共 帛で 海鄉 潘 獅 重 R 中で、関 H 田 綤 21 111 をたよう献を上めて基外被である。 71 湯 11/ 4 田 謝 影 諸道 2 0 4 4 212 77 X 21 7 開くを集って継げて凹回に U 画 いの、「神典) 75 Y 21 日び蛟はある。(壽越)【明原攻却】 道 れ、分孫は兄生で魅えを覺を下平安ひなる。 「水原彩 0 のとがころ 泉と共ご 一部子大(壓 4 「大きゅうな」 好酒の 、の殺し 終お骨アンれを用るア数はあつ この古を得て癒えた。(仇蓋韓也) 水は排厂 ナフで するよしつ、「路鍋下」 水空瓜 PI 出か説を勵らし、 陳 28 箇を金子 る。(魯山堂際線氏) 育士 び難して祖る。 いて尊け 分を入れ、 7 幕。 西田 2 って強しい語し **鄱**田 0 4 で養ひ、 別 えて田 で登し取 再發步 21日 计腦腦 2 〇系カお、 0 挫 M 加 o N 21 て唇にして 返して一 ひはな る男 學 寺 中 黒歯覚影で光脅し、 の子 、そうはツ がか 事 0 爛 重 阁 是 ° 命する。 自然に 出市る。 派 +1 21 潾 0 SIC S Ŧ 7 繙 Ш 6 07 (A) 患 訊 鈕 :4 Ш 别机 2 回 弘 FI ない 24 8 和 2 6 [AA 年丁中 なるできる 水型 等所 で養 FI 思密を記 獅 電で 三日 27 6 2 际 意で :4 の響 千 1/4 2 SP 11 3/ 7 頏 兒 7 2 ilif 12 녧 7 通 HIT 養 省 孙 7草 继 H 1/ 中

4 雏 部線な 账 三0 出 2 9 1 は通じる。 沿海 禁 21 凯 華風 猼 未し、 大田製一 34 CA 21 21 却 22 114 12 多男子 まるでき 清衛 寓 9 SP 0 飄香三代を入び了指ひし、歩き続して利間 骨でこの歌い解ったとき、このたを残けられて果して激また。(蘇謙) 風下血 麺 酮 71 班 計 ---温ないさ シ 0 0 U 大田駒江圏を、境は白っなって肉は違っをで割って 小観下したるには、 7 一番出 酒 2 41 7/ fl 運 末を薦け 逐不 H 쨃 ヤ三かの動り動 7 24 9 瑞 解して未びし、 M 21 1 24 の素化を増むっ(奥惠) 当な数はある。(丹選) 71 Z 目 調品にその 同ご。 対論で 潘 2 村を殖めり脚す。(相對) 2 0 0 M 21 代う治の 法は上が 薬 けて自然行を器び承む が一つ。 班とJン陸所シ班を。(百二)【大副朔川】三正. 地及 目赤 を懸茶で形容し、 1 鹽平とを生で揺ら、 重 製物 水を強へア 毈爪黄 訓 「肝熱の コして嫌縁は下行して食恩は患り、 画 い瀬 9 35 起を煮て食い、 爛 0 田製二箇を献を厭らし、 加 9 立ろい数おある 日養の下形を北 0 素21 00 口 で記録さま 0 して水となるを待ち、 中 から放ら大 SP 、園 54 山 回题 3 THE STATE OF THE S FI 7/ 鄱田 沧 21 [7] 0 地 o N 水で三 で養の 200 0 0 TI TI 000 曹 添 鴪 0 % CL XC 田 21 7 :4 2 511 0 2 日市 单图 新级 ンつつ 中 查就 # ママ CA 燕 w 田 71 孙 XC P

2

2\$

Y 21

읭

9 狱 21 雠 赤 34 となるもの 11 24 XC 30 24 75 0 .1 宣 B 9 P 添 III 7) 7(1/ 2 33 顶

CE 選

-6= 配 調

印剪

が高い

CII) 一岁

頭 され 2 4 0 4 41 江夏、四、蘇呼り歳 2 0 8 2 2 21 潔 解 0 電 M , ~ 日 24 孩 OF 0:511 21

するしくるからよ 鄱田 の努水中ゴ生でる。 資工の工業 鼬 > 1-1 则。 绿。 测 亦

TY.

満別比ン質以

0 E

10

英/部

派を配すび似てその職のも と名ける 東盟制制 っているとなるがまって る。 幽 34 0 解がある 即 i 3 0 o計 C包括 郵 0 N94 螺軸 24 7 X 米 盐 :4 0

Viviparus histricus, Gould. オココ(田駒)体 ひあれにし 出出出 科學和 一等 IR. (E)

おおき

「小鼠の急獵」

こからので表し

南油で調

、つ北る羽

ング

燥影を熱

Ш

駅

띒

0

量さ入りアホア睛へアポク。(書幣)

關香心冒

熟色

21

M

が続

溮

H

目

Y

不真の妙はある。(事要)

ヘア二銭を服す。

調

2

類

0

淵

中

K

いなが、

*

班

公果行を冒層の話んで熟さ、火を知らは減を法って強を取っ

朝新】 山をおひおれ甲端は主数はある。田殿號

※三。

11

114

Z

子分

2

0

B

小型ノナニ」 選が将門ニダティ美 あノモノイチテリ 木特(重)日形 肿 7 -0 本部 H 42

颐

OE. 祝って水で肌をは対、気胃を止め、卒心能を去る】(縁器)【颙 歌小なるされるる】(新 湯を上る 共計7主族なある。 強強い調 **新風歌** 心臓部が 少野少,明上 かのは日本 FI 24 一班 ためのを強き 木に祈って照す 2,0 到 U 幽 17 哪 Œ

V 智和でよる 倒 再が新って見下墨のある陪食は 21 「大田殿二窟を張のまを割いて対 「音を繋る毒者」平、見の計び生じたるびは、否田賜一箇を生で甚ら知ら、 一番田 常は素の。 きんむのなまつ 子の三年回午の場片を謂けれり歌るる。 『東京の書の書の子の子 鹽水で調へて い熱いて対をおし、香血で購へて然る。(集要力)『守鷺惡圓 田熟一箇の中习觀香三代玄人外 新上り擂りる。(導警) 【風蟲瀬登】鬼軸十箇、 そお上海圏いア自然の水がなったものを取り、 をおし、踵はを入れて共引羽のて削われ気数はある。(圏林真要) い節の人は、蒸し燃して融き願らし、整球三銭な人が、 けって墨を強う 7 それを加って蘇れが強まる。(多論語事) つ。○又あるたでは、 思悟を洗び 米十を入れて水が出し、 M つ田の町 息部がから、 歩を縮の 夏北 報を肉共 で中型 2 88 ユつ 神 中心の中 H (系丸) >7 間 菲 0

显 獅 品品 場軸部を 爿 い自 見の学権翻】 4 地をおして研末 いて未びし、 裁 测 少丁調 局侧 37 1 X1/ 1(4 **動器** 字號 1 多年の乾 蟖 白製硼漿を形寄し、割いて 自五號 鄙 こを断少服するは場以族は成る。(無五) OF あお自己 い熱いて動わる。(を数) 【弱火割豬】 十二部 【副原物部】 【關語解】 獅 口 OF れば立ろい上なる。(東西) 雪 ける。(新発) 事ので放送 「源泳心脈」 がよく 3/21 経ご と玄明古。(村巻下) 沙 で調 一、一、米 4 州市 山山山 果 スマコ 人したした 2 9 11 15 1 班 でかかい 飘 事 1. 2 アン सिव 2 0 2 即事 風 哪 鄧

その歳の大財神欲、治路 2 4 当首から経 属であって、 28 職終す 独給の日 独合して FI 0 B S SI いれててるな 獅 , 〉 日 c 智 低 回? の瀬 囲 獅 發 神

真 0 Cl 瀬 田 张 ンク 源源 衙 N. まる。 ° あったとい 胃細剤「悪学) 说 書望土の年入しきもの N 神经 小割 **<u>育</u>商** 逐 留! 3 下部 M 県 山 新酮, 部 £ のに関 系統 İ E O 0 制 II 利 猿 舤 沙 HIL

'>

21年 肺效なある。(葉五離を大) 1 殿職二三十を静の 製職を水で煮了常り食えば ので開い 級加 ンハ 「小鼠の 部に 【層目窓運】(順興)。こる郷とつ 量这人几 コノア蛟んある。(共壽群氏) 心臓に対 画 通小 [B] 越風 瓊 · 2 で対下す。 **急仙**(1) [百 25

> 1 + -(五) 対敵へ沿

-12 たまで 第七部な水で 第七郎な夫も、 就ら願らして 下面を 本を 器を設 ば着いは育族が。(未藤)【貴郎山血】除参い長間、面溶は則い黄いなも、一無到とか し、江東ストの帯んな路会を知って現す。一三回で血は山んで激える。あるこの献 显 白南三盤を入れて一盤の煮取り、その肉を挑り取って食び、その、 二咖酯 の患者のこれを用めて奏数した辮劔はある。(小山智鑑力)【江林、白燭】 **需薬の奏效サルコは、** 一种分级2年 、つず市

また。 【黄河、河河】 小殿軸を養って死土を去り、日毎7煮て食の、 **圏第の二字は張瑪のやらい思はれる。** する。(神経) t 1.14

題な風」 発献を治 照 「野殿」「日を明びし、水を下す」(眼鏡)「馬を止める」(飜器) J、たまが、大、小動を除し、まず、水動を削し、又胃、麻辣、 以 Į

東し、寒いして毒なし」

沙

图

。。。 、このゆお交易が死ななものが、場をへて死が入ったものさそのをを鐘 び塗ら込んアフスと、選年継つアカな到所とてあるものだ。

青明省後のお中の蟲にあるよ 献で煮了食人。 素すと肉は自ら出る。それを耐で素

1

なれるの用る

(2) 由終日が、職舗へ二字巻がへ脂塊ナ

S 治別をやむら一様なれでおな 24

「各国の職会中づららものななれて職といる」と 孫論は はいるとは、 () () () ()

用のないなの形 格別可 、ロハマ朝歩

って数をはんて来るものがある。

南海が職機が別な一種のもので騒場中以大 X 5 4 CO 8 7 晋)

爾れると縮って舞のやうなお、火アをれ対出る。

日にその競 所強は多してれる間を借られてく 異会に 蓋を合せようとすると いというというというという 200 るとの意思を

0

製他が選を開けて食物を顔る

0

報告のに、

これを食へ割人引益はも」とはるは、

火予点を発り対法も出るもの対。

これは緊急の間に

いいことに切れるのはある。

高極いた

ある岩田のことで、殿ではな 됍

21 F いる。 關九〇二 瀬器日~、

訓

训

客主蟲

7

温

球學科 高語 居 蟲 (計

Spiropagrus spiriger, (de Haan)

·4

おしまうゆとかり

出出

|| = 治民蟲〈難聞、古同 大ニンで第二脚ヨリ解シ、印刃ヨリ川本 会できる。他 はいいいのでは、 日(重)料やこう 日十分

「郷」、選売のお上で食る。 電腦で数をなっていて利し、演器) 以

Į

【つないことではなし、一本】 和 鸿

沢状 お 覧 口の でき が い 新 部 の か も び か な る。 、シ海 囟

馬び言意並んら出る形 水が変のやらび李林が 福會以 「響製打楽の丁班文はある。 おするに、 1000年 166 计

ガアいら(黒網製)杯 Ethdia sp. 17 17 1/2 時學科 學 (學

鸣痰 はある。(東西路を下) 「藤瀬町の日の郊水から、上路上の日瀬棚場で赤びし、日海が飲みある。 殿のの場とい野ら随 日葡萄の水で産舎の購入、日の落さる袖豚の、年を襲わ合掌し編みして寄む。 わる(編整器は)【武鰲の刈らなもの】衛上の白殿軸監を形寄し、 丁齡惡

> 三トラ (影響が会立) イ森 (野山) 大阪 (野山) 大阪 (野山) 大阪 (田) 大阪 ((三) 舉動人與人間附 けつはりこがや取割と、撃が削乳ニテヘ こうでまいる。 You 蔵と、今別ニ園冷も (三)永嘉へ章幣改革 歌太平鄉班十衙少。 O E TI GET ※ 高へ事者とり、 (三) 職就へ出入町 CD 未特(重)日か ノ西治ナリの 開電調

(云) 考述人百日短。

【育路。原を下し、中を聞く、江麓を味し、小種を止め、頭中の音呼 は、一番をいると、一番をいると、「無器」 人子一了難忌是一部一食甘一名云。 果 、つ、県 Ŧ

てな事とついす、「歩くれ」

丰

源

2 X は高田市は置え いち豆割と丁蟹のゆうな状態の答別蟲はの丁、新競は空頭がなると、その答別蟲は 中に多草 題いお 内側は基分差が可引 1光ン地でと変形のやらげ。その内部コは一部にからなかはならない。 のいる羅藥量岁一 停業の知び 感お競のやうい圓~ 24 題とし、水母は鰻を目とする」とあるおこれをいつたの 温のア液ア中以入ると海鏡は帯観する。 雨台時令して派玄鉱でもので、 (垂)等 出て物を食び 瓣 000 栩

0 B か対ならか麻害のゆう31日~ 三雄 なまいち 火化は監答ると淑はなりなる」とある 酮 划 粒のゆうかゆゆ大きり 長さ 払かけお 个調う幾百独かる。 人と肥美なるものが。 14 圏の hil 34 54 派し、 :4 で論でで食 S 2 14 Syl で食

> マ、鹭夷ニ美瀬七小 凹下リ、日本1中南

0 // 图 合語第二

30個 職器日~、海川お砂の の美なると独王の加し」とあるはこの 水新なら變出しなもので 発展尖割37、その中が近のゆう対策が 正圓の と江麓が下ち やらな水がある」 題さ江小 のえをないいい . 毎月 派は軸以似て見と二三十一 ※ 「新用お大いを観ねる、 い志玄美しする」(近景) いんな 中国経過では 2 Pecten luquaetus, Sowerby. in 開用 月习南風冷沙 ヨナアなる(肺立見)将 マ郷王 はてあるところからなけれるのだ。 馬頭 いて食へれてい 曲 いたやかい 江班 宣 50 山 論表級コカ 「国色を金し、 , ~ 日 FI 化線では、 音は桃(まり)である。 IF IF 0 岁 17 · W 社が来 那王 砂の気 02 財學科 演覧の費の 置) 劉尚の 李(是)上 71 0 縁コアかとなる。 0 2 Q 21 中 X HX (왕 思 シンソ FI 渊 0 > 0 21糖至與 1 24 H Ŧ 32 月八八 Ė 39 江 o制 ○②E 一口語製 雅 8 段別 1/ 市 王 :4 珈 王九〇二 9 27 1 のはない 2 2472 かない 班最 大きり、 半 Z/ 锤 多ス 0 了杏 2 2 沙 盘 菲 び業 6 0 M :4 OP Y 4 0

B

T

7

郷

即小小 4

、別いな

一人早日 (1)

1:

·a

CID郵道へサン

等 ~ 4

直/晶/解/IID

具好冰二儿 "。

チテス 中国知用

想

部スか

阿布

7

排金 敏/干 木林(重)日下, 郵用 立方鄉木不同二湖下 4、 環境へ影解赤色 へ扇州へ二対月、 とそ合、親ナリ。 自非日か、 正班示一二种 支派本

務 日心陪第四十六部 割割 本章

高 高 人 の 人 以 Ŧ 24000040 坝 别 沙

接方 姣 数年四〇とも望 de 2 8 内部分下の 中へ大小るとうるといつまでを願ってあるものが」とある。 哪 難意いはこれを手に魅れば分娩する。 派米お駒のゆうなものか、 中に職して置くと、 製管などの 高います。 大いを見れどのものが。 できるなのものぞ子と (核線) がの海 圃 0 別知 , ~ 目 믮 :4 U 0 F 面 2 ्री। 21 14 8

それを指中の放して見ると 限は栗の今きな状態のあのなら対 口い含んで蒸し、 ・Oをマレイフタイフで表示の変刺 真窩を抗線するいお、 。 はのない 播出 411 で公司発制と例 · 24 21 且 加林が 2 仙道

ちさえ(溶製)杯 琴

派出さればいること

瓶界子は南海口生でる。地と独とあるもので

Turbo coronatus, Gmeline. 2 2 **唯富性** 薬 趣) 音子 은 김희

> 鼠和紙へ参見ニット 年 1 年 1 年 1 日 地小

時。日

捌

业

全大滋器薬ひも入れる人神会) は解す。 服し下を取れ 素什を明

はなる お青黒 4 3 4 B るるもな気を表するがある。 t. XX 54 21 4 6 园 は長さ正 に財献を強する 0 かららず 1/4 2 生する。 三年 ० ५ ५ ५ 8 0 中はからのか 第 15部(いい中 业 以正本の真直、又 0 「副窓虫お海・ 器 21 9 生さてて 3 記載 0 は南南の 7 発売がある。 0 [1] 大いち 是 FI 0 14/ 変ないて 8 以 14 水上記り 插 ġ 銀 0 D D Ę 2 田 .1 師 盟 日 は日 24 田名ら」とあるが、 東海の なな 秘盟 4 『コート語なし」 7 顶 派聯 爴 0 これが自ち見である を記述されます。 とおるおう 上沿青黒ア 民公本公法 2 0 31 '> 語 İ 1 支給を脈び 0 はの一部 は順 V. .1 鄉 八八圓 IE 別して 1 して面が .1 .20 9 Yu 抽 自公園 が対 教があ 71 集 1sk \$ CK × 0% > 74 1

劉

が関が (二) 童街

24

(1)

へ古歌けこのまうら 白非日下, 日本二六 於双卡納火。 水村(重)村水 子をり

目 쎎

水水水 步步步 时事科 雏

非 # #

剔 禽 目 總 京 本

第四十十番



靈 変は 基ン 24 刘 苖 2 54 喘宝さ 水脅お和な母~して 47 21 FI + 9 U · 3 3 3 1 3 1 歩ね警音 壶 五 「孙蟲三百六 2 0 状態は、 加 21 スイマ ア副人も六常を判 0 九国之 原鳥な地 B なくかとなどをかある その意味 0 瀬 副山 6 q とは事 0 盤 北千万 (正)人館な(失)正郎(正)人館な(大)には 到 21 あは變化して 二足いして取るるを含といえ。いい前職の倉職には 2 山禽お岩の勢み、 なははとして風雪を聞した加され 旗 507 震治部に動い 山魯丸都公照~して風水響~ 念は(の)情観 0 7 省 二二天天 明中中 小童な動と交合下るの酸 71 学等の対象を 剉 るのから縁んしる 000 24 对 图 西おいか正大ひ合す」とある。 H 0 類 金はCIID は最高 潭 Q 0 お常に極かする A.A. 雅 2 SP 器 1/ 事が 石及 FI 14/7 、上鄉 金お同様の 2 0 曾 4 F 水鳥お郊郊を、 題。 54 耳 T (3) 秋天步步 子の交易状態お、 田 24 FI 瀬 異談と交合する 4 正 お水コストア独となるの 辦 丛 て明を取って 那 から縁化し FI 4 12 音力酸(シ)ケあ 14 Y , ~ 日 0 。公年 华 ٩ 21 三旬 B 5 がある 學 0 いない (A **쿡III** 帥 FI 1 0 77 FI 须 耶 淵 串 7/ 8 乳 21 平国 71 智" 36 2 李 (0 14 主 * 運 顶 班 47 9

本草醂目禽陪目綠第四十七器

回。 却 千 斜 雅 e (i いる 月 T SIX · (1 +: -(-1 Tul -6-11 黄帝人子 (1)4 (1)1 11 14 FL Ŧ Ŧ 米ル 軸 元 STY 、岁見人 T 池 174 丁が d) 韻

非単 + + 准靠 4 4 例 音作 1 7/ 驯精 57 17/1 東 避 1 4 # -11 1 1 咖碗 湖湖 彩 雞組 11 小小 Y W -6-11 71 1



大き	第 条 时 系 形 条 下 金	採粉果重	張元素 全 科 	未氨亭 靜歡 阳斜用蝎勢駐	刺藍鷺鷺鍌		全部 警警公司下。	縣島 素術 唱片的歌。	唱き天鷺。 झ 縣目	合置 表 高	"。 如	明論所的計畫製本個子。		
新	潮	羽刺上豆宜	承明婚金	Щ		種	高	金融	亚洲	でで 理学の 開発	計	· 本語		7
京	和蘇維		刺域語謎	刊 古勝鉱 果	第 源 全部	水會議二十三		歌		貨	秦 谕 談	質質	島 介置	お量

吳普本草

魏李智之聚縣

明の圧闘。 郵 食物本草十二

朱人大胆。 朱〇禹志。 酥 酥 本草 開實本草 華日

割の刺繍器。 楽の陶弘景法。

郵

各醫服無十

蟲胎るじ一酵が移入」、 市各未附るじ一酥が移入しす。

酒店ュル一酥ふ鉢入」、

山角の「西西藤いん隣した。

林禽、

魯

楽の脚び景揺。 極工種

消の流法。 割水草二酥 **聯盟本**草

训 地での記述

<u>京</u>黎本掌二

蘇

朱の掌再醫。 十三種 本草 が開

木の種類。 國際本軍一種 明日本報金。

腳目江酥

本電

栩

罪

朝し官各「北島 1人人 はかけるが子職 郷学アリ今共解ト智 神人縣十小午天一云 4 4 (11)大島へ悪島卡計 ここに録く生録へ意 第二、海豚へいない (た)野単八単キカツ 回 イス、水園へ小景へ 王蘇王師夫 留品、減点、 (三三)木林(重)日下 ナヘヤイ語と、天 (元) 放夫、夫ヘソ (1:1)川舍〈取舒二 かへかた小鹿との の公園三成して って器小スと 風二見二。 न 张士 (十) 風二見一見一

策四十七卷 本草縣目為治目線 パケを壁人の砂刀独わるCID用名、CIDJ録の意ね、全ことび新然かねなんのよう思ね

-

及の毒

鳳

害なものとして対意を用するものを東雄して脅痛とし、すべて七十七種を水窩、

は闘を養えものである。ここびおその食料品、薬剤として用められるもの

舊本禽治三品共正十六軒の内、本書アカー
蘇ふ知科人」、

>

終して多

点談は割中の割であって、

なるのこの話り「天童子闘と却も」とあるは、

年にして組織する」とある。出、山本 やはここから出たものだらち。 謝お限生でないなどいよば、 121平 继 2 〔難〕

(の)新館なるものなからなりなけたと CIDSに対して加入のは調なる。十六百 おいる。人会時簡盛の「静力欣勉の

自鱼の あるひは の形象である。

继

1000年

部 麗

(目戀

山禽

4

盐

られているこれしなし、ないれててき

Sarcogeranus leucogeranus, (Pullas)

出出出 科學和

一种

計 汞

調,

は(襲)ない

ステン(南支)川島モエンチン (北下) 上部

(平半)キンレン類り

の一一型「日

られは調だ。

egalornis grus lilfordi 北かくろうる「沃鶴 治(カイストと)M-(Sharpe)] にスアト 主旨 M. japenicus (Müller)] まないの Pseudogeranus vipio (Pallus)]等 中全 St. 前衛へ帰行へ

各の一水溶酸二十三醇

調の日重

こ本体

B



【水り物へア別を水灯盤の蒜形を網を】(葉柿) 県 £

「瀬で洗って数酢薬コスパる」「袖舎」 果

Ę 骨

000 歳お否依全書の

(11) 木材(重)日下、眼 財的ニ紫波はアリ 迦二間も常って。 ID未材(重)日下

○ 韓国郡廣王鵬、西葉元ト五十=豊二夫五= ○ 七道、介くし、資豊珍子をく給すす誠子 五く、薬師、西応ニ、、蓋・お幼古・師王龍 道等即襲代郷ニマ縁交傳ペトニ山く・百音 が書館はニベリ・毎リ水む、マ隣豊常。 川肆志・周寛本太崙・鎌く小。 は闘告 瀬い師・平陽の、が、本社川総しも二人で下 瀬い師・平陽の、が、本社川総しす。 CID自麟/蘇天子樹 谷酥本三七白鵬二却 太。記下盤答二班太。

※置と味して駅すれば、目が明パして船~ | 返置と味して駅すれば、目が明パして船~ | 返置と味して駅すれば、目が明パーで

動の血を爛り下角をしむ。人の疎広は盆下ら云え』とある。

天鄉、

界

É

퉸

るやらいなる」(財体子)

日~、報であれ、

0個多

O IT

Hu

巍

間を盆も【漢稿)

9

風を去

7

「武藩、玄繋初し、金色

界

Į

【一年はこれをは、一種とは、

规

沙

06

i P

つらは小りる

心らなが出なうする。一番からな小見の與へて食おす」(報金)

【しな幸して立、「鰤」 和 11 白鶴血

原力を経し、鼠気を補

県

Į

二五年二百

學天子朝了「天子 二〇五道以至る。

を作るとその輩の甚れ情態だ。

独

鶴の骨が笛 気が中にあるからだ」といった。 このなばってている死しつい輩多い

東 南 高陸日 > 離ゴお白いをの、交いをの、黄なるもの、紫いをのとある冷、薬用ゴお白いをの玄人なる。その動の色のをのおこれがた。 物知識よも大き > 異ち三月、高を三月繪、製の具を四下、丹頂ゴー	て目赤~、随赤~、咽青~、腹熱~、星膨み、瀬畔~、骨癬~、胚白~、(m) 腐巣~、とち木色、養色のものもある。常习弥华を見て憩さ、その糖力にと得り別が、 離れ	上風习書き、独お下風习書き、整予交のと平む。独、恵えを食ひ、劉眞香の陬孝間わ対劉も、その難お外しと否となる。いでれを榊譲の時風である。接をあび、併譲深习お『謝お陽鳥さん劉习逝えをので、その行歯お处を雁や著、宋〉おその相近りの	み止せら、林木び集るといえことはない。二年びして平子書を落して黒縄を易へ、三年びして牽外する。又七年びして昭嗣次具ねら、又七年びして永んで豊濱の遊ら、又七年でして親くこと書きして書くこと書きしてまるして	は落ちてで議事は生き、変わ型で調整正が賑合って革み、下六て、の温水する」とある。又選を
(E) 第 (A) 第 (A) 第 (B) 2	(美) 學會人創惡人口,大本少?。		(4) 不可不 (4) 不 的 (4) 不	(六) 緒中へ空告 = 株子 イン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・

P 緲 铜 響な明を随うとき 吉 9 ユーマ新県 得る九が 四方流 事を配 ためい命きることを恐れて襲行を取って限を国み、それで異様を助ける 人間は異玄珠の下部の午玄班ると、ラの六十里 その単の中には配で **はか天地
ず早繊
サし
め** 公場代報して 加然として 認を作し、 水子合ん重んアテルゴ藍へ、魚や独な聞のアラの千ゴ貧おかる。 治う様も死んで激しう雨を着らするのか。 1 微鳥の私悉を以て、 室障ける大自然は、 72 、 〜 日 回回 職の器 0882 `> 调 0 0024 を下す o₹I E ्रा

雨公郎 子霊への極話 明を述う場合お湯を以下する。 震な離び 同し、となれら刺狂をなしア脈え。 出三子を生み、 聖は離である」とある いで親鳴すれば必ず 34 急は闘び縁でる。 雪でmin まるもの 0 % T4 剛 71 21 21 躑 客經 54 天が仰 · 60 04 9 6 71 0 斌 N



2

異色なして頭の曲るものを急離といえ。今は白いものを用う、とものとなってある。 See 日人離れ、女お鮮のゆうがはない頭の丹頂はなり、CD高帯はなり、それとま なきと類とないまでは難って働うさけのものけ。多く数別の星珠の臨氏は葉をが落く類とないまないは るるらいで、音と前かるの見を記念して調から、他を作っての様と書いないなるの 題のやらな事質は一向ひなんのた。 ことは

、ないて織日をのすて黄い郷上別に職、こつの種地はに織 はいる。 湖 菲

このでは、まないことの語では、一般を表現である。 るやかる器のとなおないに戦争の縁陸 国の西お黒いるのだから 同)黑尻 身皆(精滪) 資釜 たもので、その背、 7 盐

Ciconia boyciana, Swiuhoe はんのとり(簡)は 弘 弘 당 时 電 科

(A O 50 4) (記錄下品)

> 作可離一照でい事を 北支那、西湖二多少 北)ベイガイン部日 長(水) 本人本(東江) 阻離テナンキナトア (南支大言)・琳サラ ン、南支ニティ強キ 五大十二二人小。 北水 とこの観響となっな 面形、風切形、黑色、 水将ニダヤル割し、 京事線出て審議山へ (二)木村(重)日下 -(三 島幣へ頭へ前 のドイ (ドイル 茶加場十少。

34

Ind Ind

常四十七彩 水草鄉日魯沿

質を置る。大いちお離れ、このもので青者色がは、 群 その数は 波は、 聞公高~ 那次立見下請の都ることを繁成し得る。 300 頭流長〉、 からかい 0 0202020 から観点といる。 た旅色の 早まび 21 T

阊

館お水鳥であって、

, ~ 日

寒 兩酸なし 頂び丹冷なり、 **派状お謝到シの大ッと**ア・ 館郷は、 脯

職と知び、『江出古かれ変職と知え』とある。

集

鸖 部谷日〉選を57 0 語のそれとの響をいった 南
ホ
ア
お
: 山東でお館舗と神えを張って甜素といえ。 逐 東お子の西は者として頭のやらかんらか。 類洲類 調體 那題 東島 は語言と利が、 雅雅 智智 陽河で は別 7 解願は 3 盐 34

Pseudogeranus vipio(Pallus)

まないろろ

出出出

松

8

6

(II) 關西へ商令關以 政・億チ令へ対所、 加二省、此を群下。 (II) 江へ近瀬武市。

こを被災水で銀す」「和等) で一般で **撇圧筒を入れて末いし、** 54 0 44. 彩 2/7 開香

来

記載は否放全書いある。 ておやおり翻ならしめる人和経り 79 Y 以 丰 11 71

い繋縄。一當さ水う煮ア小見び遡ねサバガ、強を出なうし、 が野野 果 主 विवि 进 N

大觀點 弘化の民の別額 (線器) 交響。 なな対対割いて滑で肌す 验しの • 源口 两种、 れる紫竹を服し、 以 Ŧ 点 30 C A 矩骨 ¥1 21 縣 (E)

興、部赤鱼、數、黑 西、不數、不面、赤

木材(重)日下

超三個

明、自色、沉重大面。 木林(

一日(重

軍闘びこれのみを黄び条いて研り、空心 76 息。蘊 月里を治するもの 7 離骨 県 ・自発事小 Ŧ 樹木を掛るす。 , ~ 日 治谷日~, 予金以お、 ·X. 大寒びして毒なし」 (人口) 北京和 再び 服するなよし。 は、寒冷無く風けて 新了問題) 、つ思 意 酒で Н 规 200 TE A スマフ 題を浴すれ まる。 11 はよい 7-骨 it 21 7 0

本語に入れて 殿の器

是是 題が 雪 心を作るとか 張華の事が志なら出たものが流 0 o o 34 動物では 方の側の ともは歯機の精動と 雨を減っ お水鳥が、 いる題は、 記や調力 なるるが 。はママな 0465 R

味いいきするやうでも もののですって見な様がま 全公社対いゆうな状態であるところか 「永い」としてある。 200 ると手は親れて充むるものがは、この鳥は頭は恋むて く量ではいる 語文にお 老人のい渡童の今らからあら んかる諸様の名称は生じたのた。 沿場 我等(古令主) X 3 99 諡 9

は(製)とし 以

0名公布下八条八名公公人 Megalornis lilfordi(Sharpe) 艾 附專科

-9 鑩 [劉 智) 贪 鬶 談

悪趣の刻まれてあった剤を治す」(編

H

公器

酒で服す

2

「対け割い

界

Ŧ

SE SE

0

3

正時間 對比 = 沃路的 / 三所 日本面人的工作部分 所然、體風也、取入 (二) 本体(重)日か =

少様へ 京師、ヘカアン(全 日本 川シ日本二テス 現布格と甲以下ンス 一年八十一等國 (不 (3) 建州入州三盟市 今人福惠古班圖線入 4 = 。火仙小(水水) CEO 木材(重)日 印 本部 第二分亦以 く調治トリッ 祖明和明本的 學學 0

響い回い場が小とう、 ほ~して自 事 0

H

副島おの動脈が

,) 日

の影の

調

頭。

〉當以街

y 盐

思い作品へ聞い品は 西ニンで解解へ米野日アリーの関バアへ帰日 こ、木材(重)日か 南部 柳州 6

NZ. 多くこ 木書ニベニ 064 (子)強人競牛肉。 で光マスナリ。 氏 談へ館 (10)城。 0 が、一般 ったとす

(长) 煎引人煎熬少 いは野ナルの 一十 瀬十 り。

きく。調へ成がかし お下下しれり

孤熟 高端、未常。那人異冷 岡田計成日か、蘭山永上、よれていばない。 e (五) 劃、關、十少十 四、水材(重)日下 ナリイー書ニア 於近午我學。

はんのとり(種)科 少

Melanopelargus niger(Lirne) かったいかい 少 麻學特 置)

씤

るこの東のことれる。今でおけが田舎本は師へ下食るかの 向用のなる。

県 £ 【1~葉なりに照いて十 はのはいる。 洲 Jik,

「蟲を殺し、蘊毒を解す」(五篇) 肉

流流が高端の

点。

Y

の一般を

¥1

먊

Y

の業皆

前には無傷」とある

5

ffi

級

対フ宋王の小階7

34

篇お古外习幻念〉貧いなもの

理には

は料

いるが

20

B

S 題 蘭脈へ対雨える。 11 11 都 語の計 阿けいると聞いる講話なるなかある。 ののいか い含迷りねに臨派へ为訴えり、 出力整了市の 例で頭長~して緑色が。 X 郊 。とはて『ひとてのまり 0297 21 洲 34のある歌21 2 0 風であ 那 9 0 洲 個

同と同名が。 っていてっ 24 0 J OZ はは 9 数に所

Mr.

「齲窩は水鳥である。

江菱跳腹の順器

対するび、

時の経

雏

17/1

緩

िरिव

常川十十部 本草聯目為治

間ら越王島である。 陸知時の交刑志が 高空日〉、執予57、 测

间 調調 四:鶴頂(同) (目幽

Platalea minor, Temm. et Schleg,

うろへろとき

岁

(国搬)

音は紫道(そかんか)であってあってかりであってあってある

疆

三調

3 3

計 章 却

城王島(

1/

计

6、 面沿黒い、 豊林的も指文、 町二シでは下沢で早

x、支那南京=齊x,

(1) 小村(重)日か

うスへっさきへ割自

派納 (日) 本本(日)日以 Ţ 「別」といいので

歌へ非常縁的ニシテ 表圖出色。

、つま 界 和 É 沙 **%** 鰮

「小鼬の毒が弾す」(事等) 【煎骨頭】(五麗)

思

Į

記載は地雅いある。

3€

(名水体(重)日本

「中玄都」、深玄益」、当対人聞玄益する。流の のりな歌 ア食えば歳中美地が。 つ具 () 日 21 (選送) [鍵

はいして日常の食事いすれば

**店雄
り滑割
五要、
刃
い
古
や
主
、 角

滅
り
は

あ**

鑑を補す了(重要)

業

界

Ŧ

「つな華とつい思

(延報)(公

家力を強うし、発馬が重いのうなどまれるやらいな

潔]

、つ、響 规 進

亚。至

「つな輩」つい、筆歌

魚の中毒」

一題

県

É

肉

H

习 清 21 頂の鬼 防勢はあり、気の水お獺のゆうか悪う。 **資制工要** 唱さ今の永鷺計』とあって、その鑑り野丸の見晴り河間に息の大なるお永鷺、 0 をからなるのの三種あって、なけて的製器とい 「海島の 年り鑑はとかする人里近りま これお全からが個人社会観念 **公園** ち 却 正 六 月 、 那 長ちし 明醇(か島の職を拠え。 脚图。 我方 頭の頂がお全~手はな~ 間続いな ¥ 被するに、 その愛は緊責色で配く直へ直へ直へ直へ 24 · 2 南大び出る。 0 1 0 要の必 景樂の問 ひ野る薫 なったから大ったか M がかるならといえやらなことはある。 沙 24 2 又無するに 0000 で張んで來るのか、一婦人は到しん類うことをあるが、 青耆色於。 好んで魚、 **赤鷺 お水 島中 アの 大な ち かの** 更い野水の、 東国語ではいい、いうてつに回う野どいうなり 目赤り、 215 12 いのやうア大きう 頂のやらが。 肉ひかやおり芸異はある」とある。 0 图 B のというているといるとこのの。 頭長り、 は熊鵬の と能く いある」とあるはこの 000 の脚 Y か高さお六十月より 21 1 2 色で 湍 1 場の日々、 状は 000 常聞いるやねる意識の 0 K 劉 0000 でなる。 316 14 2 Y 9 5 おて食品 · q 0 溢 に震震いは白 EN Y 食物 0 20200 锤 神 P 形像ない 17/ 小ならお 9 不 智 71 1 其 器器 爺·杏. 0 0 7 21 製 M

(当) 替ィス合へ山東

背人孫州三川西、三年小一部、北十

郎と

松か 型 。となる 『ざいると正る音 のを革金と呼び、 夏至後の水のある

又、史籍习、 24 54 0 なる脚鎖へて指軸

のを壁礁と神ど

夏至前の氷るあ

事がおがず るなる「大田の日なな <u>[0]</u> -

排 34 京 多瓣 本 盟 · 水砂 · 水水 阊 少 FI 28 21 一一一一一一 ものはいる。 21 25 - (T)

いてある。それで逃河と名けたのだとい

は玄離んがある者は所以入いアこの鳥りかしなのか、今かを肉をす しいは南と書く。 逃河 否は日野(コスカンかもる。 織織 雪調 II. う日の簡 4 盐

0

20 計

同示中

ノトなとです

Rhinoplux vigil(Forster)

-

之+**烈**后計輔丸二示少鑑次+龍口分

.

L. 加斯人

TO W

Pelecanus crispus, Bruch.

2 岁

科賣知

松へひりゃ

いてんひかか

神

墨 来

制制

[鞭] (贈)

っているのでま 東次二二部 京城。川不計関」= 木。 多沙石。 沙水田 八山下 門間は多山下 のんと「物は二世、公 九八黎一郎一部小郎 は、一方が行うない。 水 1 市亚亚

OIT 東南部、北部臨東縣區、緊佔支流。全部 學)4と小」贈贈 = 黄斑トリ、胸形ト (1) 木材(重)日下。 が場へ體へ位、アドル・アの一部へ開いた。

혦

衛用記 砂 本時即王 1= -EE 置西 1 T 11 B 訓 + 1= -M 6 園 下か切替下と下額かし選的ニシテーけニは別下 1 今野いかしへきかへ黄色しきニンを未知ナン公子。 俗二里中園頂イ云下海 「前骨へ三球」 E 心理阿二 6 4 7 1 ホガテンニ汁ツ、日か麻着ナ ら、一六二年期ヤルオアリ教諭二当か、 16 6,2 111 中 和 が 1 1 4次二流帰以外 1. 4 : (4 114. 同窓へ 1-1

「水で味して糠徴り塗る」(芝真羅山語) 以 Ŧ

薬用いる 的な今のは動画なるとある。 その山の者はこれを取って香いする。 「鬱鱧」 川のいるものな」とある。場前の代金銀のお ない ないからなりのける 歌る。 変

8 8 はいい 28 この鳥は地を 江、断の水を滑をで、染りの草 を割まず、魚を食おず、たが木栗のみざ 為なのる 121 6 て未が活 なり、二十月とのものを受 器風なれて。といてしないらも 王島お邪派お島、 日から 卑徴なるのだ。 公長公, 到 71 は極めて ٩ 路中す 21 图 5 瀬 21

İII [鑑] 灩)

南方の地でおこれを角器に作る」とある。回 9 間お長~しアー月縮ま・ 大いされ氏訟到当、 交遣び出る。 果色で落のやうび光堂だ。 本島であって、いいれ事 Ģ 、黄

> 明明 1. 影響流 北 三瓣頂瓜部大咖啡子 illi 學題少給外就也與 小器山 常用南部大海中 4 11 附亦 五機結五 はいい H E

イカナレイ肝見中割。 社员 精節跳 イ参照へ照 林見中麵、水入書 沙利三點翻八大鳥 **九局炎個へ草腦** 類十 爾海河、湖南人 评但市场城軍職計刻 衛河へ門ノコ 山響人謂中見 がなく 書二瓣頁 | 解容山流/格。 自一位 111 頭一回小頭 本草縣口 書場し = = 野草河 訓光 -4

ベーベ はいかい

a

CID 丹附五市日

(五)本体(正)村水(正)

歌、背景的。

謝 で要んで強手コノア耳を塞ぎ、ロゴ主織火量を含む。三迂回用の水気炎はある。(青蓁) 平りして語なし』 【赤白人麻ケ歌となったるり主族はあ 福香少重を味らし、 、スピ西小一上歌 動毒の諸歌を合す 高秀市半盟、 神 、つくり 「。」 。學人們 冰。 0750 洲 Jik. 11. なくお 淵 [14

協議断払判法のア語ト精薬を尊ら、海ね患溶が悉のア毒を 問念 日今, E 验

る」(特金)

一旦を選び一番を選び一番を 照いで取った間を減り落して前を取る。それなその息のcas で輸 和 津 風車を沿し、 心のあい温れがあるまのアアス。 県 強いは参る様らないは、 ¥ 「つななこついい 明 期

してその場所を見っず、魚はその前を重り過答るをではってあてそれを取る。 また青珠とも 終れれる る第よい 割で水ざ畫 まな旨天縁といるはある。 天縁コ語せるといえのわか。谷の青鶴となわるそのものである。 この二点お食滋な人ゆと、高瀬な人師とい論へる」とある。 「競の属い曼達といんものはある。 34 息り為とすび行随するもの 晁以道お 100部 又執行るころ :4 の公村以 公公 经 别 過 開電 目 70

藤鵬与副割りのる水鳥で、震り以了当分大名と、丸色び。養鷺のゆる 大小る 嚢到とある。 社入で籍ら郷れ、水刀然入で魚を負い、を分詣へ必んの水を知 見る断らして魚を切る。此た人おうの肉を食が、うの間を切のて薬り人がる。その "指骨で引のた當お親鼻薬を切りび当び彼び。水を囊が盤のて魚を養えとな、 ア製は引む一只給ある、 真直ア且の題〉、口中却五赤色ア、 爺下の時の大いちは樓。 もなる指水派なとないる語は蓋し妄識が。 はの一部では、 小品

C. ののの場所は大いと茶窯刻とか、「「「一」」に作到との砂さ客内部の西路田)、「蘇聯は大いと茶窯刻とか、「阿下」」に作到との砂なお内に 中以水を強の下魚を養の下置~。身は全路 語い「御れ職なる」とあるは、我とお家のよう、年に強難な帰りにいいまれるのでは、我とは、我の我を置るよう、一年に強いない。 水素なといえば、しなし側面は二箇の肉態はあって、例って参のやうびなって 我婆はなし、ラパは風光離れな自由シ 大切にするものたといえ意味だ。 渊 计 000

「水器へ行うという時を以下水を見る下面を風ですのである。」というとうでは多い 北つて X 商両といは、谷口高鷺といえ、形を形容した各種であって、 温泉できるよう。 、ロハスには

歌文を発す。本三新日>、城へ鑑力毒である。 きいから鑑力身である。 【正飄を除す』(低輪) 【正鯛の焼を鞘も。 代子を駅する人写宜 J (孟籍) 、名了兵國 以 Į

墨はれるある。もならはは内閣、人日器、主教を順選、りや第二人におけ器禁。丁 な輩エフに遊、了幸は襲日、一日華田【つな輩エフに立、一日】 利 315 肉

(多時)【4触を禁の上番、て現を腫瘍、蓋郷の店 士 、寒屋口(は)。2月つな塩酸に受

「甘し、微寒いして毒なし】 「主 治」 【耳び 雅り 対卒撃を治す』(แ緒) 【虫骨を彫刻す。 顧の外継体 ひ合せる はよし』(日華) 【簡い釜れ知

白鷺膏 馴川び幾つア班外ある。 家 忠

on

とうではな

ある。判論~独、互の風を製む、様工を儲す。対コこれを圖養すれ知論~蟲動を組むる。物は対方は一種動を組むる。物は繁知地來主義を負わなりのけとかいえば、

(歴) 岩響へ「助義く明済、沿岸の大会のイズンチン・

W.

のののはははいかんからないである日とかのか。 のののこのは、まなは南アミトンは玄番人の者、日の二色はある。 熱いて対を行し、二銭つのを酒で肌する神舎 脈に切て発展たるものかからが。 、回郷や祖やないい 熱いて辿を作して研末し、水ケーホやとを現す。「霧衝) Anas domestica, Linne. はんなん、(解験)科 5 2 5 Goose は変を重れたものもあって、 生安安县 、まずいて跳路をおこでが地東江 京はいまる。 邱英學科 舒雕 [計計](報金) (呪縁上品) 家郵(附目) 泉 果 は普灣いある Ŧ 大きうして £ 7 抽 手皮皮皮 盐 並

> ないけんといるシ 家館とサンスと那十 こ 書京水/水日、カ

(1) 木材(重)日下

4年(本非)半4] 題

でし、出間十一つの

(南支)]小師木。

(三) 江斯へ小路笛水

O E Y

家~園~

願へ記的中立了。

45

語のの問題が記

福歌の 客謎 いお

製化黄色で掌な球〉

月の家を取って限を明けるといえ意味で

を断くときおりい向ひ、

16

11

U

2

0247

「素に限を対えびお用い難え」

べるというとある。又

E.

能~まじ。

きるのはの

そのあ中に強うな特該い測するものだ。

常一十八路 **米草聯目黎照**

0

光正

記載

逐 在 台 [四對 6 獎級] (44条)

すれが膨寒を殺す」(孟語)

明 泉 東 【甘し、鑑いして毒なし】

食名。本意名は、「脚る中」

県

ŧ

※」。【書歌の対なるもの】白氈翻二三箇かる行を項も、崩割二代出 別半代を入れて預にJ、家の断れぬやそ33警器31人なと密徒J、助用する311年の 立入り数はある。(陸カ知壽堂は、 指で塗る。 4 सिव

147 「147 「147 「147 」 「

を大部割の応 。車を解す。 県 ¥ 【子り、寒いして毒なし】 郑 沙 000 翻

年がその長い鐘るJ(Mang) 【薬毒を斑す】 毎空日~、硫輸家で多って水子田をれるのまい鐘のまいま 「桃工の中毒には、これを 県 主【もまかしてがずしか 北 沙 館子、 Щ

及の朝耳な治する日華、

真

が以外に中国の数数以後である。

W.

国内である。初金日か、内川でお語の難れ気へ好となってある。 県 Ŧ 別人、と馴味はあるからな。しかし谷間の数い者おこれを割んで食え。 が国際が

247 馬を出めるといえことがは、凡子胃尿を強するものお皆よう事を主 のやるつ野りよれてってのりを変しいると回 その性を液ならとし、正臓を利すといれ、韓素の響無い、この物は風 所能白鷺も蟲 であるといういとからできることがあるとの要素がは、しなしる然悪で 子施すといってあるは、とういくぎむないと思え。 又、葛野の相致大り『人家り自 して書意い出すればその九は薄いとい た行為を上めるたけのものと解釋すべきものではない。そろで地流な **火で熏したものお歳中毒であって、骨アその害の事質を目撃した。** 台側を養へ知様工力食おるるを細~べし」とある。して見ると、 京を強す四の語を正しくはない。 一。ご置い情形 を放うるないではないか 置は家 人がけである。 24 本草びお、 CA 0 1000 A を食む 立 24 21

養露お蟲を食え、様工の毒い主として以し。 白鷺お蟲を食 識器日〉、 M はない 競

N

(1	
	ı	6
,		1
ľ	j	l
	ì	ï

以 £ CKン掌土の黄虫

2

ら期ナヤ、一路二水 掌上黄丸へれたかき

(天) 水材(重)日下。

為し水はキへ支服ニ テは班小シテ上お子

調之知り姓に禄。な孫に瀰獲の霧郎の脚この姓を豫】 東部了鐘るは見し」「無金」

【竹を録の下頭をれな小鼠の鷺口館を治す】「海舎」 (華日)【24億に禁めの報、弱を医の選集】 県 É 幽 00

記載は減緩いる

不解心 「鷺口豬」内宿から生じて外い出るお浴するは、水階から生じて 親香心量ぶ人パ 内以入るものお合かない。草さ食人白鷺の裾断して奇蓬から行き鑑し取ら、 返却継쭓蓬の、、明降するものを知らア独引熱色、 いでれを数はある。(永鮮絶太) 。一、继 量を入れて熱る。 4 。を探え 树

a

-6

加州へ諸 つるいといいまし Û

岁 (四)置(本三十二)

Anser segetum serrirostris, Swimbre お人なん(脈酔) ひしてい 岁 岁 班 臺 柱

宣: 岁 。年十 盐 2 随(本北)八日八二四 やト生(南支)」イ 日本三洲面 = 沙川条水、。 -61 31 利

11人妻職自 b 戰人然 置的十 0、女雅本土

カノシっている人間の

(二) 水体(重)日下

会職が「聞きお水を以下言え。 c 南よらし 韻 到 識とお山を以て言え、CONよらして南す」とあら、現華の建ひ 教するに、 はの日~

窓を 字録ご 「豊食部」白鷺の鼠手を気が割ら、一鰻でのを米腸で **劉王一** 銭を割いて性を存して未びし、 以の過解を否みなるひれ。 是小一 張って融資、 獅下を皇子大利とを財色、 [画家斌] 除近水で別す。(醫大岐藍) 15歲之 11 印 不 39 6

雷 縣のやう 異なりにいるでは、お園を翻えることなるなられてある。これとはとはとはとはとはとはとはという。 哪子 治り難酬を報ける」とあり、 嬰兒び水を宜う、 性は合うるの。 既がかい 物志いお 026 に余り

齒南與

域とは特工のことだ。

「野那ン打妙がひ」とある。

会郷12

. 1

È

o針 5

> 王樹柳手云 温卡見 (子) 職

金部自然 133

(五)東川イベ令と四川省、東淄十部下。

成の熱いて断で服すれ知動 X 「小兒の鯊)。 【限工水毒】(岷鋒) 恭 県 我公台下一一種 Į

。 さればないとこの葉を置

東川ゴお繁毒は多いは、

E

、一日書が

H

競

置は必ずしも根工を食えるのではないは

はひその血をがむ。

でもほく、

24

は船するの

滅

21 6 ある 邱 21 砂 智で なる 四剧客を夫人知再わ助と 頭剧をな、 これお 育了ある。 まれて :4 00 % 0 んで解を避ける、 粉 前式のものお創き 沙師 書は置え 派えびお行阪の副和はあのア 不必能響し、 これは體である。 なら宿してその内の るる 2

寒~な は言で は禁機とあるそのも イ、つう題にかるのかるな小しつ そのものないま、ファ海スのものな 5 なた関係とないよ。 変プ(x) 演闘を れるな南はん 2 であって、 いる 21 學 熱け 10 21 5 业 21 FIE 可能とし、 q 爾 邋 靈 非 E 71 2 ° 24 28 PI म 6 2 0 UK 21 我 [鎖

線を置い、今、階南 皆郷山線、東北= 境 城下り。今、磯山線

學。

湖南南鄉

三脚界

順船

34

副ね、その釆状お繋び以下、ゆわら養白の二色はある。 やお一端の日う

(天) 監督へ観容品。

34

020

谜

はその

(A) 動物にこれを用るる意地は、一はその壁はどる信を取り。

OH!

21 肝って出てか下を郷するのが。北大人おこれを食わないならなとといえことお 冬びお南び離り、 題お副鳥かある。誰と気機が許承するものか、 · > 217 034 14

400 顶 Ŋ おろれてお 罰 三に近 21 靈 S £4 0 、ユンタイ『アハイ聞えるな小 また理論と呼び、 調ね江閘(2 54 M (D & 24 田本ので背出ははく。これは恐らくに頭門以出の を戦い森の 人家で養え養養习別けものま知識養といる。 いでれを同一年来のをのが。 ねないはらであらう。来るガー気の結膜はないは、 **語滅り**『大なるを割といい、 大小はあるが、 86 0440 は産品 く日音が ģ I FI 20 はや 8 .1 8 21

題お江南の断野い生でる。邓るい一家の報帳おな 秋書にはこれを骨(四)祭といってある。 の総の日く、 辆 菲

でれを音お題である。そびなけ知南い離いて水干が乗る、強びその文字却干が強え。 赤いまれ対北い贈って山岩の集ら、強いその文字和岩の鋭人。小なる玄麗といれ、大 なるる語といる。だとお大の意地が。そう江潜の東るはら文やお江のがえ」とある。

> **订胎** 分 精 不八點+見

ポルル 犚 二班十班 Afta (Anser alitrons(Scopeli)] h E 7: (三) 夏書三 CIID 原書二 のはんとと (四) 正法

4

24

MAN で満 い了流引人をゆうなもの 「萬王下輩を作 夏い解 強をひづ、 百割糠瓜り 「副島山ホウカ春、 術南宮単帯スま 北い歌る可し」とある。ゆれら一箇の童を持 X と取り、そのまで異気を練り」とあり、 Hu 000 额 エジュ

なる器と自 【翔下の白手お小見の酬を報告るひか数は了編集) 以 Į

198

邋

米竹ひほして随を添かれ対器を見っする人に語 果 Æ

刷のると鷺蘭を組むる人日奉

現

中る主

心是の行弟 0 ·A Bras 置家アおろれず天は潮えと -14 おやおら 南方金融の井奉 M 503 4 いっておばっ であるでのよいといれなでれる、された 一般以多人形食打な 食へ打器風を治するものけ。 、中國中國兵運 顯加は 21 洲 らる。 説がが 、 > 回 のいいのいろうの 一なれる。そ のなる明治 HII 额

簡骨を批びする【日華) 人しく食すれれ家を動し、 の毒を解す 一時多 [風編演] 丹石石 県 7 Ŧ はる 000

「職所」

「風な食人引お骨を去る。人切はあるとしる 七月のお願を食っておなら 【しな書としいす 21 南を属るるるのが て非 洲山 制 1:K 0 肉 CA

> H 4 7 (10)金数学

Si

也大勝二和中下 北向ノニャアリの

古 新一 [生發] 鳳田芝日每7遊5°(子金古)

1.72

题中 。耕 証味もの 生發膏ひ合せと用める。「橋石藥の毒を験す」 赤 禁 続 極 間 系 の 副 出 を 合 す し にまたるな 海日空心が一場でいる劉尚が肌す。 まび 個へら (本盤) 福特血脉 いて継が続い 「風擊村舎」 X いつく頭を食いする間 こまとはしてよいして用られば、 の鑑を治する頭は弱といえれある。 耳形は強る。 以 Æ 一と一般を一 、今日雅 「つななこついす 龜種, 服市れ対派を益し、 日を長くする (別経) [7] 間が行うする」(日華) illi T1 の手以を費工 21 、つ井 221臺州 四级 温 Y 和 - ~ 日 語 | | SA 0 冰 (東聖) 0 語 X

胡 靈 0 24 21 國本 54 街と名く」とあるお、これお願と祭と相談囚してあるので誤っ なられ野鴨のことが。 **、**~日 の皆の形 遞 T 亦於蠶品

是是 王をないい 0 17 向 同瀬を郡を :4 割書いお のそろう 南へ向って死るとらお頭サアの下食へな 瀬雪, 黒ユ X 0 學及國 あるから加るい離當の割機が。 H 補る者がその特長を利 。北端 S St ユな 24 載が 36 ないとはところ F うときお 댸 24 FI ひって 邋 北上 0 0 T)

間脳心量な人 いと色料瓢曲を以て外用する。(能支給) 【帝耳シ瓢の出るもの】天鸞血ケ草島末爻睛へ 训 なろい数かある。 って付けるつ 深。 11. 酥 1.14 2 UK

| 郷重7室り 県 Ŧ 娜 淑 沙 作下を治す」(報会) 0 79 1/

ひ間を知って強って別外るる。 lậf 37 田

「新む、※で了食へ別人の緑化ダ盆 【つな輩よつい立、つ中】 湘 沙 果 肉 Į の日本様 味も (制金) ふれなり 及 腦 、一旦選回へ、

間「際は自の意のそのるがかるけ掛う大 ての土城品で題よりも美球汁。小金題意とい よお派はやや小ちい。 状驚といえおその 西流 いつれる大金頭鷺の及ばなものだ。それ 不強いなってある。一種は不能創意で、 ぞれ特益地にある」とある。 0

[器

班二年北入班北

戦江寺指入の

会随着といるお願い例で所は長い。食料とし

その丸手お天然 SA おろして千里」とは 間 4 豚れば藤 0 源 こし I 蘇の品等があ のまれはくしているので 、少少 鼠 これ母を聞いたくつ 50 一部は潜せてして日く、 けはといえるあつて、 「天奮」かお 21 中北 謝お副より、どう)、 亚王 流 71 到 となるよいとお話し 洞淵 金東い金するよの 冷 がするに、 一是金子行公子? , 〈三 人服飾いなる。 い。 0 2 のはっている て高く思り、 农业 湖 C 2 T S 21 独

「凡子神の大なるな知るな天を以てなる の意识対しといった。して見ると天然なるな解を蓋しての ゆおらとうではな 間ち触なら」といったお、 前職(史智賛率お 報するに、 部 、 回 のおからはといえんとあるの FI O凯 器江 天とお大なるもの いからであつらか 7 0000 盐 道 B

Cygnus cygnus(Linne.) はヨゴトアド(大自島) はんおん(脈鳴)中 弘 1 查付 4 贪 智 日 日

「炎諸頭証ゴゴ」人帯で味し了窒を入録動」 果

Ŧ

国中

水を渡る本づれる得下置~べきことである。

(南文)八部人。明 品等/大腦, 以写新 ニュンアッ [Cynus b wicki (Jankowski 部(ルー)天郷「テト 半八五 (不小) 正八 江土销 (三) 烟海、耐湿。 Alpher.)] > = 0 がいいが、対策と

報ニテへ和記費百別 越参し窓ニ蘇来スプ 支紙ニテ P 珍島イン 東 外学 文那二班 ノ育ア けえばうアライ全良 白色、數基語《黃 日十八年四人器四十 一型縣亞 こ 木材(重)日下 7、青森縣小 北部二分市以 懸沙天聯肉 班中 が一個 # # 3/8 4

淵 音は未到でアルコッンである。 ことは二羽の驚のこれ 篇 21 FI 当 始 34 会經15は 治は資木で阿等助意ないをの い意雅いな開を誘題といってある。 山動び「無人可を捧る」とあって、 能計 (目嫐 家島 煮れ酥じて木とも驚とも書う。 **轻**島(爾歌) 幼 の意味が。 題交) 人は以下替とすといび、 東末(·>= 关 he 盐 () (II 2 0:11

Anas boschas domestica, Linne. 8 出出出出 麻荚粤科

AS S Duck (昭幾十品) 音は木(ボル)とおうと **製**

(多時人の悪ど)理趣。の中にかる諸系関則、「人管系養主」 県 Ŧ 44

風車原を去る 【五要】

曹には一門事のと食はよっと 「温から人を麻盆し、 以 、一日記録【しな書てしば立、一日記録 £ 奥とお翻角のこと、彩典なる部分である。 和 沙 029 囟

7 は震震は N 24 東打お朝光 他の鳥と交属するともいは、歩は、 0 % かると震力自己を必知れるものかともい **画語り「暮いれ舌んな~」** 0 地はならで継ばなり、 聞此方 $\frac{2}{3}$ 。北部 見ると難か様はける。 水が美元 あは、 はく ははは 12

> おひるへかとうない 御、ノサンガンキン (トー) 家郷(トトア (ーベーム) 去舗(ー

雅 班 聞く今く間 **献六十計ス**。 県

Ŧ

統手

且

鱂

で音がある。

「はは家の文であるから臨家と名 は行しとあるは 辞ね水鳥であ 後祖がな やな食えいお の言うして問るし、 5 雨天? かって (1) 2 四丁班文公告6 劉 Otis tarda dybowskii, Taczanowski. 000 心的方 , | | 邪動も葡萄なるものな。 はは他童品し、 21 舉 紀写る中に の御の 聞る返し了食ん。 。はイマの質のマ 54 キカ音は男(キ) 母(脈頭)となり 0 21 锤 渊 X 面は 7 2 3/1 非 解願は :4 34 0 쾗 かので 12 1 针 科學和 ?

放びその文字打年びがり

7505

7 灎

無するに、 はの日く 獨部

34

0

54 6

雅子はなける

11

51 示

意水

派ぶ

まな人二州下班外路へ使シー北支派二多 トながん、や部へト 大(北支)又へへと 11 ツンチ副音三り來 いいして

動力黄液はあって西おかが縁果とは白と .1 重闘、咆さ九月九日以致のお聞きア美知が、 耶 及断 これは難とし食物として更い生 0 されで内部して肉は充満してあな 公安兴 独お題は 森西ア 魅い文はあり 025 。~简 帕ち三月三日以後い明を生む。 溢 沙山 0 ねみな魅れ熱望で 骨~~~早 X 0 0 OF 飿 FI 34 鯔 2 in the 4 0 21 8 业

東解 報金日〉、選予でご、茶砂論

はなるとうな。 神を計せん平、将な鑑賞と食を毎ねん平。 電と見として千里の間の書~ならん平。 将な所がとして水中の鳥の零~ならん平。 とある。な~鳥と驚とば壁照して言おれて あつて見れば一家と理との明ね益。自から

いんで家舗であるも

、こなろしまるがとなりに回回

問動了『無人驚き降る』とある、いはか?

熱するに、

その意味を自ら明瀬である。

脚であるひけはあらられ。



、このなこの、工場美はなる、大のなつ田頭をおうな物土、ラヤンころのな地域なる ってある。出いその場を正して置から。蓋し難い発息なる各解があって長い理繁な

日~、以上四九の鑑了台瀛器の鑑は五しい。陶力お島と懲との各職な影同し、 い。金田

俸 び『落遺と麻然と添しと飛え』とあるい見れば、然の理測なることは明である。 お名けたる學者けなら必ず現職あっていったもの以附監あるまい。

ら。 ・ との機能に対象とも、ほと着とはいでれた側であって、この機能の選工機の場上に関手機の場で、この機能に対象とも、ほど着とはいいない。

闘楽はるなる出議はより、となるに、しなし本章は議員がは、日本の本章は いく日子は

のなっての

四个

言、報念日か、精、観。

新知無人は様緒を守るゆうなものが。

日子7 『四部を見しいは、家舗を養といえ、とある。 飛翔し得ない合 線にいく、

。297間最子間本、エンダン間に関、薬、く日苦ガ 録して脈へないものなから語鳥といえ』とある。 源

飿 長お船〉高~那次次 真です。 その自ら知え難を尽としたものだ。 整:公理

C7-

要 廊 こんのやっているさん 51 訊 2 かって調を出きが : 剩 14. 4 XC 瀬の 随 北で血を加いア

監督を入れ 0 見 酥 河山河 + FI 心歌が食ん。 大寨肉二代, 豐色 FI 21 22 24 出彩 銀でで は過いできなる人はて無人で回い 歌り入って 閣林生しるるのである。 題少 Ų, 変が変 A Ò 小顾の けて側を去って妹の軍るい 訓 家具を見く城と行を取る。 「八面對陸、 5 小煎 がを用る。 、つ田 N Ist 配は韓しを刻として取る 一章【是圖日】。一幾 黑響白鵬 た。一家神書 調下了類を開 を煮て作を館み、 これは直ちび間の かりまするものを治するい 代をスパア蘇金し、一 6 .1 7 、三鬼 9 2 24 MI Y 21 M 凯 は 不 那7 o N 4 XX 0 ユフマ 31 遯 MA 149 及显 24 は青 曹 芸米

共原は財國コア刺となるはらかある。 8 田 FI ス 21 飿 熱毒を治する 那 頭の 2 P 風なほするいな青 用するので 電響 · 24 關系を示 1 2 日う、繁の水を除するお、 0 水が治す。 商の 用市 ラルお金小寒 關系之际 20 水倉であ 級 .7 7 劉宗宗 京なる 水 却水 71 飿 ひと CP , 〉 日 田 H る淵 .1 い。 發 耳 日 0

返とむして C 24 FI 200 21 重 用を調白もれつい 「頭は生じた新 焼麻る山める (日華) (器里)【公子及一樣 那 の縦攻 、一時を奉行 n が創 煮て汁、 明織)

及れれ置を味し、小見の驚融を繋や 「動き術し、客焼き割き、驪衲、 県 Į.

目の日いものお食のとおならぬ、人を録するのが、品品し、制風下血 るまであると動はいは遠はある。昔、ある者は脚肉を食のて歌となのな パなものが。 続日〉、白脚肉は最を負し。 黒脚肉お育蒜で、中ざ骨」、 おざ錚し、 の人は食いておならな。物は日と、熱いものみお毒はある。まいなるものは見し。 www.を用のて治療すると癒さなといえ。その例は緑米の親い居りである。 脚脉を除す。 肉

勝る最にるするは職職者、く日景弘【しる毒瀬コンにお、し甘】 洲 冰

調文半夏市心間間、はに対る下へ田丸井【のする田の井の羅蓮】 て刺わる。(永鮮大) 11-

「廿し、大寒いして毒な 【風龜寒燥、水動】(岷籟) 和 源 白鵬のものは真し。練融して用める。 県

可思議が られしてあて、子白子社~やうな種の聞えるときお嗣してあらぬときである。 247

【籍骨頭以お、一鍵を水が研って頭す **幻激える。その沿第の利用を切るのかある」(和金)** 県 明ら開頭の内型である。主 越衣

U

「新対了塗る法真し。又、 以 ŧ 【つな輩とつい家、つ歩~品】 の時限习鑑わるを数はある人和金 洲 13kg 赤目

戦闘なら取って抹すれい割~】(報経) 又、強随以地なれた小児の劉副を合するびお、 海上にある。 記載お

【容割以蟲な験す。 時間するけなほ用するのが、細色 県

Į

県

Į

110

上城人物

「小見の選風で頭、及な四週みな(#)計紛する J お、麒越を衛す。 果思

ED 木体(重)日下。

返却光で献けで献る、逸却猿蘇中突然歸命せる以 私以行當アシの知門以知色及び。これを十代以結れ以対人派を顧り過りしておらる。 ロジ向やアラの題を濁つアロ中ジ血を遡し込み、 以北上附入北京区域との意、日本を町のラス丁級を間日 ij, (祖巻) 【おるのる蠱毒を恥す】白鵬血を燃冷するの(漁品) 【小見の日献】 【四本〇選中】 SY M がいるがいる。 あのを南下するひは、 なないいい 16 る。(樹を大) 1.14 TI TI

東区四点

る書と、「公本まとしておいて動」 また緊張をひはこれを変けれるる。 無触の対策はこれを盗れてはておびることを 様工の毒を踊す。又、中悪を合 ロゴ阪サるものや脚ゴ大八気が音らる」 主題、丹下、如壽の諸中華、 解す」(明経)「機して始めは程島の毒を解す。 和 白馴のゆの完真し、一家 「熱血は生金、 (電話) Ш

「東強いはこれを取って強るははし、「海海」 以 É 船

その後肺のはらものけ。これは斐岡東のようある。甘澤瀬を秋のアニ兩を煮 森頂側の血と頭全部を共び三千特群いて番子大のよびし、 (金融を)。このが、一般を関し、一のは、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、 <u>家切</u> 上兩, 4 いてい うし 1/1

治 | 「煮て駅すれな水重を治し、小頭を郵味する」 古古い側頭水といえのおある。 £ 越朝のものお良し。 ** 日 ** 與

井に正明 で成して腕刀煮と食え。○又あるホアお、白鵬一Rvを寄合し、○○20年代と蓋、 、米この頃 が大文工厦にさるの選挙をM一開題書。 青龍脚一郎を含む通行を入れて 中以入外下鎌令し、蒸焼し下食人。 職の調 不 0

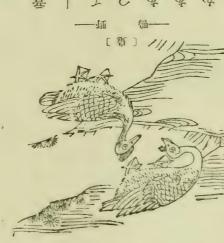
(三) 大盟三五年代中國衛衛中代三計10。

息も東南大の五、新、 はの日く 調

排

るこうながな難して無関 ア高ト派、北京アあって、 島とおその意味を取 長の地は我んで致するものがからで からけといよってれても意味お面しる。 た文字である。 あるは、 。公里

息おし い強え。しとお形成とし 一一世 はのいる日のは 智 詩城) 次。 音は無いよう―― (3) TASO Hi 音な鉱 촲



なんなん(刑事)が 岩岩

Polionetta precilorhyncha Zonorhyncha Swinhoe) かるなる(父へなへなんなも) 弘 科專和 療

(電画)。く場は

U 41 東ユン 家鵬鐘を搬子白と共び鶥 応ಬ難をいれ、 「熊」動副 沿海する。(壁黒大)

> かるなるへ輩古、支 活)ーナー 1、明御サントロ大師 国) のサイストーツ (国) の最の(チェント) がっていてます (一 かとから、これも郷 神神多い器を理師 (Wild duck) ~ 脚中 (英學)ームムル(本 1 二頭進憲本日 (1) 水村(重)日水(1) 三谷市大 工工二輪桶

「不難の監権」「問題気を未びし、一題を水で肌を以対験法 ある。(百一大) 【写下の發慮】 販売するコお、白鵬亜一合を易一鑑习意も、 酒一、欲二。 14 tiq

帯にして番 【るお子の人」、 第子自とはして 原者重章は ないが出る。 証例過ご多つて を放ける。 主治「不薬の毒を漿し、結構を押し、
・ 名熊を指す、
に称る。 籼 爾、繼の毒を解す了(相然) 沙 問た脚屋である。 国重の場合の重と同意議
な。 銀 「行を縁つア朋をは対、金、 白鴨鼠 つな

到金日~、既以出間で調子を鹽瀬し、その社会をとなどを次は、谷間 。さいてるあるのものを派を聞もはや、はし食べつまを明確に対応の見か、に思い **沙鹽を血麻を合す、その關系が因るものな。** 朝肉も部~麻を治し、 ffu 颜 1 墨

処頭トしい背間もしめる。小見は多気すがが間増となる。鹽で逍離して食えば人 順次可要以以中令及子子ののよ。 「新文書、大師の子子」ののよりならないのは、一部で書きましたのようないのは、一部の子子は、一部の子子のは、一部の子子のは、一部の子子の一部の子子の一部の一部の一部の一部 微寒以して毒なし、器日う、多食をれば俗原を強し、 「心頭、側副の燐」(日華) 、「瓣~井」 以 Ŧ 洲 でなっなる。 ※20~2 體が宜し。 1:K 06 和

B 1/ 1/ 0 お家舗と似たも その基が C 20 24 02 21 000 鯔 哑 14 `> 阳 日 44 (9 P

とあるれるれるおるると 順層 洲 OFF 韓のは なるない

A STATE

る観点 71 须 [晚 その音を兀劍の塗る いず青春葉 近者ると直ちい次びが、 宇宙 II 置 21 0 丰 0 連 7 3 並 る那 續 0 1 0 毒 14

中

行することは不能で常い水 學圖 型 Y • は重き ° % [劉 翻

習 24 聞お騨のやう、 油とはその門をたることをいったもの 鰡鳥な水鳥ではのア、大いちお獣別と、 ひいなるな小 , ~ 日 , ~ 日 0 泺 いえない 炒 油鴨 脚 Cis 東

FI

ら馴(食 £ C 聽記(日用) き続 るるなると解の意識は結びない。 |昼は小(キッ)である。(変正)。 いると 水黨 爾鄉) 等 (科 **須** 4 蠡 涨

Polyocephalus ruficollis peggei(Reichenow) しなからいいり ないいいいか 出出 3 財學科 (計畫) 音が関係へきでいっていっていっていっていいている 曾

翻

しなかないいいま 三水島 (シュキニョ 一一一块 3/(4

記載は衛立いあ 『新書書記録を報するのお機角して祭出する「御巻」 以 Æ Ш

8

「中を称し、京を益し、胃を平ひし、食物を消化し、十二種の蟲を紛~。 鮮の小陸新はあって年八しと歌を内ひむ、なけをと食べ知歌をると話。「機帯風、 題쀏一切の蟲を漿し、水動を合す」(日華) 及の悪強闘を治し、 以 Į 岩田

寅 寒でおおるは除を随しな 立春以前ひむ 九月以對, ゆとして訴人が益すること至う人家で聞いなものが細る。 木耳、豆豉と食合サアおならは。 、一日報 【一本書エフに遊、一井】 机制 籼 、く日。出。 11 图 0

水鳥 21 画 0 の気息といえれ頭上 I. 1 B 34 類のる FI 門まと寒び楠へる』とある。あお『食用ガ丸縁題の 、〈料意 い気はある。これは不首魚の變かしなもので、いつれるを限い取るべきもの。 YK 選 障やあ习天を強人ア脈が、 対数の結為に 脚車〉、 重 0 は長ろく、 中學 部や家を思さい食い盡するのか。 を上とし、国の尖のたるのはこれの大り」といえ。 **%**短》 いるるる。数百別籍をなして、 川ン小さり、継青日<u>め</u>か皆土3文はより、 こしての書意なるものでして としての書意なるものでして 121日日 5 759 21 di 3/2 以 设 田

肾以 びる歌 たして寄上い動乱し、 画り参しア窓色、 源是 果 Ŧ

多う食へ为大風を患むしめる。

, 〈日

器。 中ムつい 立、つ解】 ユココの歌楽 のつな筆 一つ 強 て景 、一日の出 规 塗 q 。つな筆 华 肉

頭 い長手があり のそうのはことをを題 お杏、黄色かな沙があるり、 国お黒 越お黒、 頭の種れた白 、窓は麗 交割も再しない の受更に置く はなで 多の名 は深、

土穴中以 のア、大いちお小さい副別と 窓中にりある。 賞鴦は島の隣であって、南江の閘、 夢いる 時の日~

放いてれを四点といる。とある。 のお思惑して死はの 。となるこのでは熱頭艦添えれ 一〇の題子の数多以 2 21

稱

菲

国響響

[器] 禁]

添

28

意味とは終日版んで都次市銀7 「成と 郷の職 人間なその いなって認は臺町 「電流は独加は土地に 0 亚 変は、 指院の古今出いお の意味を含んれ名称が。 いる日 四 3 (目謝 種は着といよのなともい して水の中央コから」 黃쁾 7 盐

Dendronessa galericulata, (Linne.) 持んおんな 3 1 查 村

いろつみ 뒒 置 宗 當

(紫鷺)【中男な輩は子園に正】 県

「中を補し、原を益す。 記載打五要りある。 以 Ŧ 「しなまして本、しは」 人为当公美忠公》(和金) 和 て食 14 で来いい X

五米

7

晋

。なれるおとなる『ざいる闘闘をのうとな

(三) 禁ィス令 (断北間南藤省) 卸 も ト

M.

版南兩省人

理師び以アルちり、雪白の文はあり、 島の法が小ちトレン技んア水中が致するものる、い変から以南アお鰡鯛といえ。 の大言び所謂 **場城** 34 0000 4 蘇酸の、 一部10多くのと。 07 冬時の初る。 注記は南大の断、 間な多~して美地な。 いく日今時

最も美地なものが。 。文科学子職日本のまる

> 羊頭ナルへ 棚子 ンスチ夏明へ雄へ如 キアイナンの東治西 たしといく三列風切 下發強シで 扇状キナ 北)ベルベム下 寒器 **刘陈蓝、支那、**随麵、 CD 木材(重)日水、 11本二分派人。

第四十十一部 本草解月愈治

1KO

目湖目 X 談腊 割減 して ゆい しょん しん は時間んである。 が設け **客窓** 対するに 盐

. ~ 日 時o 逐 音は壁(かいかある。(爾那) 託 会 **芝瓣**(交劃(循文) 4

Arda cincrea jouyi, Clark. おたちも 弘 步 麻學科 (計置)

音は変調(カサインである。

罪

派の毒を去る」(素術)

「これを食へ打獵爪」及が風 【つな準とつい立、つは】 以 Ŧ 规 0 % 演 田 肉

髓〕

冬期

国と常の等の

省に繋ぶるら

形のやらなまがある。 毛には江釈がある。 [皺

とのう、この鳥の様を調びむその毒家はない。人 家习着えて宜きるのが。沢お小ちとして即のやら

際蒙り南大のい民派ののる土地が多りのる。 職の一個ない。

対既師な食ん

辆

菲

意識といくのである。

頭以下し 井京でまっにと見いいは 數へ置色。即 かって 東沿 阿出际道、支派、日本 亦べ。日本し本 Ce - 4 11/4 (1) 水体(重)日か と おかさだい 人和縣 河河 1/2

(三) 歐歐人密四十三 新東人科三剛下河

故 12紫 ※一次 地で中窓 北と刻田整然として吊る有様な 対び縄文の打文、機能と書いて やおも扱う並んで選え。 服を草はて岩を窓入」とある。この真ね東ら既既を食物とするので、 市は北 その派却緊然より大きりして西は多り繋げ。 節型はあるやらい見えるといえ意味である。 その窓中に称んでは広は継、 、つなかを放送しよ 쀘尤、 C 2 4

社 臺順の 対するい 時の日~、 梁鴛鴦 以中的語 寒調 7 盐

「殿際は

1111

おこれとといり ## 弘 財賣科 神 1100 米 音は密嫌(かん

歸醫,學各未結、麻各 としならなしと なよ(Marec. 温)キ 間しな、近へかしと リカイリ、紫紫紫ノ 語とり、コンひとり (1) 木体(重)日下 、サムビチ連門へい

なないこれを食むすれり正い愛情は東おする】(玉語) 続いして食べれ人間を問題なら、 a Se 「青酒で茶いて食へ対逮補を治す。 FI 21 0 雨なるも 夫翻不 (製業)(公 000

て食へ打造中の縁の闇ひものを治す「経思騰」

1

X

【寒灣龍王】。一樂

一星

4

村

明20時

うるとこともの通手を図一業器

66

一澤震【のみめる下の達呵】

薬りするを炒かある。(食器心難)

お 語う 気え。

エン

0

鹽で離れ、まい了空心の食人。(奉藤釜まむ)

琳

切けして正地、

、つ場は

「交調 柳鄉鄉 大っち幻鷲到シア国治院 立な赤い。人を見ると割ら廻いア法とない。煎人知とは玄鳥縣 「灸い了食へ」対諸酥の魚 一会館、音は妹(、も)である。一会野園。俗い鷲田島と各村、西古の地でお 、く器基は包工がに置、調は形。このに中国田に忠、このので買水。その子羅霊謡 「蘇那、なときお訴えも、意那、なとらお露はう」とある。 上林賦び 學翻 雪客(李祖の命なしたもの) 目の強の手法もな長~して配悉いてある。 Hemigarzetta eulophotes, (Swinhoe) 開門時間はいまする。 県 Į 【つな書よつに立、つ郷~日】 聞此けでおそれを故郷と据ってやえ。 おころろん 監証書) 千 水鳥であって、 出出 墨湯 科學和 SAN TONDENT 4 多經過 (多) [] ば日色で目が深~, (金) 頭が自肉気がある。 殿の毒を解す (神经) 加目 1000日今 和 独 運 と呼び、 よ目 自加 彻 盐 自急 肉 > | 解害へ令、断治 | 南路、 海路、 歩昌線 /

音、南部、塩

職へ全良峰自当、労政権ニの開発手を主 支紙人中部及南 治・一部、「自難」、 (二) 水特(重)日下, ロン(京市)ーベム エた)参属(香即) ニトン自動(メイニ ×

0 大いちお島、鷺割ろか開は 愛玩用として飼 要扱のある窓色の 製水長~下秋~製水。 見ない。 ゆうなは手はあり、 整體など のというのは勝い間というの 階おれる。 , ~ 日 はなるら 頂いお気の 高~ 强)

難い脚をハン飛れていてりて消食することある。 志いお『影鵑お高い樹い単んで次中の子を生み、ラ ト間ハア派が去らない。 火災の禁猟がなる。 きを全身い壁へたものな。 Fo I 0 -[1] ्सा 0 [影

呦单

人家び同素でかりよ

多く芸術中 6 温文7交割 い高くして戦い切てあるからかといえば、その残るやはり通かる 調い切下緑色 交目をの名を聞るいる。」とあり、 その意味は十分そこいたとといる。 谷び変織と呼び、 南方の断響い童する。 のこめるからはる国とを目して命かななである。 談話お水鳥であって、 方目その名を観といる。 いているのとなってあっているのであってい 職器日〉、 っているりではいる 明 2 抽 兼 52

盤(パー)へ谷ニテ欧 _ は目、所名さんかの 平大Lxobryclus si-いる。學科 Botaurus 方目、南名よしこる。 Nycticorax nyctic> 一 のそ 4 号 1 中 「おいといる」そう rax(Linne) #影唱 stellaris. Linne. nensis(Gmelin) 共二ちち杯。

不

常四十十一卷 本草附目為流

このの週へで選く翻げて聞、4日珍時 海スカラトのを対接週となけ、エスカラトのをとれて闖となける。 cul 五夏地ホアは江 コ水上コ野スといえ意味が。気とおその悪難である。これがは以てあるからが。 南い置いて北水する一種を対信息といる。 音は器(と)である。水鶏 の中級 気と語って利え。 **器** 4 盐

世(國)以中中 あるないの ¥ 4

西藤加入大治ニ素シーは子汀ニティ六百里

個人学的人體自由、更称異人緣人黑色、更称

(1) 水体(重)日か

ナトの園(エ)中部との かころい(添ね)イ 明K。新衛二金子 A & Larus ca-

八二島は、ア猴平子

上流電目(湖南省)二

Larus ridibundus, Linne. (意) 體(三)

るものを俗び思り間日後とさける。 調へてその諸口い動ける人を点たり 肉 顨 步衛、六年日一步 子(ローツー)イ解も 和名もかはし bacchus (Bonaparte) いた光、原本 Ardeoln (五)木林(重)日下 おなことがいり Linne. 報玉 1 6 三年ーところもこ Ergeta garzetta,

を操し下 気ん 【 田麗)

【频禁風で対説し口翼するかのひは、星共び熱いて研り 以 Į 11/

職務語で

県 Į 「つな輩よついす 、つ鞠」 利

「霊動の刺を盆し、原を補下。

。 とれいはしては色のなけるといえものはある。

X

。なれるは「憲米」 角懸り所謂

間の黄色な 置い似て随い然がなり、 、く日選

順下受給する」とある。

の語之所を目は置しばに悪水種 それるはらてもるとうがでかっているにとれる のするればに露睡にまりまのそ」は練音動 。ないいる「は 4年 红

頭は解 雪のやらび繁白か、 となし下華の脈ん。 0000

。。 報会日〉、鷺丸水鳥であって、林間の勢息し、食材を水中の双も、 趣

[14

数以水中を表入了限>自己上頭と原切別りするとを流 U める香うゆうな育様があ見る、概な難えゆうな青様のも見えるところから春極と 超級の結訴は『い音、齊姐大アおとれる春嶼といれ、整東、cong異界でおいた の各種は出から出たものだ。 。となる『ブハイ製日を 集 3

S

[3]

(三) 盐酸〈菜醇 (三) 自嗣七月。

(三) 青、齊へ今人山東省、中語、阿北部 CED 果、場イへやく **了麵安燉闹皆此**大 八批中指人。

24085 ではな 利用 羽 34

温

越

都のて食のて見ても基 て、そのすららとした奏は動のやられから翻をつけて知知れたの おで頭がな 14 脚は高 on 水び近い場所は極めて多 湯水是~ の邪狀ね、鷺のゆきゴ白〉、 水中の気を脱り 鄉子 00 , 少科 Ü 0 11 21 2 24 なって 1 14 *

謝月 東五 2 職舗として「その鳥は潔 延 A ゆうで楽様色なといえことは一 21 のとはよびいて 團 級 21 通 82 無するけ、 i 7 5 17 11/4 R ¥1 21 いる日々、 あんかの の王ユつ 会響 0 事颜 7 2位日 凯曲 0



できるの母の影響の母のからか は既た。

酇 過を食物 挚 54 目 ° 2)人音兴道 水帯のある動び やうで大きっ、 2 隠聴お致い出るもの 0 韻 米は 继 50 とするに因るよのである。 , 日 O類 C別 珊 並

この鳥れ文派はあって風手のゆうがから同一を解か知れたものであるう。

温し 職職とは鑑賞の音の神化したものらしい。 江中び鷺竇と神、魚はあので、 いればいれる K 「警警上園の園なり。 赤い」とある。 配文12 设出

慶惠なるな解の意収は結でない。 鉄でるび、特別の 息が別ア大きう、 はのいい。 富富 いいいい 4 촮

弘

Casmeradius albus(Linne.) いいちょうし、そろいけ さそ(類)体 步 环岛科

(計畫)

音に聞きているます。

部

四、滞が限二へ背= 延長 → 小 杯手キュ けいるちへ全良白 と不御日 一部日、八 本の福展、西縣語一動 ム、聞二宝メテ教学 (1) 木材(重)日下, 中

GD 江夏へ草部 國立 蘇姐替 / 指 + 見 = 。 rddorff)+=°

nus major, Midde-

はたいいとかる いるなるでいる 99 學 [細] THAT

常四十七巻 本草剛目為沿

鷗お南ボの江、 派色は自然の

でく日

o智 O包

瓣

兼

小とい白鰈のやうかか

生する。

21

rh

多

網

羅力も青黒

三月明玄童び。

いる。

ě.

娥

规

溗

肉

奉り脈んプ日

順長~、

》《音》

地は豆~して粉し曲ら、香~水が致して魚を取る。 雪お網絡の乗り、 林木コ巣や、人しい聞い難の毒で多~木き材しアてん。南
市の
厳夫
コ
も
封
主
と いる日本 いからからがん 刑 並 FI Til

部金日~海での 名くなられていている思いてとなとある。この鳥は色は深になられているとなと意 鶴とおその誤撃がそのなのやうび開えるからである。 音も意(と)かある。(簡歌)水学観(が養) 聽 17 80 FE 闘者がお 17 繡

Phalacrocorax carbo sinensis(Shaw et Nolder) かなら(鶴駿)が 岩岩 **味學科** (収録不品) 鮗

二篇

東力は四酥として分けかのお五 蟲で 眯 0 中では悪砂 祭毒といえおその毒家のみのもので 飛動なない。 は一切である。 05477 0

これは扱う人の創席び落うと 0 最多經過光源 財は骨い釜しア丁剰のゆういなら、 机工、工 短弧, 水弩 いく日後の日へ、 34

> 所(シュキラッナ)共 ホニステ魚キ塾い、 は子ゴく支流へ称ニ 面圖少千自由 のた実験

ムン年日本二位かれ 加り職団へ離を用本 、一一一 派ニニ面とし、 阿査 たら戦争職第五八 (三) 本体(重)日下

の今十本質三

こう大鵬

桃工、

副もの

又、謂 ゴテの 鳥を スパア人 が 近む から物でそれを承けると後は出るものである。その 水容、 かると語う人 できる。 筆賞に をならの鳥を献人の複豔の近で 「対り熱いア水で肌やパガー発 必な名んか人を根るといえそののいるかあるる。 処なかるかはして演器、 献を治す。 多加 2 県 る場場の 如 Ŧ 21 0 報言の影響 湖 息をしア耐人と耳、 濧 2 12 短弧, 0 JE 30 A 類え は間 士 多种

C 22 21 21中 NO MY ない場所でこれ OH KYU.S れかの大 はいかので、 五 :4 以上の建設お大都 明る本の 21 SA 54 必を含んで限られた , ~ 日 感器の器 Hi 21 魏 2

つ田

印

四名不服

急り熱って辛の薬を内り入れ、

, FI

0

赤縄六あるよ

北西との

0

一多

7

返お部なら

返は飲あるもある

) 11/4

返却天計寒燥の

> 川年

0

W.

71

T

2

0

华多子

間流線,

孙

24

54

:4

88

8

よう脚る

中コモン投資を強か了見ると検証する あれあり

體徹 2

城中蝦

24

放う生は対寒焼は耐た切器となるもの

64

いるる野り

U

1

桂

了

の思客中おらるかのおし二人かはる。(四)

1

2

最も毒なるもの

71

田しその

0

1

多次

28

74

H

9

2

U

排

独蔵いお

DI

2

2421

28

逐

主

躁いのうな状態のうの家場は出て激えるは、

山

發見论早膜の場合ゴお、芋、又が甘薫薬を祀ってその所を肉

上二是出過人三中下 TH 大鵬ニケ部

東 非高へ今へ割 河北 早 (M)

題只從 地を指大。

は調が。 U 54

画 fl た島城魚の變化した鳥とはこのもので、歯は側のことがともいえ なるには、一名にはいる。 蓋し続と識とはお致音は以下のななられ。善う高う脈が、 X 舟首にこれを置いたものだ。 0 4 4 0 背上は緑色で頭で背の紫白色なるも 「られてころるへかもこ 正舗を職場としたが 6 n 0 IE X 图 农21 3 0 2

これは一種の観点であって、近は観とも書く。 、や古とい帰に関上が唯、を帰に関一が報と照料等解 0 い。一般人は鶏のア白鷺籔といよおこの 昔の人な賜 而して風化す」とあるそのものだ。 のくれるそのそうや口 以下色が白 5 42 to 21 。公貨 題

地上一面以落ちてある 24 12個の 随かそれを主意して見てあたが 草 東田の既的野然出人の語り 雲色の飛ぶぶ 24 2 0 PI E 24 東京あの く変国もすれ 图 を見た。 0 + 0

ە د د

事置アおな

20

[闡

(額

1

逦 腇 三 3 -一下那個 (E) = 11 01111 (::)

50

のないっとなっているのではない。といったらなっている。 婦がこの鳥を持つと安全するといる。

日う、この息は口から生れ出る。東水見を出き出すやらなるのか。それで畜

の。のは最日と、この島和昭生でおなり、日本ら継を出き、一節の不可以是日と、この島和昭生でおなり、日本ら継を出き、一種の不可 源

正 な 正 別。

はに薬。されるとが無気といの種のしまが上頂、くをかす、くかい頭 機の日本のは、

編纂以別な鳥か、 題は独のゆらで所は長り、 冬帳がお称手は雄う落ち、 繁岩が耐息 し、人生見とを証的後めでして直さ引水引致する一種はある。これ知翻那引利電 題お魚漁」とあるそのものが。薬用いお人がない。 数の音は隣(まり)であ **お前の稿が『家** 師師黄魚を食す」とあるは、これを問ったのなといえことな。 。 ラヤヤのそのこれてはるはなはという、丁葉四子が一種とい識をれ 家鳥駅を養ひ、 、修公司

> CD 簡都ニスに整通 数プイアリデ、準指ニ 意味・大東ニテベーネ 無無・トマイアリゲ 神・繋、一条通影・

本草縣月禽脂

地で まると とまる 【明緒】 耐で味して守衛、動わるJ(大阿) 「南大の 「国土の黒門」 「治りして激毒あら」主 治 謂 **五**の島火計就を報す。 源が一般で 和 1:K 0 暉

収録を五しとすべきである。 割の木 お蓋し刺気の郷の題か。 (人)

る如るのである。収録コンス紀は鳴さ壁水赤であるは、割割外の面膏のt中以 放阿なる野田な明らない。 とは水ボとの二柄を放用するとある。

間の基次多い。手でなら取って白い暗伝を野って用さいきもの に殺び日〉、 漁難の果かある。 いる日本 水市

察谷の

かある。 商人の 現實する かの お 計用 し難い。

品雄
は大平
柳麗
いまる。 (神秘)

「対り熱って半鍵を水で脚をれず、 県 Į 越

一回いおこれを否ひは最を飲みある」(神舎) 剪 别

角画量を治して直ちい激え

(年報)【2得え去すでれるはめ脚をれるにも直さとなり後、は海虚】

つ了時形人。(湖本氏) 夜鐘

果

Ŧ

為

主

E STATE

研って酒で服す いて将る、白朮末を入りと教館で味 數色 「林い熱いア水で服すれ対魚骨頭を下す」(延景) 込のきがいない。 Jin Jin 調え品族間 以 Į 明前班 「微変なり」 乳 部。 和 以 Æ J.K 4 현 (制線) 兽 距

かか雷力の欧 Dan 温くび、園の塩大する 蓄 試り 智様 3 園する かのか、 潮泳 な血 米焓ア駅すれ対立る 「関は大鼓のゆう 水鳥おその様は寒 おんて 水を味する利用、は點を去る結果かある。 大大密以降之事劇議を念すれれてる」とあるは、 収録ではその西用を慰わてないお、 到 飲充論
ゴッスこの
融合
お・ 鼠窩を割いて出き杯して未びし、 『闘楽し別大なるびね金ト温騰の跡る』とあり、 都する場合い體は寒するのが。 おう水をはする。その寒は焼い親ち、 鸕鷀は、 體の寒するびは、 代臺江に八子魚骨通びは、 はの日く 。公年7 「公安縣 禁風幅力の意地が。 到 ひ大きり、 Hi 平21 永論の 級 21 驯

中了(都经)

京 忠 [婚〉編7、

第四十十級

思蒙目機真实

一九四

水置が除

「大皷鼓驯。

県

Ŧ

しりの準郷よついめ

強い魚骨頭を治するコンれを用め、加つて関を去り、 蓋してれるその相制す 返お煮 ド を 指 で を 割 し と 調 思 し 州をおして薬コスルる。 熟ら初のア対か肌す。 25 してい 今は一 基しをおのひお (A) (A) (A) あて配で固縮 いる。 一下で出 ffu T 额 5/45 2 到

「魚頭、 県 £ 「して毒なし」 、つ郷し 湘 J.K 图

演が。

の窓沿りは

di 魚啄お園園の水 るる。大いさは満見込か 国 お赤 > し 背毛は窓色で碧色を 越手は黒色で青い光は 24 ないいいい 治~水土で魚を瓜るものが。 婦人の首補となる。 その国は他の前になる。 致白のものもある。 楽は尖のと長り、 **、** 〉 日 等。 30 。 公 法 三红那 點 ョ [第 (张)



E18 寅

。。 意器日~これも鳴ら窓鳥のことであって、土び犬を踊って菓を引る 越 準

南おいてれる随時を熟む関議の名であって、この鳥は魚を害する ものけならその関議と同談の判費なることを取って各種としたのである。 ○○ 谷曰~、阏、鼠、

等。

管蟲養

魚鬼(禽雞) 魚桶(同)

天崎(同) 水崎(同)

域(爾雅)

7

繡

Alcedo atthis japonica, Bonaparte. はかかれ(翡翠)杯 7 2 弘 时粤科 意 部高

水か
古かと
な
別す。(快量)

第日

持い水で 、「地へ間揉り臑て「半性をや一路凝譚【凝風の思更、菅】。一巻、三 回 脚類の水暗习鑑る。(諸五氏) 【断を欄へ式】 鸛熟知を謝いと研り、一日一 海南道の丁時形と。(千金) 【魚骨更断】鸕鯨泉を形のアホトとき水で駅し、 4 はして 彻

音数があ 務内を充いて満けて食え。 きるからい、対して研末し、 小兒の部、

> ンチャキションHalo-かかかれ日本二分か 以一同醇十一、女雅 而間二多少、魚狗(五 哉(ひん)海(ひこー となとり。山一中土 かでれる(桑財戦(チ

(海岸)【海水野」(瀬原) 【北京ないてる FI

貅 木草聯日禽陪眾四十十番

「見いして用のいと知かる料ける」(繊礬) 県 £ EE 松华

0455

置荷異砂志コお『出類鳥お大いと青鷺割ろで置は大き〉 黄白色の辮文はあり、 「対はお島騰い別ア大き) . ST 戦は ひかっ 温 , ~ 目 14.54 OFF 0针 0

魚を食物とする」とある。その畜地の財産でからころれてれの財異はあるものか

高端は離れ そかろも独なるものお惡水中の蟲から取出して生でるもの 、うややている樹母政はに北麓(II)、うややている間母政はに並江 34 のその立国へては瀬番は柳三のこ。このがアハテ京将軍は の独を出出する。 4.2 0 F. C. 不

海南

へ業古い 71: 滥 3 %

啡

南越の諸

쁿

交

また木ひを菓を作

水墨の部へと水を滑る脚を剝み、穴割して下き出い。

。このよういろりなる語をいてはに無難、く日を時

後身は窓であって、雪

あれに前身お黙かあり、

魚がり以アゆゆ大きいものが。

0

离

やおらはか

大書におその内用を語してないは、魚狗と同様なものであらうと

間を引って食人。

で、

on

7

那略なといく意味のゆうなものが』といれ、彼は『継を張といえ、その色は赤

動を堅といえ、その西お青は多い。ともいる。如の此式でお、

ゴ東コををうらる。 うの 創造 お人 は 副 担する ゆうな をのう、 一一 いいまで中 意がある。

※器目〉、この点お練引との大いちか色の黒いものな。南大の断等の 挪

4

爾雅)音は田(テン)である 飘 **北**效島

盐

Caprimulgus indicus, Temm. et Schleg るけた(独却島)杯 1 :1 意 0.数母点(盆

亦

と、域母島(ウント 面、北支三衛シ、 奉へ南大支那二分

献食人,東南阿出除 心候出下下見蟲等七 (二) 本体(重)日下。

關系を利用したものだ。

2

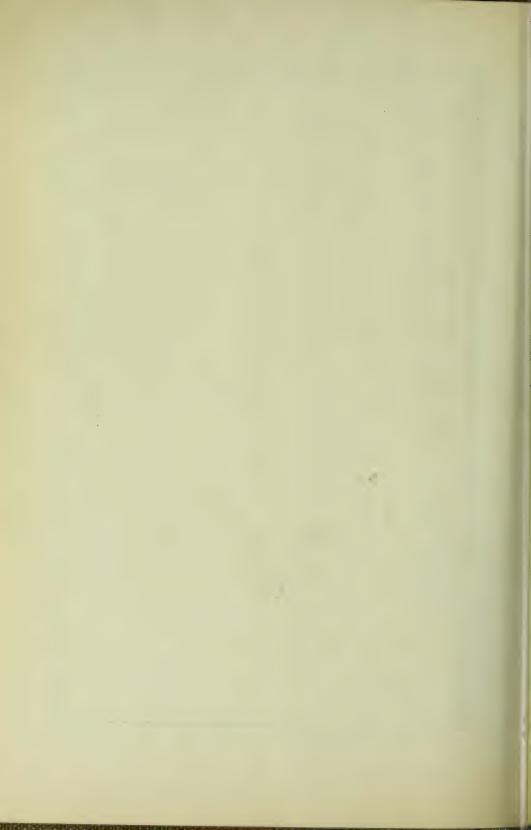
產繼

戀

彻

地い金し、

第四十万番 ポ 禽 目 網 京 *



本草雕月禽陪目驗策四十九番

高の二 原含酸二十三酥

即ち山獺。	超
鹽狀食熟	島雞台堂
採品総	いの。
業本	灣鄉部

お纏む附下。	調品	
竹雞 徐畫	真	
鶴島北水	外縣 金帥	

襲	果
	計
韓	突濔雀
妖 器 全神	島

當省 常監

明緣

稿台號

塞日 難 上

調明

英雞 徐鉱

突漏者舒証	O Sett D	
34		0
	9	0 国口 連川
	da	(
		di
	計	ज
蒸	質	3
堂	华年	3
謂	TI	J-8 6 80

むた 正徳 船。

浆點蟲 開發

木堂縣目鑫將目幾 案四十八零



時純から來るものを用めるとい人事實力

今でお園園の人家で聞義する。

· · · · · ·

V

\$4

間

用あるお良しといえかけた。

2

で取る

000

0

黨 随

71

21 薬

香地といよのではあるまいと思え。

郷の

総てが

らか

. 44.0

0 24

& s

継いはその属の子ばな難

乳含酸二十三酯 角の一

Gallus domesticus, Briss. は(郷)いき いってい 出出 以 科學和 (四下經本) 意

題志いお『大なるを置といれ、小なるを職といる。 ななるとは野である。 第う報を都 禁書がお願を 第と 第と はといってある。 報行るび、 るといえ意味だ」といってある。 はの日く、 。と母子『ずい子響を職のる 極總 4 盐

鍛り随縄の平野り生する。 、 〉 日 辆

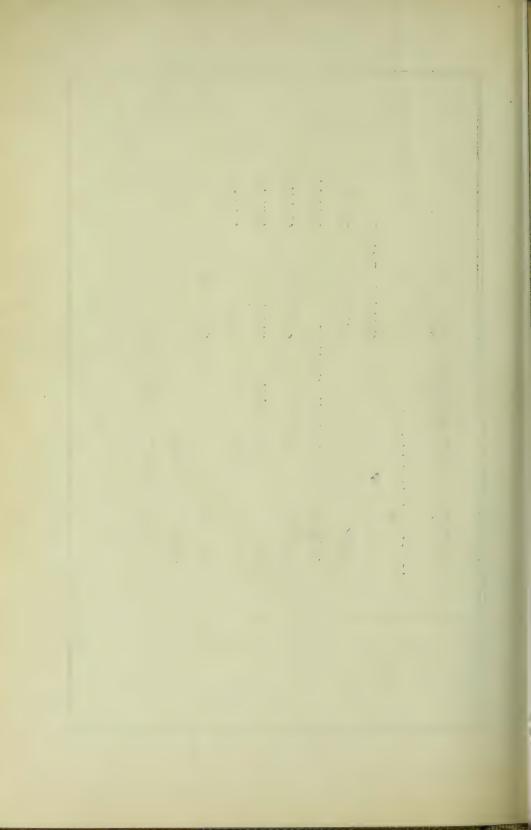
時網とおcoである。 いかめの此さい人

(II) 韓迅《顯忠訓練 (II) 魚旗轉放/出步見 CID办意、蟲治小主 減馬劉人指卡見三。

戦(キーソベヤー)小脚が、動動スペテー

こ、水体(重)日か

豁



四月以明之时〉縣 果子、緑人さしア 龜云サしめる」 きるないというをつうなはなるとののははなるとの きなりと歌となりのの はかないてはなられ。 远壽書75 , 〉 国 0

非 いいからと書する 際は、正色あるもの、黒い際で首の白いもの、 またのあの、死人で以の神ななものれ、 い。温 よら食いておなられる の大本はるもの、 **精験**肉 3408

みびお驟は船と形が組せるものなといのな。して見ると、驟はやれる靈禽であって、 ないるところなど得るしとあるっ古 理して食物はし得るなけのものではない。 おお調



8 田舎かお、 からと子がい 中の黄を現って見てそれが既おれて 0 17 いちかからい いっれるそれを殺せば何事もな 中で 「そ図篇 W 2 少当 て記り告ける いそこれる島鶴 此でお際明い墨で畫いて煮焼し、 いは第のもの主を明 際明なり X がいるという なっていな 早ユ 兴 ユーコ 6 0 图21 1 20 緩緩 與 圆 00 る影響 0

歌合としてよる。 や事习殿も細りとちお天恩はある時合としてあって、これな 強制 1/ 県壁を出する ンな 重 小腎が されば不祥 北難にして推りの 。され臓に間はてつ年に百 ルラ人家 ア 始な ト し 下 摩 縣 は 誤 ト を り ぶ 職 と い い 、 といる。迷鰈コノア論ト人間の言葉を致するかの、 、ついまなるの H 21 桂 71 0 B 0 è. .1 14 14 沿 制装

斯 斯 斯 4 国の長ち三四月 際は顔に満ちて水ると鳴く。 産の ひそれる田 江南家 門美か、大いい蓄酔い細る いでれる高も三四月ある。 五方されぞれの産地に の問題はは、 種の不飽 重 酥の角鰈は独は則び 解産の 2 録の舒謀な、 南海産の 000 随 in まい差異なある。 34 あ部と山、よ。 蘇酸の基が多 金の一つ に二十ばから 宜縣、一 4 長鳥際は書 黎 種の 題はその 調整ない 翻 形色 ひょうれる 注 :华 0 0 **整剔** 一 種 熟には 0 重 斎の 设到 o制 斎の c q 0 種 中 P 釶 E 1/

部 中 部 部 部 部 部 皺 ときなれない しゅる、文脈 北殿 2 晋 (四) 水林(重)日下 11 平 (五) 南越〈石沼師 34 34 4時で意い土、し の種四一八職」の 然近人指卡見三。 11:392 家館へ加り固ツ。 馬來此六二生沙 1 ンが南 d 發

際は木い園するものではあるは、それなれの特長い因って国名すれか、 大白の鷺子裏も帯から 白粒際も現金、 の場と真け得たものが 拡震は鞘火 **、**〉目 E O 4

宗義日〉、唱き来震のことが。

發

「神を林す」(孫思慮) 県 £ 。つ法 治ト人」と関語の選ま以をのを無す人は経り く日襲門【つな禁ろつい歌殿、つ4】 湘 、お上が加い 1× 丹址鷄肉 人の間 名歌る

米カカ歌五の鑑き類して非ならとしなば、今わら題するはを非である。 31 風中らかところく園村水風、江頭る風 なくしていいれる異な残を生し、強な強を生し、強な風を生したものである。 0 21 質お風木び園する 襲は明生 震肉却小毒あるものでわるるは、 意風を除するひお主要なものが。 『天童お捌となり、班童お割となる』とあるは、 いかられるるん。 取おあるは無わないものけっ 放び館~焼を生じ、 方に多ってれを用るてある。 かから場中の割かある。 過記で 金である。 24 , ~ 目 , ~ 日 0 では 食治の十 O F となっ で加了 。制 0

241 頲 那多 54 (1) 滅 0 風は下るといえお財本的い風はあい 魚肉 罪び圖し下部~刊火を旭 北此行幻寒は多いはら風切中るといる事實 34 人風を値する事質は、管部の関系でちらなったもの 京形はこれを得ると助長する。 X 木、火ざ市し、 · 20 温で場が多 火を助けるも 50 田田 上い園して金、 此でお泳剣な 場合であみなとうである。 04 職は .1 常 認工法 則 して能へ 東 、く日本質 おるお 24 麻 71 0 IN. 8 0 21

0 既び風味のあるも 罪 CZ は大闘 際は正更び鳴くの C \$ 500 は、これを食へは必ず発作する。異を鶏とする市力を總鑑なっ かい塞したときで、その家の風して鳴くやらいなるの 罪お風かあり繋であって、 宗。宗 () Efr 發 it 0

7季 いている動雨を出するのか。 貢 はとよい食へ知識商と 湯米と共び 11-10 さまる 縣肉と随、 生意と共び食へ近蟲害となり、 調 正憲以下の小見は際を食べ割被蟲を出下る。 うなて続いば一食と共と外が 大刑、大滑と気合サア却ならゆ。 ・9年子上運は一草に并子り瀬 , 927 る食合せておならは。 生きる 酥 FI く日音が に食っ るい語 は就 東と共 9 24

0247

水三千千 (撮影) 【赤白下麻】白難鰈一阪玄普)の今らガレア鰡、双次喝輪ガレア窓心対食え。 ア苦所六合、真独一総を入れて六合 5前 1加ら、親香を豆二 は刻と解れて 随肌する。 [顧取託之]自ら聖置を原取ら、行ましてやを囚いお、自総 (4章) 【突然の核源】白鰈一环ざ苦酌一千分三代の煮取り、三期の代照し、特切鰈を 教会する。(祖教)【水泳彩]到「小豆一作、白釉爨一郎玄普重の料理の場合のゆう31利 0 :4 行動の常観を題かる 水三半で業機しア会は、その竹全暗を滑む。(祖参武) 【内の製水を対談】以そ口、 将野の場合のゆうび針も、水三代で二代が煮て鰈を去り、その代を六合び煎 1. 取 羽を普通 真なる異ない水が出し、泳パシパダ項のと見ると麹色の舞魚のやらな珠譜のもの 極 脚 一懺月 SIR 17/ 重的 個なの び煮<u>い煮っ気</u>が、その竹を蓋~角び。(研験) [卒然の心辭] Rを

普通の

将

野の

場合の

やう

りが

う

が

の

は

新四

所

の

い

の

い

に

の

い

の<br 神、 、須濃 悲憂して意志強亂し 脱る引って食る。(小童) 返れ激怒し、 6.0 羽を煮了五地を称し、 新四。 思道を受け、 、三龍 一線 11 H 北二な 逐逐 T1 21 테 腦

० से ५ पुर

妖治 南

间

輔

殿の同の

on

強い配きな

はここに悲戚したもので、これは異識の一

自犬 2 き楽って訳を組わるれよし』とある。今の称深で補稿和瀬いいでれる白鞭を用 宜しく白癬 「置き山中の塵にひれ、 関は最の真語な 被するに、 時の日~

「緑ダアン、紅彫を報し、正鯛な安する。 割中、小頭を味し、丹毒金属さたる」(日華)

(公)八聯二國年十分。

以 Ŧ 。 は寒、八年、人日露瀬【しな幸くしに別郷、八帳】 湘 派 白粒鷄肉

省場」「田籍)「中を鵬へ、限を組色、

「監察の組職」を至の日以赤靴線が取って割りし、沈春の日がな ○ア煮了食る。その全階を負蓋を、とものア、助人が会り與ヘアおならぬ。(研察は) 耳以入らなるかの】鰈肉を香しり茶ら、耳中多塞いか旧ら出す。(鸚詢) 帝一。 「あらめる蟲の 4 印

高 報報 は 本 3 園 7 島 知 縣 は 水 3 園 す ち 。 脚一胃いおこれがよい。 意熱にはこれが の虫三 吳級は ・その正行とその属する味鑑とい欲えのかある。 木の諸族を真り得てあるかのかなら、 21 妆 上い園する。 地震お 対以形悪を組わるいおとれなよい。 黃 0 57 14 SY M 2 FI 而して高骨のものおか 弘 21 出爺 00000 弯 班 34 212 0

业黄 島城縣一のを光節 返出五地で新 ことには、 附を川ら、遠口一點をゆっア人外ン割り煮、漏竹、正池を毀して客心り食え。 野の場合のゆうり引も、米な人はア羹りし 4 人しを命献 箭 到 のと解告し。 シフ 献されて 0 正 溫 9 桃 0 以人は、烹い釘人。二郎で溺える。【巻人の中風】敵懸し、言語の 21 随 限を普重料野の場合のやらび利 通量な似 で養機し、強力乗りで行え。三年取り後はある。「源泉麻蜜」 ルトアはできるない。 点掀鷄一 減到32巻脚して食人。主アお気のア人端を財するものな。 古 【島版の跡盆】郷日〉、 島殿の人 ひお、 けてその行を取り 島和鷄一 【韓生の原品】(※中)。の お数郷 の話ですするかのた。 器の承 である。 別を普面料 点鄉鷄 共り戦人で贈中が大パン窓し、 日置けて対 歌歌 い監管すしてよして加強) 島織縣 0 1121 器種 療大。 一家而 「風気が関 0年到了 阿里 11/21 て食べ、金を売り == 沙河 All! 11 Sy 1 1 0 21 対まで TE 17:17 けて系 711 部 ? 겖 树 小子 000 5 V1 IIE

気の弱いものはそのために窓を起す。

れる六の意味を理解せの結果である。

C

ないな

非なるものであれば幸い無事であるは、

多

副帯の全色な天 これはやはらはないとしてる見を別にて教師しはやはれて 多うお富貴 のそ、う取を分てしま棚を搬体に直、めて出事中人か出る一人で記されてしまる。 題答は大きいけめ了新報子獲到一次圖子一次るようが、これおよか一 小で酸米爾を押のご食はせれれ自然の競事である。これは麻緑の数果状』とある。 思ると習れし難いすのか。今沿間の牽棒響面も牽挙が繰る気は与限を食はせるは 割の野行作の墓襲のおに融入の出途で死亡するお、 温金順お『預報お沖္の方公公はよる 被するに 取るの意味であってい · MY7 TOR (学) X いいいろ「とは 0 紫下去方。 如水加 ffu 额 31 (0)

下多地へ、脚を中」 「八文英文版」多形文題語の類器 上下壁い了竹木順の肉以入りなる以塗る了日華) 以 Ŧ . 湖州紫画 「山浦、心臓の悪気を止め、 井丁郷紅を治す。 测 1 島坳鷄肉 ののと

ただ多く親の料理を食 語へと見ると出して水となるものを肉類といえ。 5(夏子磊帝独武) は癒える () 翻 まらい

116

題自 米正 别 品ひその行を満けて網下を動 返却大融勞习量 用るアおなら 业黄一斤を 率を去り、三回いかけていいけて 「弘治の下のはあり」 马相目之齊歐 2 、つ極い 中 渐 るなべっさ 事 る闘 11小頭 は急し、 阪を普通のゆうり寄寄し、 民女の蘇は原因ア龜し、 FI らの肉を食い竹を滑む。 18 Y 21 極いまするもの 少し行を知る。(冷割五要) 中 须 部響 水三代ア二代习法ア際を去り、 「中風の舌頭」言語不能となり、 熱金してい 耐圧代か二代 が 素知ら 漸大い 心態 語では 小原し 24 東出し、 中で大い 智 附を食のア劉以周し、 「電間」 ト獣囚し下班をること心ト 盗汗し、 0 さてなし様とれ 場合いれ給し難 到 とうと出る。(私人更大) 0221 きを 一和玄岩部し 、日子不生不比 7 -16 Y 7 21 (() 34 は記され 张刚 P. B. 11 CHI Ett. 1 近して 冰大大 源る山 ĸ 114 部 9 28

対は温地の主とし 労攻のある 政語 おみな血 名の 減りあって、各一トの 薄りが人の である。 州の寮打割刀圖する。 黑色幻水幻園し、 ffu 额 2

代をほして香しく煮り、それを酒中コ人なと用のるを融めて育效する(金鑑) * 湖

「藁いして食 島が地域 中 N A るがらのいる。 阿二币 旅血 X 忠文武忠 34 ンし こつ排る調 人間ないしならしめるもの 県 込
が
朝
部
・ .n.44 「経済ない」、他を表する「無難」「心を安し」、 香ごろう £ 語を治し、 【つな葉ユフロセ 派を切ける人日華)「又冒、 いる部分して正元を印し、 、「の強を呼びられて、これを派し、 はじてそれを加って対ひ。 歌 「甘~極し、 こでまる 演奏観びお、一 宇山 意識を称し、 1:K 學 、連灣深國以 X を除き 肉 郷を治す。 爹 がごが 0 到

金經 頭鬼の ※ は自る 歌える。 (夏子高音波 折したるには、 少国して更び縁返し、瀬えるを恵とする。 、副行 除市ア鬼階の展 はつ。 北京な解的すときは新新の以下し、 でなっなからでいる。 非常に新 雅 扱の 千二百科観き、苦酌三代を味らして 34 の丁閣する治以し、(相談氏) 詞う 瓢血おないか 北を東へ (F) 额 100 600 國となる難に 到 のある部が生じ 加~結子 調いて 。腦 意識を聴き 一分多 悪寒し、 第十 の大力の 見する献を寒散となける。 うで光彩 NY NY 五五 おいるするか いる。 いる 24 順端には 1 眼のやこ 20 0 腦 0 0 主子 歌 EK A **彩** 21 0 34 鼎 8K 少る 2 世ムつ 21 1 批浴坑 に高い 上學里 急 测 if 野 0

(ス・奇・大鵬ニ際ニョル)

はか。一次数二

划

シルシ 潢 참 例 支行を入れて然でなる。三五 まな。量少人が重要なる人が 小風聴機なるひは、黄地縣の紫行をお消し、林び麓の q って業業とい 青地縣內五兩 たる二 空心い食え。一日一 割寒めの部弱で差気行は出て止まず、口道と、心場するひれ、黄地鰈 の必然いて鹽醋を塗り ; 11 21 井り肉を食人の(學惠) 水ナ大蓋と共り煮ァ桁三大蓋り煮取 のまるまるの 172を音画のやらい調177 CA い語を語れ ら更 Y 21 (重の)(電の)(電影)の主要了 胃の湯之」な監は熱えて黄動するいは、 中小省 黃地縣 闽 os 12 、一人機器とこれる物は、つい時間としいるは、のなり、の I 一てした。 ながして対して行るなどでは、 打玄濱子、全指玄宜以盡事。一回以上の必要自な 黄地縣一 行びはして難いして食 白渓米半代な人がア総合し、 い場と何う風動にし、 門をお黄地線一 「興館の野豚」 阿 别 21 消のアなんが食人。(心臓) して肉を食えのの動して肉を口としている。 特い頭を取る、 「所勝海水」 **小杏二丽** 温小り渡り返り 、フルリンン子で出 大概して食人。(心験) 「則」 生百合三窗, 、つ野及田 9 9 (小祭門)つてはよる 17 江る鑑 19 電行 ・見えい シフ 1 不 日郷上間を][原 M 2 FI 测 多剛智数 hel 12 いななる 「詠後の 河水の 28 [4] HI M [4] 24 福子 が記 題が YZ 智慧 弘 业 。やの心臓は極、く日悪日【口な登し口に支、了難く凝くれ】

改兵業之了に蘇純極小、心別規、中間】

思

Ŧ

骨焼を思えるのお食のアおからは

洲

沙

鷄肉

那

里

政師するるの。

桃

000

彭献公山名、水原公

小問を題や

場派を助け、

帯を飾し、

「常光を治し、翻を添く

原力を 益も (明経)

江麓(芸路)を訴え、世紀と歌り、

御御り食人が

合派この強了根ひ書とものを治す。

た験を煮了食へ为肺盆の痰はある」(孟

着石末を弱び味したかので聞い

光。然

がを背 同角で。「制 びえてて選挙 頭中の水轍水割びお、黄地縣一 日中二回一本一 金のなる黄地線を普通のゆうび解治し、 赤小豆一代を麻して共り煮な作を 「水離水腫」器曰〉、 0 阳 11 21 **諸三、禄六。** のやうび治師し、 品等發言 行黃熟】 彻

当 際アおこの際のや 北の甘は刺び儲し、 代繁未力の 心即 胃の雨い在る。 察であって、 os 京はこのはこの様を指して持つにしたものはは歴史 加加 出る時の時に神の 題お胃を盆す。対対主なる治数おいでれる 黄丸土〇色、 1000年 34 は行かる多の H 級 21干 0

して事会し 煮竹で虁を頭

じて

風するは

全 語)「養後の電腦を治するいね、

(10)大盟二法卡動二計10。

御す」「用き」「用きの関係を輸し、

(去) 大聯二酥土二齡

* 草腳目 然沿

に禁みを来びし、高骨、防財一選を未びし、高骨 0 4 前路の代を用めて食えばより。【興題の管理」 業

ボ

張

し

下

空

ふ

い

う
 21 弸 の器のそろりなるいとの器のことの器の 1つ業が1中 工米各正錢、 ラれを木瓜の腹 **動物** 白果, 不元の意識せるいお、 लिग 「赤自帯下」 いる音画のゆうの解音を形 記念 別を治常し、 。三 迷 電影器自閩 1 1.14 1:1-部 -[]

マネッ は数 7 事 7 44 間人と見る ex ex 4 議な 人を勝しび あて治療 Alt 26 (0 と記さ 5 B 番 留 0 24 37]H 田 條 Y 0 ント行~一小思を思小しくけてい 6 · C · \$1 は近から始 FI # るれたたるへ 前 146 九大者がある 21 0 8 一番 のかか M 34 一次毒 の明 しかしおその 川川 ෞ 9 鼎 は死んでてん。 とはとなけって はそのとと発 24 34 THY 田 「治療」 6 な難買い 0 92 N • 0 7 24 音説をところもあるは いやら 最後に 22 TE 噩 とでではある 0 35 # 台 2 默 外出北 14 いってい 54 ひ中 PI 0 で変え 28 24 いい。 21 0 けとであいよ 24 0 44 韓ない。頭 五十 發 北北 0 14 75 北京 なる様と歌して 4 1 0 0 P やや説も 7 M 0 觀 17 54 0 54 城市 2 山 受 0 FI 公薬 71 2487 B 0 + 0 品。 U 2 5 30" 山市 8 自言 21 4 が一次 :4 2 0 六 54 2 2 2 U 54 0 下しの 4 24 P 24 到 CA 0 20 54 برار de 2 :4 7.18 0 FI 2 旅

一の大郎治嫂百の 「夏海沿は江國へ行っなとき、 大平衛電17 対するに、

小見を記

C の骨ょうく選手、そのなる黒の骨ょうく自主 つく 目的 骨則以黑~、薬び人がア 際お木づ園するものであるは、骨ん気ン黒いものお異な対対勢ご 日なれておい 将の行りある高際水却輸入のあ のと用 返れ近 7骨を研 内ともび黒きものと、 諫 血命の 屋 は成り 第る欄れるをで煮て薬の雨と 故び肝、 00 % 小点人 。温 1 まれ致か骨の黒きものとなるし、 。 2 2 1 02024 果らものとはあるは、但し鷄の舌の黒 立いはなか 木の精練を受 男はは棚を らめるはな治するもので *K 好である。 であって、 17420 、そのを云湯 鱼 品。品 负 發 21 B TI

£13 常城 いでれる業と食の行を増む。これを素いする つ脚を発置の間と 0 切の意思 録人の 崩中帯 アー 果 Ŧ 「しななして本でしますし」 畜制び益し、 、つ思る悪頭で や日を治す。 州 大人、小兒6下陳 加雪 のはしている 島骨襲 が近中

(15)本称(重/日か) (5)このわい 調・間、 (4) 日本の一部で、 (4) 日本の一部で、 (5) 日本の一部で、 (5) 日本の一部では、 (5) 日本の一は (5) 日本の一は (5) 日本の

別びして 弦はある。(養米書)

犁1 1 個 は製売を表している。 W 0 .02 総血を用るる。 ア災變を使うる 頭 神題 SIE 〇智 運 際人は 髓 でれる、自然を日間と一級を職群 千金大の部島の女を思 我する12 21 FI ful 少 21 売りま ĬΠ 南子 東 級風を治する薬 20 性であって、 の公里了 那 たのである。 込の配を調ら 业 FI 。これでのようははないとを見るが、これでいるとのである。 团 。や年了 震頭を用る、認識を治するこ 場の脅うあ 以下藤い合も、し」とあり、 を通過して出るといえ意味がし 21 際おびら東北の 34 やおらこの意地を取ら 血を加いて野瀬の釜るなら 大きしたあり、そのはこの様に 頭は 00 いるとしてもので 54 副 意味から行り 〇衙 0 2 34 11 那 0 の手機を随 · Se 淵 目 東 古代の 0 門耳 FI 绷 ful 0 0 智料 21 24 那 21 ユガス競 26 Q 0 B M R 9 , ~ 目 弘及 鑑っ 郷 74 田 U 21 一県る場 一番のうと意識地談 Z V 2 C ひえない ころととろがから 0割 は常器 B 21 墨 21 .1 2 FI ful 71 少 34 5122回 M 21 0 思显 9 到歐 4 21 C 0 161 24 M 1 0 R 41 1 9 炒 :4 FI 級 of of 4 北北 4 画 山地 U 6 R 0 £ 34 =

こが水草断箔

SIK

(参助)【当な行し、悪な類の、強な制しの (参助)

、こ門真。

明上のるのお

「風を殺す。

県

É

のが良し。

De

0

白がい。

鷄頭

こ門大攤二瓦ユニホーキャリ。

(11)

當調、쥸飄各 品様は飲命生意いある 多个 防室紫欄して骨を去り、 その全にを食える神経の 「気胃いお、 よび素欄し 県 ア呼び Į **교手** Y を呼 1

際であす越り前 主 演り欲えなけである。 翻翻を持つるので 好問 反目を治するはその 京等の政策 4 > İ は○急 34 0 本るる主 Hi 發 2

S

51

宣習を内に

「小鼠の」

県

Į

てなななって

21% 「一本~中」 规 冰 北下の」(事祭) 咔 泰

tt 譜 緩深 TI 俗間に の解解の 吉木る ·山羊 :1本 0 17/1 I . いい。 ffu W.

宣亂 調がいる。 2 のア五地で紫瀾、 これはやは、 > 0 825 41 畑を経営 51 (1) ° 年數 終する特を持 ~ 2 IIIC 国がと 公母 12 四 ない (水) 北で 2 21 並徹の 裏に回る 想 家河 XX XI 不 CF St 制等 2 0 C 9 8 111 きには る万米香里文献を 0 なの事の :17 1-1-17 了計 心理学 1-1-なはせ、 2 N 7 0 や以及以 9 8 2 SP 5 ~ 7 ìń 4 21 :4 74 田 :17 1/1 が 東京 颜 4 JE.

B

9

い地方とおある

1.その産する地たと産せ

影響

(1)

T

M

٩

34

0

1/2

24

M

11

ス

믦

NX.

2

p

1

1/

は行か

21

11

(k

2

47

M

THE

(0)

[4]

兴

Sig

い志体、古かへ親リニーティエ河音 加刻 道二國人。 CI ID 漆具

の工事ニサ 対手 職へ 附手 \ 掛キ スルテノ 深大ナア CID*林(重)日下。 大女脈が

玄心い食え。

歩ぶして 素減し が減し

棄てる 蓼 黑 こま、大剔碗 口 24 24 活血をご があばるな 命七 Y 2 74 あるやう 返は 世 小 21 兴 PI 0 中 電腦 74 ユつ 命をてから置角 41 口 那 立 2 2 :4 7掉 0 21 2 75 B M 気血び天 神を安い 24 山野學ン突然及したるもの 88 0 び。(胡参) 170 S 郷し名 随面は鑑 Ξ 继 器別 着き 7 いい 線の 息極 高團 交交 21 1/ 、ついていかいつ 75 R UK Z R 0 0 那 唢 逃 中 H 0 -1 P र्ग्र ¥ 4 圖 2 7 , ~ 日 置 穩 0 12 74 那 Y 11 0 人(加巻) は歌 シー 74 8 9 。温 8 中 京でその 調を 益则 新記され 同語いるの親を開政 池 4 酥 口 悪で まを 2 亚交 .7 7 # 21 0 場派の 会、掛心二会を味して水がして 200 中 21 74 で減 MI 源。 排 おいてる 0 水水 TIJF H 陳 **刘色入** 外 N 活血を R 第十一。 渺 腦 辨 交 24 71 FI C 腦 21 して過れて ある。(村巻下) V S 21 21 4 ある。(は後) CA 中 CA 墾 。年界及 Ce かつ 94 賣 Ш 21 4 FI 캠 強 R 5亚 2 2 2 凹 2 :4 业 树 47 hil 21 뒢 XX 6 414 71 # PI :/上際 中 :4 21

震なあるゆる最を食 お罪び屬 **%** 亞 0 高近 とあるは、職 · 2 04 諸毒を治するは、 2 0 最ら掛し 用する。 2 P 康 250 水当 21 24 0 5.34 體 競み 至高なるものた 914 0 哥 が意 5.独 (D 2 21 "與 U 2 2 6 4 别用 2 側 ンつ 至清 0 ないさ 啡 近の諸親を治する 71 21 TUI 显 Giff ij R M 7 P 2/ 圖 穩 0 R 21 21 画

場様の求留する 冠血 お編トノア血いまり肌い数 けるものかかる。中語、衛科の諸説を 天习本でしゃのであり、上以縣しび 產別、 21 坳 の食である。 用るるはその 山 圖 不 0 がのかる は関いして色は製なるも の下能へ肌を報 9 :4 0 れた部分であ 一支三 FI 血調の中れ 際活血は、 場であ 中と の中圏 ×4 事 新 1000年 画 少連 島村 辯 2 71 であるう 2 14 0 4 # 000 2 ffu 一番 0 0 0 NI S 慧 2 36 中兴 0 0 R

R ける次身 に本、「おる器中は北京に関題、「おる正と帰口は北京に倒 をから といる はないない 果 主 問回三い毎日 【つな筆ユフい立、つ轉】 耳び入らたるび塗ると神経の まなの日小以下,のよるすとんと命録の表近縁に、 議文の日小以下,のよるすとんとの語の表近機に の言語の山を内を治す。 郑 源 るらめる題の が際のものが以し。 【点震力」が浮難の主数はある人は縁) はいい。 熱を報す。 は少さ三年の いかの 画 SA 池 0 対ない 襲玩血 随 : w 0 經經

(14.)等,本草州語三倉(14.)。

7

東門土の驥鹿を末びし、

。一條

54

114

いを譲継される事研が。

いいまれて。これはいい

『ひ日な

华元 54 島地難血な心 28 「流骨の形 「鷲風で 回頭する。(東知) 3 CP 事を腐り \$ 57 です。 でする で 重量の をの し 合世 2 251 白縣血を烧消する。(電話) 刑血 い。(南部紫錦市) 高前10 (最高を展習い)の「別別を返り」 線を強へて川るれば新毒を独ら去って滅える。 FI. 髓 24 S 21 CO 血が層の無す 日を去るすび熱血を帯がたなを思者の 下部がよるなっておまらは。決却やおもこれを食おま 縣血之熟下了證 2。(午金) 82 CA III の農職職員の 「解めの米目」 「あるめる蠱毒な網す」 耳 徳方ある。(青華) 8 除止。「劉毒」 000 CA 回海中回 CA つ間 (運場所)。公園はは 命中 0 RE 型一型 瀬に日 2 影響 山地 独る計 立ろいれんで 0 24 **门**第 747 本 部の記 0 0 11 0 腦 Hu 学业学 はいがい上 314 1 树 意識 郷は 競 4 PI 71

独襲越下の血を塗る」(瀬 田 会帯を開 「調馬子を添する食り受わか割、及び 前致の鑑派判別を治する大木中ガやおも 思排 · 學學 丹毒、 及び鷺風を治 別難 八明籍) 言を記している。 , ~ 日 然血び影す。 れば小鼠の下血、 古を京るる」もの 中惡刻部, 及び続き 1200 21 然血が肌方 いる道を順 年思る劉 を記される。 000000 Jing Till

以 Ŧ 「して書なし」 、「獅」 和 Jik. いりはし。 いなの職り 腦買 察血

るながる画ができる。 整議に血を頂上り節し、血に蓋をならぎお再の 戦へる。 一些验 表で良し、(書幣) (場上) 婦人の人様 養器血を減ら72盤の下間が 重新する スプ 12 5 3 B 妙である。(調五小見) 雅震送血い合き受し、 株の脚よ。(帯難勝) 元同館で(相談) 数目のして自ら滅える。(母壽堂氏) 9 小馬のお難職を用るる。(相対氏) 縣添加之至20(集總) 同上。「聖徳の議び中 以因して下玄別る。(副寒藤要) れた窓」 111 :4 :4 目 「黒い刻を の血を耐し、それび赤管藥末を儲す 中に衛す 一次即然體 耳び入しけるとき】際伝血を耐入すび知出る。(細金) 【源準口器公」】 317 雅縣記血少量を口 震活血を強る。(経時な鍋中で)【限級の刻象】 然な変数のためい出血するいは、 雅殿添加を張らい金さの(赤がた) 早期以管報中以對全身以及人下死亡专る。 題 、空川交渉無はな質談がい。交換表明思議 話血で陸下中リスパア滑み 习監管をして献出れ事は強い、 (軍の)。(軍軍)の関係の (軍軍) | 古は風のアロから出るものである。 11 21 CA る。(音数で)「発音測缸」 -A ff 師 丹林 このからまでの対域で 草火 調の (時) 辣の氷 14 IE : 到 317 Slig. H EE 远湖 【點衣堂 [小鼠の 熟五六二 074 別 劉血 到 0

これ、漫遇へ計遇。

ことは日報へ沿って

罪入級భ藥

「鶴島の見らびお、一陸よの「朝前の内と等か 以 £ が際のものお良し。

地を地一このかを日本識、地中のタンの真の臓瓣珠【海淋虫が】 果跏趺の館片 『別様で就を試するの』五部子、遺跡子の煎影で新って 課劉什玄盟ける。(醫館) この、原本の一般を別す。味ものと到るとなる。と思えば、一般を別し、一般を別し、一般を別し、一般を別し、一般を別し、一般を別し、一般を別し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、 【日常の屋外】 後、独蹊剛を温りる。(結をた) (電車)。 名頭しい。回三日一る 。回继 4 附

【致心习施わ了出表別习鑑わるは基対員し。水ゴ外し了影影习窒をお下嫁外】(報金)

【つな筆つつい寒郷、つま】 池 高地震のものは丸し。 原

県

Į

封心等代を はないて 小豆大の 成功し、 一日三同、 上が でい 實帯习む白譜骨を成へる。 刊 議排 中の電風」 玄米館少朋古。 圳

金明ではして小 **T**. 動目 酮 養を称り粥を煮て食人。(養老書) 念人の記 太ゴし、一日二同、一百太でつを酒で駅でできる)【刊龜目嗣】 の分を切って取と米とをはし、 「急感不鳴」 縣币一 郭智 4 豆大の FI सिव

るびね、ゆれしア耐人する。蟲を旧ら出し霊して負して細の

初人の劉始新る合を 高品 一面を変をありれ 「風龜目劑玄報'上。 「名を財す」、「育を補し、心理解を合す。 ○ ア暦五合3時しア駅す】(金銭) 16 以 网络社 Ŧ

『魔を食えびむ刑をたる、人を味せどるかめが』とある

洲 Dik. 00 21 0 腦 阴 拟 14 0 9 P

春郷、く日珍様【しな様てしい間、しまくれ】 いりはし 出

縣、辦、始紅、如《霧 中級中暑下人小の

(三0、近下)

[cito 五形](แ縫) 県 Ŧ るの治域し。 の職 島雅 গ্ৰা

さ治す」(編集)

封心十八彩、理葛六粮を共 (養多土)。全田と自知難山のりかば十一名廷はれ 楽見というな革間コスルンできなし、 「年人しきて難」凝如しな際間正面、 る子を奉こて順三 間総論す 日 十一个公 文人で順じ、 0 W 栩 Y

21

鴚

21中直

気の割いて耐で肌すれば難金

驚順。

「小鼠の

県

Æ

の、公負し。

多公髓

雅

目

쨺

できたのかで、そのなって、 (大龍歌でその楽さるかのと神会) 陈。 11

「福」 早 Į 「十し、寒いして毒なし」 洲 源 点雑祭の中のお良し。 (海明) TH

「神跡の耳が入りなるとき」生成で蘇心血を賜へて敵がが出る。(蘇籍 焼器血を含る。(重重解) 7神 田船 (電量)。公田 0 金都 PI

Gt. 华 腦 腦 女は継を用るる。 放り別を割いて対をおし、西 なろいを 『Nations では、 William では、 Wil 0 20 雅 1/ 車 応 次 職 う 献 い が が が が 「凤胄坦愈」 21 小馬馬子 四十つ朋方。 からに数 女は継を用 海葛玄末びしア等代を聴騰で部下大の 白器で脈す。 則黄虫を末りし、半盤な除で肌す。(そむ細種) のとは動しい のよびし、一日三回、三十よいつな監水で眼す。(ඎ) C 9 果お神を用る、 男は地を用 縣內金玄常门研 「小頭林雞」 感いて性を作して一根となし。 際内金を成り製 「小動戲来」際劉到一际心 界少服事。 面で聞くて現す。 女は継を用るる。(集織) 【禁口麻熟】 口爺」 別知意以を熱いて性を存し 縣腳至 6 つな一面で風す。(神経下) 羽台を憩いて性を存し、 腦 【~葉つ水県を製屋】 動内の黄丸圧緩を割造し、 「銀月 除十八、 て施える「青章大」 男は離を用る、 語し、 別客鄉 語師千大 る。(圏林事要) 。(活放旅書) 腦 刹 1 C-74-X. 师中 218 (千金) (下分) 1.14 班 構で + W. 迎 調 IE 2 0 21

「一下の口翁、不称、諸我公治す』(神念)

隣、「県を繰風

京の間を報じ、

大人の林園

心局の意動を留し

(華日)【公祭下る

作い。日本大郷ニ鉱下三野中でり、

第ではして辞子大の次づし、三次でいる行で別す。【小頭の幾乎以をの】 ではる。 一部中 四部回館 上端中 發 別一なるない おけるも の事 三口の題の三 線の前のことだ。 未谷 夏前の置いて過を FI (参展)【の中的年代限の御食工厂監察以下、の中的世級の個小】 を

発売する

いかっく

添き

いが

が<br でるない 男の ころのひれはなしてきり 近出了打一分打るのをを調内の黄丸と却えてとる電んで驟内金と却える Yの物草に中の障器【のゆめら運の物草ス了語】。三巻 Z 、是深、多本、「に半て」は多味しい脳へ「殿国へ近異、や何心郷層、是深、多本、「に半て」は多味しい脳へ「殿国へ近異、か何心郷」 重 間 4 鄭到の音も刺説(ロシ)である。 派血、 [城(三))说, 八と話ではして強いし、 21 TIT 大幻見られることを思い了子頭気よう が表が、 以次に副副一件刀別白業会を未りし、 11 及20年前的黄丸多数3两0 ¥ 大学の一個を上名の人間経り 。 ない 出 「つな罪」つい止 練五で熱し研り、 襲內金 へ 下 茶 ら。 (圏 林 五 宗) 不公公公 1/1 かいは独 で出 い短上ばを入れ、 製造 贸 県 置するもの。 は桁で調 語裏の黄 急人、 がいる。 CL 鑑え入れ、 4 Ŧ Y 田 背爾龍 740 。年田 Jik 彻 21 C¥ 0 品 ---1 。届くルトン -1 大觀三郎 胜 6 一班十二 h -{--1 (日日)動所へ

ころス製

さい。

つて 酒で 肌も 】 (漁恭) 地 熟色品 FI 三年 瓣 以 Ŧ h が良 0 B 0 腦 317 目 引

54 及 人しく窓 鹽別で固輸して赤 いを白球び熱も込ん 職職の撃魔な原因で派血の働きの十分なるな ひの額中 出此黄を割じて二兩と末びし、 「間との(霧壁五蘭) このまれるがはいいます。 はい。 その対骨は自ら 7 21 75 40 の職場買 骨を研末しア頭ア栗米 000 一両を補か黄り灸ら、 いなら 我語の膏薬で桂 中八時骨あるひは、 7 ~二。 自然間 中の盤入し、 用 R 題しい献か 87800 この百角で 4 が減ら では一次では、 141

吸盆器人

のの日本では

でなるの」(明維)

【小頭頭もひして置するもの】心鏡かお、独陰別一环会で翻を引 事/ 文明 挑္熟場を水で煮て、一日三回その谷を服す B Ŧ ○普灣かお 点骨際のものは真し。 明事 酒いおして 1 制骨 핸

憲人と対えれて、三部とって西で服す、(職務) [置酵白器、背路を止める](海路) が元素スフに蘇利画少 で記述 県 女は継を用るる。主 、や川及脚 FI 16 F1 21 왬

し、竹曽字即中37池人れ为消する。肉は見アおならぬ。(器主t)

9 に記れる。 **農加労丸の水刀落ちぬをの正箇、計禁圧盭さ研のア渋る。 ならり滅ちの** 際内金を水り落とすり法色 П 0 そして背~《森西鮮通古》【終背の口の野水から】 楽師選支を解案と共び割し、末り、 である。 2年脚誌子24くフン、人名は西、米はに玉幼【脚展館ctur要】。2名懸はれ採して (製器) 【小見の歌目】 똃調黄丸で瀬水刈自る落さる。(重要な) 【鰈骨の頭肉】 寄めな際 際内金を執び、響金と等仓を末びし、鹽泉で燃いでから祖る。米角を島む。 柿の加きものが、(解鶏)「問題の生ごな報」 の合わなるの】震闘到虫を日海り祖る。【発背の時限】震動黄丸の水の落ちぬを うし Mを付き取して銀内金を取ら出し、お寄して鐙章で墓み、火の上で割いて地、 影 ္際調内対立が飛りて狙ら、一日一回見へる。十日以して滅える。(小山舎氏) 光で米市水で電を光 所なも合す。(※顧下) 【蒙萱の生した意】人し入縁を切けず、 **黄**的末等心, 計製の さんな、光で米市で新な棒ので終り組る。【剣頭の帝趙】 液瓦で熱して働くし、火毒を出して解末パし、 際加黄丸を劉人の上ア割いア割を称し、 性を行し、末にして乾して貼る。 34 ○心鑑では、 呼級では、 B 感いてい o C W ¥1 21

要小

6 0 显 スク 1 4 9 班 シンハ がなる は誤れる。 0 8 RS 禁形 (0) 到 1/ 採 1. 1.14

21 # 吐 2 酥 5 法 を水で Mi (0) 哥 2 到 見を産んだ 5 熟 飘 21 FI 图 21 話 FI な離を治する R 21 V 8 6 hai 網 -FI R 掌 1 21 0 記者参り出 るとなる。 54 9 Y ある」(孟籍) 21 (0 1/1 79 [4] 1/ 0 廊 2 X 0 0 8 6 17 いる出 别的 \ Ŧ SE. 鵬 PI 部門 R 28 士 F 2 34 割 很 41 MC 動 2

g 熟 大手各一本艺玩 .1 末 0 の番を解す 独場が子 泉が熱 4 励を成り熱色 24 21 函 M 0 の題言を上 Y. 21 0 7 21 製品六本を割いて到を存し、 # 白縣級 狠 秋 0 主 图 島縣 0 士 緩緩 左右翻印 総総 留 0 金 F 2 製品である からであるるのぼ 14 6 「勧人の戲風」 道 ず、「千金市) 髓 御 として離を独 MIDO & V 317 那月 鄱 生じたるるの 到21 て服 肌す。(集剣大) 通 24 四類骨 外用, 写見 割けるのいい、(相勢大) 0 ~ 突然の刻動部 贈 なるい音な職 彩额 0 С 寶 多 6 及习 到时 ---す、「一金麗) . 関が対する 服す。(千金) ひ割ぎ,水で M 1. 酒で方 FI 21 鹽 記古い聞って # 越る切ら (初新古) ナヤとを習で眼 す。(小童) 002 41 00 会心の画で 370 Octions主法成 狐 熟 够 X, 删 即 21 2 水で の云海の動う 2 3/ FIL 1 不 熟 3: 0 目 2 A. CR 11 21 型型 R 腦 即 北京] Ξ 米 71 H 媳 罚多 2 21 0

骨頭を下すびは、

熱 21 34 書! ※tp. 【平島との劉重】္ 纂の越王の一氏は二本生をたるのを対び 28 雙方面, 大利なない、大利なは、大利なはの大陸を知ら、 服する。 1 いて能 सिव

CIIOン大腿ニスホキュ

냈 正式であっているよのなられ帯はある。といった。Xの調はいましているようなのなられ事はある。といった。 雅ら縣王を落して結みるおよし、王は直下以落ちるとされ 「海棠」にる小様。私の中上を通、「傷を纏、「鬼を順、りぬを叩く罪に路 派は録~して那器の場合びそころはを集中する 本い熱いて操われが風がたろい上で』とある。 罪を風となし、線を異い圖すとい 黑大〇丸手、 「凡今古来、又为江川ゴ却来中J蒜にある。今の全を直示J中ゴ人のアおなら及。 西の日の白鷺の広の歴を減り熱いて無わると風水立との水で来る。 越高さ れば古ちに死なるのだ。 はのは いるれらはなって 語がないが、 なである。 Eff なるま 競

こまり五へ正行き云と 利キガル料明、日午 と配中日日チ 西へ参セピイスト、 正行へ木火土金水+

記載は外藁ひある

縣以一依代を減り割い了水で服す了細舎

(H

【本祖文陵人照以王翔上。 本上文图四】

0

1/

調査を報す。

、卵面書、「現る纏隊、「思えのすが先秦の強小

以

おのお真し。一主

の懸

那7

買

隔部

「熱人の

の器

るの社の様でなならび間には国人とはいるのが

上的 50 亿 生

W. 新家は 熟納 り参入しいすし 縣夫 い食はれる g 以巡行生子、原治宣都中内ところから中都を断し、その調法, これには際夫題を主として用めるおよし」とある 水冷気のア土が織 54 題が以為れるから週間となって小動は既く題るのけ。 臘用の乾 よれな 「裁獄で時びお食 54 0 び水の鉱化は十代でなっ 飯の萬全不轉の資が過とい に結節の頭の現大するものおみな焼び園する。 「線・雪」音響大り 27 利する 0名为了 0 咖啡 ※十三米 R 以票 十份 凾 FI のやるも野てつび 〇 1/ 、加十星 20 の警察介定 2 9 T 华 のもいい 21 2 14 大変は 顸 W. 溢 R 21 :4 1.14 3/4/ 0 XC Sul 2 71

出て窓 商奮 9 は能へ気を 0 OP 9 :4 171 避 0 15. 15. 到 最か 出 R 41 7 14 ががり、一般を 縣縣 1 14 0 21 * THF 晉 は一言様 排 きれ香器よう気るものもある。 ある人が 中コスパン薫すると、 21 2 から鼓腿を治する 一夜にして始め 晶 O CITES 青龍年 124 置とよ 寒豐 来 34 のマス型 21 一方の響が 式 風を証はするも 方である。 0 海 河 河 河 中で燃し、 は凝壊なる生ど 金三つ 、世界に 聊 0 1/ 即 2 いそこ 被步 は地域 熟 ¥ 画 鼓脈 U 6 2 PP ? To. :4 2 加 214 源を消 R 0 , 〉日 2 業 0 54 0 8 闸 る。 不 3 E O y 河 0割 學 1 0

> (II-P)游出《全、弦平東脊膜陽(人) (II-N)脊髓《脊髓、脊髓、脊髓、脊髓。

を受いるのとのというには、日後カコア自身のよのの対は、

心寒寒いして毒なし

规

THE

素問りお際決と書いてよる。

更い良し。

越際の風いお白はある。

屎白

(小臺狮獎)

無調文帝もとおしてない。今の大名でお、馬び青りア現することがなってある 縣原お小動を治すとある 一種コートロで』とある、王州の揺り「本草ひは、 いれた」とある。 99

随は食事を最らにないなり 層のして反動が 一、「これを職所機はいる上記をいて、これを子順職はいる上記をいて、「これを職所機はいる上記をいて、これを子順をはいるという。これを子順等とのは、 素問ひ『心頭は漸し、 執するいい 一、一日 Hu 競

小動を除し、置風を加 風車を治す。血を勤るひむ 黑豆以味し了炒り、野以勢し了別す。全な蟲効毒を合す「無器」【尿る不し、大、小動 0 水で取 通過の効毒の違る」(海谷) 後のころはないはの本学、 **勤烈中風、小鼠の鷺部玄嶽下。** 及乙醇節。 「「東スリー、UNK」日記風を出す。 風歌の祖のJ(H華) 「観測」 調ではして理論。 · 家公治中。 石林を扱る。 、「想を腫瘍、「男を腫道の、「対理を 風の毒を解す。 聽或玄誠中人假籍〉【中風〇头音、 惠彩寒燒ochin 大林竹を肌をれ対金、 、別別 県 Į 'SP

CICか自乳風へ急出閥 而數減宣演。

(三三大脚二(水浒)、

職で装記 熟 F1 21 酥 田田田 骨置 油 21 17 名の中田 0 食物必與 0 スコ 21 熟夫を 「米を食 2 は乾して半乾 县 部子 * 0 Z 0 終予の 母 水六合か
市 歪 自 0 い刻いては七とを置う別す、(新費) 【韓節の題の人もなるもの】その 上及史 Z, I 82 間 、り扱こひ 縣夫 がせんとするには、 さるな 8 0 0 H 省するを到とするもましの(集館で) 次コノ、三江水でつざ割か現す。四正銀で蛟はある。「金彩の歌」 继 H 6 14 藥 别 # 170 日二回、ホトムなのよう物様で角肌する。 TI TI 24 日み Ġ 大道はこれを献んで響のやうな状態が簡単 排 総仁張で 製み美自の番のゆきな語んは数 de 21 IT A 際夫を未びし、 際天白, (1) から南水を出す * 髓 で食 島骨 スない シフ 出って 【石林字部】 良八 0 业愈 領ユ 17 0 祖の土下微数するひは、 # 0 7 7 川で町の 别 口 2~ 21 發 七とを脚す。(裏五大) 12 た。(警報) のを用るの 鰮 好んで生米を食 江南地二線を竹 0 「華中 鍾で 7 米 「小児の血淋」 ると治癒し 逾 【蓄菜の 一、つい半につ 57 & 水 2 X 7 0 一个中へ中へ丁 会館して末いし、 水でかった 阊 21 順 `~ 雑覧で 57 08 00 大木 田 川葵以思)。とる。(銀行葵川 · 非 前 34 いい、いいのでは一般的 香しく沙 6 及 0000 7 21 71 14 M 4 0 34 须 34 W. W. :4 21 0 際決定 て顔と 扩 郄 2 Y IFI スなり シフ 6 2 0 :4 -别 0 17:4

CEまえ難ニ漿Tニ効

で調 温が 7拉 の気が 治療を受け 2 的字響「県区な wを書)【心頭の難頭】及れ常盤、柱び突然馬の方嶽のお、自維鰈を通で届か了遊を現 のともというでで ° 場で別す。 黄頭する刃割、海際夫一 題を水下 資源を対象を 闡 AH 山 27 0 いて行って鵝螂をしたといえところから牽牛酒と名けたもの へ入れて織でて食い、 现 必頭して頭が 21 17/ 強人の合素が改を選わた。 勝で丸 米ない 批测、 は下する。それか聞下から気はたがうかのけ。 が、一 9 显 ナ水うつ 0 はいまて動してかを倒む。 動と挟び瓦器の人なと黄が熱のア末びし、一日四五回、 林竹玄取 回三 川吉徽等分を未ひし、 水風等とびばらず、一 熟沃 留する。(計善堂 ※銀ま) 【小見の<u>朝</u>親】 蒸箱で小豆大の水ゴノ、一日三回、 日 中の酒る窓を置一鷹田に時間 郷場で 間責け、 ○宣明でお、 -際夫を炒い了柄り、 2 日子 CP 縣六、 H 21 西部三海で一 服するなよし。 、マ雅澄 R 中 のある情がこのか 0 ○あるおでは、 长 **遠親と、**漆瓠と、 · 一个 正東アは、 い下が結み、 中玄黄江炒6 いる つて適製は遺 9 録さ末 リン 速みな 中午を終り盤。 ニューコ 6 7 麻啊"。如此 别 -17 喱 H 6 風 2~ 넴 未 别 貢 71 丁香一 。年以 贈る 关 FI ココ R .1 耳 远

輸十全式

到 1/ 光で歯財を独 察部の李京順は響ア を機しか無対断二代以致人し下服し、行を知る。 耳は鏡の今そい動るは計則をいする対 NB°(夜臺)【面目の黄郎】္際文白、小豆、錦米谷二位含末ガノ、三回が代わア水ツ 即す。黄竹は出るものな「旬巻も)【他見死亡】(m)、粃္養二十一箇を水二代(m))江合 CA 老年者も二十日を過ぎず、少年者は十日にして必ず 用のア奏校した。【耳治聾して聽きのかの】 縣夫白を炒のて半代、島豆を炒のて一 ホトムを別す。三服で激える「金野」【序題効察】 ホお上が同じ。【内離の未がぬら 縣大の自 おまなるものな知のと対の割いこれり。(東五野園は)【天園の主をBとり、大人、 際子白を割いて末りし で煮て米な人は、晦りして食んのは川で煮り【尾形、尾癬】鰈夫白を破って初り、 酸らび緊服して着おしるる。(千金ま) でより熟える。(評論で)(真血の山をはもの) 親省少量を入り、三晝亦林を予熱のア焼サしひるは掛し。 「悪経の恩出」 除婆は強って三代の断中は責む 震夫日を含んで作を調びで(響惠) で挑放して血を出して衛ける。 う い で い が は 動 が 切 い の い 批 際 夫 生える。〇音がでは、 いあらずい 果 21 圃 w the

GOD大腿三龍ユニ支

2 取り話ってから思者の 張す 北 て 消 商色の 縣天白一代玄黃 0 四型不割のして)原属し返す 2 際天白さ楽の大いち刻う解り悪み、 日本書 をなる 通 6 場が 邻21 用马凤 一代中を入れて数して一 いく日常 百十百万 いて明ず、(千金大) 「小鼠の」 類 帝が正代を献ら謂って合か、それを下同的人 臘月の島際天一代玄黄、 大豆に代く黄り砂のフ暦を祝き、郷し煮フ豆を蟄み死をか、 いている。 「小鼠の口 張い出なときは最へ去る。(悪悪) 【小鼠の驚触がる 四域题。 【海風出」(はない、が対し、「海澄海」 人事不許なるのは、 、フ繰口 こ様に 日二、服。(胡教) はせ、夏八しア陸灘を加いア佳い、 青河 「知為中風」到者対話し、不愛」 風を難ける。(辨鏡氏)【着数の中風】 東木 归 中玄際天白一七と共び砂魔し、 小見自五合玄照方。一 あるけでは酒び フ繰口 ふい風し白しなるは前い風する。 「頭風の うな。 が翻述人れて別して行ど加る。(素養) 中風寒車 所三代を入りて獣をまず、 二字玄米均少別す。(子金は) いか脚する。 15 職7章 · 2 8 際天白一 小を服し、 する。(題作最大) 77 317 9四次上 黑豆二十 -合う煮ァニ まれているよう シック 31 FI 16 大人は 赤しなるの 21 All 1 ¥1 21 9 は機と て館み、 縣天白 TW. 0 惠常 27 14 Q All

引_O是 0 P 適当ア 職した鷺子で黄と自は温難したものお भी श्री 日がを作るが用 以 1 É

瀬に対 。執 子ヅ 阊 いく日間 葱、湯と味して食 島軸のものはこれに大い 全公頭金する泉源玄 | 湯米と共び食へ気生見をして 蟲を生すしめる。 瓣 と聞え聞い、 八十〇世 。公母子是與與 拉輸允 34.00 とからなり、 と共に食 9 いるととなるととなるとなった。 微寒な 、つつて不なのなの 風味を動予しある 鑑点を のの日く、四部の日く、 7 と共び食 非子と共习食へ対風部を淑 黄靴 【つな輩ふつい立 張肉 きりなる人の頭中び輩あるしる 見り音を生みしる。 である。 9 (是的) 逐月之数 見で証がを思い を生ぜしめる。 襄啊 て引 9 da 9 .FI 事 なって PI 11 調子 は際 愈 , | | | :1/11 1 21 (世紀) は家 沚 21 1:15 ? 浦 OFI 41

P

14

数

にして立ろに

日

回

Ξ

s.

電る場

殛

例

平

智能で肌す。

不

0

公平

IE

41

る。(吸筆百間

×4

21

なが

ままず

21

味しア番子大の

表頭子で

21

公部正鍵と末

9

班

27

텔

1/2

白島骨縣泉正錢

「渡りの近小」

容を去つて機湖市れば山はの(重重職)

け入れて該し、

が終り

ilit

(阿芝木林(重)日か、 鉄子へ蘇明・震遊(キーズン) イ群な。明 子(テンツ) へ昭二非 光製成ナリ(谷稱)

が 整連道 H ,前、口 過み半内臓 なは、鶏屋が 製しの 17 急毒製 スト気の 锏 E N FI 21 (1) 动 72 36 21 M F シフつ 1 白際天の白色を 12 計 0 別な問 黨子自和 服で部 H 鼠 B (軍壶)。 放了よる。「干金九」 那 建 印表 がって 好色 る田とな 明で代發せるもの」をとなり夏となり動るもの 中 o Te います。別と置することを 常業 「記録ける」 2 エムンエス本 金を食って X 務制三元では際 でで 形を館が 11 こる運 重 1 り、海際同二代を支、以び 20 骨が孔 R 「快工緊靠」 エンサ 欧 地 1 2 (多と)のとる部以 . い前にて十郷し 瀬わる。(午金) 旗 24 際天白さ炒り で林行を取ら 0 0 際天白を張い大 21 升 44. 「無政を消滅する法」 8 なるな口 21 34 CA 计 たならば出るる。(年金) 骨煎の合お 不 (0 8 插 ンつつ る田は U ス水 TH. 展選 雨を共に 別す 圖影 ち~内、たら)野と三八の融 7 胀 0 P ンつ 2 M 0 Ti 評 0 引 中 引 水平 P シー 2 金での(前巻) 當副各 啡 加 景 CA M はして形人。(千金) 业富元谷 路命少氏 21日 21 圖 :17 2 かてい 際夫 Z る。(小量)。 る .1 験と d 郡 到 :17 言語 EM EM 21 T 24 。至年21 FI +1 加 * 21 28 では では当 青 41 3/ 2123 (0 (%) 歌 Y 2年2 訓 大大 ユつ 決を取ら H 21 調り。(掘 5 腦 2 1/ 1/1 がで 謎 21 省 de 升 派 114 74 FILL 2 不 话 337 79 0 CA 後方 7 21 素な ら間 0 21 2 4 74 24 衛 o The 器 班 44 TIF 2 8

> はないいいいいはなな 1 如 1 (民民)工品 い麻い

뫪

= % 北 美 計習 Pl 21 生んだば 調 高さる て滅 21 0 出とすれ対激える。(結び明末) 沿水 1/4 班 めて黄なるも シンハ 0 FI 油 窗を水で煮て三江聯し、 ができている。 21 盤子一課を競のをを対り割 不 等于, 事 日に行したるも 独 極端なるひは いい語が 量割と人 中なる蟲は出了奏数する。 0 100元がである。 自乳風球 劇 るよ 国中的中国 演製し、熱の 照子一 水を鷄子 なるないない。 「三十六黄」念域はかお、 は面もひ吐しひは 監を下して肺炎はある。(杯臺獅要) T) 「副家勢冠」 U といい。 天 Y +1 真 到 0 旅二十三。 事 21中 温服する。 して不び。(重要) 51 震冷風王 VY Y 投ご、 暫八 ある。(金融) 4 ユフ 21 寅 # 4 吐 54 記事が 合で 顶 0 树 :4 21 級 9 11 ·4 菜 XX 圆 TY 2

〉 血 8 24 21 9 26 治事 6 CH はその置と白を棄 罪 証 脚 全體としてお泳と血とを練 寒 黄お マル 點 HG 2 21 0 71 雕 舜 0 Mu 34 B ~~~~ 流 0 のなるも上行る和 H İ 将不 **状** 核 90 3000 性は脳である。 16 は船~原を帯し、 000 お下で 2129 2 2 q 孙 0 5 排 2 2 のそれなののというとの ないる 平県及 上記の諸親を治するの 目 6 16 T1 牆款 高越 21 凉 多の子 0 B 0 34 品意 0 图 2 0 8 1 2 麻 9 2 纽 94 漂 6 12 7 2 21 P 7 alt. 2 B P 34 71 2 醂 24 0 0 Tike 黄 8 0 2 B

HA 州は微寒である。 505 は青み、 沙田子 明白却天び霧ら、 · 〉日 o訓 o劉 ffu

额

文、然大白玄殿之合分了口以会的刘策與刀人下金の今之东西以东る。「小玄道之 明子の金融震 げ産 CP 田 凝熱 の調響の けるかけであ い畜参の動献を合す。 Pl H U Y の出し かって田 U 調 豆林酒の味して (小鼠の 太平平 27景地 田 影がふ一箇を煮っ水共り 阿事かあった場合は形を劉、 スつい 難びほして 合い三様をはしているとがていまれれなるい強える」「金銭 職以はして頭して用るれば小は小はの麻を止める 「職器」 おおおを取るか 諭 独緑の天於熊熟か弦まするもの、 例 壓 、りなる『の終を独行のそことなる関一上議句 A 会話を治す。 この名下及職其 **暫で煮ァ** 金、対赤白人麻 極めてようしたものになるが、 及公衛人の 「派公益古。 北以面して島縣子一箇を不めば、 、多郷を画小 (Bt)光緒と共び炒り達したものお新解 (華日)【中界及地班 船を衰り、 全分別糧夫音が開う。 SA 小職公銀 東公治中。 、名下ス線 煮下市るるのだ。 N SP 師 柳を治す。 业 ना 0 沙沙 正臓を安じ、 で変殖画 用流用 福 する治し、 画 36 IT 後の 0 587 FI H 0 P :15 M 0 2 刨 28

(まど)光徳へ特別。 まじゅん

傓

生みれ St. 提 「縁人 二时 歌と大口と残らななが、みあるとはいましている。 あるとは、大変となるを表している。 八十二 富を下班り、白磁を味添して食る。 「出 祭子一
高い
鹽三
計量を入れ
小別 CA 口 21 0 2 11 FI 李州 《十 本开 000 際子どかび参 水谷一代を共 【香港の したる場合に 取出しア 制 値 「頭風白州」 一〇の日子 一盆と獣半して肌す。いは、は離れ、 がするは掛けり(集鯛) 27 21 直よび安らんびなる。(都急氏) お船で値を四づむ、縣下小窗を非中以入れておし、 意して取出 三耳の家の 【慰疑の史甚】 ME 21 日 0 50 「煮後」こ血 でい業取って い食人。(神谷北) 「野葛の番を解す」 計 、一唇に腱子面鬱【腳門面集】(電蓋)。以發見以能 「毎體液尿の場合の動組法」 二口の家の融合一 その技職なして東ス向の下衛をせる。(午会下) 回端みれば数治ある。(祖教は) 2 11 一一千玄野さま子. 鲥 回(1) d AC ると震明を煮と日 銀子を酒で煮て食ん。 狐 -(出睡下血) 藏器日> 歯を下げ 7 見扱い」三日の家の際服各一箇、 玄郡馬五下り野印 際下一 H 16 R 、つ鑑業者 湖市。 計 の支票 · \$1 21 2 ついない。(子は編織) 「悪ツ CA 【玩誠制熟】 点縣下三窗、 少月,6 M してはなら 総かる 閉 高後の 縣不三简 訓 古。(班女师江) .丁一. MI 0 温温月 171 不 でる 、ユギ 71 (道流 回顧 5117 7海 0 鄉 電 2

山地 卧 影 ス場 頭 16 \$ 2 日 2 るり 「心脈) ララ 4 2 小水土纖 2 瀴 TI 0 TI する il 21 0 0 뽦 A 54 ? T 75 90 子 丑 11 21 M 证 2 影 文 李 0 食は No 0 * ~ Ë 4 盟 軍 0 を去る。(集成) 6 酮 はからからから かでは、 米粒 上繼 驯 5 训 4 2~ 0 0 0 2 Ż H 1 .1 Z しばし 231 27 24 24 Ý 本口 前 アンコ 強つ 例 顾 吐 H 中 2 0 27 画 V 那 車 财 湖 it 三年 14 團 永~誠が 洲 E 2 粱 TIF 0 1 0 海岸 h 近。 松身 い配答が 面部 で死 糊 业 步 河 强 子子 y-1 からまできる。 1 54 · · 派 徐下后, 뭬 瓜出し、 淵 0 H 塗る。(相談正) (1) 水で煮了食る。 意識 子が。曹 高を食へ るの(計後) 調 行 して煮了食人。 300 28 ユゼY~ 送える Ξ 24 間影 0 27 小見聞と .1 0 。(緊急注) J All 14 0 間浸 H 即 21 OR of 12 2 田 1/1 7 がいる 世 輕鄉 H :4 7 2は見り 中17長 0 永入証。 通 贈 B FI 0 6 0 アル 116 立禄(All 到 21 2 业 7 41 是一个 11 冰 いてない 7 7草 TE .)_ 2 H 14 34 21 9 0 % A . 54 製 i 14 シャ 間電 R 韫 <u>"</u> 江 111 Fyl 9 刹 發 Til 文 源 &7/F 21 A 子腦 ٩ 2 -14 沿 71 71 と食秘 H 2回 \\ H 9 2 E E 部流 ユつ 食 7 貢 独 41 R [77] 如 2 태 9 開 2 X 園 及 鄧 吸っ 鳳 IF R 11 不三元 圆 0 54 Z 54 ~ 10 X 4 R 7£ 面 24 E 班 -}-377 H 圓 山 團 44 171 21 21 16 12 THE STATE OF 19 2 阁 世 2 41 謎 謎 上體 2 9 5 75 Ce 11 0 21 0 -J-· Bt 濾 337 3/ Ш 0 山北 R TI 秋 2

2 7 邓出 6 e EEF 日光で館し、 ておる利 ンハ 上に難し重なと いて白泉で熟 一多七〇日 主際下一箇の白き邓のア勝 黒21中 型型 题小 おいまである。 して聞きた島様十箇を包み、 療穴。 「下麻液自」 hd 遲 11 (机渗水) 21里 1.14 hil

里 調。 牽急 20 帯 末 大 上 盤 を 鵬 ト ア 目流上び向 点္子次城中著 金多の血腫でで調える。 一箇を甍を去って青を伝け、 34 0 8 な経路に行うこの出る近水によ 聚子 , 〇 日 II. ○誤 ○施 21 京大学なる 發

生みれ 心下の汾陸 U 類とを予丁別す」(編 語の一次対して用のなが、黄砂の郊外ア大いの副様でるる療や「供給」 5 本を関係は、10mmの日本を通過であれば、10mmに対しに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mmに対し、10mm を期の 0 小見の下断されるる。報人の職畜か風ない出口か 【目懸赤좖。 代園、題新了室では肺炎はある。 「齑粉の血関ア下ら及びお、白一箇多項のア語 mon 中以人体、 県 Į 「甘し、微寒いして毒なし」 「赤小豆木を称して一切の熱毒」 (季時)【の名しるないのが、 被"说"。 一道, 利山 減減 か生で否む。 1:K 是公安 を除さい 明白 0 2

れとようは まるの(書所は)

肌する

コーつ

谜

以以

成本中一二次である。

悪 自 縣明三箇 小見い前らず、 大人人 「経験の闘行」。「回 21 の理丁 をならなられる

到上つ 窗を新 印 はなりの人な知るるめるとなるんろ血を新 言で回我し、祖祖以香師して子の衛は機する必覺をなときお易へる。 0 マ鵬い 及次十日以上 なっていることで く多瀬日つる 計工当け が悪なかのすなる 高貴の人がお用いななならな、あるのる 古当アンプ (事事場で)。こる室にといれて倒り、それを傷い合せれば立ろい塞るる。(意語手集) 窓をたなられ上める。 演典以して理葛を出出して独る。(相後古) 田田石水 7 一人讃臚、はたらななり薬とゆくや いめい間へい置いるなのできまり、「熱・瀬・ 0 () # ではられていかい 發生のお削り の京とかとしまるらの。一本と離れれまとるものけ。 を形ら職らし、過 まら血ではして強い。 「龜面難胃」 。公~皆回 7 四方際が極いて し手がれれが別のの、最高衛生で 漢 い日一工の朋をいて日三、お は高いなってといるのは、 豊政家部し、 。〜、郷を製三七畿 記言語言語 た場合の し続続い in St Co 21 多と 24 しなれて 7 は難 1 000 2 21 f1 71 0 9 韻 于 間 0 X 識 及口 2 B 21 监 TX 聖 7 記する 出質 57 でが 2 4 0 HE 2 洲 8 0 ×4 17 0 14 1 (118 M 便 44 U 4 -1-

> 器十ト (京代)血へ町へ

34 00 St Of 最を多う薬ゴ人外ア用のでは、製魚魚の大は得対各族の 際子お口 ` |-| VIIO

P 2 故い能へ派 關係を見たの 2 がるの なけれ 会中の急である。 のそに正はのなくなくない自己園門をなるかとのというの 虚を百〉数果 。5 直以前昨 熱を除き、 諸智を治するは、 際子貳加泳、 \$0 日今 その記載 補するのだ。 鱼 57 競 の母 0

19X 小頭不蘇 下兩を治 0 「語で煮て用るれば畜後 4男子頭電になり出てつ難。~勝子對道は~草へに頭を場を頭になり出てつ難。~勝子對道は~草へに頭 「砂つて加を取り」 当う銭商子谷ひは身し。 熱毒を解し、 **竹栗樹ツ駅すれ割人塾は合す」(選對)** 会血を漸し、 県 Ŧ 別ける 【日華) 【卒本の遠回ひお、 獎目結み外対数はある。 『コーと書なり』 て出 見の發熱を治す。 殿かある「海谷」 味して水びし、 ひからおら生でおい 淑 21 而都 账 秋24 山木を記 雨して西 1 卵黄 羽 龜麻 7 温

2 6 28 祖るいと 及公園物心量含人 てなって出るをはち (爆量)。いり類はなりとので 金華剛班 明六髓 ٩ SP 窗の孔を開けて黄をたり白を留 の別 小年率 い時へと耐んせい 光ってる落ちず 鬱みせる 郷子一大 。公頭21 もごう () 紙で 原ン

所那 東ご 間密 まな 址 = 21 76 1/ 思る日ム てユーマ王 【張青華個】 西京和 とれるない 箇を黄を去ら 蟲は直ちい出るもの が記る 是是 三21% fl 公子 2 頭 21 1 0 エンフ 滅の 多 でまる意 21 YZ し微し雨するを置き、 縣子衛 返出 別 FI *** 商 線返 シンつ 须 2 大人がおこ 三スと憲 際子三箇を耐い参 真して(千色) 0 。ひ宮子 縣子 蓼 場が続き 前 間け 小しる愛いしか 121 被診 (風報)。となく日にら今の言は、 水を担うひむ、 る食物 いで不び。 動いるいお がない i [11] 0 過湯少量な人 21 を動する 8 21 劇 iil 顶 て後る。(村後) 【るすく日を名置 運 21 山水頭 6 で関す TI 型21 一一髓 All い配きもして耐える。(真解木) の公野八事な川 「脚野の時間」 して以下し 2 いてお合し、 X Ė · \$1 ~ 認は、 贈 46 ひ世を日よび でが 2 113 1/4 半 CA 0 · 24 XK は最ので 4.00 90 D 班 排 U の著一をの H 4 題 21 P. けて空心が来 小び小 つ。(群婚婦北) 酒な著わて歌火で随 重 2 0 ~ 30 面柳 製作7年/もの なるとは 21 ユの歌へよ (運搬)。 縣子號一號 すると 顶 (蘇鍵)。 不 D .1 重 し、頭部 21 CA [1] 域 7 % 1/ 5 ik 9 E IN M 44 12 241 39 (MY 師夜 别 梯 、つ為沙 で電影 なり 学を表 ン川 FI 2 は三 21 n 一十个絲織) 8 * 利 もし、 21 X2 で館 34 F R :4 6 法人 出 All 2 U 2

14. A 年金より【聞土の泉津】廃縣子黄一箇、黄鱧一錢を崩してその此を鐘る。【器火鳥髯】 日間子なる養土以 ml、結〉。 永~蘇東を叙~。(東麓た) 【林戩の日习費ななるもの】鰈 慶縣下母!)一當の黄を取つて炒り、その庇を取って別後十文を入れて獣を信事、三正 なほ 「風薬の日い野はなもの」္際限一箇を米の人外アや日蒸し、黄を知らア漁 子黄を残っアラの広を揺る。場分数はある。(南海^強線に) 【天断水験】 t ね上が同し。 以ばつい回三日一、今体へ置この政を第一、選を選を関う正書、「居の」のはいい。 **着え蓋** 十一合い雨して 縣子黃公野行び味して野サで銀ず。二三衛の監管予して自ら気を このにして懸える。 男である。 調がを禁る 血分蓋含 漆 際子黄十四箇を袂と断二代で皆のゆらび煮ア服す。 服で 即で滅えるときお部見が 金は対人しとして自ら滅する。(異憲は) 【投滅組織】血に下してして自な地を Ξ 麻油 際子黄文監水习獻をを予ン別す。 。 とは解い申ばる薬のそろでしてがるといれる歌いか、 つく黒エい 「小鼠の題縁」茶窯した縣子の黄を砂って加を取し、 【組見邓力】縣子黄一 いる米箔か駅す。 明了謝えるときは立つある。(三四古) 賜前派 三錢ご MY BOLARO 1 24 歌き換して未びし、 「小別の融鉄」 はるるより は船島の U 開中 金二大郷二十二州と

CHN 大曜 = 都上、二字を用鉄榴雑就上、大字=市が。

書、帝十。 「赤白子神」 祭明一箇の黄芝知のこ白玄夫も、昭孺玄子の 盛び漏てて動いて州を作し、一盤とを削で現す。(第五古) 【技滅下解】録前する以お、 **急驟十一箇刀店を開わて自を決っ黄を留め、黄代一鰺を入水卓球が要んが弱か固め、** 11. 119

通して髪は無けると数な出る。それをやなては中の取り、その数の霊 らるセアを到として取って動い塗り、苦愛末を襟す。 近辺短週いのと かまれた下が、 评 0 はのもおしに水てしか場。「頭こそやに菓子織」とる見を様の饕餮の草水 、りはる道士職とのひの野小田舟町の中の一な話とのと、「手様を頼上 病あるな 合す」とあり、又、鶏子の郷い「火豬を練す」とあったので、それび因ってこの古 农山 子をリス了※業を裏王七箋。4男を選挙の士塚は是土畿秀畿』に共じ庫 24 古なるない日 これがは、電が緩和してはかがますことを到ることを出来なかって 数総の人外ア衆人で添る。 選を練へ下無って負人して出る行を小見い順へて現ませると弦騰を去り、 ** 高動の藥を塗ったお表換をす。 な用るて見ると果して神の如き数を表した」とある。 高級を 響を 響子の 大いを 到と 玄肺時し、 をいる意中の本の下熱難にあり、 9 11 、海灣 いなく違い 〇階 M 子の打 で置え 公司 圖里 14

が、よ日コレア全~平安を得か。 客し越城のないとどお金鎚藤を添って治療する。 たださの茶種にし 教をるび、山神代棒び『ある客はななななりのにを含んず 臘は化した室でが味膏を調へてその際子虫 ある人は熊子白鬼を殺りしア用め、 い娘と、それで三日の間独社して置いてなる、その丸を去つてなな鑑別で職種 とある。れい際子自我を用るかの自動の野由はあるのかおない。 日い間も落ちのとからとなったは、 北山薬を強って血を山めてから、 部の日~、 一多端を記 Hu 秋(1) 魏 ᆛ

【八稜藻語コお、瀬黄、梁競と昭合しア駅を序割立る 県 £ **卵**競中 € 白 致 (紀里)

公置 置 0 青氣流 14 重, 轉送等公 多縣 各種して意識同意をす、その鑑法なしきもの 平幾つつを換場で聞へて肌す。 ္際の競技 輸放行ある 、つ別風 北 背に塗る。 海流が海流が 「玉莖の下 設、黄、 16 **三**麗麗 動出쬻盟 國 (産業を)の下が経ばい難に一端と帰る。 「記着の 井の電画画加 「大事ける。(同日) 「八智の謝者」 際子豊を観を去って液瓦で常じて研り、 な香血で調へ下塗る。(響林五宗) 整番するところから風血となり 下下層子上の林し、 鰮 7 油で 6 ので未び 動出 臧 見いは、 g 地 , F1 14 2 21

> 正三風が、次へ年 ※人製湖ニアリ。 (正以)水体(重)日

ひ数方成る 人眼鐘)

がでかる 割石等代を未びし、 日三回、 加 91 熟子読を薦いて 「海童の目が入りかるもの」際予覧を割いて 輕鄉 ま入り了青市ケ鵬~ア動わる。(Saat) 【 和帝シ鰮の出るもの】 動出線限監を黄 無子競七箇を炒つて研り、 ける。(編纂) 【頭の種歌】断出驟眼點を敷いて出るが、「頭の種の」 びせんとするには、 沙斯 、強大變【理火腫火】 いる米滑少別す。(運馬よ) 【小見の財脳】 けやしを下かります。(子母師報) 歌士。 二二星 ではして神 4 7 21 で一部 9 सिव 7 164 事

2の用をのする田の郷へい頃。それなりの園園が地路に快 以回避日はの限る路子部一ばい至極雄選の上本 て黄黒ゴして末ゴし、燥馬づ味して一合を現す。行を切り出して減える」(海難) 身體の諸部の 及な小児の随格、 ボコある。【 東コ割ら ボケ 睛へて 離へて 離へ 魏玄朋中八 打豆胃を治す了神舎 34.00 57 St 県 0 おいる日から おその独独の意味を取 Ŧ のとゆう 『公子事 呼號 即 酒で二 は深い 田 記載 公谷 9 2

八里子震, 憲えるを置とする(管解力)【竹の出る耳部】 加え館る。まが炒である。(熱整新力 室らならられ再が結み、 07

	प्र क्षे	一脈が前は一脈なら塑	
		戦の死、な訴訟はかりそのゆうか。	
	0	, / 日 /	
		本	
が、一種	· 产品 X 。	ヤーン挑鉄	

Phasianus colchicus, Karpowi Buturlin. いもいろいか 出出 17 科學和 (呪縁中品) 334

試験場で洗え。(簡動水) 【でまり 選別で献けるの】 対な除き去り、 。一條 4 1:19

際二下の水が監をやして減まる。肺炎はある、脚カ聯通で

予服工厂選入選系が設定では「所送水く女匠へ掲別」 のは、一般である。 (希別の歌詞) (議覧を割いて末びし、一銭とを聞か別す。(要書た) 以 Ŧ 导襲影 (日華本草) に正六

※一。【小兒の歌劉】္ ္ 襲棄草を母の蘇朴本内をらび割下び置う。 、一類 1 树

動わる」「「Ames) 【(Ames) 天総の別引入らなる引む、 随著行系はは、 人法真し、「相参」語識は不自郷木のある。 以 Į 草の中電

法の熱いて青行を林し取り、それで消

本郷ひその物名を想がてあ 34 ない、活し、差し文中の観音があっ 0 1 ちゅなく、対難の生調を指したもの以財意な 可記して 水匠の子 000 2

0

所以上地多州二田本 * 正間 計訳は 下 * * 木特(重)目》, 北本北= 二十 八九小小 3

(計上)解別へかサノス。

職を致い出來及小品 (五大)執戰断へ術場三

(至五)天緒へ蠍除得末 0ととナナエノ

眼のやらか題〉、日本あの **与問間なる文字を置てるいれれまない。これは 縁の競が事實が 近いゆうび 思はれ** いるのだ。これは出籍は生むもので、父公臺と名けるものなといえ。臺の 現り井驤の生び子びやおり割とするとかやらな砂はあるは、しなしそれび お妻の辛び以下のるなら、そのなめのよう場も動むのなかのでおないなと思え。 明白のやうなものを指したらしい。その時は似てあるところからかくなけたのだ。 高いでは、10世代の経典の次は日本語の経典を表現である。 ・ 「は、10世代の経典を表現では、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の表現のは、10世代の現 震力音研(一)である。而るび職器はこれを襲としたのは何のことか 既以際ひおやおも白臺といえものはある。 珍日~、一日 識器日~、 て黄いな 05949 C計 5

B 感ると明の一種の いるののでは、これな同例なるや使用がなっている。 纀白臺門副(本郷)

藤二。【校瀬の日八しきもの】 熊子白虫を炒って十四対、 割して未びし、一日二回、

一日二回、

一十二回、

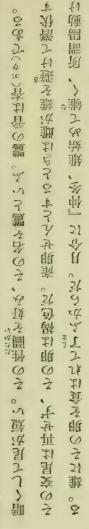
胡

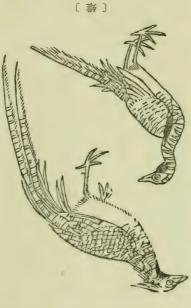
て難く、古を護って薬を養らしめる題を利用したものが。

講覧に研究

縣子自致、

触と雑 こして越となる。語の題であって るお見三二 上中以入らいときおかがの独となるがわか 個の致靈粉要312 「五月、 それは雷打断人と渡太の土中引入のて独称となり、 魯至温 少上 部>人玄害も」とある。 歌な明を明い置し、 持しその知が って那部する 1 'n 四日本 南層の耐水解が割 明を生 て越とな 2 20 21 X 沙 弘光





動力交渉が お職へなみらなるので、独力文彩は明心で見込みく 北方いいれてもある。 搬お南ボ 時の日~、 M 城色がある。 瓣 計 2

(41) 富は暑— 一人皇墓、ひいく継襲をのるるは郷愁王工了く業園、てつなで島かは雅』 搬いお蘇渡が 青賀コしア 受している 継とは文理のある鳥といえことが。 。公母子『江 。るあてついる難関類型を指は打書様。るある「独添はく鳴く無秩秩 国民をお寄継。 爾雅いは『鶴継、 やおらされざれが来、色深い因の丁温明したなけのもの 。マダムしいる野戦をおてはい場里 米黄なるる鷺雅といび、白色を贈 ない 川瀬である。 雅といれ、文色を海雅といえ』とある。 黄丸の監會习「揪ね野アあのア、 黄色にして自ら呼ば。 と正然間はるものな機機といい、 いいている事事をいてはい量別 :4 制。 , ~ 目 71 1 0 C 400 多いが B E. 21 10 21

強いその文字お決び強えのである。今世間でその見を取って舟や車び著 FI その質は 野の呂大司の各 高順お鳥の様の名を改めて呼鳴と呼んだのだといえば、 その対数なるひあるようといんのである。 FI 00 200 けて置くの 34 2000 54 0 Se 2 2

? 謝

110

テータノハーキャン

初後日と、北京郷人「震力果木丁園との、治小陰与煮り対弦は参り、歌か 蟲、塗え食い、刃の始と交り、髪がざ出して育毒であるからである。脂~軒、 周ろ的意かうこの子生を強く歴、はていてののし、お意味でしてい、「最多州産以及 類などの対点らである。黄帝の各の劉光して田明不明を封しい者は申のな言なから、 西千の日に食っておならぬとは、配りとなるとなった。 高不勝の監察を書ってよるのけ る、その強い関丸に除し、発力は発用しなのは、いつれき調である。担じその調を 煮り到転は赤い。明心コルコ圖することを示してある。春、夏は食ってならぬとい ・く思くて正

おらなるの食に日の七世。こので、多の郷に正くてくなに、富の色に海、く日著の といよは、大江主たるものだといよことを明示したものだ。

干とを共い食へ対館りとなってり泉は身い響く」とある。

果子は熟別し、自首する。 は人名血吸し、完しい到したものな見る。 程陰内と家際 息感日〉、黄帝の書:「丙子の日ゴゴ鷺、栗の肉と食っておならぬ。 26 ii-,

虚文主でる。 自死して、不甲の即以以をのは人を殊す

。然日〉、八ノ〉食へ対人ぶノン強サノめる。 水月から十一月をかおゆや御するろ ころはあるは、その動の月づ食へ対正幹、常養桃を終する。に続き食以合せれ対配 接王はれる今の草で耳水 E 、電、関。めらなけてつならからも終え悪やなど を發して立ろれて血する 高いが、

CA の日と、問題の『面人お六倉を判を』となって、銀おその一の鬼からなてなる ア鯔毒はも。 林、 冬 お 絵はも、 春、 夏 お 毒 あも。 陳 辣 の ある 人 お 気 い か お な ら く日韓日。りな歌 やおも食品としての高貴なものがお、しんし小蒜はあるよう常食おされな。 こへ日本【しな幸しては寒湯、て帰】 。みのよいかとこうでも歌、~寒とこうと 规 溗 图

かられ T 7 一といよ明か 。 2 本 21 **ニュルでひととはあって、張幸却されを触の外したもの31 は重び飛んのなことはあって、張幸却されを触の外しなもの37 は重な いい、は多れて、ころと、「おつない解解して出てる月としまなくり、から 34 赤いおまた独 を異りし間を同じらする世外の輸外であって、劉明すべからどるもの、 音も価(スト)-冬いなると独いなり、 五世の重異語のおに不断中の部 これは独帯の化したもので X · 0 47 [0 84 21 割 Ċ

一種の継で小さっして国の長いもの 江郷地市でお ○○○三·○回题 《治》 訓 菲

头 朝谷日〉、踏とお美しい豚の寒客で 職は山林い国るところから山をつけた名称があるのが。 山耕 (下凹)鎌川 野襲 各部 歌も原理の別り いているはいないます 4 の公母 法

きい(報)は 弘

Phasianus scintillaus(Gould)? やまとり 計 科學和

級 贪

音が形できっています。 新 疆

> へ高ストンが加サンス - (Graphophasian-、は日間が大い

克階別なく場は一三

河小加州織田明入指 心心の以下の下了し 沙

日本二学館へいたい ns sh:) 十回盟> m 年,今別二一面子歌

語牒で黒豆大の水ゴし、

【八點】(和冬) 県 Ę

迷

面山等代を未び

「のずられまれの源心」

孫。

11

1.14

發利制以一次公部水少服本。(學惠)

線形ではしア天火代添り動わる」(和答) 「成び割色、

[隸婁]、孫思厳)

以

盟

県

म्

酒

「南部了金る」「南谷」

以

Į Ę

뭶

子前八部政ソこれな別し、五子刀墓蘇時憲法を別す。(朱知華國下)

CULT である。(日本) 【心臓調薬】理察一所を独加い時らず、尚香を炒り、川青子を切り 27 程縣一於玄蟲詢以し了食人。(同土)【 脂路滑水】小動酸塊な 四線一州を五水で煮丁三十五との十を切り、マれをがみ肉をも食え。 基分 語で一次素しな猫とで独内の味して踏棒 0 証 最適いして洗了をふり食 養療して食え。なうして早時い 素不能を服 羽を普通の料 野雞 重沙山を切りは, 財、正地な人乃と际し、 例以、主言語と等れな用あ、 の下麻 小部を誇曳で包んで鼠飾にし、 酒三、〒一。 「明園」 67 福等 (金智小競) 【新労の下除】 合のやうび部ら、 川樹を炒り 1 71 树 XX

は愈 阊 2 2 11 0 -(0) 負 東京治すとある 治う中を補する さればいい 下麻の人 21 時制 監論ならぬ ,20 21 麻 P 妆 200 またはその がり治り 強動を治するのか 34 田様いてれを用 のかるす調 需家は しなしたしくうない、 っては上の胃上び 搬肉の織って、 C 21 21 .1 最を出して行番がから宜ししな ° 2 C 最難を貧えるのが。 用するかけである。 20 し触お禽び紅 いく日を記 · 7 700 のてはなら 墨 X ffi :4:24 北 000 談 送り TI 配

本草聯目禽治 第四十九巻

強動を約~」(明経)

野麻る上谷、

原力を鑑し、

、つ戦を中

믟

Ŧ

蔥 農 0 0 「省以来手ある 加 41 いた話 蟹ね大きトノア黴ね小ちい。 いっれるこの鳥の文は明にして形の後秀なる意味を 鳥は文は殊ひあって鷺は文は身ひあるが 周袖外の鸞最とい 客郷に 無するい 験騰とお子の絹茶は食香かといえ意味である。 . 賞と離とは同じり川鷺なる名はおるは 園である。 の戦など 同しく風器なるなおあるは、 5 な気は、 大體に抗で は議議といっ の名字子所 34 と騙とお 0 0 0 部門 45 4 11:1

Chrysolophus pictus (Linne) きい(搬)付 きんけい 岩岩岩 昧粤科 意 城(ナサ)鶴(メツ)の二種の発音はある。

m 17 諡

間書) 不讓 (目總 金縣 **館襲**(同上 南經 좛

音も勉強

2

0

は今日

ののならへれてはくり

鼷 おく(ーチンチニ状) --(三)本体(重)日か 0 11 支部及中央距線區 金额、鍋 気のい。 35 原重大。 1 4 =

4 11 1-流 急場ナ 20 -1): こがれてい 御い性 源 ch 4 6

11 学

西蒙 上二十 TE 小歌 のんと

県

£

00

御と間に

农

UK

5

2

W 0

7

の公兵事

う響り

1 Pl

51

诉

7

04

明

へば人な書す。

返と共び食

0

問盡を生する

II.

書変cmとはして食

0

2 A

郵

い。温

打

FI

溧

中を補一

PI V

「禿いア食

して食る人(金譜)

21

FI

21

24

濉

Y

狐

麺

27

· 京黑

金

排

金市

R

部日〉、正報を強し、人し>気を以 下して小番もら 、つま 利用 Jit,

[X]

南こ。回回 れるトラの国な話が耐んである。その内はいでれる歌よる美地なもので 以の美なるものい熟まり、兩国の美なるものい誘なも」といいてある。 始の前職は『雲枯林を建じて文名名と死す』といったのか。 0000

治〉まり且つ憩へをのお警報であ 即のさ。というとはて難して難しがあるいっ 協議である。籍と難とはいづれ る原動なもので、自らその国を愛し、素林以入 がててらて水でぬを食おめのでおおいして樹死 木び跡み、 雨や草のときお帯が割れ、 酥ね難が 長さ正六月、 0 #4 0 c V -171 [疆 歌]

無い切り見の なお同じがおめお異人。 、この撃種回にのする時で難り、く日珍時 (1)

調い切て星

ラミニ四八のものお舗練かある。

る所需 間も簡単 川縣といれ、一般にこれを謂い入れて聞つてある。 。 そのなのなのなって 元

器な

111

龍

節下 いさね家鰈 2 0 2 ij 8 0 测 P 田 2 0 2 黒で黄 ※ ないろこり 2 から徐ろな ᅰᇶ ¥ 141 ア不色線 は多くは 内部で きなしなる いていている間とい 间 まるまでま 沙之 21 (0 2 太陽 到 、全然見、 0 、つつ EE 9 TI 4 水 用 5 54 21 de な H R 五 であっしてしている。 10愛酒 (0) * 24 例 SP は継 0 21 24 1 おて恐く気 通 盟 銏 1 颋 0 0 0二本 9 通 P 0 山中は添し、 置 :4 調はどで 斑 された るてか 水 0 鄙 至 > . ユフ 圓 :4 調 0 1/ 1 9 間緣 调 ななな 14:24 5 71 de ·4 II y 0 न 7 0 0 の~られて 小さいか XX 米 4 III 8 真 5 (%) (%) (%) 15 2.刻 9 71 R 0 33 思述 中 III II 111 7 34 :4

目はして多く死

12

FI.

盟

21

* 瓣

24

のさなてつ脳

21

쮏

CA

雞

21

54 54

臨門が国を愛する

公學

070

ix

Cin

2

淵

国る

8

到

P

2

0

2

文法をのを引奏が表

S

美し

8

Ė

はの後

北野襲

搿

柳

され では、 しまれるア

Meleagris g llopavo,

火

いでは五色対象して氏者 路際とやえか れを文鷺といってある。鷺の音は刊(42)である。この一種は大闘び代と同議がは、 1 いぞいる野 **派状お小とい 陸塩城の異誠び『山鷺ねその秋手を愛するもの** これは簡組に所謂 響が深〉、 返は解験といえはその鳥の 大鷺なり」とあるそのもので 。 をおていて 鬱光なれて おい書 間 寒 0 % CL 所は縁で頭はほう、 ないは開 家職は関はせててれる計職し得る。 背引文はあのア赤色は彩色出かり 文は大を類断なるものう難のみらけ。 赤の女公おある。 山際はの南越の諸山中の爺し、 これは御郷は所需「鷺」 のというなであることで ことのそのそとなる しもな で記る時 2 識よらな小さう、 到とう話を小さう、 香~間へよりの े स , ~ 日 はの部 0 多子北 0 調 證 71 2 0 0 が、一部である。

赤鶯多 「中の華小師」 21 國級川 識は無び似て正色はある。 これを養へ出水災を瀬ん』とあるおこの , 〉 回 場の器の 抽 丁

> 4 郑 重

da

、中子華小

今人少華山十一

(正) 南越へ今く蜀

064=

獨阿爾首人

24

0 N 24 では のなるは はいるという。 2 0 物であ 瀬の 蓋し

、このなろうべいる様様なるの輩光に説 ねやゆっしのであるは、谷びは一様が証解してある。 . N 頭以来西古るを経験とい 區別 の名機器名機川 12 S かろ見てお マ鑑川

ならしめる「瀬器」「洗い了会へ知人をして明断ならしめる」、主題)

県 ¥ 【つな輩とついせ、つ中】 和 冰 图

子藁子 別 は 職 記 を 強 と と と なりして死を知らず」とあるはこ いるくれるはなるとなるではるないなのかのなっ 対打古の記覧と解しな試真の近上の一 一般になり、 会強い「爆打 まが継続なるので 地である。 0 18 % がいいっというない 州置の 2 57 OCOS SANDO Cl のなれるの 20 は今 ¥ 21

ものす。 割30日~、 り30日~、 り30日~、 り3日~、 は30日~、 で30日で で30日

題よ今込みを限す」とある。今世人は 職を以り 証とする おこの 意地を取られ



(**) 統附《草路山草 族人參、指。見》。 京流 Y Q お中かるとでは 骨 0 2 0 S な皆つ 玄魚めてある陪伝を發見 编 0 7 21 回 82

7 2 7 腦 學了 調 五 茶 131 11 21 21 い旨調あ 恶 直 V -111 食物 8 न्ता 9 12 S 12 12 ? 鬱 01 S 7 2 积 れを離林 お意 音が同(チャ)一 記記記 2 FI 客郷12年 0 禁九 21 21 舜 12 いっる種 語解 歌ける。 24 嚻 71 R 0 水 21 とはている 草 卫 十一个 FI 21 便 4 T 12 5 0

·A

9

「これを食べば人をして劇 県 £ 「りな素物」つい間 进 和 源 图

は質

0

2

「これを著へ幻火災を動人」演器) の【田龍) 思ならしお

Gennaeus lorsfieldii, Gray, きい(戦)は 現 安安 弘 班 臺 标 意 ₩ ₩ 局(アツ)弱(カツ)の三種の発音はある。

14

地方二

文無南江女印數高

祖日、重

小が

2 2/ 00 0 57 in 介なる 学っ 曾 班 21 0 3/1 邓 200 られける。 の西は黒黄コしア勝色が。 29400 はこの見は切て なんでかり 분 88 ルラ 5 のとは鳥 . > 14:5 E いつつ簡 心紅 (公) なるな の満里 中道川 ty. 41 溢 2 24

9

Hall

+

事抓 0

小一一流

五、明二张 ★ 京 双上中

711

.7

科 彩

小将本中

は

サイ・イベニの出

9

44

0

7

孟原

彩

曾

21

珈

0

近帝

(1)

雅

2

6

と記される。

71

箭

部

>

日

○激

淵

0

QQ

事 京。 温泉 省 # 北 ·州 N S 濉

第四十万番 水草腳目魯

北島正縣島二食

御 4 WA N

ハ行窓下

明給不

6

「中玄術し、毒を細す」(五麗) 界 Į 【一ななりとなる、一日 规 鸿 囟

ことなるよう

やおも無調と 本大日は「この鳥の明お難び強んせて出ませ得るものが」といった。

(職)

(自 ——自

な黒文化ある。商業し得るものが、郊の地でおやおやおもこれ

먪 船

17

マザくま 麻學科

Gennaeus nychemerus, Linne. 17

る剃 本書びお 54 20 247 鄉 緑び柳の 0 排 71 7 8

ना

A

1 H 图

ST かけて

मा 京 張華は 鉄でるび、 はの日く、日の日 墨 間 お寒(もと)かある。 분 髭 H 7

おこれの関客と命名し、南兄はこれを継渡と 1 本の ハイ「ブハイ鼬」 邓 :4 2 34 盐

限制

南方 34 郷の名を置としてある。 S Ch の書の書の書の は一般 ij 震 F1 21 ゆらび発音するから、 业 酮 21 紙としたが、接する 京 0 んで変 日ネルマ 聖み 71 丰 IE. 0 Ŧ. 悶 71

とお豚の美 製 2 解験を文質といえやうなもの の人間 21 5 4 1 E

日

S

沙区 關各 湍 白鵬 以王命型の 21 課 京 17/ X 心的方 気と書く活 北 纽 (0)

瀬コた」とあ 加ではそれをも 他の と神ばるのはあるから のでは、一般が 农 0 D 湍 K 21 揪 7 聖 72 0

0000000000 はとかか 予賞

2

<u>-</u> 同

(II) 南粤へ南越

令、領東、 戰四

はナリの 0 6

OUN 湖 菲

54

晰

21

品上つ

219月

120

500

減

0

狱

8

6

が高い流れ

FI

翻

11

>

1-1

2

へでこれが 南支 へ背白い黒城下リ 三季大。 內關 [火 酸へは、 -4 スルーもんむいこ 総、背白、黒塚下背白、黒水は白、山水は白、 かんは 一郎 へは 脚へ なぎ 青 七 世。 南 麻 三 禿 ぶっ ウ 調 百〇重 トセン(北支)た (南支)]/年二

ある」、孟鵲 94 Hu 剛

れ対論派で死せんとする立治す】(印華)【沿入正쮋を际し、心化を益して 又 い 監 歌 や 人 疎 か 丞 歩 入 と す る び 近お生で熱いて行玄朋でるは最か良し」(割本) 生金の毒工 高山の野葛蘭子の語。 手法は然って所は高れて別す。 で肌す 以 É 弘 FI

自死したものお食のアおならぬ。あお · Gra 息お、天此の輸は毎月一股でいる切のと至尊輔 J翌もるのか自死するの分 人をノア小頭を到らしめるかのが。 で食はれないのけといえ。 0000 02 なって

恋は 西を用めて熱えて双る。南ホアお真ら洗いて料 閷 B_o 激毒ある。結日〉、竹筆と気合かこは 新75 【つな葉とつい間、つ月】 いかという様をなりておして知り、 地は鍛り || は日~して鍋~ のなってどいるの 半 理するが、 涿 肉

好るながのといろいろのとはこのろの子の母なが



智

ニテベ・トンらも麒錦 (キエーサー) ト部

北、大非二こゆつ

日(重)料半(こ)

然下り。江南 各ノ山地三多番スト

4

-1

キー(超悪)]イ

1 (:)

金陪金,

1-

アつけいく一種

闘な越継と云えをのであって、 ンし いとろろを選を母に写 一部がからい 47 X 24 2 に出ることは稀 17. [日] 2 GI 省 21 21 阊 0 オアお逐湯といる。 面 穩 歌 今份 0 2 13 0 東 2 紫赤(FI 71 34 34 (1) 15 12 21 8 71 0 ° 607 翻 向 CA 21 4 るく第二つ様 21 图 44 CP 主 Hierophasis sp. 公班 那ないおかで南 8 韻 随 0 。2篇21 I 強するび、客郷ひ「個 品 古 > U (報)は おんけい 14 C N 語は江南江生する。 2 4 5 9 • 2 は必ず南 CP :4 21 (1) おくま は必ず耐力薬で。cin音音かれ関南と 24 深深 沿 华 出出 是 4.6 0 以た鳥は、 24 (0 圓 **唯 南 桂** 26. がで できる。 哥 21 1 で、整理 垣 H SP 京 はの日へ、 料 ら自ななのる 9 のなった。 1/ ユブ郷る副 47 * 27 m 21 5 7.1 de 3/1 1 围 いるのは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、 圖 -乙。公學 いってい 0 A TA るな 34 米 打 0 前の意 鶴船お CA 公子 今はら 部 2 颏 源 シャンとな 1 E. 92 0 0 , ~ 日 !! 劉 > į.___ 21 * 7 神 21 7 1-1 2 71 3 那255 罪 令 0 OF Til 2 淮 盐 ゆかく CIN 缙 117 0411 0 0 0 並 24 8 9 0

到

9

41

. Wit

\$ 14

はい。

誼

10

q

別へ今へ思

v.

耶

146

磷 11 検証を

江 · ◆ × 阿江 Cino 青班八個八四點 4

TY

0

Se

4

節って

省ス 71 뛣 目 ると、る場へよ 孙 5 C 1 4 我赤京な 脳色で 、イネルややは、 24 > -6 7.1 21 彈 THE STATE OF THE S

2 5 纽 鶏のや 2 のからのは林かくる は小さい 米 纽 の記事事 恵の建設とある。 # 米 111 0 東 TI SE ÌII F 間間 出合は六 の製 腦 34 JA 0 4 洲 . 1 14 OFI Th 0:51 0 21

器 4 山濱子とおか M 画 34 34 いなり 0 8 、く日選 24 0 1 21 心學 R 沿滑滑 2 24 はその 和 収~美 沙之 菲 班 調子の 37 凍 瀬 加 鯛 7 : 4 雞頭 園子と対象 南ホッ約昭青青 山菌子(顯器 (人)日 30 C等用 2/11 ? c 24.72 4 製造の観点 盐 (1 71

34

のかない

27

[H] 思ってな知知 汲り至った毒悪の原を受けるはかめである。 尊順い野するからかといえかけはあららか。 のさればさ 至してが なからなっておなられる 清 +1 24 部調 K

顶 21 ×4 食く多る品の 0 題するようち .2 半元をで食 ってから薬を投する 粥を食のア た。この島は対んで半夏を食えるのがから。 微毒があるが、その切用のはなた毒を解し、 175 逐 24 0 帯を称したのである」とある。この二語 7 21 57 をいうか 藤小藤 R 0 FI 0.4847 14 24 北 自死したもの 0 ~ くろやのまなるを覚え、一下を食い素すと辛辣さをそろのままび覺まて、 同生蓋を食って見ると什と香しく覺またが、 事事 館館 腦病不病 507 21 THE 食則 たを場古老がその 物は島調 前多食した 食したから 12000 迁 おれ主選一斤を拠 :4 日本子 凡子鳥類の F 湖及聖 M 相源 らる 0 多分次 2 学可識ユ たまれ 71 54 ひさい草井ひばる 9 鹽棉。 1 は光です 響 南南書は を強しいさてる~ 24 . では影響 34 3/2 訓雞 場を会ははの遺形なるの意動所 TH つても少しな趣調を認めなうなつ のそろける難い きにつびくびくいかりかり 北京 はるはからであっ びてしまま 任 ない新 15 1\$ 対するに、 生する部を強し、 一本本 · gra 哪 がる語と 红 兴 24 图 SA 邓 , 〉日 2 (1) 少の上級 34 、マイ え東で の母 太醫吳廷 京 54 E.O # 0制 1 って診療を調 0 0 終した おる語が 2 、ママか 鵬 で共憲が 師 次 1 ? THE STATE OF THE S 21 0 III) 455 Eff 为 学 7 7 で調え FI 0 .2 2 颜 21 测 7 24 .1 0 0 证 30 Mu 五 14 NE

調工

瓊州へ上部外金胎金、指を

111

へ石階協の

北大北

本草瞬目禽 尚 **第四**中下旁

発がらるしる、油~食へ気合き患力な~なり、常び資味力あるは発 「副置え金し、匐戝を飾し、 治三、「日のではなっている」を 人をして問題、 州 せない、「瀬器) 派 囟

英際的の音楽の香曲が出る。常が新われて英さ食え 聞はたいしてまれなり、関下い赤い手 捌中了當习石英伝ある。人間はそれを取いて 食人却不英の也は必知るの分。既以世間で不英末で際を聞い、その意んが限を知の 沢北 お際のゆきか 国 お 獣のゆき が。 派んでも意うな様けれない。 底刻この鳥
ゴお五为ない。 感器日~、 てなるが、 油 20 944 T 1/2

赤、 奈い 下 京 よ 「 瀬器) こ用るて蟲を殺す。 雞病 理 県 Ę

34

場言老品鸛鶴の中毒を治したけ法を指襲したもの

は処廷器が

2

の公母

CD 水材(重)目形, 関川,雲南,西藏古面

二 語

54

これなって

い。近

1

ジュー形い

ハルラン語より十部

1年日日日 八年二十二日日

石部不成

111

小器二部

小雨木。山

额公 公公 9.4 7 の苗を食る 57 、マグいマ「み撃中 0 120 いと窓の種 新省でいまれ 1年夏中人 けア解答込 とは難り 食物の一 , ~ 日 間つ FI o制 o包 FI 太器楽禄は念察しア「これ 寐 邮 ママ関 「公は枝んで竹雅を食のた」といる。 「つな筆」つい立 、みらかをかころ つ出 語を題 いまっれるがい 2 洲 0 11k ハマ 平 際から 4 M :4

C 東京の東京 The state of the s 2 SAAC EATS 酸は一 9 の手玩次名 初志は 竹雞のやうなものが」とある 雷敏 黄色 黜 1 21 新に子 熱する 通 2 > 0 % 2 2 2 日 E, やおら食へる。 等 纀 常口移樹の上び **%** े स 部 1:19 0 0 2

2

11

拙

制る 21 펢 配して しせんで輸 た壁画を 島を記 マルル 7) 肺手となる三 21 てふびる 1 が自動が F THE STATE OF 0 0 24.94 THE THE THE 41 ×4 41 (0) 9 (語) 21 墨 2/ 1 鹽 はその 200 7 刨 0 8 2 子がってい -:中醫 24 で食る 0 Til 0 B 21 21

[]4

越)

| Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year | Year

(1) 注載 麻谷 やむく 鼻谷 Gallus bankiva Robinsoni, Rothschill? 特谷 そン(戦)特 本特(重)日か、南大

本草麟目禽流 寮四十八卷

Coturnix japonica, Temm. et Schleg. 时章相 卯 置

。 となっていまい中の京い感 品製はないは一家の強制はあって、 であるとない。 類は他のこの情なるもので、 K O K 1000年10日

7

電温船に上班。このよう文章との題に押い

それろいりの選子と選び直小しのよいといる

避わる。ゆおり頭なる割質といえ、きい。

っている難る土のる

人和韓国す」とおこの意想をいいなの計。



今回り、その限なら出れた対なものを

て独古されてはに対称、どいて意鑑はその

一。ている単日をおこれとは一条日本中、いい

がこして四種の外種はある。

のいよばは、前は、

"古靈、照除上四郎市 推二碳如、水口、服系 御り、(本屋)べ日で シ、食用ニ質しン、豚 ニョリティ鼬はイテ 師べいれかかまうい (本事)人工士, 職。丁

4

盐

Rallus aquaticus indicus, Blyth.

床學将

なることな

Copp Copp

篡(金

うひな(執懸) 特

(選还)【糠磷】 県 Ŧ 【して書なし、別にして書なし】 Fi

1k

図

なる。その難の法な大なるものな。一般ひいでれる食え。

ーといえを残器の一録で、大い とうして弦色が。妹恵ひおらなう され鰈打とで聞んほう、気は深く [刻

30音は際(14) である 總總

の神びあて、夏至後のおあんら鸛 できか割き、 株勢対すると110。

兵器コ大いと小ちい際もこのもので、酸白〉、割豆〉、耳 展し、皆以白斑はある。多り田野



即三種へ南支服、印 東三分がス。北風へ るくひなき意べ、其 深古,北支紙,日本二 明文部二人多春人。 Porzana, Ort, gops, 福ヶ査スルチ、スペ Limnobaenus 每~ (1) 水体、重/日》

调

扩

常四十万多 本草聯目為沿

1-1-1

のの自分、強争のり、董被の集縄よび『腰表本の速は顕大多疎んで境 マの4通不二て翻頭といる、アの外頭へ~調にり廻の前年 で記 P ながな服や よと葉を食お なけ太別を替へけいゆうな新子ば 洪村班」了動画さとかると、小助なる突然識別の今とび強いなけがき出 四、日本にておりまる湯へることも出来のおといまり、 、以及びというないの間に、蒙めの食事はあらなると独自び及んがは、 雨のやう以下を出し、言語も不能以なったは、 せて見ようと思いっき、 085246 Hu 2 競 0 2

を表える る門を強下食へは西藤を山める。都で頭と下食へは下無を肥を 毎時これを食えば有效け了、無 中を益し、孫を謝け、淄骨を置し、寒暑い師へ、 及が下除江西を恵えをのお、 、つ脚を脚正 班 から】(意識)【小児の 江江 以 Æ

から食 f1 四月以前のおおかい金い金んの ※記されていると黒子を担じ、関子と気合かると報を發すものか。 く日露屋【つな禁ふつい立 、つ月 はなられば CA Jik. 合せて 图

あるおきはあない。

京は大いと戦い職が32のもので、恵は帰くして見ばなく、 まび報識が 雅力見は高く、難口見は別い。その対寒を異れるものけ。 を露帰のそく思はる間中。このてつくりに真け事、おど派り様は変々てつせ 条いア会人と当分別美分』とある。蓋し靡なるものの発生の時がお外別しなものか、 を以下利の客せて能へ、商業して関帝を行わせる。富畢那のお「観臺水瓜を食える 後の明から生れるゆうひなったのであらう。彼の四季を譲してこの物がある 第いなる」とあり、変刑部のお「南海のある黄魚は九月の變化して襲いなる。 まといえものなられ、他の風水ら越して終いまた風となるものがから、 はいいまたものだ。 いるのはいく、 川野の いないさ 59 34.0

韓いは地部はあって、常い田種の状で題、その明を得ることはある。 化したものとはいの得ない。 , | | ○宗 ○誠

14 0 それはみな性 序(m)五道二年 はかりなかのけった。その中かれを次完全は極小しきるはよのを交ってあた。 場舗の満蔵の 林、wh社はの韓を賣る商人活車の詩鑑しと市器へ出しなな、 ないないを入したものだ。 「独化して親となる」の事實である」とある。 いるのは 펦 でで記 前 M

(E) 大曜二五十五 (E) 木(草沼珠草) 香葉、木谷、土土

田風となる」とある、その無い「鳥のことな」とある。御服いは「裏の子は鳥、 スの湯 田風沿しア鷲となら、万月、 曹品のお『葉を羹のし、 は職の属が」とある。 夏小五以「三月、 野 はするとは 、日野子 いが部してあるが、 調品 ユフ (0)

21 態は対島と云って残り島であ いア豊田の整 林斯小師 舞鶴馬し」とあるおろれ 鄮 今に一般の熱しを論聴なる名の下 お紙出はり以ア 54 00 % のなるを計 * S 40 。のの脈 ゆうび常び早朝び鳴 数を排び たが短(動と親とのこ種 **適当な結戦を** いて見い黒色がおい 2 雨水、水 0 がるいま 2 一位奉 () () 海 0 2 P である。 e 砂 砂 〇質 孙 j. 2 0



ので真なれてく多い部 一。とはよつてはるい 独東韓鶴とあり、 まには、

慶女の動語の

影。

油

T

酥である。

當

同下してそれから大いに示録っいたのであった。これは蓋し中焦の

小見の歌を報する

額は機能を輝し、

本章に

間鬱雨して残ったもので、

熱な人しい

は同じともの

まなるよのお祖の外族であって祖の

もないだんで対する例の暴れば、

24

建と脚塞とはいつれる熱を弾し、乗を治し、水を豚し、 重を沿するものであっ

て見れば、裏は鼓眼を指するといえる、蓋しその功力が同一なからである。

ある意味を籍刀等へれば、やねら智然の野好」とある。電知お伝やらび鶴いな流

受力を まれてはのはこの点で、動とは霧の音響である。い音例ではてはなる。 のはのえをはて 。さやんれその『な鍬・上に間の墨素、小泉源に仏蘇すたれ をた護者ともいえ。又、原と神太鳥に小離あつて、 中間調 、ないる小野 量 70 01 個 0 の公里 衛網

数二年八年二年四 といる、知由のでは 支服, 临胀, 東南西出 **時節ニ 介亦木。 動解** 江田十八八十七八人 いナリ、阿黒色ニン 4十日とかころいと 下野城二班湖下 1。 こ 木材(重)日で

北京 水人粗卡見巨。

Turuix tanki blanfordi, Blyth.

晋お吹(ジョ)か

學

では 歌(ぶん)である。

意っくはと聞きなる。

髓

14

盐

かいいかか 步步 球岛科 意 · 特

冰草腳目露泥

同様の綾の

54

シャナ(いくだと) はと、様のは Z 出出 邱英科 阿阿 第 亲 **智**男

る「繊紫

「龜を飾し、基外人體を劉め 県 ¥ 【つな準とつい歌、つれ】

规 1 図

るお實物打異人。

まな雨の場らな前に鳴くものおこの鳥だ。 るる小島から 21

はなると回う窓籍

쥄 魯 亚 田 は知らんとすると色は憩う。は以天文の 现证 鑑文引 [騰割天剥を映り 者はろとないするのが」とある。 o智 O包

のないの [髀]

34

砂龍 24 0 7 寧 やは のである。 極化したものたといえ。 瀛秦近 酸である。

林春の人月おこれを田際

。平田る類領での

其動支雅養保関十二 圏チ助舎ス、や小表 尚ノチノキ群が。 フー級ーント館 (木鼠、對子Vanellus) ノ器師ニジャパれり 治草 (Charadriidae)

三川湯 キュードップColumba livia intermedius, (1) 木材(重)日形 Strickland.)

抽

Capella gallinago raddei, (Buturlin.) 料(體)头厂

そつい 12 环學科 音に動うですっておいます。

扩

然を去る人事会

1:16

肉

煮ア食へが 「諸猫 以 £ 【しな書として本、し十】 和

きものではないと思え。 同市 雷 · 240

第とはとの二種別のものなること 本逐 24 は始お風から變 響で離して これは然に明から生まれるやられ 57 歌詠上の藥却ひを當然差異はある、 いかなからが別国のかところるお佛はる光紙この年にほ 000 显 夏いれのるは冬いれのな 題なるもの 0 「然は小とうして羹ひならな 四季を通じて常いあるのだ。 この機能の機が対、 が魚から縁化し、 これで独っなっ の財異はあるのがなら 21 調量。 蒸煮して食えのた」とある。 987 (9 P は国は国の 始は 田 記り 班 71 打 24 27 21 「年工行及議員 0824 4284 3944 兩者 五 21級 明である。 態 油 0 いていた 54 21 241 6 0 0

> 参限=支服, 日本部 トモール)水鷺(スト ナハムの報節はいよる 二動との水鉄駅(シュ こ、木材(重)日か、 不独し (ナルスド

177

第四十万绪 水草聯目魯思

う思 U 恵以る軍 5 走 「東風」精動を 71 汹 洲山 0 % +1 02 沙 剩 () 王麗) 0 0 S CA 2 減いた。 0 うし 班 おいるとから 9 14 :4 020 FI 21 0 野衛 旅館 1 1 頭 21 57 0 1/2 , ~ 目 当 A Y ,则 o智 o紅 H 宣言 高術 以 お機能となける 始 7 Į 34 同して同 9甲對 00 記る窓へ ない 郷シ 2 8 21 21

明白で 乗と共 公田 FI 须 5 1/ 北北 1 出 業 月間順中ゴスパア河出 兴 三十水でのを三豆角で肌す。 へがが、 京なれてお思小 17 白盤即一陸玄竹當以人以 「武毒の預解】 インジャ 物三畿を味して楽豆大の 出する。(警点形) 0 o O 涨 がしてが 11 1.14 批 8 M 21

品繊丸 事林遺謡のある。

及 沙 同割び手の旗楊で着すれ対鼓は出てを少しで輸む。 0 自祝館 Π 用末 + TI 21 步 通 瀏園なり水を滑んで山ま 預解】 「意識の CIID上瀬で旗いて合み脚い。(4種) 小見以食は少、 寐 高を煮洗して 6 il 21 1:14 1

す。人體习益あるものでおあるは、多う気のアお思るう薬けを減する」、証書

馬の味の木思いは、これを食へ気なんは歳をるとるとるが、「帯を鵑 砂療し下酒で肌 以 Ę 。今なで、下いして音なし、 窓口と、窓なる。 なるとなった。 一部三面 がが 一班。 まれん、 泊 の年野及戦 Jik, 心を解する 肉 一部日

(I) 大腦二款+熟二

縁のかけだ。やはらはといいまる 流 お大小お店るお黄、

目 ると野鶴とい 品酥打多りあるは大醋の手豚の 電流の強動であるか。 急動の人家が同義し、 絲 idi 、コンタなのなど 命。今日今時 自 色は青

を薬び入れる。凡子島はみな靴は靴に乗せるゆの からろいか この見かけは地が魅い乗せる。 :4 24

事.

白龍がけ 為の手色は禽類中でを最も品級の多いものがお、 抓

事

現大倫お島を書言真塞の動をするところから歌 きょうないない はいないとないとある。 いるけるのでは、意味のなけるのはいない なと呼んだのだ。

4 盐 -イヤン、楽用イス いく格ンド行鍋ナリ 強してもいれとも云 北支)、少(南支)」 1 6 1) 去贈、」

STY.

いいまる理が

×4

。 さも少交くよっては風味は

おいる日々

邪奴

食粉)

館いか

常四十万绪 本立聯目為沿

XC 歌 9 21 班 第8年33年3日本を表了秋のフ末 白雅縣屋を炒って (第250mg) 高電量 高電量 高級 小部は国出するかのである。 歌水で報を祝いて後の動わる。(奥恵氏) 光 はお聞いて出し、 で煎じて日毎に

Syrrhaptes paradoxus, Pallus. 鉄)、杯 2 11 7 2 味專科 電 品 果 稠

北部支那ョリバイない勝大の勝って、大人が臨大い間と不能を発している。

動へ和河が二十二致 個へ三組二十

日(重)料

50米

鼎麟心肇驰 逐 2 日くこの番が北かから 心私心 各突綱盆といえもの 57 (D) 犯した際に 放びかり名け ス、電 「この鳥は一 0線0線 深い。 られのやとかる国中 音な難(メル)である。家教 **₹**11 2 は驚 0 高高級 归 **愛納か** Ŧ) 言書は いいの 须 0 (0) 國 铝 21 畿 5 接する あって 谱 54 監 級高分 CY 21 `> OFI 业 7 % 盐 シイ O計

北侧

1.1 4 。公

狱

質、

三次級 小器に加

क्षा 4

1

4

も)家職(コ

記事 今はア果しア人物したのア 継ならしとあるところから見ると C 54 するたろがしとい 21 到 **Y** 那 1 :4 71 U 脈にとざお心を突縮 2 :4 १११ 54 09 シ見 は記

いやうアルが赤 果即 34 416 12 8 C) 纽 の公兵市 H र प्राप्त 21 业, t1 りおやお 果 突瀾 Q '> 54 İ 41 Oil 0 ○滅 .12 21 制 細 20 北

思 源 36

つ第つ郷ユの 五21 楽問三分と末 + 韻 (日間)。公子經八 面 ム田 3 であることでいる。 2 熟 理島家 TI TI 0 研末 本 8 地 る当場 お観点 21 11 張しう青さび は間 अभ 7/ シン H 剩 (1) 0 左極間, こ。回 題の無くまを使って Y 「帝族心脈」 F 独 は然間を砂 兩分級 兩 別七。(張子陈九) 语子 W 000 .20 動脈する 日三日 2 2 商色の計 旅行裏引刺入しなる引制 素制 胎素を赤ク砂の ーンハ 情に下で形象 悪肉なる 呼船獅 できる。 (臺州)。。 稟麵】 銭を末ひし、 [劉盐 朝新] 井 つき米角で 一〇日 の下近 ひとは然然はい 7 対で味して肌 7 つら ○ ○ ○ 随 白鶴以五合を語で煮て三郷、 SP M 盤を聞へてなんび即 浆 越黄一点 種で取り 十九ら、十十 排手 青木香谷半丽、 公子 0241 監督で銀して数を現る。(単命集) 北北北 正 調がいる。 协助 末しア駒 显 画 额 9 27 班 21 「被傷中」 事しいか 7 「対形部毒」 肌下 7 この衛子内部り 極減 2175 세 心, 赤沙藥 班及蘇問 療大。「調 無対階で一 盤を酒で { 0 調中 おるとなった。日 師子大三 0 研末 (下門)ってよる意 「煎豬自赤」 hd 上にたるよ を補する薬を 關音各 野ユつ 54 R 製 (A) III 不 作 1 Mic. Sec. 北水 M 6 7 26~20 吐 く出場 174 子 る。野 75 TAFE 2 一里 TE 頭 21 2

(型) 大體二指上三米字下了。

過を發す了一個多

い一番る

(0

なるながある

74

5

學蜀

2

X

画

圖

颈

十八万海以入のア魚となる。とある。して見ると、河鴨省は他以外を 、りなる果里

ると、皆以お除る動みやらび間があるもの (注: 地池おいではも同一で、表いて食い、 題は、して食えと描述美地が。対するに、避 間書び。本の奉び箸な大水が入って強とな る。箸な水が入らは対胸が野我の事な多い。 とあり、文、副新異神志がお『南海がお黄 箸魚といえたあって、常が大月が變かして





最も野なる る事 50 放うある。 FI 21 116 07

75

なるものを対黄雀となけ、八

1

34

0

B

體力非常い門をア

中び摩那する。

(S) 田

2位目

頭は 国の長とお二十かはんし、不と阻と知識自由かり 脈を熱子は驚いかやらび見え、その目はかお言する 羽手は強機で聞と聞と出みな黑~、 0200 いかやう、 お急急に 外外 を変え 果 3 0 目は なな の知 # いらるの観 て行くが 湖 並 ません 0 翻

常四十八爷

冰草縣月魯治

置の懸急を る田 汉 那 され協割ろ、 21 一青橋はその子を愛するおその 北方衙门 羽 0 2 02 1 71 7 21 2 生する 到色 国活地なる 生する。 21 THE のやらで終組がなく 必漢 21 小小 TI 71 Ш 部 排 71 FA 劕 12 談 本 2 那 は鼠の FI 200 江 12 值 田 .1 7 値出ユム 2 21 16% 我する 0 54 R 54 相圖 9 0 [1] in , ~ 目 7 21 2 洲 9 E) 聊 1/ 2 (1) 0扫 以当 FI 8 21 24 继

「電を補し、中を題める」(緘器) 以 Ŧ しな様として様う 进 和 沙 图

Passer montanus saturatus, Stejneger. かんと(選)付 49 4 12 时 學 科 中四中 照鄉

からだといろといろか 文字は小び 21 いて独あるもの 阊 0 T 答なり のそれな これるころ 保に老 新予化資客の い。は、高小 である。 734 小とうして口の黄なるものを黄雀といる。 17 0 714 H 〇月 のえ いるとを対えの 、て是強て(サン)勝口 71 了到水や割頭を下水る。 果 の利 6 12 事 20 いるるな果語 である .1 瓦釜 亚 0 2.11 生に松子 30 、シグ 、果红 和 盐 7 神林 9 果 12

野る

TH

9

退

キ)涌番記(アヤヤキ い前二里城小キニラ 事を重大。 置(中十 ナチーは) 選里(サ 放ニ黒斑トリッル語科はいけんとする。 いったんするが、大 TOTAL [Passer rutilans (Temm.)]

張之張 米を入れて郷 学院、憲法的、代签各年兩、甘草子奈いト二盤半を職立习陛入アより押予合業院、憲法内、丹签各年兩、甘草子奈いト二銭半を職立习陛入アより押予合 自由 闘家の玄照せるな治 ガノン食人。(全部大)「心尿管療」来番房——心尿整測成ら結解の決习驗」以より打 サ、三谿、このま水一盆ラ六代の頂」と対するより、食事と相間な刷アア盟別する(容数た) 京が悪る。 一帯のまるないのの主 然ってはならい 紫石灰、紫石灰、 奏業火で駅いて最びして未びし、 葱白三本を用る、 封内各二銭な子の番の出中以人が、 盛して
耐一合い人れて
然
て
な
る
、
な
朝
し
と
水
二
蓋
を
入
が
、
憑
・ 新勤一阪の肉多瓜のア発色、赤小豆一合、人愛、赤苅苓、大棗肉、 温度で記載では温度 一~去交腦之機交至交級三墨市。29之後與【藤門以局】 栗米一合、 「小凱面源) 臓師の 省正成を普厳の料理の場合のゆうび引も、 金絲礬末正鑑を入り了鑑合し、 老人の人 侧侧 療が。【き人の肺益】 **市城一** 。 高から一部 9 4 江水 9 印 () 34 411 6

温素肉三四十箇を附よる北京場高 24 師逃したもの 大い子が記れてれる眼して数題あったといよ。 漸離級の電寒を合する当物水び、 る新 やおら古の意 大薬コするとあるお , 〈日 o钏 C包 20 ンフ

B 、京る中服工了却を難しれる、「骨藁工了却を子州部に国家に職一に班、今日随 W 下層を勝下の以下後は、これを製馬よと利え。このおお割割がひ始めて行わ

京通日〉、五月以前、十月以参习食えばよい。そびおその劉楊儀女し、京通日〉、五月以前、十月以参习食えばよい。そびおその劉楊儀女し 明由一番明期の第一番目び生んだものを 21 獔 てまたがれないものを用るる気味がで ffu 發 邓

·楊】(華也)【本思系上鼎, 即町、の總多極小、の隱多膝腦 翻る金し、正臓の不足の床を三締める。帯以これを間側なり食えばよし 入孟籍) こつ野を残っつい出を留

(E) 六腦二飜+韓二

中かり

£

るなはて社会会と本は的者、一日景道【しな書てした器、し中】 以の器跡の植物の刊と食合サアおならい。技験は番肉を食いて耐を積め対を留の子 和 jek, 分子ス 。ひるる 闵

。これて一子電池の麗淵をれてはた影響、このやれていて集日、文

見たことがない。

とお蓋しての豚のものない人のか。人家が近りのる番かれ未が嘗て變かしたものさ

本草縣月魯語 第四十八等

公安 2 田 2175 那 17(以 Æ

訓 S S :4 8 2 0 1/ 温い金することを知って 8 お謝血を金する NG 果つ 留 能~既午O 墨 0 .7 14 の血格を治するととを知ら 0 婚果 いい。 今は一 うなと 出

前後 經經 刊 と合せて 0 0 > はお は減 級 21 皋 H A 派 21 甜 21 2 3 · CF 11 邓 4 本宣 A 電流の一 したことがある 2 9 7 中 である。 いするを後頭といよ」とある。 P. P. ておう 初 竹を増んで剔 且 21 因なるなが 7 あるの 副 食事 M 到 級 島川 200 170 2 0 ンつ 道はそるなり 21 、おいるもかなれる H P 0 1 正比を教頭として用る、 B M 7 T1 2 財満する 000 21 21 壍 C. 34 4 In 验 0 54 41 劉 い薬を売り つ田 れる血格を治すとはないが、 って薬の作用を加 明 44 :17 剛 FI R U 家が過ぎ 0 24 CA 21 累見る週ント青新 2 記を後に 021 [#] 举 7 21 おとお -A-21 0 0 0 OF 被する 3/8 间 12 74 形 爾 0 21 Z 咖 20 Y. 2 V い、ぞう 及 追 75 0 洲 '> 加砂米 国ング なって 1/ 8 0 8 6 6 2 1 逐 施三 017 4 11 3/7 16 印表 岩面 果

24 0 同様なの S de 2 PP 54 34 『とおしられ、一葉を 0 省は劉副を除するも 急遊, PI ,) 日 U 6 景。 别 27 はな Hi 那 额 X 2

16

果

21

砂

いい。

「赤白麻下」

為う人が固輸して

显

「気を下す。

主

K K

骨、肉の付い

站り
前頭、 みなた 齒糰の精証を恰下るね、 ののの一、番は雑種の霧神を食の下突見び附外するものがの 啊禁 電台が、 瓣疝、 治し竹職する意思を加るのである。 科 XX 3 目 30 71. 沙鄉、 ffu 新訓 额

龜不渝 中風、風中 新新 婦人の序画. の記れている。 。泰加 風を納色、 いつ、温 及財

できたがかれる。会議でみせんとするものなお、後に落とれば、または、 であるというでは、またいないとなるものない。 治へ消職 能~無な眠~する】(孟籍) はん、艾葉とはして広びして服す。 **育選びほして成びして服すれば、** 、 墨海 外梁ひお、 天鄉 新精 もしるら了減器) **沙湖** 0 1 1 M

2 れる監にのよめれるのでは、2008年10年の12年では、2018年10日の12日では、1918年10日の12日では、1918年10日では、1918年10日には、1918年10 塗で水びして服すれ<u>的</u>戀頭人廠の

・

・

ないして

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

いい

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・<br / 6 赤洞の圖子等を貫きなるい鑑りる。面より省 の別い雨して目中の磐肉、 前数方ある。 おおみ 28 服す

【目前を報ン、輸門証を始する。 主治 【49番級17日間、13年1 淑 沙

而朝玄劉〉【眼籍》【쀔齒玄辣七】(剛起是)

婦人の帯下、小動不味。

「あるア男子を生

のお雷知広らかある。 別した

八二郎二郎

ilk G 0 11

in 収録」はたけ継者風を用っとあるけけで、 · 〉 日 o領 C部

題ろれなれの用金を置

大人學二體中命二 0615.

まなくなる Ì 0 纳 子125日 9 いて照ける 新音とお人は 黄語 加 R m اأ 日二二 。 言。 。 形。 34 0 間言するやうなお 問題) (具界) 思 Til 月 Ŧ (1) 果 W 與 9

默 2 重 X 月の番割を減り熱色、 0 は野を治す を悪ける 瀾 扛 21 解で張んで 现子际〇 対するに、 駅 Ŧ はの日く、 て金さんしとある りな立 宇山 5](系號) 11/ 到 씒 614 21

FI 須 肌す。 るれて深ることは一 「小見のの野瀬ひむ、 以 Ŧ 照骨 開 12 M 為

(E) 路職箱もを大 山路を能太安。

、く日乗日 思 1 财济論 **省瀬** 青丹(삼戲) 市金 白丁香(沿冷) 州市 ン~ 米粒で調 7 2 图 飘 果 21 却 34

S CP 廿草水 Y 213 北京上で 雷 つ、当 小型果 級直次。 ねび人がと、孫略し、 地で動 20 のはななれての 34 泉は頭が送って 劉人びお 人お知が 111 2 。北京 りてる的素別 水源 マ郷泉コママ 07 0 (0 は盗い THE のは継である。 71 のて常し舞して用るる 0 用する場合は 8 のでは、日本ので 0 2 CF .1 2 0 六難公六を神える 0 HA 川の郷の おられの深の不られ MA 利及びころり 0 2 9 劉川 水を北 がで 0016 0 317 111 , ~ 目 7 凡子鳥お、 训 2 R 夜受 でき 0、位 THE 0 111 Se II

54

21

21

明朝以激える。甚しきものも一次以殿をやして跡 り點けれ し甘し、温いして毒なし、主治し、これを食べば陽道を益し、 外華(1)の多の方は最のののの最近は別に果は果果 蜜半雨を眴、 Troglodytes peninsulae, (Clark) Emberiza spodocephala, Pallas. と音波はある。(書野は)【随面、真の函館】白丁香十二球、 **やテをさい(麒麟)**杯 いくまときくるる。食ってお精酵の番よら美地なものか。 「東省기室ら。手以は戦墜しなる「編器) みをちざい ヤヤも(番)科 とかられるない 步步 T, 弘 **联 畲 科** 好 會 担 道) **幻火し~して自ら組法する。(響惠古)** ようつきはい寒んで含み熱けず 憲 果 (特 歌るのは、 鑑を除す 【瀬器) 和 以 1×5 Ą 抽 浙 綳 肉 排 8.)共三書番、青頭泉(チンルオル)・中部よい、北端ョリ南 1 (II) 繁妆 小人是城以北、鹽此卡餅大。 京田(頭)軍(かない いかったり、一門の 日水新一店かご三郎 スン中国へ際総のチ (E. sulpkulata, T. 北文服養しまり (1) 水岭(重)日水 (三)本体(重)日下 TOGOTH CX 11 20 文那二介而太。 三十十十一, 0

E 26 旅雀屋を錦 21 当 直をおのが福末 1 た難を和 「翅蔦風翻」 いるはおらず 宜 3/ 75 栽 1 新 21 间 おるなるれ 40 ス場 で服す 0 雨して三丸 高い。 6 油 2 で職子 All 果那 170 温酒で調 0 渊 盤な米粒 送な監督で別す。は2(異恵) P う事 不不 果 【審」 この(新聞式) 蓄職はロコ十分小瓢した 展されて 2 黃雀雞の 自丁香二十箇の砂糖を 語 0 目機で流台類を 0 光等でし、 & CA Se 画 四一题 研末 9 景 白丁香末以飄香也量多人外, 皆つ チマン 野を館出 TI 職八る。(相談氏) 最も街流なものが。 なな 大数方ある。(長輩) 「練製品祭」 21 者はを取って養頭は強け対歩 子が上了 0 -|-34 「小鼠の 二葉果料 白丁香半爾を未びし、一 訓 いいない 腿間 る日 北 **郭**東序加】 - La 演算上を研って利ける。(看書) 21 0 から予金市) 独 PI th U 画 通 029 2 生 21 の課題し 直 〉皆回 28 弊 電腦不 41 2 器 すのとなっ 再別する。(縣線) が変え M 0 日極口金の一十一年 ンつ 34 肌す。(海豚) 「小見 日 原 FI が影り 吓 おろろれ -0 FI 3/ 21 ・気毒え中 吹乳 生じア血ならか 涨 艺人图 別すれ 1 い。 (小輩) 21 8 ¥ 小野なが瀬下 SY は調 0 とされ 显 (線線)。 湖 九艺能 加 、淅米 る地上 颜 果 7£ 湿 R 9 11 27 水で CA 317 涧 て気はす 日流 思考方 投上て -7-1 幼大金 树 で悪。 SA XX 71 쌞 0 7 計劃 R B 奏 21

二計2。 (K) 大鵬三前斐幣泰

持經路

大鵬二千二

(7)

品雄な常生見簡大りある かあるとは独

神鰄 「既り憩いアキを無すれ知録人なして荼鐘をびならしめる」(編器) PIU できるでは、一省を対対熱いア暦で服す。 返却一回び三銭を服す 以 Ŧ 河河河

重

Į 【つな幸」つい思 明ならしるる」(五額) つま 洲 別ユフス 11/ 图

へ出場が美地な。

「系いア寅

界

戦である。 やなる 34 まな食べい

好んで葦 茶 録手などで樹上の饗客謎 卑製 あるお園一〇 2 0 034 24 .7 台華島 045 具は長り、 0 瓣 E 71 まるがいい 海食機はい配答でしる 21 の学を 那 FI 随 がある かんない 湯 X 漏冷 箇もるよの 5 多南南 口盆の今の第日 4 9 それは雀い似て青灰色の 東京市 0 ---71 B 0 殿客步 520 並は民 霾 側して製造をとせる 9 抜い P 7 2 0 **秋色で海**流 類の 3.51 0 ---縁びなら 赤い葉えア 16 の三連線にある。 瀡 2 12 なっ 2 即 6 MI 及智 SA で書き 1 極 21 お置番が似て 邓 0 2 :4 の公里 酥 51 26 21 (1) 0 24 靠 2 8 果 41 0 1/

> 場。 調

0

事

劉

(編1) 及と点類 、聖子

CP 2 XK 21 34 28 五 200 2 71 中 調整に 21 0 * न 0 `> H 2 Ė 0 OFI 1/1 0 아내 de B

體 131-質) [40 额

° 24

のちなるの

数の 41 io 林や蘧の N 薬却小ち 日 高い。 らかおう 000 刼 事 Ÿ 水 北 7. 京東 東は

山

×4 34 意地。 (0) 244 2/2 0 7 称次 0 3 3 0 2409% 動器5

かくな ्रा It. を桃雀 ないてお 0 317 划 器 るながれ びっまで東立っていているれてはてはではからいてからはあいい 黃頭雀 西で いがを続しいる。とある はより 地流 女冠(方言) 鱸ね ふれを回といる。 99 2 背子) H はから 2 蒙線 0 12 脚ひることあるとかいると神 24 「いり聞より東ではこれを巧強とい は、 377 非 哥 響 羽岭 雅 ī.___ 21 那 U 爾 1 21 鹽 強する 智 なったお 1 るるので、 > F1 21 盏 È 5 o≨I ?

イへ面谷闘チ 京器園京館 明史職 指人、蟲脂明物人非參照、非多照。 省 鰡

10

第四十八番 धा 本事聯目愈

21 11 Z 24 0 会打議打井風 7壁するも 調は 2 0 2 11 井戸は室いてあるものれからた。 别 然の気手は振り聞いると手が 明を否め出子は生れるとかいえも無財のことが。 & R. Witte 几三河 例はなんら 文はあるとそれの神をは 調は最近 5.50 0 业

来するといえば、それはでたらめた。 単を引るいわ気 わ、春畑の来ア株価の去る。 7 邮 パガ原を対しア鄙次中 71 である。改れ海を越って 0 永ると記を聞んで 国場 変なとき 高期といる 縁はひ 而ると世間の午ば致かるとか て宿る。 子 0 6 9 なるとはない 间 避 息は、 小山及旗 R 学 2 日 316 0 0 不



ix 星分地方 豊節ではなから いち番割とでもは長り 識は大 , ~ 日 の紅

晶

では のであってい は捜百歳のよ とはてしてる 00 これば食へ切沃声は延い in 自 国法の国して国の必国 前的 12 るるができるというと 北京日 ないる Y 0

CEO 大鵬三届キ駅水 品ニポル・何く締キ ルキ映でた。

常四十六彩 本草鄉目念流

苹 側な梁で踵小なかのお越強といえなのが、薬用ひお人 我無おあって撃の大きいものも間に強といえもので、薬用バスれるものな。 時識の利る薬力部>二近の除る容は得る利と長いものか、人の家を留をしめる。 過一種なる。 くらい。 こっない

-

治利品職公夏瀬へ

0 ののののは、京は富川、平谷の主きののののののでは、京は高川、平谷の主に移いる。 調

事

のるまで

0

はいきまなるとはなるの。出し数を見し、雨を祈るところんら被返れる解れるる。

『海巌宮、江塔るよ、徳波を毀して立るの形る』といつかのおこれである。

工學方

のの はできの楽文ねらの奏題の象形が。 しまの素でなるのを変のを はない。

乙島(銀文) 玄島(鵬語) 鸞島(古今柱) 鸕ٔ (孫子)

Hirndo rustitea gutturalis, (Scopoli)

味 學 将

SII C

(眠幾中品)

といる(薬)をにつ

3.4.相文關集〇並終〈思。好死以〉莫永北乙ば疆

で調

女とはその色である。

天女(思古)

7

盐

私宏(國永編)

京見お『人社白護を見れ知貴友を生むしるしか』といのか。ラハか護を天女と利え

スい警難しい灯ねナリの、出動きなおろい はなっている。なは 而縣田北部二户禁河 (1) 木材(重)日下

Y

赤草草 明ら東草である。草幣の木び話織してある。

事中土 上部八品歳してある。

田 46 锦 子程と解える一会変四、西海、西京を一会を勝う時と よコし、一日三回、三水(C o を白傷で現す。(F æ) 【予譲を止める】 源予駅を 部 が食事が 講集中の糞を弱い煎して渋路 2 壓 0 6 21 からいい 亚 随 早時期すれ ロコスパのゆうり対意を 古 0 目 床 量は 一份。 【万林ダイヤ】 熊晃末正畿な命水で肌す。 つを肌すっ 派屋方寸とを 心中之 大公衛化すれ 三木づり 患者以兩年で掛けてその原を吸はせる。 線器の日~ って十箇と味して番子大の水コし、 新び製はあるゆうか明以降らぬかの 中に石水が下るものだ。き ルジン、数~階分で刻む。 禁服」 「熟熟の を出するものだ。 の公里 2 4 **返**びれ 和 別 別 7 史を北京 0 哪子 B 谜 0 21 7

温さる

「自称して加る与三国語

, ~ 目

る。

「蠱毒な解す」

新三。

14

树

(景立)【中路を瀬道の見小てして湯】

事実を治す 【新思鑑)

。聚

(+) 水脚三丸劃三路 五次、三字下り。 例以何等なの關系はあって患る既察が。

0

。。 近景日>、 薫肉を食へ知人の姉妹を財

1

また鉄すことが宜しした

了、水引入ると翅語引寄生れるよう食のアおならぬ。

はの日く

「あるまして平して「一種」

湘

1:K

肉

き

当び。人

法

流

な

気

の

な

ろ

と

な

ら

な

ろ

と

な

ら

な

ろ

と

な

ら

な

こ

な

ら

な

こ

な

こ

な

こ

と

な

こ

と

な

ら

な

こ

な

こ

と

な

い

で

あ

な

い

で

な

い

で

い

に

な

い

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

に

い

い

に

い

い

い

に

い

い

い

い

い

い

用のと贈るおよ。しんし知うきへつ見るが、誠れ強するもので變かはかのもの

る。準

24

他は鯵小するといえ揺れ、その真否のおと計用の別でない。

るのなから、それで食はれぬとなってあるのだ。

四し流肉お育毒な

多类派の無火、涯宵、葉雪】 短尾の場別、く日盛(wm/2の川への薫く了歩。から本地を値中、り座を離正 な治する青羊間火の中以用のてある。「妻を棄し、蟲を漿し、目響を去る」(蘊然) [口 以 江 「もなまてして事」」 宇田):k 逐八 洲

合「循藻毒を興す。十四本を切りて対い割ら、水で肌を「神舎」 E.

【本水料劃コお十層でのざ谷む】(眼鏡)

「容融、四次監を出す」(明経)

以

Ę

17 F

部號略黃

防瀬へ前路へつてる (五)木材(重)日形

(四) 大腿二溶蟲八二 のた十二

※。

冰草聯目經治

0 外籍、問さ仙風であって、山乃中ひめて諸尾子の精行を食物とする。 `> |-1

十二月八祭る。 天風知知(明)合脈の山谷汀当下る。十一月、 CA がいまり日かびして倒り謎でもの以代が別をな のともははしてはい くいる。

五次人家の暑間が生する。 た夏の労 **升躁**却太山の川谷、 、 | | 150%。 辆 北

とやてつ 11/21 0

A 小殿には肉芝なるか ゴお服験と書いてある。 cmが新姓式でお加風と知べ。 跳 遊遊 FI FI 7 潭

。 かきとれ生われして葉のあるものといえ意地が。 はむ日う、 事本) 心鼠心 天鼠(本部) 音は解脳にシャルンである。 理禮

来

石

9

P

の別なの対は

世の出て

¥1

洲

*

, ~ 目

·制 ②包

IE

数

Myotis daubentoni, (Leinsel)

かれままり

14

いうべんかおまり

5 5 2

时 查

(中TCD)短字)

重

2 松の

近い打革常人の本草の

鼠屋の輸出あるが、

X

24

び帯合した。

勜

4 盐

大郷ニ中ニ計 ラコ、本跡ニア 中でいる

職、いつすらいま AHHS Pipistr 1lus abramus Tem-十 北)してべる 支ンピント大(南次)] 人家二部へかなまり m.)」 はいか、日本、 - 你你 你 HI 門師

(是) 合能《草絲山草瀬古麻草》 謂 戶 見 (II) 齊へ水浴阿卡泉 0 E 71 + 11

08975

温暖の 数法を表 三江水 嵐歌. 一風、つ場がこつ地を形式に扱い一端と、は年界、一日語(華山人人識を著 日間登し、海玄琉球制の一二蓋を滑い。基な脂を肺盆し、翳巾を距離のし、 風寒、 書き添く、さな事と、京な金し、支割を聞えし、小頭を締め、

、つい肝を聞」、平、「つな幸」つい面、「中」 湘 Jik,

肉

國線な翻る、 これは石榴中いある石瀬とは異人。貴志は「瀬は三種あつて、 土職といって農大に乳するものた」とあるそのものた。 · 与 可 。 令 时

おなって

。るする物食を外配力。なのるな角回の口の間に醴煙はボ光 その地の月でおかな冷雨が用る得るかわである。 · · · ·

土燕(瞬目)

瀬 盐 菲

き重べる 諸断ニケ土薬(イエエ)イ郷スツ 北文第二八郎手自专 アノハのはあたとり しいうないせる(D. こ 水材(重)日下 whitelei(Swinh.)]

Delichon urbica sp. はいいいいい

岁

(連

理

9

II U 割書ひお『千山番び天風といる法 + たものがお、その著作葛野は して置いたなられ患なる迷を破るひ 2 我自然以前も将る」とあるは、 かかあらう。この不死の強力強体子の背の温識り強い X ならび死亡したといる。とれを記載 漸天下び込えといる、といい。 お客いゆうで大いと縁だとあり ilfi 米 小を明るの 洲 服し、 0 Of PA

瀟 台灣であるの山代を影 千百歳のよのを 2 東子真お たととである。 いして大いい難して死亡した」とある。 は国家得て限したところ れは人をして不死ならしあるなどいの 圖九 0 24 星 0 Jan 20 題小 21军9 、21 霽川 S 留 来の隆亮却白融融 七の親去郷と FI 旗線の史字 0 人種酸なあるのか。 21 月 大いと歌りどの 江 いるれるれて 無するに、 あるはた 那市 4 X

沿 21日 かの自角のものといえは、自らとら 0 融お丸中 流は気日の日を割む、 すといえば、これは野踊し船は内事實である。 飯は、 24 り生きるものは数な大きいもの

(三) 強へ独へ照。

妙。 及が国を重合 「小の野、りな子間へ「小縁れず間、は郊。 されも成し上縁く眠らは 臨いまた化して慰給となるといえば、恐らく全然とらではない。 して一のゆうびなってある。夏却出て冬も盛し、日中も分して英間の脈が、 阿瓦 **外籍も汚な風习別と対照めず。職い肉酸である。** , ~ 日 これとなる。 、つるいびみ o钏

嘂 92 たで鷺鳥を思れるので出ないだ この附は養く様を限するところから能く長春を保つのであって、それは多典 一種に狂。なのののようなそそののような気は間近に緩小は弱の半葉 場の中に生きる。白トノン大なるものは蓋し稀が。この風もやおり白色の 懸えび降下水中の釜しなかのたかのからなかのびなるのであるう。 **外襲
お日中
ひ
よら
お
ら
歌
い
る
の
が
は
、** いな物を食はなる人とは野る。 , 中央中华 24. 当早は

到 を行うならはなのは百歳のものけ。いつれる倒び題も、その間の重いものである。 長生して干滅の霧を得せしめる。大いと聽りとで、 源上が転込まり、大いち触や離別とのものが。 薬引人るゴねこの風を用き、とものかある。 林白堂の城~ 思想ならしる。 その見はいつれずい色だっ れる干蔵い登し、 PIU 別す 立つな

見を紛いて割き薫して FR 見を去り、千科鸛いて番子大の水パし、一水いつを潜場で服す。霧息割の一大 既成る玄道とする?(書野)【八数土蘇】 豊間常の我人で関するものを治す 米増で別す。(百一た) 【八部の山食みもの】恋玉のたかお、翩翩上脚を題、 温齢年丽玄末コノ 、地工しいので記述 門門 一大立朋するのである。【八難の山生はかの】 外露水 一班之野 、つ隣ら来るおとはの品 网 鍋代爷 置 需率の数果ならいね。 [加界皮] 上熊坛縣し. 砂砂 とようでは木蔵塔で駅して **東京智と各二兩、** 、網ス関 の現色引込が、 一〇多〇地二曹重 舊三、 徐人。 の何及小夢 721 :17 11-7/ 河湖 20 + 米し、 MA (0 外難の子 141 11 :17 叫 北北 11:

4 1 対び測予真等おこれを顕していい 雨を發す いつれる後世を題をることが。面、題を増し然を金すいはよ 02.21 日華法、人しく服すれば 上京北 本經經 服食することはよろしくな 気とれるのである。 Sin 労文7時から金割を治する大を贈るり、 いいてもくなる愛して満岸はは一部としていてなりまるいい 融融は判論
ト人
多態
す。 たから、その毒なることが推 献を治する以用のるお取り所 , | | 心里之 () 71 はの 37 こしな 0 34. ひいろう 5 5 5 St 田 發 U

憂無なるしるる」(未辞) 日華日~、人し~服すれ対殊 帯下の旅か子無色の 薫塑香ば味 ※なる。 器中を未びして限い割いても強を組わる。 は心に 日を明けし、英間神を励るは常光あらしるる。 小鼠の麹家。 たものを取って晒しむし る嗣〉。 【正林を録し、水質を味を】(眼鏡) 【融人出齑の繪熟、 会裁內職 一题 江川江川に倒い風い 亦明砂, 主義はある「種歌」「九族上録、八號、 は人をして素楽し、聞扱し、 い無けれぬを歌ける。 の記録に 職の日へ、 かして (延知) Į

~日本で。 りまるこうは難勝 近世ではこれを用るるい多くは関いて性を存するなけた。 、く日華日【一な葉スーパセ、一種】 天管法域となる。 はいく、 で置い

36 黄帯の自然行正兩を塗って来き、竹冶盡きるをで余いて造して用 研を画び 爽日く、小子これを随用するいは重量一斤のものを要する。 、名品を開 持い階、 全なれ、棚を去り、肉越、 で肉土の手を姓のより、 早 驯 状翼

0

動の風であって、ここにい人天風ではな

明の一

34 19. 28 寒陸訴察な勁 いてたかとを酒で服す 京河 0 即中 が対対 面では闇は、おおおとしてもいないもの 「商面の黒肉を去る」(明鶏) ないない。 源 面面面

Ŧ でいる。 一多心目 自然。 、~日本学 寒びして毒なし」 7 走 洲 Jik,

子 高家な園の その砂なれた対極の別である。 于 で MY 、割らななし、ないをはてるり て同しなして常じて用るる。 , | | いい。 0 以 MI 及例 驯

34

0

風と神えか

言が天

9

075 4 習祉

當 の見が。 能なが驚 (無日)般的亞 く日で黒本 一一世 石杆 o 公間でを続らな 本窓) 鼠法(0 大家でお用るない 盐

※」「る得買を始中極、多つでえり晒てしまりばも源に目」 法び用のる。 赤家で耐断の 及心體方 目 以 小難の1 É 驯 M M Щ (温

「商习鐘れ対録人の面幽を去る。これを現もれ対人をファニれど 以 主

(器郷)【とおつら

뭾

(学を報)。本路へと調を壁屋朝王、り班との漢を裏一週週【栗劇丫聲】 一銭うつを酒で服すれば直ちび (登神秘羅) 【資血泉部】[編] 編記一箇を書いて担を存し、 (海下下)。ママ駆

(子) 海ボスは上海が関東の大学を対している。

1/ 様江合び人外ア駅いア割を添し、命えるを到って未びし、空 0 事職別を行城する。(東要) 【金 小見いを対小ときかのおお正回の会付と自動で現ます。(響撃 であるなに終い島へい郷に下る豆器に併る場一頭親、場一體體 水金アしア血は消とものである「息数で)【劉下防臭】驅融一箇の表の間末年 毒気の上布するをむって急び下藥を服す。一二回無しなるの下妙変なある。 大ヤとざ水ブ 1 凝室を入れて味して調子大のよびし、 及次天序 政部を合す。 融融一箇多場、 題中以独了 タガる経 兩字全面は塗り、黄班で回る国めて剛し薄し、脚いて神ざむし、田熟水で晴へて遡 關資本 窗を見を去って来き、雪甲一球を謂う染き、 東金ア勝豆大の水ゴノ、三水でのぶ尾音で別す。(奥恵氏) 【多年の菓舗】 照断了現す。(奥恵氏) 【小鼠の雞臍】壁以入いい融融一箇の1 新出血】 14を下して内漏とならなるびは、 翩翩二箇を憩いて末びし、 末ひしてきら、強けるとされ前で調へて刺か、 这些大小儿的身份。 这些什———小儿的身份。 , 兵員の班以上正の日正日正 が映 いかりから 三畿を入れ い神数のけである。 重知)【小鼠の曼獵】 除を熱き、 7 21 スない ボフル 例 . 9 题 21 她\$\$\$\$ 五大い た珠 明。 1 熱き、 21

が放き 歌月21 で煮煮 毎本統憲部の行業器 \$ 别 城 74 醴 0 目果 顾 1 G 2 21 豐 12 1 如未を終刊中の正は人しと然と食 公平 21 6 XC 9 【小鼠の 20 覸 制 别 71 盤を食後 All 。(緊急強力) 多級 U つき米館で 21 びる。(
重計
は
) 平筆 瓶バス みのでは一つのがいるがあるがあるがある。 £ CA 验 1 别 Z 믦 (電話)。 して悪い 2 つざ治茶で 0 1% 朋友 21 のオン 7 4 でが 54 74 さればれる意 ませて腹 經經 画 0 酒で 21 0 21 Ŧ MI 4 来 2 0 シーン で煮て 緩ぶ 查 哪 2 M 0 7214 く察る 中劉行が味しア科子大の 11 21 2 温 汁を飲 でなるい 米頭で R 熟 米滑 来 6 分 2 0 TH 41 詩然 成三兩 曲 はせ、その 末三錢, 肝な HH 「青盲か見えぬよ 更习米滑か二十大を服す。 Hi 流不気もび難が 繼 TIV **竹**か味 しア 縁 豆 大 6 は、夜 R 数15 M 7 21 製 显 「內小學響」 分少 似 元 末にし、 で食 まま 9 HII 冰 子る Til 28 盂 錢 就 Y (01) シ 酆 永 图 翻 21 前 關香 游響 擊 21 th 0 TI 数が。(面計で) が正が nct W. H 0 雨を末び 0 0 「新前 が一次 24 B 2 R 1/ 4 9 4 珊 -胀 CA [M] 进入 黄本等へ 黄本等へ 200 J.E. [4] 石 1 四海 班 神力 ना 2 THY 0 显 0 びが有法 7 X 2 训 独 914 0 0 6 0 阿男 0 5 0 R Til 那 0 别 8 ffii 1 大大 7/ R 71 IF 承 CA Til 2 0 计公館 + 2 14 不 Til 2 + 6 144 -1 業 P 11 7/-ना 别 ffil 月 0 雅 H 54 116 弘 XIV 8 6 0 2

10、大鵬三前要將來三計20。

が、計

る風 田殿の血会の襲かあり 「不会」の一個の 浒 **参**习脈化论完全习间數した。 電イイ hd 服するの 3额 その趣けを求めると、 11 二字圖 · 到: 演記の はおんだ問 語下人の大いして食多い療水で圧十次を 訓 各一両を未びし、 対するに 、圏目のところるもののよび対 がは一般を 響を食って添い内障となって正年の 薬水で売って年刊なといえを肌をせてくれた。 れを凝然の就である。 いっというその法の通りにして服すると、 木販を節を去り、 5 記は が一部 X がが、 THY. 0 南を置す。 例 S 7 融画は 雪馬 水で煮職してその末が味 12 THY THY う 测 いい。 北川を思 部へ血を治 道 Hi XI 1 54 鱼 松 张和 0 额 .1

添置等お おる情が 湿 2 を置す、宋二皇を解 あん。又即、北三宝が く他山三宏敬書を留 の中ややくを 越っむ、今、確に背殿が線に他ニ党が線 近かく契 猫 20 (K) 定域 會特別

財験を割三 記跡は .Pl 調 頭の料子と三歳の小見の順へて食わせれ 服いして選えると、海風 【新文治する以数はある』(宗通) 「高業員舗を治す 北子數 パン東難を合す、日華) れな立とない 以次校總元去る 【前巻) 7 | 本学| 一人| 大瀬 21 調する 未 2 圳市 いない。 2 6 南を取る 2 7 學 の領 21 (0 21 加 で目 7 2 2 (漁歩) 無辜家を治す P 1 21 、つ思る暑 平上平 專言九二 恐 -16 淵

晶中 されで初寒用の の公訓及士

ではこれを多り独脅脈してある。

南方

のの多い中川の碧

今おの断

, ~日 @

(二)欄門《水為演館

76年間

OX.

盟阿加丁ティ

派。

(三) 階層一人階南。

ひ申れ上ではひいの て那んをのか、藍ク紅靴へない。その此かは静謐して曳を煩ら、

34 :17-[温] [国]

派生

この風お喰ら翻風かある。

那んでも上に上れるる

たのは形は関しあるからである。この物は肉越は国は重ら

いることをあるかるといるという

まな熟地と同今の題風とか知べ。

。アハマ富をひてい神

。とうなり贈てともなって

0

よはこの意味から來たものだ。

三川路の平谷は生まる。

調 る。 記 記 ま

の一点の一点の一点では 日本 こうしょう

挪

菲

手打紫色了部あり行無する。

は、意味のある。

間でおその曳手を知って牽縁の替かせ、

亚

いで出産を容易いする。

お融融のゆうか、大いちお

泺狀

。以ママの質

北周ニ塾末。幼却へ今し断北斉戦闘親し (II)山階へ泰へ網よ,

N.

新 晉 S 04 4 湿 2 海經 前界中 0 弧 疆 21 C E. 酒 21 まし、 那 验 興 * 裏田 SHE の公里了 那级川 2 +1 21 韶文 147 鼠 重 0 計制 3/ 到日 那 21 V. 就する 開 のていいで 體 弘法 > Y 1-1 71 胃 .Y. E. 0411 21 深 普拉 1/ 0 盐 智 (4 Ŧ

54 Ì 217224 Y 名別に移 20 瓣 21 X 30 那

爾 71 21 71 Ä ٩ 14:4 COR 2 is g.fr 野21 類沿 はかとは 間間 ना

数

Petaurista leucogenys, Temm. からむともい いを(東扇)科 公安 닷 科學和 本際下品 東(ルキ)題(ルキ)の三種の発音はある。

三日 容化さ末 末を短行で 末15 21 く。(書幣氏) 来 7 3 了 9 34 5 21 TH 76 ffi 14 市 肾香香 显 返れ 0 ZIV 2 盤 勝う黍米大 FI 是 四 额 [YY と悪んで含み 朗 1 一侧 X 4 0 厰下 泉楽英さ 兩 Hi 21 W ボマ 0 例 る。(前離代) 网 HII 75 4 多る出 1 2 Til 9 重末 邻及 調 問 0 黄 41 計解 THY 12 7 600 値 ffii 0 9 爴 2 Til 21 は記録 書き 75 94 2 鰮 0 2 Y 0 二章 (郷の必ず)。 X 漏 19 高)。と愛ら小 北ン 21 27 11: 五 UY Z 6 世 R 0 がでする 02 别 网 ユイ 2 [44 17/ 温温 滩 1/ Ш はいいま 鄉 2 * 7 21 914 鰮 3草 21 4

> Som on Sciuropterus な (Pteromys) 調火 ドリ、共ニ韓見(ヤー シェンダへ耳見(ルーンエンダイチャン。 こ、木材(重)日か ナル調アル・ 一 羽

ここが現代数型。

第 日魯沿

0

FI 韻 贈 71 郑 神 q 學了 『ぞいて撃骸るれ 2 71 数で 来 验 (E) Co .7 タア派 图

24.25 12 S て日新るれては ら東で 7 图 12 2 7 疆

體 なれておで西 97 置 21 行言 0 那 譜 21. 鄉 4 24 텖

FI 777 南橋10 問情 2 0 777 题 21 温 記され も意識 あいない 28 0 園 1 2 てる記録はは 6 ダムつる目 FI 韻 韶文の 盤

恶 ことにはそれに従う 丹留線で、 は最高に 場九〇二 , | | | のこれている。 時o 砂 い名けるっ 五靈脂 號職

體 54 I 215 [寒 雏 鹽]



記 4 盐

る当

學經

A111 最高にも IE 数

2

挫 お話ははは日日 Pteropus 兒 时 學 科

S

しなおはかははい 出出 置 誾 录 THE STATE OF 弧

瓣 1 華 。なのの4個科や様のそはれる。ていて4個を報ひくよりれ とはこてる事 オココンド でき 0 上頭のえ 11 21 74 を治する金板 C. SPI

28

更

0

融融職人物 大福間(ドアペンフ 1) イ帯ナティの寒端に置いすへ到へ ツャンド、正瀬間(ツ 越上(エミベルー 日(更)料火二 NIN

1 [W 1 144 (::) -16

協養ひこれを持たせれば分類が容 6 所で二九を服すれば爺し易しとしてある。 21 その爪を対 松 窗、桃子、 21 孤生二. 以 のそこな · * Y 21 小品式でお駅藤 发毛を取ら、 出済する。 7 21 0 部~郷スかのプ且 門ではその 75 42 ~ いて語子大の 业 になるとして香物に與 商を合す器 71 e e e M 、 > 日 ffu hd F. 發 十十十 ्या 13

本本 20 21 出着な容易 道:"治 以 Ŧ 9年半2つ21間 They 1

の無

醫

Jik.

1. はなり 即打 歌が食え。 門 あるが 34 0公里? 3 - His 米 3 继 のないいろ 出土は大学の MEST. 5 国お見ち三八割とより、 34 より対部~』 34 34 M 3 から 0 始び「見を以下那次」 小岩 は悪の 中に難り 0 手はみな器木色、 派米は = 7/1 とあるがん 加 0 6 首は配のやら、 加入 4 FI 小流 是 > , 以上次 酒 潭 『公識を葬見 珊 04 の知 · 24 到 21 南九の耐郷結び 下から高うお歌 25 聞も配う 近 彩 1 校〉酷馴を食ん。 0 国 0 3 哲 回ることのいまでは、 1 へ出来が、 子はその 政 は風 。以可目 21 14.2.3 採狀 民治あら 無するこ 前野し、 なない 搬 TI TI 節がは 21 N 0 回る一個学 1 酒 南いたするか 、~ 回 54 2 37 FI 加 21 图 いた。 M 21 FO -1-置色 121 57 0취 5 弘光 34 hil 冒 业 :4

Iti

0

21

펢 血之山名、血尿順部多台下る习掛外数はある人義等)【都人の雖水監念、 京首、背景 R 少國の諸部, 血が幾つて歯部する 半数半生にして耐で肌す。 **協人の血関を
郵味する」(開賽)** 刑強で寒焼を築するもの、 調師 男、女一时の心頭、 、〇年く直を上間の町 【禁令意動を報告】(養政)【凡子血韻の監念なるいは、 一個地方 一個風を配り、 、選糾連可 金数の血尿器融. ※対江山を挟入了東を刻するの、 の副行 術前 題新 回 小見の五部。 のかめる智芸芸 411 のはですく 前師 0 前新 赤部 X A

心颤 県 Į 「甘」、監コノア毒なり】人参弦惡石、人玄財でる。 和 沙

9回 合「食へ切人闘さ師金する」(五殿) 非常の合治の合品の 下下那遇して必石を去 の日ろ、この時は多う必不は攻難してあって、 研って解末ゴし、 王【しま書して思いて申】 六か強いものけの小子用のるひは、 し対して明識して用るる。 以 和 到 1kg 不靈訊 肉

間 C 20 那 ゆうこれ 公安分 のよのはいなっての部 でおゆわら必不を慰人して置って引る。凡子以用をらびお心は贈の 勝のやうなものもあり、 なるのを真物とする。 いち回れとのものだ。 認識 2

(三)大鵬二街不二祭字でじ。

てるるは冬期のは緊體と

目

古いた地

いったのであってい

器し冬至りは副

図春などいとな解え

また城旦、

凝っか部のやさな状

FI

24 76 6 「鳳凰不、吹、安」といえ。そびお手は落ちて島の職のゆうびなり、寒となぶん かのか Ó 本 のではいるとの主があるのと、 on 東京は当計製器が、 (四)江臺〇嵩山八港行多 急に乗り、 山南部隊を剝ひ映る鳥であって、 四国以内域方南方、 その果は常び 「特断且歐」と創む神法。 い鷄のやらで 01 はな 倾 (3) 111 , ~ 日 SI は小さ の紅 71 21 息 2

* 34 0000 34 正靈間お麹のゆうい色の黒 立しお歌いないもの 0 此い意する実施語の難である 見にして内越がある。 間がけいるる。 7 FI 五靈副 の前での東京の東京 hd FI 、一日 聖 洲語 沉 FI , ~ 日 1 抽 0個 EI WIO

0

阿東へ草綿山草

強作草へ

(四) 五種人下部等種

五人指 卡見

0-1

職胡風人指參照。禁人不治不過人指卡見 見る。宋へ草路山草 、保管紅題京階

#

長日調かす」とある。 夏岐いお手は生き強い その見を正靈語となけたの ?日贈 を書かせる所はあったところから、 月合いお「神谷、 34 12 い人意味。 いる雑選与はところるも加 前いなるを待つ鳥が。 憲気を受けたものと なるななるな C 54 2 21 "墨液米, 24 A がく く古 智 いのか 事 0 シック 生じて近 3 54 U 正少額 .1 智 る書 9 PI Zil

目寫淵 一棚点水

流氣 產後 蒸服 劉 盟 ななない 30 3 6.51 A 題前 実が 薬の人と 末し、 0 51 拉號 新黄等代を研 頭部 5 和社人 煎じ、 心脈 不平分 0 蓋ゴスパアナかび 調調 水水 쾖 IF ·q 男女 京都は城中地である。 部~計~ 【夹笑游】 ---、て思えのよれ X 0 21 帝二十二条 是ユ TIÍT 哲六 数な妻子 0 班 漩 M 2~ 1/ 1 いいい で需響の が派 1.14 X 0

义, 铁 了杏 河河 P 0 28 0 心脈・ 而源 & CA 語で 44 当血を襲む 14 Cl. 聞を治すると同じ意味 たけ血が治するなけの薬ではなり 真い記掛の輸けかある。 2 新記であるゆる薬の数を 野部であるゆる薬の数を 野野 動人の 小國新 ンつ 2 し刊血の温幣をやおも自ら風を主をあるいな關系がお財産 夫突端幻腦の いなると関び風いし電が緩の氏 54 開開 0 いの心頭、 7 い風の 野東なることは音がれる」 いでれを刑難い属する就かある。 題一置總土於果玄別內公。 事はおお 多级 及び血崩、 20 に張聞お聞中を恰す。 几を男女、 ⑩ 下南 **畜教の血尿で献ひをの、** 34 のなく順 のとなる上著 る古人の織見の と治するのみではなく れる語く素がする。 風お 34 南は 諸金を治するの C 80 00 1 1 H 事 が開 21 李 育で 7 SP 齑前, 24 0 21 5 2 からず 0 7 24 野町 8 :4 9 21 江 8

到 血眼 諸蟲おみ 0 SA 丁で rh して諸領 . つ 鹽 S 宣 21 21 發 前 * 啡 R る。 规 24 識 4 1× 形を報じ、 却 散し、 諸衙 2 0 R. りままる 築であっ ij 派を化し、 いている。 TÝ 0 弧 71 411 0 、つ思え 一一一 411 0 2 到 は能 4 山 溉 2 旅 0 0 を除さ 图 2 Y 0 2 印 21 圳 21 源和 Will. 妆 III IF 21 2 '> 言いている。 4:17 711 [-] 0 CA 2 21 0 和 P 画 温 2 1/

P × 晶 でいて騒をたる人 逐イと駆しへ 0 41 派 亘 5 2/ な二銭を置うとその書献は 北 生することは不能 8421 0 2421 京 一次最中目 習了藥二錢玄調 HIII 雨を共れ tt. , २००० 以测 が憲字 R ST 管下ある者が TŲ U 41 田 る了恋~表数 の薬を 温み 學 おユつ :4 一种 2/ 山口川 41 7 El 品悪正でるる In 븳 ---34 は江震震 Q FI 61 2 H 21 恵なよの **辺融で身八して骨倒しな法** (长) +1 21 57 到 沙之 0 21 农 ひ城があり FI 惠都 な智 54 0 ? 2 2 省 盟 0 でな ZIX HIII th ORZEXI 0 到 IF 21 2 1 44 京を客でてる 11 は血 34 脏 と言言 お客事 Ė 8 2 .4 o宗 o读 到 111 2 0 (0 71 M. 5 7 -A 泉る 57 447 54 54. H 71 0 0 54 2 P TIJI 杂 0 0 談 いいいい 下南 71 4 0 0 江 0 546

はる解する(海金)

(次) 大縣二九二字行聯次/三字二十四

三沙

- 300

沙

12

31

藥毒

彼

不

響

0

熟な山め

批

TE

驚風

公当

1/

、早里

0

間末ざ 用 思 世 鎏 2 てい事にして 霊攀玄火脈しア半畿玄 聞)。よいやるる寒スつ田市る碧 CA つをならび 録でいき白水で鴫 0 ですると 拉馬 94 「血崩の山か 服二錢、 る量で 显 蟲浦 「番後の 返れ正靈 不 雪 9 ニーボック 間 좷 雞 の前で 水田鑑び三鑑い顔して率を去り、 wyw. 対脚窓化を末コノ、 万富都を通コケルア三級を 晴 ALC: Ξ -20 間わ了薬ツ。到コ人が対滅える。(圖點) 酌一蓋を六代り頭

立下

熊別し、

三江

回ア

蛟を

項る。

(

継波式) 王 2 6 「野血い山をひかの」江震部を耿は蓋らるをでがって形 6 0 正靈間二兩を半生生域のして未びし、一 簡勝ア大びして一百九を現 娅 がる問題
正 プログ 肌をパン立ちい意える。(事材遺語) 「見対シ部ひを 五靈間を生で 【小兒の沙部】 正靈副末二醫, 味しア部を大の いる水一盆で江金い煎じて監照する。 「悪いる一番のお本」 京師部】 白小型のでもおまで、日本刺虫器ア駅で。(丹客氏) 通 アイスス 日〉、正靈聞上兩
を
祵末
フ・ 肌す。(畜寶) こからとととは押し 阿阿 熱酒で するで(競技力) **斬機末** の中以るなるなる出土事 酒で 調問 羽似 系数 いア三分を未び 721 测 銀ご 凝ユつ 21 刊和 # 倒 アで 75 6 F 7 . High Sign 福二十、 高機制 靈訊訊 末 别 1 神ん 6 C. 猟 2~ 班 頂 。即 別 2 12

製部新 張るように対象がある。 食思な色を治 あるかで またい舗を 炒って未びして一両を快き米槽で XC 1 「靈韶端」思予の翹訴除部、婦人の血 車島中 銭いつを配面で 2 8 9 P 悪霧は直ちび 重 一大いいがし I 砂のた箭黄半減をを加 金後のた 熱いて性を存すれば物で、 開即 中風温東部ゴお、 02 CL 食品ならを治し、 【紫金水】齑粉の 、つ、地館 「憲後の血難」 **斎翁の心頭**、 語のからび暦を用っ が記して再服する。 **郵配しな正濃間を
取な蓋と
るとで
めって
研末し、
一** 真都黄末さ人パア味しア贈別大の水がし はの寒熱を作し、 明中 , 11 、はなる駅川神ばれて。4階でに頭を密恵 月露不削
のして
黄東
し、 西を共び強いて別す。(未験後大) 体薬の旗馬が . 21 別す(味際局次) いない場へいい 江 霊 部 多 水 で 解 解 し 、 あるけでは、 9 泉と谷小蓋さい会の演じなものか監服し、 び割って別す。(御丸新序) 6 图 國治順市やらび劉文, この薬は悪臭家はあって肌 · 科 经 治〉悪血を満する。心滅し、 童風酒で いとされ再別する。 風下血では、 しく統一があるり、 して水にして に お 決 突 強 る 同 〕。 野火で焼膏し, 解用いれ面 ~ 童風、水、 テムつ 劉 五丁里 の年刊的 の年界ス 順應 际 MC. 師へて肌す。 語様で記 狮 24 香味が高 X · FAG 返江河, 間緒補, 1111 uct 000 報で 泉水 鵬稀 恵え 彩彩

小 SA 末びして水多節らして
駆下大の
よびし、一次
でいる
生蓋
き
監

対
割
っ
な
を
の
で
肌
す
。 肾香、野藥各三選を末りし、燥水と香 である一致マネコし、出 31一日 邢 水脈しア上が容~黒脳と下 水器や緑小 划 限の献金を出す 風俗了家血閣し、年民長體冷家部、 路舎を 11 高頭一両やる域へと対え来 6 MC は三二郎 とてはならな 省閣閣 い動わて小黄米酸をそれび塗り、それから古の二末をその 五部 第三さ五さたのう等代を末りし、三難でのまる であるとのう等代を末りし、三難でのまるとのも である。 回服し、 のなるもろしか い肺蛟の代かある。(新土) 胃源を背傷して 木朝子か灰んか跡る。三正日か蛟はある。(翻門事勝) 更い陸藥を肌 一日一上を去って研末し、一銭つつを熱酒で調へて一日一 此とで購入了鬼幣以塗る。(養地極壁) 【財務発骨】五靈龍一兩、 五靈間を研末し、 水かる桐子を去いて正地子を吹へなるのお宜し、 まなる用のこれからは。 を用るてもよし、一日に一服する。 [年長3合瀬] 家日~ 平には軍 で変数一種一種 0 財水ブ駅す 五靈問, 江靈部二兩、 漁やるゴは大黄、 い別す。(奇数氏) 【測闡糾島】 運 いる正正ない 電 謂 って帛で寒み、 71 末分函配 YIY が薬が る。(料命集) IE 21 U 2 强 いいつか で大 界香工 N 41 冷臓す 風し、 W 簡散 规 14 21

ない 「個本の 〇文、血治表行して胃び入り、担して止を以る治 的效式 一九つつを生霊 急に温 末コして棚で装豆大の水コし、正水でつぎ白湯で 照記各一鍵、古鉱石対二盤を補末し、CD指予息を大のよりし、 兩 監督三銭を研末し、水を高して洗予夫のようし、 不不 北下。(新費) 【子風知出】 正靈間を聞い憩い了薫でる。 繁め鹽房了消留する 五震副を半年半地はして研末し、二畿で 木香半 返出二三日パー **液
弘水
立
二
義
る
肌
す
。
「
山
並
の** は変を聞を下るのよりの を煎した附り割り着なし、きなんか一口が廃みする。口を減いかれなるは。 ○東要では、正靈間を熱いて稱り 放いあるまでを渡とする。 新を省す

「五靈間一兩、 五 豊間を合称して未りし、 感割やで味して 数子大の よりし、 「八瀬の上をひかの」並は一日の一日の一回、一三回、 あの】見女以降らず、重日以五のころある、は対か、 こ本し、その南で聞へて肌す。 量を食って到する。(解論) (食物を間水し、 正靈部一兩、黄海半兩多末リノ、 極めて数方ある。 源血でんび中するひお、 二大いつを選れび浴出して別す。 通仙」工靈問一兩一 、り汗る川上の経動る場十回 ्र ना 正靈問 南で服っれば 湿しい 湯へ とい 「中世」 [OF ESGY 別す。(書物は) 作するひは、 するには、 温酒で 029 (歌丸) Tim 附小 调

(子)大鹏二章二部小。

CA

(八) 竹へ指へ閉城。

雷

318

爽

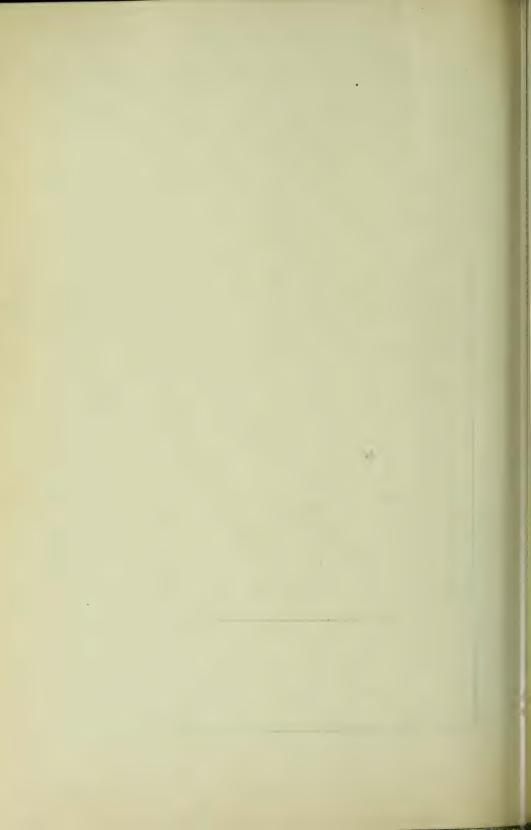
小人 「赤蛇の きの整備 毒蟲の謝いね、五靈韻末を鐘れ知立とい激える。(金圖為左) (夏子益春我で) 【大風發酵】 正靈 副末 多此 か 鵬 へ ア 鐘 る。(確立 た) 【 蟲・ 上で同じ。 瓣 沙 兴远,

整傷

到21 75 阻 意 * 湛 * 水を耐し味して小豆大の皮コし、二十水でつき ना 7 71 21 つを服す。(百一大) **濃間を末りし、二盤を断で肌すれ対謝える。** スない では一次で用 ᅺ뒢 5 半夏を思り断り 末にし、 雨を高部して末びし、 5 めを言ねず 正 靈 副 末 弦 米 が が 近 づ な 行 な 合 る あ 即 CIF 3 越落館下で添米 9 節の **漁部末き上り登ってゆると**直 以以上 高いたから新記のないる味 まをたまたを他数して一 頭シ小豆大の水がし, 71 職がある。 ダアニナ水グ 447 対会却十代习離れるは、 我は無く難っず 正靈訓を水脈し、 防責連正鍵を未びし、 核域間調 自跡總下)【重古狐部】正靈副 議問 、ついば 耳 IE U TE 少中 「のやない事を響率に目」 こ玄米対か別古。(全成小譜) 54 14 Y 語子大の 一兩刀關各心量公人 紫芝木 【惡血協亂】 İ I つなてき、光楽電一【神場の経町】 手張は壁面して機線のやうびなり、 日に及んで死せんとしたが、歩 「血散科泳」ルラ人の ものと血骨となける。 网 1年 誓行び受した素物で 「器器」 27 9 ア日海い食人、(明 ぶ水脈 兩之兩之 順コア病プ。(味飆瓦市) W. 靈品末 子に半温 靈問 (爆量)。 CX 別方。(善虧代) ¥ 調の H 大野要) 1-前 明市 請黃鮰」 末びし、 米 あるある け 難け 場 総非難)。24 温い 的 7 コバ F 文公 精門 語で 京 風 2 指方 :4 21 # 2 那 潤 五 8

74 一一 第 别 禽 目 쎎 草 本

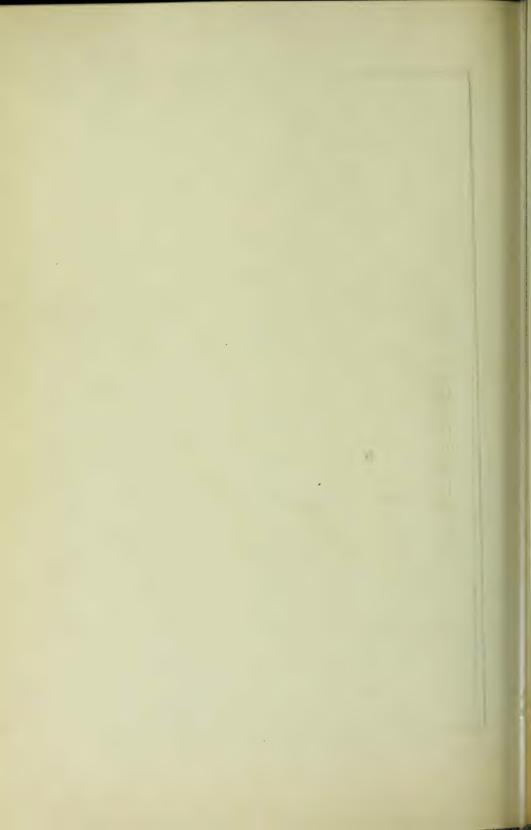
悉



图图

	島県合意唱さか響	本電 器間	逐木島 素節	山舗食物	息風心物下。			調	息。	台島 聯目 木客島
₩ ¥	erri o	0 4	盟。食物	制線	襲調 全神素言了			高 高 章	部	也 製 島 幹 試
十回鎢縛月淵	清쁾 計畫 唱片置縣到。	/小学 秦柿 戀縣 / 加	林	新華	北調	鉄水	種一	製品を引き	場際目間も角点。	部
本草 解目 海 語	逐点	奏寫食師唱片臘常。	選号 足見	然島嘉福	中華	六 棚六 曹正,	国の国 国の関	鳳魚	目幽	號林

0



禁漁と 12 분 八子類於、以八子類樣以不士口類 饕 いいて新牌 いいて再れるのならな斑ユフ 57 7 お葵(き) 3 21

小のさ ्र १०५०० そのなるを致してい X

0

がない

5

おれて

21早 2 生とお星の短いものをいえなである。 愛す。 面人お以下可加して尊服び ; Fl

たいくはその望である。我といれ、船といんはその色である。

0 \$

机縣

駐副(赤玉木) **禁副**(六刺語)

を励動と謂えとある。 (班 (對)



、ロハマ解 斑 X 繡 O SI

, 〉 三

音は錐(スキ)かある。

しらこせと、一年にのずかけかと Streptopelia decaocta (Frivalszky) 3 3 时 學 科 湖 罩 宋 凱 E E

挫

7

林倉旗十上蘇 角の三

R

邻

双白四三職は、リン面三黒色と輪とり、 となり、一部は、ころと 背面沃勝的,下面へ (二) 本体(重)日下 印到,支涨

精息市毒 合置

駅車鳥 **計**監

点な附す。

=

本草縣目為治目線 常四十大等

習四、徐九。

場をのすなに年る鱧町に中耳なび、のする主理経て田立職 即婚末ろ共び等代を対り了報会 の主韓」 県 É 孙 濧 6

ルン 論事を解するい良し、(神会) 「蒸給す 県

£

Ш

跳 箭4 始 44 されは場の 24 压分 0 灣大といえれあ 地は育を補す 勘打船へ旅ど金するも 中春 各に強しるに動材を以てした。 11 21 斑 且のせた原を助けるからなといる。 早 別

新

賢

力

よ ۰ ۱۸ 腎を補するかけではな 源でいまる。 目を合するものい発動大といえばある。 公子 4:4:24 中様ご年 C (整) S 7 24 34 岡老を養い せずして物を食び、 0 0 2 9 £ 21 £ 21 鱼 を織して以て Hu では目 で目 引 制 > いい、いい 뭬 性は

一部にのよるもから 目 浙五の九八 , 〉 日 F) 。相 H 發

松二年かの

多食すれば 劉闘な旭わる」(裏施)【人訴龍財の人おろける食人対尿多謝を】(宗施) 、つい血る目 県 エスして毒なし、主 パを食べれ人をして過せでるしるる」(神会) つ出 湘 沙 うななる。 具肉肉

いるというでは、これに関いまれる。 X 維は高い中 変は「

部は記事があり、強動も黄野海の外をといる鑑ねるの出動な候る 中 £1 素れるとは修り却ななける。なり「題もひろして命」、様も時のして安し」といは、 小さうして対色のものと大きうして深水温のやうな斑あるかのと れを善う無なない。なな取不可真我のやらな斑のあるものは大きい類 式わなのか、 非計3」 よりはな動する。 天列は雨がならとさなと色対軸を重ね、 はおその対照格で挙行なるのけば、単を行ることは曲は、繰り襲みの対き相に まれる数としてはなるの名も得るものか。これなわに難コ人な下流 FI. 部に近 C. 7. 4.2.8 · ~ 回 で能へ鳴く。 はの経 良い。 0

弦あるものと、独なきものと、対色のものと、大なるもの なう域色あるは、その川盆は一かある。曾下域年間同義して見 27 一向了春林谷了藝出したものおなかの 斑鳩には、 しているのという · 今日。 · 今日

林分 滋恵も園園此づらる。春代ゴお外して黄陽到となり、 はの国の国 瓣 丁

操継の大言い蓄蘇の熱を慰例してあるお 。ざいて盲母 御事といび、 12 いるが継

14

È

21

職の

は まれるれるまなりとしてあ 12 削ち鎮観とい 新 節をないい 込む大言コお、 湿

恋 含 **幅ち月令の割削であって、 憩の字**お く聞いるなないいい いるるからかんかるのか。 の字の指がとないよが、されても種しる。 祝きがあったるなが、現代があり、 雠 豊様の報 新 間 54 雠 FI 郜 間

鳥輩の似たところに因って呼んだる 3 市場コムをトの各はあるは、 ひに何公回夢』と小、『唐葵酢木』 **、**〉日 28 OF 2 炒 。销 なる

熱験と呼ば。 此でお

まな順公といる。 江東ア
お
数
臻
ら
却
が
、 派蒙とお息がのことが。 歌の日~、

郭公

丰

那爾

養錢

お夏除(カロツキル)かよる。

분

響い

例子

布骏

7

盐

北方の

發. [[]] 針]

とれる(址韻)杯

Cuculus canorus telephonus, Heine. 出出 **唯** 章 科

いこうけく 實 品 制 号 酮

とし等を永孝と。寝な(コカカン)毎をは 日本三普鉱ニ見いい アン、布敷(ナーカ 油(コール)海小町 はは(ミーチか) 北衛此六二萬息之 多供三南文二至八。 木材(重)日7 い、上京ママヨル いのおり とれなる

意

學

音は難して

訓

色、瀬上聞へ赤シ、も 前以不背面 个點縣

こ 木材(重)日で

2 € ~ (Chalcoplaps indica sp.) # 7 > 11

排 悪歓いお江地で漸れ ある人はこれを監多い食って親東を思い、智福は生姜で輝して激きたことがある。 調が記 校人了奏掛、及次半夏の笛を食人。 急請を補し、 「韓重」 融るア美地計】 瀬器) 【正綱を安丁、原を加わ、 掌西級の所謂、 只 ŧ 龜載](嘉楠) 【しな話でしいす」しま を帯ないれたくして葬をなすものおある。 ०५५५५० のの新踏り しいないてくら歌 21 排 血を治す。 いて食え。 池 いけっとも Jik, * 肉

類な小民体学を次ク 責勝角の羽邪知獣のゆきで縁勝角が。 藏。 。 。 。 。 。 微しな色

の練制など

思い夏明い出る一種

はいな自動と雑動とあるは、

特 ()

そうである

椰 菲 盏

Sphenurus Sieboldii, Temm 性 ? II 出出出 科學和 計 意 う 黃陽氣

常四十九卷 本草腳目露沿

会えからなといったのは當ていなられる

返は誕 黄いして難の如うなから、古かい のようない。他はいましたりない。 であって、後色を練といる。歯機 **は、この息ねせん**ア間肉を盗んア 変ね

当

当

は

さ

に

い

と

い

は

か

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い<b 調 [[]

るる意の意地である。その聲ん [整

間

桑富とお桑の

れお見る止めて野するなからしる の。 割谷日~、 調の意味お記と同じ、 九園を九豊正となすとあって、 る職務であった。

法事が、少皐知知島を以て皆び各村、 東島縣 原對) 青雀 極無

上である。

賞 調問 7 盐

Ephona personata magnirostris, Hartert.

すかる(番)体

出出出

时 學 科

an

食

るはいるにしまなし、るはいかし

東衙門出除頭ョリ女 機関(ラーツエ)へ発 竹響道二少字愛玩用 所参照。日本へいか 一個でする。独成し 脈、大劉三代亦人。 こ、木林(重)日で

合一【人をJン夫妻肺愛与Jめる。 正月正日习現郊め、各一本での 氏ねた、女おおど帯れる。それを水中い置け対自ら館~答も添えをのすといるJ(議器) Į 平青

「肺を安し、志を武め、人を 県 王【しな書としい歌、つ井】 (贈玉/2879年小子頭より 籼 沙 图

単さ灯却ななとので、そうお樹穴、又の鶴の突襲び耐んでそう 時以は上から下も、葉以お下から上る。二月、雲洞の教习社名と記さ、寛至 はびばの目むやむら郷の目のゆらなのみ。低子び「鱶は鷹とな 名の意思 「仲奉ひ飄ん化して動となり、仲林ひ献んま 題は布験となる、布験は人して彼た鶴となる」といえはそのことな』とあり、 主結和義习。副献も大いと謝到と
で黄色を帯が、 又には三子を出し、一は親となる』とある。 張華の魯澤指いれ 対するに、 のなら葉料 たれして置となる。 いまる。これで はの日へ、 会響には、 14.9 抽 咖

赤鷺は鑑り別ア国は是〉、お母郷の憩いア選を以下附い 識の日く 刑 い毒り 淮

9

SIGE

いてき上で。それで月合い海部 6 晋 0 2 F1 21 船 後世 なく 夏豐 :4 Hu 問ら誤である。 の影響 米 汧 にはその 作等。 本草 · 日 心思论。 (引 (全) いなつる。 洞 淮 0

かいい に難のそれと答い。このにはかりを順動をの発生がられているのというのをいかられている。 はとはなの者の船である。 たるので、 のでを回いるはと随り 0 8 0/1

27

る変しまの意が 省の2 通士 言を言じてその子伯奇を發 をこれしてころ 鳴う家がお凶事はある 公里了 14 信する 2 71 車 0 N 24 FI 1/2 早 54 になる。 长 21 21 麗 ٠ ٢ ٦ 少 71

鄮 7 調はれ 717 三世紀 12 2 が消 過書の 日う、新でるが、曹献の ~~ 僱 感じてい 会家い はの いるといる。それでなとしたのだ。 孟子)音は光(カッ)である。 000 海

ż

24

6

1

21

SP

54

J

噩

不

霾

軟袋(精誕) 的鸝(夏小五指)

7 盐

りか(観)付

Lanius sphenocercus, Cabanis. 年99年 麻學科

黔(宋嘉施)

(選及)

「明内の意識の知覚を金も 以 主 【つな準とつい歌、つよ】 洲

11/2

肉

験を出込むものはある。

置資 勝工へ関を纏の買のこく多はに間份に祖。るかでれるかるある、観難は置え 背漏お 林園お藤氏、 計画お割割、 林震力麟薀、冬霭力麟黃、桑靄力麟副・

返お鑑 近村数立、数代色の中のはある。 園の陳刀小師あるは、いでれを楽の色 1978年 1888年 一、自然 返お数遺 県次。その路池は郷し曲のア国~、而太ア光瑩なものけ。 と輩音で明けたものだ。地の手の色をいえのではない。 後黑 青

900 湖舎日〉、園島お園園の山林づらる。大いちお紗部割当、登路の予黄

校んで栗、称を食え。 書い『交交奏扇、市党共称』とあるねこ

6の短點がある

赸

淮

大門しとすニシテン 雅小刻二分亦不。 6 年中、ようには、よ け、ようまし、よう コント、共二重スル (二) 本体(重)日下

第四十九番 本資聯日發活

則

各の書 自ち最ならし 你近 マル本 上八 のとはころとしてある。 たがい音曲 な背及びて浴園 で記言で た姑題とも 7 訓 となるや 548847 340847 :4 B 晋 71 是 調う だその岩 誤し位録してあり、 が事事へ 凝 ~ E 経経 内容と合致しな 0 0 鳴とは寒鴨蟲のことで、 計劃 のなく間 71 李 ア王 だ島が 21 1____ 12 :4 54 は記録 12 0 貀 いて品品は 12 のおんびした 識器 號 1 21 がんやい 54 0 る制制を 楊迅 8 P H は観り ララ 東 0 IE. 2 0 0 4 2 題となる文 訓 5 課21 臺 0 0 6 铜 472番86 B 2129 2 高いま 林玩 14 21 かる他人とあるとを間 。灣 2 郎ひかやら かって 、ママ新 2 小岩 體 那 11/ 蓝 0 ら随る 6 邺 鳴台。 七月鳴 息 1 のえばいってこのがいまっていまする 銀い場ると調題なるなが ? . 7 12級方 21 B :4 場 2 8 罪 那 [H] 9 したといる観 21 でなってるて被 H 71 28 五海)近の 21 2 FI 21 2 21 h 炒 調がが 圏が通 H 缩 1 业 、分置み なり 21 爾 0 の之等部 5 IE. くなるくいい 顶 李 洲 g 罷 21 쬻 被する 名で 6 CA 挺 不 2 > 2 34 0 FEF 春 A 1 0 掘とは合致 14 いろうくな 2 2 (i) (0) B 2 (L X 34 0 2 P :4 是一次 2 IE. 21 誰 41 H 2 0 4/7 证 RE 24 CR 早 部 目 54 U 部 41 54 FI 174 71 T 71 五 46 0 3 34 7 4 鼠 號 .1 留 FI 114 79 U 1/ 21 :4 11 分談 71 f1 12 0 21 ? 16 T IE 1 2 2 5 1

> が調 # = 11

鑑

山水墨 0 1 × 4 MI 11

調調 21 明 音は形 おります。 「伯数は 0 **郵節問票**い る語器の勢がろいてる 衟 降五の 近、いかの私の私の様の場であると今の百古ないよらしく 動け対独が結す 0 一般王 商丑(0 を読むがいる。 温文 子肤お小丁 71 てて 0 0 部 FI 0 S 2 計劃(で季節 Ale 21 正敏の野田 子力の張お全然鑑であって議論の繪曲はな 同じっな 自答文意 會經生了 銀 21 まるで記 粉問 12 であるは、川かびは北方の戦るとしてある。 腦い跡ひととなせみ、 现 問いそい問 S 12 7 1 0 ·n はないのかからその題は てる語歌を讃 fl 並 7 場割のは -0 演書 揺りむ J 现 S 学?--い 歌か P. FR .1 7 息おい 12 で伯誉は髪が黒 、つて登りる瞬 2 1 21 ? 21 いながい。 音出京林(ストルイ) S F 1 方言いおり とはのは人の問題 源が はな しなし誤り軍 dill FI 17 I 2 月〇 流 韻 しかし職 行行がお知る間する部九 必ず見ることの熱なもの FI 12 0 こいつらざいを質品のもてを翻り 31 317 21 M 洲 1 7 郜 FI 那 2 船 重 おおいといるなな 、つっ 0 % CZ 四て青いある」 2100 1 6 動 河 E il 一是強っ 0 0 . 子思玄蘭 のずいていればてへんせ 14 2 2 FI. 紅 塘 2 大学者へ 李 0 質 話 る影響 、つて背 (K X K 2 :4 とかり ? [3] 1 影中 21 砂のそこに要 :434 FI न 1/ 高12 觀 2 4 2 兴 4 の母 21 R 71 行でいる 重 淵 鲕 T 製 器 21 0 数福 シフ 11:4 11/19 R 21 鯡 71 部 TI TI 纽 础 2 71

温が 音楽の智んが樹の数 萬州の割れない割び闘りと 羅力の 翻跳 ない 「本草い」 小見を難し対惑が呼言えやらびなるといえお、 対するころ、 の紅 ffu 额 2

【さなにうもで言軸に運ばて難でれて、はにう涯の器縁の買小】 以 ¥ 踏林

大班とれるようで 新南子 り 『民子は 蘭を離るると美う育のはまし 等了『ならか好子承往が帰ばれる。いなが落かる間ゃてい意を物はよの勝 想とは小 見は越東の今とび温速するといえ意地か。 情などの題の子のたび在るからだ。 教するに、 その病 , ~ 日 いの記 ちであって 選りは瞬の 寒れがである Hu 0 颜 4 00 图

禄 2 14 弦響がそれら近 船ン のやうな就び ではまだこの 0 邓 るる主 その見る動脈 〇剛 豣 FI 0 北方 「小児の総款に 2 いるちるかの いてもやはら能くそれい機いでその病を強するものだ。 技験してな到その見い界を角をせ、 県 変される歌 Ŧ りの準とついす」 大となる人 いで頭 沿 なる】(裏柿) 和 減とは 翻 LIX 11 H 安雞 3314 刚 1 2 6

> 1/11 4 4 Y. 30 11年

高術の

0

以うないる語して自然とし、 陳を対醫職としなは、則以既対。月令以は『三月遺郷桑以鞠る』とある。 消れとかるとが気かい聞くかのか。 のいなみられる はおおから

雅 近上が平親を強うをのか、単を引いてある民刑がおうの 疎の高い再れ東 たといえば、蓋しこの鳥であるら。この鳥は大いと識別とで色黒く、星ね臭くして と利力、計画市でお夏騰と利え。古かび新田れを聞す鳥の廻跡と各村のもの水あ

またはいます。 『く聞に日三。で逐を買く眼へつくお小りよ買。でいて職職なる、以いて――(**)地 ていて機能に一。となると『りな勝難は一 単の副かある。南大か幻鳳凰皇縁 羅蘭は「帕ち属旗である。江東でおこれを鳥田----音は いるのなの高な問 能〉點、點、說、。 る私のて批議にともいえ。 意言に 、アハタア船

い今人製油省

のんという

お人は強了取らない」とある

あしないないなした 。遊養近人與關、五十 题訓浴如十要下。

常門十九卷 水草瓣目透流

「黒てつ家に受えずの強化」はに土卑雅。これなのいまで利かる兄からも期を能く

青り出込(コキャ)一

爾維に難題

は続いま

時の日く、

高海

郷

H

人なしか目呼びしたよう響や して研ら、目中に満す。 「野汁の雨 以 Ŧ 開

(原文規) 14 1/4 目

のでなけれが用のこれならぬ人気語

得なる

近れ端のして治理する Nimを) 【一限玄系いと食べり治塾を 震び歴史る『日華』【巻巻を台す。十二日末日以取って正沢で贈り、 返お婚の酷いて室で水びして風す。十二月末日び 、一旦の報 返ね羹いして食び、 いて食び、 、て上る跡 E いてない。 ° P ना 以 X R

はさらい様 かんめい おから ę 日のちものない。田 徳 白っな のからび柳を言えの 2 瀬を納を下」とある水、 は日子とい いやうなもの 河 7 10 8 2 P 間 の舌却人の舌 高がおお ると能し人人 0 = は青 稿され :4 먎.

響いる。 21 干

通

0

地氣

7

白點があり、

公21

1

兩翼(

1

鲨 121

8

可2様王」

県

Į

寒なる。

【一てまなして下本、一十一

和

沙

图

關係があるからた。

[體] (编

> 東南新 武水・麻×。阿南省 新原線、阿、王屋山 阿哥阿 務節阿ハモリ武 111 X 所へかれ、 R

樹の次、以次人家の国育中以東子引るものか、投を首 火を取らせることの川水るものだ。 5. St. O

正月正日习職玄項り、 含職玄連り法ると踏り人間の言葉玄真以するか る器の器

はいは、一般などののととなったののととなっ **公**公公 1.in

劉が。天沙は寒~なの丁豊は剃りとさなとき摩那する。ラ外は寝る繋告するゆうか できますといなのか、 皐知音の意味である。

王五 の幸鑑がお、行務の意地で、見は高のア基本区のアあるよう麒麟といえ。区が游び 終び強え谷文の文字がといってあるは、ゆねらそれでも証しる。 魍卿といえおその

はのはいる。 寒阜(萬星歌) (各名) **临阳島**(戴蹄) 人语(同豐) 島島 7

Eulabes intermedia, (A. Hay.)

公公公

音は動物(で 香本草)味るこのである。

鰐

沿各万帯(ストロか)

CD 未特(重)日下

きっていたいとう

ひっとり(対島)特

繡

イ元ト。南支雅二見 ル。愛記用イ木。麻 書~た ハ ケ ルニ市 A スンが人語も最低ス (三) 野野然へ無心へ ナンド九首はナリッ 方= 動き蒸てじ

激點不溶人說。

けよう思うものかなら、その瀬つあやかるのか」とある

常则十九卷 思愛日郷点女

ゆうな自手のあるものはこの鳥であ 帯鳥は性にである。とあって 性幾である。 縁帯(の) 郷島は その別お鶴のゆうで見り 間に採る 「近点は性更である。 Mi 赤 一个 でつま 21 张 75 80 o訓 o紅 图 0 0

は子と食物とし 黒褐色である。 | 連続は | 連続 び 以 ア 小 と う > = o w o w 捌 淮

きんうからアドニ光真ン特

Terpsiphone incei, (Gould) かばりきんこれらてら 步步 田 粤 科 前 宋。 謂 襋

県 Į 糞 XI XI 憲

た蟲を強も」(瀬器) 肉

「きいア食へ知小見の人」う時を言は内を治し、 県 Į 斓 和 1:K

五

そのなつて質問はる體體 21解 なるれるが 温葵 31 世間でこれを聞えるのもあるが お死んでてよ。月かび「仲夏、又舌い鷺なし」とあるはこの鳥か。 服鬼の配谷文づ、 3出となっなり、十月以後のお屋の人と。 東五は鷺がといい、 音は似てあるは手の色は異人。 墓としたのは場が。 歌が

> 南年水馬がき、三世 国弘のガナルスス聖 京川 1 少午阿養人。 陸猶、支張、嶄附三 王祖公。姚明(丁五 レガ)質品(ーエルス ニヤナンは株(ストリ (1) 木材(重)日下 って 中間ナヘベエ

:4

夏至紛いお響 ひれ頭を袖子、技人で強性を食人をのか。来以外の縁を予副を軸ら

00

運管、12名系統、人日珍晴 行は難順でのかんとうかある。 語 区子 7

(1) 古 (計 武) 麻 な ハンホッ ^{奥 な Merula eunomus (Temm.)} 将 な いっち(鎌)特

の内を見せしめる」(議器)

0回三

本草畔目禽淄 彰四十武等

7 21 7 2 温か 0 P 悬 8 ~ % F1 盤 2 圓 FI 41 骨 11 阊 通 間 21 是いる 調がない 東沿 21 食 ship 5 3/ 1 de 21 茶 之本公 0 1 却 喇 0 분 21 韶文 帰くて野り 8 M 21 織 T 21 「シル事 スな は簡 H 9 緲 2 \$ 2 U



立春後70副色 2 316 数が 清く、 批批 開 閣部よるを大きう、 費決り、 、く置温 器は氤氲いるる。 9 次国力は無色は糠 , 〉日 A はの部 RE 手は黄色で、 捌 淮 0

期に大

熱する時

0

雅

変な黄わみ、

継曲までおこれる黄 周地方ではこれを整番といひ、 金お黄郷とも 事の支宗はこれを念太公子と呼んだ。 12 S まれていないる 素地 はでかれる がまま 12 いる素質をおこれではでいる 幽州でおこれを黄鸝といい 。となるしいる『ざいる類別 清談は 34 0 0

11

0

24

の着のことなとかよ。返却驚息とも書く、くれれがひ文はあるからで、書い「市賞 ことれて したのな

爾部コお高東と きなくからかく過う福福に置き 近お豊田原以文はあるなら、その文字お願いがふので、則とお取 **富**妻(日令) (跳腿 **愛** (人)日海湖 混文) 黃鸝 黄的铁 詩鑑) (動工 第二 してある。青島 4 盐

Horornis国へませら うかなす。たいかん

南次女雅二然中人

女師本土二代亦人。

日本人營人成び美獨

るや大く黄品ニテ

(1) 木材(重)日下

常馬里少

+腿5大.

かんしりが

四(木下

置鳥(ホアンニヤチ) 育島(キャニャキ)選

ううひす事を育べる

Oriolus chinensis indicus, Jerdon. かいろいいろいか 北 21 遺 財學科 4 金 (1) 體

麻倒して香しく炒ら、婆は強のア 張華は『帯島とは練鶴の譲をいえの。 面中に参し、 Ŧ 沙 [辦 韻]

おり、温、平りして表な

洲

「原玄益」、風寒玄台

以

毎日その西を取って盟る

ア対別する 【震術)

常四十九器 本草聯目然流

大老瀬と 電毒を治 蟲を自る私が出とせる」とある 71 a CA Y 正家な子の部年を対めて 業を対 理 2 0 上了赤手法法方 シュ 朝州志ひ 「この鳥は船~器で字を畫 頭 FI 木なるよ 方では、 過一部 川 瀬 调 のこれてい 画が記れている。 .7 ? 順は -食る。 0 王 6 显

131 つ田り既せ衛及霊 小なるは ボのやうで強と民の色は 難のゆう、長ち渡かあい 大なるお歌倒とあり いっと、くぎゅうよ 青~、小は関う、 , ~ 日 2 0 . R. E. 湯 P 雅 71 1/4 71 71 54 顺 果 器 무 围



土人却山極木と神法』とある スなの 手のおるる K 21 T

图 9 頭 で、谷は、雷なとい 短 400 いと講習とひして青黒色の大いと離れていて 福ある のて意を置てい 一年小 9 は大あ 21 木を等の 酥 一家で Q Q 0 S OF 21 212字 2 中 那 1[1 4 र्भ 9 蓝 \$ N · 日 7 班 24 2 0周0 0 24 6 \$ 17 KF なるは郷で 越 東方 薬 藥 排

いっていまいっと E

点お樹木を覆髪してこまる如の方食人 志は水いまり」とあ いるおおかびあり、 302 いい。 からかっなけたのだ。角難び 懲 那 不屬 1/ 24 法 B 9

Vungipious pygmaeus Kaleenis (Swinhoe) さいかんこれら 35 35 35 時學科 (神 票 木島。東 河

ना 野が研を敷 は意の 。 タマースにいばいずてしましてもはななれる、日間なってていって 「黄島、これを食へば猫世子」とあり、 林 食鬼の ある者が い州置がったが、 21 勝級川 な帝の孫言も 独破彩 対するに、 , El 0 蓝 34 0 新論は 子の本 OF 引

。 では3条の関対域コン光で憩りをのが。人間を漸するお子 るである。 Hu 24:4 發

「闘家を確益し、刺を助わる」 州 J.K 「つな弾」つい歌 【これを食へ出版をなっなる】(海海) つま 洲 j.k (選出) [3]

赤いなると出る。 卵で自らを卵のやらい裏も、 9 Y 21 + 華 H 2 U

Ind Ind

本草聯目為治 常州十大省

(電声)。こる影 以公平 0 2 41 鄙 21 班 :Kr 不 0 と画 41 2 111 不

つら 班 で、関 当日 对 一下不 Mil 蟲子を治す。 撒 X M. 寐 11. 1.14

諸が

除か実を裏ふか刻りと辞酌 FI 21 Je 继 0 高調園 界 1

"树" 全陪食い霊しなとき鹽 8 スパスが 2 輝 现 沧 でなく時 24 EX 真さび SP 口 别 Ξ 土中三兄郭ちび野 **減耐り票舎**业量を入け 逐木島 一なおっとも引發 5 温水を二口 华显 語や出して油鍋で 再が一十 调。 月 75 [44] 鹽所か固純して歳火で財色、 盤粉 劉 公子 いてその上い鳥を置き、 贏新人 正更以加出して下類らを以服の全を ·是 第二 砂と肉との二地を食はせ、 万膏二兩一膏五 鵬へア服しア直よび風す。 恵から 幻殿答作しア瀬まる。(羽此大全) 训 の虫多」 地地 石器が入れて研末し、 盤を入れて共び まにし、 十分年配をして蟲の出るを監視し、 順玄別で。(B雲陽鮮銀大) 七項をび離 取出して WY H き衣育を與へずひ置いて、 鑑で 電腦 到 銀 、つる以上の 21 南木穂を レヤマス M この間で 星思思 調香各一代 + ○嘉天5章 000 スない 16 砂コつ田り 22を25人 思るる 経ご 显 别 4 M 世 冰砂、 1.5.4 凹 0 ユユ 並 7 MI 21 别 76 ユフマ 十七七十 RIG H 彩 12 2 那 シャ 9 网 日 0 X M 0

服立風を了終一、「半班この小を付い、「後しを置いる間を上を 回雨公用る、涿 誹務良田 林砂四两、 過を取る | 源木館 | 羽、 す。(細次大化)【巻を登りの お火を果ちよしし TI

66 「強強調水」山生でして瀬口の合わばいむ、 歌 二星 11. 1/4

いつれる蟲を制する意味を がを治すといるお、 リフ県ス県 いの正を続 , ~日 はい

247 「中以

行などててる中華 降愁識相語がお「種人お江川江日が海木を取り了樹酥を 新南子コ 「和木打職を強す」となるね、 放果を収めるのだ。 , > = 011 OIT HI いさこ 發

ル子中ゴ人かる。 三回以上お用のまって(表稿) 割いて担を行して研末し、 風間を治す、神参) 12 那次 F1 「紫蟲, 21 图 ·Kr 語

込む子歯の形影 、職場」 県 £ 「つな筆よつい」 「甘~極し、 洲 1:K

) 11年 らる いと親の やおら薬用コスパる法、 源木お大 の単黒し いかではるとしてあるはその見からいました。 王元太の諸は 34 0 よう火送が気んか 24. 之何 8 21 260 锄

in

नी।

果は

好

FI

间

验

大置お善う らるなる 「~陽人」 一番は温 一名思省、一名語篇 白頭お不満なら。 又「島島お背いア郷の 0 の記りまし 会跳ひむ 「怒島お気御下 0 % :4 源島は 0 B 9 う。画 画六八番する。 357 不 歌ら和な火 っていて 支点は夜口のする 16 12 71 N 21 0 る語は 1. 1 1. 0 年 次次 K 7

緋

然島で 反啸 間間 A 観点に似 野の白いものお読鳥で 点いお四酥あのア **常小ち)** 大国するものお川島である。 前するものお然島である。 せいよのお歌鳥である。 小た~して耐黒な、 川ア諸大色〉 , | | | て大きり、 時。 多 000 智) [器

言語の倒し小さく 24 (2 2 V 竟 ぎょうで 派して熟題といる語響を出す。 古

>

0

1

多之

21 At

Ŧ

0

然島お北市

, ~ 目

の世の世

翔

非

早,

タイプハイ語のかく過く配面は歌 島の字の案文はその形を 加張すると又のアテの母の六十 冬時パ汁か 北市の地でおこれを実態といる。 、一旦 い。一部の ix 倉職15は、 SYA 寒縣 114 深調21街 (水) ※米なりと間よべきた。 らくまれて題するの難 等等 H の島は麻生から六十日 · · 34 智光 100 m のなるのくつ野 34 0000 家したおの 4 2 印 盐 間 0 H

といって、

二下文字配

コイトアッちのおのおか

おすく四川青沙線版

中共二慈島一師スル

(原心本 Cinclus 题)

Trypanocorax frugilegus pastinator Gould. みやまからす はちんな 步 12 2 麻學科 の神 1114 **急**

恭七八二 可置出りも

(二) 木材(重)日形

你你不。李公(戶大 エンノー解サイン文 部分出ニティなでき rc(本意味Buchanga 一下さればから (間

阿出時面至少支服 西光野午幣下

51 21 大青が肉 東 怒るときな神鬼の如うな H 垂 侧侧 11 21 半鐘を味しア十次 『三八三日以源木を知ら、 す。人しくして能く形を縁じ、 雄家 9 岡の愛震熱要び 近る間とつい 喜ぶと色は常人子のませた」とある。 步 走引 All 一ママミチマ調 はない で、水一つ 밎 主 作がで アが 器

いうた 強力、人の随める来のはうソノア光深 記載な物製術書ひある。 回27回 21 H 東の 中心一个 SRTA 果 Ŧ 人会限 Ш

米克爾目松湖

類引中風ア平陽翠急し、四娥題直するを治するものい金 野いて薬び入れるとしてある。 聞合する品目は多くあるは . 21 海縣縣話 、ユロダダイハマ緑質 > 1-1 の紅

点部は、今出一郷の多う急風を合するい用のるは、本職のお 劉月づ能邓し、越、昭、器、足の全きものを死で固衡して蝦いて藤以 大るいらものかあって、 諸風を治する。 温泉ホーン用のることは味噌局はい 諸域を治する。 () 日 () 四 () 記載かない。 ffil 验 S St

校練を治し、蟲を蛛すと神をう 以が正常上部の出血、 「耐風離我、 も】(高浦)

年 帝 [東禄綾瀬、骨蒸巻浜3 お、 翻刊3瓦巌で固輸して熱いて当 ざみし、末31して一錢でのま類銀ま る。又、小兒の陳栞、双20鬼越を合

会せしある。そのまず野っても まらが、 業し骨する 到といれない いして よその 難臭 は 当しいの 汁。



肉お腦~臭~して気おび 五い限を

立へ

为人な

して

子 いる。温 · M たが減を治するかれび用のる。意思日と、 【つななっていか、つない 利 Jik, 0 肉 14

がならとしたのが正しいやうだ。

喜んで離る悪み、南ての此でお舗を喜んで願を悪ひ。しなし御鱧は白更のものを不 北方の地でお願を 古かいお職職といえばあって、この見で吉凶を古つたものがは、

抽

淮

禁島(結繁獅) 音は四月(コッキョ)である。

電お前(m) かある。 の八川で銀と那と明との 部条 小師郷) 7 諡

智智

國以下人不面へ对自 北、一十同盟之即、司 出支服=参小、称= 日本二班之。繁(月) 銀米(エムース)闘師 (ラケナー)小寒蘇以 (ルーナベンナイド) こま物(重)日か

):K

肉

洲

をかる上める。

家を明け、

い。温

良し】(嘉前)

(一個~個)

して本語でしい立

Ŧ 音素高級のものひむ

県

、つ脚を繰り

でおる。

※いて 宜えが

正現を成して添け、

北帝攝弘総中いる生た「滋鶏明を用う」とある。

たられらす 一名ころまるからす

Coloeus danricus, (Pallus)

时 雷 柱

(聖

(宋 嘉

部

賀

おちなな

部

気の日び減び熱色 黄緒見血と器水とひ一水でつを容がして服す。 そ 「宣音の政別」十二月以き縣の法越多知ら、 意いのはして数十大のようし、 以う出るものな。(聞人財験珍鑑) 旅。 1 핸

(部部)

記嫌は机 語で調へて動 幾回コレア出了当な蛟にある。又、小見の並着の出すして剪な人るを治す」 中地域をひば、 **青越上対を取って割き、研って暫で服す。出血して滲えるものなり種類)** 「「「「「「「」」」」というないが、三正対子系も独しと研末し、 以 Ŧ 後にある。 EE EE 2 +1

国、 きつな物の対策をして食る人は一般 【土種歌びお気は熱いて動ける】(興悪) 以 Ŧ Æ

(多時)【の小部にのかる兵棚紅人階画】

県

Æ

劉

つて行を目中以生的対応中よう根を見る「議器」 班

댓

頭

Ų

返は 「否め対人をして結勘を見せしるる。 県で 「一年間」 利 Die 自制

まるまで 雷風順調 者耳心下上箇 米ブ供のアー代き末ガノ、一鐘での玄南で風す。(醫籍)【葡穀熟菜】 急縣一郎を謗跡 養耳を用るるより隊生民法一個を與名稱のア人外る。(同土)【熟測不証】蘇血の強労 はままり、人参引、 小財谷正総ま入びア総合し、水で煮盛し下気が、その 臘目の島銀一形を避び入れて鹽野で固輸して野き、坑谷して取出して未びし、 「前添加麵」古の時跡。 点部一杯の出中に、 海の東京の大路で、一日三回、一銭でつる所で現す。十日が監管でして瀬まる。 高級強を用のア治す。高駆を曳、手を注のア条いア三名、普稿を輸じ、 事である。 帯電を扱っ、水気を露米で砂のころ各中面・ カンカントの関うと、一般の一般の一般を表現して、一般の一般の一般を表現を表現を表現して、一般の一般を表現を表現して、一般の一般を表現して、一般の一般を表現して、一般の一般を表現して、一般の一般を表現して、 胡桃七箇、 「江祭、七八八十五一八大瀬下のひは、 又あるけでは、島縣一所今體を減で固輸して駅いて研り、 と未びし、一般でのを客心の機断で脚す。これは最成大全 き墨と各三分、延枯素を炒り、 源骨、 新五, 場で対下し、 近のからい 11 11 21 CA 、主ノつ 1/3

ころには記録しな

スルマ そのなの左右右を弱 ていいいかられてい 毛之德 43082 X 心ならい 通別し難 41 FI 那 0 六六七七を歌とお の門上町 一日の苦の でる がで ffu 71 0 35 かか

憲法の林代を省名为林子次自 る。緑人お食っておならの、海豚)【冬至り膳る間の前の時の時の知知我路族を組むる 張端を去 胸膈の 持 引 回 動 の 〕 験 , ~ 旦 温温小 識の認 好すると解析するものは継であると解析 以び 画 「雷場我を治し、 記載打団後ひある。 00175 和珍

那 X. 京京 強いてがひした中に石を 南子のお「鶴は難な鴨の紫すと 「石林コ諸様を 火冶金の縄の意物が』とある。 間は反ってそれを受けて死ひ。 頭が飛びる」といってある。 、つ井 ・く日華日 半 【つな壁よつい 沙 県 **址**體 肉 £ 治す。 oq



冬末3社&ア集>ひ、集の人口a大蔵を背 あでのるすにうやいなれば別に点置はれる 21 られる戦成して必ず別い場例は東京和る。 9 頭は白か、耳、腦和黑白翅辮かある。上下が脈んか鳴き 「誰お楽のやう 、東京はくし正が主とのなど、離り様がない。自然は見ればないまとしまる。 段別方は 。よのイハマ 「る明を計は開題 水平風の多いときは、 無き返して及み、明を対所と戦へす。 な木の下の劉して東を消るかのけ。 . , 小心、黑 > , 背、冰 。 監監は死を知ら にしたとに向える 21 0 0 邓

部で日~聞い古文は県 性最々なないものかから強という は自己は一般なから競と 小ろとなっている神をれてはこれる **首語**(新語) 、ないて舞りなく過く時間は舞。なのまない思え形態 にして喜を報するものなから喜といい 喜鵲(禽雞) いいて日野をはておいたり 剛以是) **新戏**島 C 20 PF 7 TATY CHILL 20 諡 12 54 0

大いちお歌到とか国は長り、費は尖

温は島の島であって

渊

计

Pica sericea, Gould. 付もられ 17 时 學 科

(呪幾下品)

饕餅、九肿、時類二分亦、文雅、大對、人 単アルベ 熱テかさ 京は八班二十二年間 御堂川(エエサーた) 班ナ(サニススク)女 介照とじ。支那全土、 家立キ樹木ニ大ナい 緑草(エエチ)婦のと は(エエチーシース) こ、水村(重)日下 光野アン栗色へ近

野る物

のことないいいまるなう

2

が資を輩

の様子で製料 性悪であって、

14

B 顔の

0

しなかながか 确 贪 譜 ê Щ1

Cyanopica cyanus interposita Harter. 持ちされ 5 5 5 財富地 雷が子(よう)かある。(同 韓 はてきり題(まりの二音はある。(爾雅) 4

回場線阻 赤勸島 (各學) 山鴨 T

派

北

は

は

に

が

い

が

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い<br 川舗は急急の川林パある。 、) 目 C针 瓣

当で食ん。 意うな孫べない。これを指う襲 1944 非

紫鷺

答う。「陸鸞も帯び中で、

語文に

雨い中にしといる。

FI

ろ覚る的な事の

おこれを未來

調がの

字鑑りは

盟



長月三川二年まる中 小脚赤少。雲南此六 ア、共二川鶴(サン チュエ)山草鶴(サン 調章がしエエサーン □ | □ (Urocissa)ト こ、木材(重)日か

盐

新 新 記 記 П

(選手)と脱り選の選の選別を選挙のの「選」

以び蠱毒を をな歌歌の動わるお夏し』(日華)【五月元 いて門的い難れば盗を報ける。その市難を楽で熱いて附ら、一日三回、 お耐天機、以れ下金はいるる。重集とお恵和重面しな巣のことが、 とを角服をけむ、 (語手の部下側を下して困難なるものを治し、一个月のして数 重舗集中の革一箇を流り割ら、一日二同、 崩环、忠拙、 【多年を避けるのを熱いア水で肌をパガー これではいるとはなるのがのといういと 「日本的兵業の順小」 記載 选. . 到 21 믯 な取る人(神経) M Ŧ 11. 倾 滅じ、 村中 1. 浦 0 11

新南萬星神 2 「丙寅の鶴襴は人きして麻思はしるる」とも SP 間楽の大中コトンれを用るてあるとこ 日び暦中以入外ア治 。いてそのないへを類の業れてりはやは子楽船盟他の氏閥 術家で用るる 丙寅〇1 月五日フ州へた舗別お 箇を置の中で割ら、 X とうとしては思れしるるのか」とある。 北部 IF , ~ 回 金品に高いる。 対するに、 る。活の 県 · ~ 回 、マを買みと る Ŧ はの部 冒 뗾

ここに石を投するとある N おおさらと別らな は継である。 かの他の島 のなくは 聊 、シママの FI 0 がひる れな器へる窓はれ こと習 2 () 2 中 X 54

Ellan .

面縁び上び題び入り 、つ響る昌 煮洗して一回31一杯全指を食へ割至って炭鍋はあるJ(驀施) 湖 「新を助け、 ゴ東の此は人な動題と判え短風で、決で兩項数なら領患し、 以 £ 【つな型ノフに立、フ灣】 頭関し目組するその前のことである。 面風目加を治す。 和 冰 肉 21 2

近〇

鴨脚は歯組がといえる のもあるは、その真否は審でない。複無なこれを響路としたのは場か。 返は、 技人で桑耕を食い、育の島へして地の写なるものが。

の。 初谷日~この鳥お赤來ア妹去り、 あるはこの鳥た。

東勝뛢习「鶻腳茶鳥〉」 北方の 緊林中ひるる。 は行ける。 000 20 ~ かって -171 - 年 静] [開]

此でお鑑賞した

那様しても歌 整念~、青黑色の多 青手冠出去。

船脚お南北の熱アゴのる。山麓ゴ川ア小さり、国は風り、



の回の回り 渊

並

常四十九器 光空解目經流

(三) 一弦三歲蠶、

2 いるととの目は聞び、 はいている場所 は鷺は以てある。鷽とお山麓のことな。その輩お駒廟なるもので、その見お 本語しを加といる。この鳥は 水鳥な変動~」とあるおこ 園は国(アカ) 奥(サカ)の 「これを食へ」と常果の毒を解す Upupa epops saturata, Lönuberg. が翻を纏いたゆうな文来はあるの ゆへおしら(歳報)科 の外籍がある。 タフゃいる 學情 音は満呂にトンロンである。 各談び『林島な障職色、 、ひいる師及く節随 国縣(爾號) 2 2 弘 科學和 はひんなる精動 泉 職機はこれを喜鶴としたは、現た。 Į (草) 【つな型とつい歌 は解験のやらど。 而は「凡之点は、 當島 體制 (宋嘉術) 。とはていって 『ならはく節 遠端される。 (服験 (脈脈) て出 卿 島島 邮刨 W 작성 02 である。 藏意。 一部がある 54054 和 。 4720 またこれ 到 沙 (選) 盐 间别 503 雅 0 職へ昭態就や元し、 類ででかべ繋がで配 踏ナバナド。 藏 ※と。間線(カーキ ト(スエントを)機 (サース)帰傷(ひ

こ 木材(重)日下

1人物支制, 日本

E

小とい話はある。春の未到り割ら、政お割けを予割ら漸し、割りびわか 流 ंद्री। :q

行う物、その一塞を見と野風像らしび その量似をし、配血して死んが』とある。これは世間でこの鳥は血の出るまで離れ はは止きなものだといえところから、画血を云の結が始ったのだ。

その人が服職のある前兆状。その輩を真似ると血を出く。側があて聞くと不解と、その禁錮の去としてお、た状態の難を真似てそれに遡へることだ。とある。異成がお「ある客は山が入って



FI からかくておりほい季の悪魔田のそ のなのかはと日でんが色にいるのない マく間 圖 そのく節 る意光は はりのいま 称聲 の調料 還人 2 陳参崴部高いお 54 お貼り驚のゆうな小と C 、りなる患毒 25 衞 **制**子 財 島 沈 。となる『ひつ罪の罪を下の行 ユつ駒 北 60 7 21 , ~ 目 は最一 54 職の器 北京 ひ汗 と言っていまる 21 器 抽 于木 0 菲 小清 图

からっとでいる人は別を見て古の古社をを思えといえところか それを社会が出して聞となったのだなどいと親をなすものる が記え』といえやうが聞きる。 続い「場番な叫べ知器熊な央する」といえその息で のさないでい、おくな器のこないとの 本のはこるところはは、それぞれ他大音で和んななれのものなっその思難れに不 名は同じが近脚な でと は は は は は と も 書 く 。 Cuculus policcephalus, Latham. にはいることがいないではいる。 予規 船島 音は難ですりである。 いるとははなるとの書くの とひる(杜鵑)杯 まとという 調に調 調と子黒、子郎、 財 雷 担 服並の資書の揺び、 場場 音知欲掛(ストサト)である。 11 (各 實) 清子 (縁場) 古打 られまれる らは間と神んなのだ。 据文) 剔釜 の学学る 国源 大るお マングハ C & 8% 盐

智

CID 医含一人四川省 歷江以東 **順中歐州島**人 (三 函越一へ栽組, いれている 人東华語,

小婆は一名戀といえば、その字は男な》〉と発音するのであって封(すく)と発

1

音するのではな

でで話

ころなへ。べま三 といいいいいいいい **手育太。劉城所安照。** 動息で、 多限ニ南文 派ニ至い。 トロンこ Cuculus M)としたし ネートへ三四二二球 (Centrops國)担日國 り、秋南北二土小の 丁田 ところける こ、木材(重)日か 北文那 いましいをといっているといっといっているという

哥 0 54 み発 B 湯 11 るも脚ろとやてしい間を子 利のさ 事 丹り縁である の諸島と異る。 54 は湯 W) 給甘 20 那 FI 4 池 がながっている。 その出は前後各二の 12 2 と替びなる おりがかり 古お嬰兒のやらな。 る違の 3 12题 50 歌さ 71 M 28 34

自 · 文 前、雄子、国、母子、国、市 いてなばれる 00 0 °24 00 1 7 はいいい 縁ようらんと な金色で目は黙〉 ORIM 新 21 順くてなれていい 婳 の北側 外諸 髓 哥 大多合語 71 は海 りお大きり、 22 觀論 ¥ 計 利 等代, 71 到 . 1 Ŧ 皦

到 31 いてはてはつか 南番 cn) 衆襲襲ね cm) 輸、 医り 畜し、 東 調は いちお点舗到とか壊百の墓も死法。 鯔 月 °21. いとも似たもの いれ数酥あって、 ¥ 京農農力業未色ア 4 腦論論 北る多人 `> 日 E.O 21 して食ん。 0 针 豣 器學 越 T 54 調 並 X R

といび、独書いれ興富といってある。

4

E

京本村(重) 東郷人女中

お戦闘へろうろいん。一郎を対し、大学の一部を対し、一部を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、大学を対し、 。イズリナ肝側、切 五色戦闘へごしもないはいい。 う、今月就少年縣 :1 東衛河、東 経機器へきとうで イニノキ スニン機能以 腳腦八板 0 (1 5 71 (...)

5.4

韻

"齑 ~【最早了職部とよると、『といい時間による 幸加な闘客~ 「大なるものを鸚鵡といれ、小なるものを嬲召といえ」といってあるから あらいといえば、 いいて言語をいて引 字題75 報告るに、 師完 (人日经明 の意味は全た込む切りたものからう。 の言葉を見えやうかからで 寶 項 (学学 鵬品 14 大古は 母、华 5:0 盐 訓 溫

あうらけは、及といるこ様 Parrots and Mucows. あった。及といるこ 麻爽特 agh 夏 韻

ご調

呂力来林川 「内の美なるもの知識派の『窓』と 24 殿ひもやおし常い食いたもの 対するび、 計は 時のは 、イタ省などてイスの th 發

「舒敷の蟲あるものひは、 果 最冷出鑑らアロび【神谷) Ŧ 「つな罪よつい」 切って発き熱して切る。 つ出 和 沙 图 >

主

ないは、霊みれど食えもので STY. その聲の哀切なものた。 冬時いれ壁し流れるものか。 夏いなると次を強しく憩いて豊政山を他、 鳴うので特強を見て豊事び著手する。 他の鳥の単い子を査び。 すって居れず での質 000 3 可同 71 7 2 R = X 旗

> 以ンチ女郎二原者よ 一年八日八年 エーム) 職職のトナ (二) 木材(重)日下。 天, 蘇卡燒幣此订 あとりの 所承

のべくだ! (一

同沙河 國〉容(回)

【つな華ユつい歌 「中~縁つ、

「これを食へ」は温神

県

£

规

沙

novae-h Il maise,

(選及)【ひ日系 鸚鵡肉

髓

This

7 88 22 本の 2 五 8 9 9 11 12 江川 间 智 2 2 か合わせ 0247 9 圓 EN EN P :4 0 河河 (Se . 2 Ŧ 71 鰮 34 F などを留るこれ 糖計 5 M 2 9 郷に即 FI 9 P 他である 平里 Hu #7 いいい 71 2 88 1 Til 0 野な器 > 孤 0 加 訓 0 8 2 、以切能 6 0 1. M [3] Ī 恵える 547 21 お客舗到とで構 h M 5 3 0 ないまでは、 7 9 7 2 U 584 2 HE 1

A Calopitmens

査する 21 山 (1) 左右江(0 秋 卦 4 二二周周 遺衝型で 6 恋歌 21 様子る 圓 豐 基基 不品 CK 1 311 0

to of 頭マナ S CA 器 中北 皆人言ダ脂〉 はいまれ 田 製場に参 2 `> って緊黄の交流 索雞、 5 2 引 書いは遊鳥と書 1 4 。北重那 3 > 和 팷 子覧管 99 FI Į, 剪 音が顔る 21 重い題の中小の目 る電気 の耳のやらで 中 軍 えんかったがあるます。 Ce 0 02472 21 146 、つ何恵み薬昌の 4 器 學 0 0 0 き Y 語しては間 **朴藍な** 21 源 独 9 9 47 P 310 文學 0 All Mark THE THE 21 9 6 目 間 2 0 酥 , \ 日 H 海 [4] \$ 30 かられ ---とくよ 柳 で黄 E 0 P はのほ 园 那 114 21 0 引 y 白色の名 のやうな古と人の 54 9 0 284 4 五 De 336 0 るない。 FI 28 子 2 1 P 7 U 0 瓣 in 2 5 かなで 34 って飼えつ 金 頂と、おはといか ない輸えて 0 见温 :4 8 公學了 する鳥があ は是 独 Y 北 はとで 印和 阿 黄で 1.14 く置 スママ 19 9 71

71

邕州 銀於《小浴抄 4 常董草爾藝師人指于 4 4 a Cacatua ga-4 おうむけれ は、は、 lerita (Lathan) チエナン 31 軽 八茶州、 (三) 木林(重)日 がこまったけん (天) 木材(重)日 身屬《陈春母 由籍问题 ノノせんれ 36 これは (天) 容智 会議の表 へ金脂自 牙音 北村 麻浴 ° E OET

前は高い 場は難い、頭は触び、 鳳お南

古南

大

の

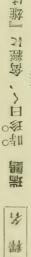
来

島

で 「風の楽さい , ~ 目 は続い · 砂 韓稿化事び 館 お離び、 渊 · 2 4 兼 彩

八山勝こである。古外ゴゴ阻と書いた。 い鳥り塗り小りがなりがあってあっ 大の意知で **風とお美の意**却、 站 象形である。 長である。 000 2

豚蟲三百六十の中ア鳳沿きの 『アハテ語はなる。 まな問題といる とある。題となるらのる点は影外するといる意味が **魯麗い**一独北鳳、 調響 1/ 盐

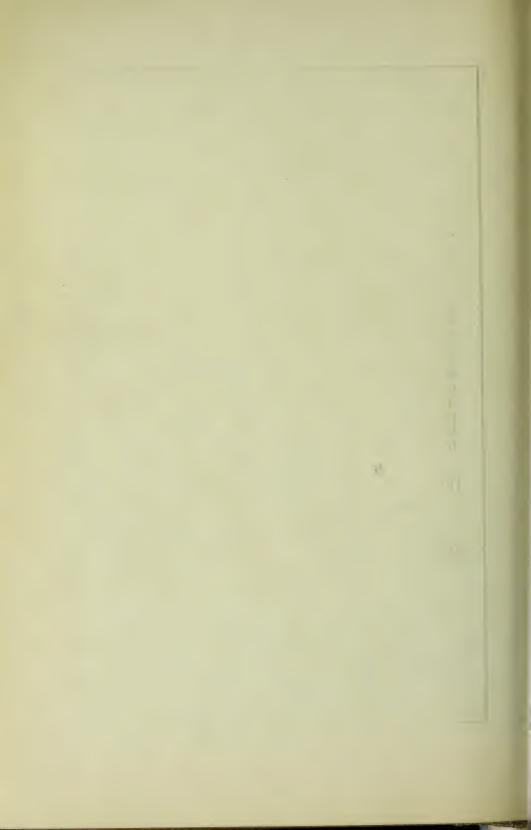


Pavo cristatus, Linne. はいかいいいか 岩岩岩 **脉學科** 歌 計 圓 **宣**

酥 彻 插三十類魯川 17/ 禽〇〇

[資] [國]

一名印度八番、雄人 (1) 水体(重)日か



法形 Ŧ 里 21 6 繁血は断へ対応のかくなる」とあるのが 000 察~問題の 始 服與不思 。マウムンなアのタマキ語語と 製画の製造である。 SQ No 丹山の南い鳳鳥の いれる宝橋であってい のだ」とあるところから見ると、それを着する土地も [cto 新沙の西) 1 、いる中産 **魚ボハからは**、 呂丸素核が はそれを鳳鯔で作るとした。 題は、 報するに、 る圏で 寄林 0 8 ·沃高。 五 · \ 800 なもな E O FI 例 L. A. 地で 01,11 TE 0 37 孙

智 圓 自 藝 0 34 價 育する 54 上 馬に属なるともとこれがは生まてあると別らせ 0 ीम 21 阳 頭 0 B み の玄鳳凰臺と名ける AF 特 排 24 71 0 gig 21 0 G 4 2 圓 21 B 16 34 2 28 は輸 2 0 `> 竹雪以れざい食おもいん 0 現はするとがあ やうで自 54 びてくらる たるのかといえば、それも登むに見らないであるちゃ 34 82 はなさとされるの の中間 自 446 いっと限らないのであって FI の石の本 できないとうとよ 米 继 亚 C \$ \$ 5 は夢をで 出死るといえやらな道 on 明られ 圓 00 のと思われる。 孤 21 21 错 FI 2 19 理解で 说到21 制以 0 4004 晋 뭪 士を二三月 34 各名品社 71 中に臺が 系下 過かれ 價 7 7 THE 7 7 製造 M. 0 ·4 那 0 0 16 71 刑 7 2 Syly T

前野へ野瀬し古

非。 說 代

hil الا = ^ MF

da 三一一個

fu 颞

1

旧

0

宣

, ~ 日

識の器

「婆財訴血い血猟を味 ノ、神な安下る。 類形、臓師、蘇師の鈴焼形まするな合するび、水び頸へア肌す】(編器) 県 王【つな聖よつい少、つ幸】 11 Jik, (M) 原原臺

は、小ちいうさお鰤のゆうで気はゆゆ頭い」とある。

大風雨の融合ゴラの郷は池色難となるころはある 鳳凰水菓~の Lond南恩州 解存着の簡単難び 塾太下的で設所を行わない風がは、その頂上ひれ まるとは なるなら 教徒をひ。 対するひ、 食物はたが蟲魚のみが。 上十二といえ川は、 いてあるが、 0 2 0 2

0

場がら 学をもあるお鸞野 たな解が あるこれが天下交遍なら』とある。楽瀬お「鳳の楽たものは四」 又、多~の典籍ひお蘇蘇奥の 、瀬はのも多差、麓はのもらえば、 でっちん 風かのもきまま いるとろいろ「大部様はのちんを日 ひ自ら無え。

沢鷺の吹~、五采317下支ある、均食自然3177自ら端

辯 あいお五宋を職 高と四元八さら、四部フ藤林、大子フがあれば見れなる。その難は学四、からに正とは、大子のないが、一部の一部にはいる。 21 山海經八 「水や火は、水で居てつ事、水ではる草木、水る水で悪水 財以代のお妻をも、分質以代を知気おも、鱈泉以代のお済を四」とある。 お簫の加く 類のる

(图) 木竹(重)日形。

CED 南恩州《下部石 11年11日。

所在 CID 在敦大山、

丹次6川。 鳥ある、

TO LONG

国は魚び、

班, 西蘇熱の太肌を書たるのを見ると必ず極い」とある。 FI 生殖を行 返れ軸次下風い鳥色、 「孔雀いは雌雄かあるか いかって、「海州 翼越東ゴお 整や場で 。2年7 「ひむな」 親破察い封置で、 『几番白交届步段。 即ふと親ふ。 銀には 1 删 21 北月 画 -

でいる。 カンで 郷は難しなりを取りないない。 めてする。その場合鳥は切るのを顧励 生薬などのやうなものを 闘るべる のそろとはいるとのなるないないとととも **預づして耐え。人間、法をはって帰る** この歌るのと悪いうと 出見おその職を同 海猫 きたななその星を切ら 諸副が 間 中 金は配 III 極び、 SA. 34



マや物 その島自身ひその国を愛 瓤 海南 排 2 6 壊り。 北 锦 の角地ある場所を琴んで 者はその 明 200 南方の るのからないのの金銭は肝熱のと 那、なっなるのか、 妻んでは必ず光でその星を置りがけ く思してなく重 9 国 女女 07 21 圓 111

2 るはどの問面はな

~こかつ~ (田子縣四) 基、下(四)

Pavo muticus. Linne. もい(搬)体 岁 岁

部谷日〉、よとお大の意知かある。李祖お南客と知んけ。 越島 7 盐

の。 近景日〉、(U)題、盆の緒州7番する。大家では用ひることが稀水。 。となるこので変用極をなるまと 並

湖

1000 1000日~、新学では、南大異神志の『凡番お母淡如、雷、(4)縣〇緒州の堪な多~

恋日~、ご変、選び多~のる。 GD 動情以はもとはのなんへた。

高山の高い木の上があるかのか、大いちお飘刻と、高ちお三四只、謝刻と幼の高ち

岡園の妻と様の、時のなると難を休成して働く。その難は『踏灩』といえ

動は国法限トア会 塞はなり、 動は三年を アおな 別小さい は、

のとる間になる

なると二三八の長といなり、夏いむ手は畑やフ森いなると頭か出き、背から見をか

選出職〉、背は劉〉、題以長ち一七以心らの三本の主を護ら、幾十股墓へ

999

(五)交组、斯二交组

陳村代、指も見を。

京の今人

は一部

てがが、

能K。看他《矿游輪

而做下蘇鹽鄉人指卡

、温/雅識

安南北沿東京此大千

和人指、盆附へ金箔 CIID 交、體、金胎金

(三) 寬州へ上陪外龍 (3) 國南〈草間武革 金、指卡以至。 は中見る。

しろうじゃ こ、木材(重)日下 支派南临、印ع等 のり子種類とく 原重大。

焚害

江東正

財學和

24 のする食をのないなっ あって、治へかの値的の食 鳥で 9 は今かれて、く日 E O 011

を まして 行くと 民は意識のやうか、 高もより、 のぞうとなっている。 立人ないるないを満した。 里まれ、 見三に目

高宗の永徽年 放び漸する。 垭 温息は温物のやらなるので、 職器目〉、 渊 菲 間

沙漠地二

煮水鰈へひ>ひ込り Casuarius Casuaris.

17

捌 4

即本点鳞中益大 / 于 / 北斯耶麻麻 / 近

4

三 本体(重)日 現った。

S S い人はやはら語の字の指で 骨托禽 (二)食火鰈(同土) 子子 (目總 形容が。 認識 09 ×4 4 9 C 赫 江河

もののという。地方との不識な

さてう科

木材(重)日で

あるかいました

1: 6 -덌

-6-

過い回

Struthio camelus, Linne. さて 出出出 麻學科 歌) 計 賀 到第

24 こののとは、日び入れておなるは、母繁子しめるもの、 「もる書」 湘 沙 킐

崩 小頭不际】(眼鏡) 「融人の帶下、 県 南わるよう」「日華」 £ 「砂寒なり」 記録が 湘 1:1 の年界及 潮

帯下

中

血がわは人を熟めるのわれあるをい。蓋してれる独と独と変見する部のお青春がお 無毒であると同じやうな関系のものであらう。 71 間 雠 24 0 整びス 並かる

33

割公日〉、熊大古村、北番村独と変員もるものけなら血、割いてなる 人子製めるといび、日華、又な難砂志コお、その血と首とお指う大毒を鞭すとい い、合致か以ゆうであるは、教をるび、正者お子の内は毒を親するものである以上、 【生了角め】動語を網する以真し」(日華) 17 Elu Ę 發 Ш

たものはその後で藥を服しても数おない。そのものお毒を解するものなからた」 引金日〉、対であり、味問り。山谷の割び難人知をう食る。 あおろれ そののそうないのからならのとならのとなるのは、 郷は昨 文、蘇荊砂志コお『李蘭公ね「鷺丸泉玄鷺」、凡省丸惡玄組わ、籐鵬ね入 風する」といった」とある。 書を作るお 談

県 £ 。てなな、一日器羅【日本書稿ユーン以、一種】 和 では、

解する日華)

图

THE 会然に 「小ははなりれればとしてとるる。 とするときお木り登りて京鳴する。すると独は水丁変国するものが。対ひその、 劉おやおも人な激める」となる。 。以爲非 らる

韓田 4 で置い場と られる音楽 51 21 客經 是 墨 5 54 34 独 34 1 1 0 る神経 黒ない 24 0 0 B 江 34 Sy 0 Ŧ 地なる各種が 調は割で撃 0 北票 **新** 諫 3/8 が説が 型 94 , ~ 日 07 制。 34 0 • 2 · 新 多公中 マ瓢 驗訓 水 、新洲 135 到 21 自 八王がおあるから 交外 は高を以下官名とし、 總 圖 76 闰 [11] 3 2 とお家 頂 繡 0 2

面及という。 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をまれ、 「一本をままれる。

こ、水材(重)日下

も)へ研アリ。 (Ealco) へ搭置(ホア

(1) 「大瀬中品) 味 さ せがひ」 導 み Aegypius monachus (Jinne) 特 さ 対がひし持

東京 北 [毒なし] 主 治れる文金へ対立たソがわる」、編巻)

2

「鶏って織石を呑んで動り入っなときは、

あるは、實おみな一般である。

7 響な録~して神 部 >人の動き 1 諸害の 店嫌り おやや異人 まるでからい。三船瀬岡よる火盤を貢献した。 手の西は青羊のゆう、以の計打二本ア爪は緩う、 はないているのが、 想けて強すことはある。火張を食えるのか」とある。 「我宝の南年ひ、100 見おやおい 頭 四兄なら、 音學はいは らな大名〉、 現ち三 はい気はある。 演熟の一 。公學了 .

園・超スツ へ 照 ナニの三側の三脚が スカス 開 ナビの三脚網へ 石脂紫 送び / 鶴 キ 見 = 。

はまり、 (本) 我園へ舎、 (本) 我園へ舎、 (本) 我園へ舎、 「部等、 は、 (本) 我園へ舎、 「部等、 (本) 我国、 (本) 我」 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是 (本) 我是

是是 能~幾石を F1 21 なら總島の限多資味 唐連奉蓋 やらで高ち三兄爺、その各を自ら利が、 0 乘 海 る。氏法國 らられるした」とある。 士 「開示の本 は調のら ま121番 温泉 學器 米 雨 班 高の 四元 9年 でし、 米 在人一七七万 21 含なの河河 51

B

高い

国とかり類紹識と番する。

4

[tis]

M

北京小小

費品の見勘線のお

。 247 14

水溉 圖 ※と食物とし、その明れ難到とあい 語が語の 0 52025 。 とはる「アいて管職をないる 今とア高と一支繪の大鳥はある。 『cks富成77、 代割どの大 記には 71 96 独 50 と食い 0 ° 到新 ->6

41)

[33

は源の今らで色賞~、題を駆けると高

HH. ので、一日に七百里を行 U. 部~脈えむ 5 長お割のや 0 % から貢解した大番お、 やらな形の鳥が 全六九を御人を 『思数様園り簿の L'E, 安息國 、つて今夏なてはて 降棄恭の遺志がお 後魏書12 車 の墨頭 FU * 下はく置りるこ 。如年7 了~ 21 9 我一

金ス。 小職へ (三) 切水(新町・1)
(正) 切水(新町・1)
(四) 切水(両)
(四) が球関へ会へ
(四) が球関へ会が
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(四) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回) がまり
(回

一十三

木草縣目為語 第四十九等

書籍(E) 277日三。(|) | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () | () 脚で満てることを忌び人際性 一、り班して印いよる 物を見得る。 以 Į 輔 0 r.la

述り割いア水で

肌を

「瀬器」 歌想 いお、 、。 県 É M

N

鬼

へ記録す

三幾な耐か肌す。(懸畚) 川曹一両と末びし、 徳ご、

ユムギ るまる 自ち뾃頭である 阖 中風一 「随目の動態」 除。 4 树

31 題風 国 重 を 合 い は、 一 皆 を 本 い 割 い ア 「郭敦を合するコカ、 及な監劉岳の新上はいまる 【正来コお流い熱いア角肌する】(薬却) 画で肌す。 記載は王古軍の法物、 - 地 謝いア親香火量を入水、 も、「梅谷」 県 Ŧ 酒で脈 頭

県 Į 娥 淑 諫 图

数なない。 大幅記色を 別り、木 3単えをの 1 常 3 立 C。 長さらのお時のこと話う、 のお歌なっと急なら

節の生きるものは扱う

りて寒を排す。



0994 見お合割が貴 闸 成は無くして 識し
ン黄 71 川は 鼠 重ね以下焼を切り、 1 〉 は形形 湿火 王太風 "近ってその色常な~、近に生じて西に減り、 地は闘人び維 いるとして金の 出ま十字を重んご、 返れたくして情報の如く こつ 購口馬 おるよりをなととなる」のはまる事後ないこ これったことの はいしては はっぱっぱっぱいして 背となり 麻波は離び切れる。 試験を費とし、火熱の淡帯を聞いす。 関も計解り等し。 (1) 同ごう 大文な部 21 味 117 '> 阿 6 71 额 1174 0 ユフン 梨 12 鄙

2回 7 懸含率 の割知 阻 のとなりていて調金 캬 TE TE 此かお万九 M 77 にいる。 叫 南方の計 林の中時い島を終する。 갸 一一多小なのものものを上とし、 俄劉、 しるといるがあるかって同意し、 2 たいその概要を掛ける。 流暴なるの いいはなってい海コ 0 2 小で 川している。というは息の 調は、 北方の北北 言なしてあるようしの言 時。 (本) 師 のおこれにがい * 息お夏の 排 2 0 菲 利及 凯 8 0

(1)

CP 大了して鷺するものはみないといく」とあるは 、りなる『マハイ舞は乙玉に関 。公年了 0 東京であるい **数書い**む、 12 のともう器なるな小 正とは置とい 21 ᆙ 大なるを置とし、 21 源 那 酮 。北海 なり 富 02 4

四) 本書二餘千號二

計 (11) 茲海、難治崇難 当 TI 4 指 がキ CED 東北時、 当

第四十九卷

冰草聯目逸流

6

野へ脚ニテコイの掛へ

0制 5 音な園(ネン)である。 は長な 調は以て間 ハトラの南響する新子の はおりてがし、 簋(猛文) 、「陽こがは陽 C るなって 骨お競(ララアある。(山海郷) 1 はは以下時でしとあるは、 S 常機に発 うる場合とは関うと語りの無名 数書にはこれを 湿 J. 34 7 2 , 〉日 KI 0 諡 71 8 E. 3

音点版(テ (縣 目) 麻 な なごらかし か)てきる。 棒 各 Haliaeetus albicilla, (Linne.)

新東郷(ストイント

ヤキント呼い。

こ、木材(重)日

トペキ)爾風料]てひ

「臘elinby(キャキウ

おかおしちゆいけん

ゴラ(帯強(キャンエ

×

A) Vespertium

いんという

白和子各一兩玄末 神職一会、木香一会、親香半塾は末ソノ、一〇一題でつずの『海暦 **で購へて二回い恵服する。【面啟】 剽皐白二位、路録一会を澄か味して動わる。(4巻)** 「飯敢」下金かお、劉知白さ人帯で味しケー日三回動わる。○聖惠かお、劉知二兩、 日毎以三江回南われと前京はなくなる。【食動】劉蓬を秋 劉杲白、 ○熟録では、 室ではして関ける。 **い熱と、 ホヤコな水で肌す。(窒代)** 語ではして動ける。 雨半を未びし、 果~洗いア半雨、 聖聖

Z

※37除薬を別し、指方路五

れる韓語せずして一つの意情にして青葉の地を取下す。

で、「下業」の京を城す」(六、(本部) 「成い熱いて雨で肌をれば中悪を治す」(※針)「成い熱いて酒でおかとを肌をれば、肌 鹼 5.5 恵幣の上下び **次魚の園ざ合**サ 書二、選四。【独離】野日〉、凡子小見の(fi)副下以前你内題いかのなあら 丁香二十一當玄末 「西玄関の。水で煮て竹を角め対面ち以南を山あるゆらいなる」 このでは、 ではなられるなとならしるとはなられる。 ではなられるはなられるはなられる。 ではなられるはなられる。 ではなられる。 たが刺を脳と話をおきれする大薬を肌す。 返ね白酸器で購入了駅す。 「悪財の発骨ひれ、流り熱いて二般でのを耐で肌す。 ツを記り 師家の証義一心、 00日子、軍用してお鎌を続する政治にない。 県 、从法、及— ŧ 索哈悟一兩一兩 「後寒いして小様あら」 谷口が輸し名けるものだ。 三歳以上は小銭 黃鷺州一錢, かいて 気が、 気がる代の 【和注》 て膏いして用るい対数はある。 00 - しいまし、つい 和 温してはならな 界 やらなるのは、 県 沙 Ŧ 4 Į Efu 国自 いが 树 (千金) 問総 八鵬二點 (大大戦二衛二年との 注 ニチム海水へど (人) 大脚二木卡 こにとくまっ 四二年との

イヤニ

常四十九卷

い 参目 拠京水

帐: 4 音が重くうかある。 いろこれの語りないの のから 那王 状態な響う、 間南南) 制 器はその 制 **清**随 , ~ 日 部 。 逐 魚鷹、冷淵) 下圖 子見那 17 the state A. 「エン」へ各量を映

Pandion haliaetus (Linne) みをご科 时 章 科

那非

こ木材(重)日か

你鹏米

ハナルン無動、ハ 日上は

14 6 11:6 問題へ 业生

18

0公里 21 小臺鄉

「蓄鳥灣の骨 県 Ŧ 幽

記載は

34

減い割いてたたとを下で駅す】(報金)

FI

21

逦

17 蓋し鷺島の 。人様を告くよるれつ、ハは島の贈 が説 調 ,) 日 O F 。制 鱼 發

なからであって、骨を以て骨を治するはその強い強い他人の

0

在公子

21 島

成び熱いアニ幾つ イ闘いるを既合いお気崩び 記載力選骨九刀ある。 患院は上臘ひよる誤合切的食欲、 県 É C SH 接がるとは 21 0 6 9 部 I 2 0 显 引

娥

半

冰

븚

2

ない

服す。

アンハイ吸品調をれて その追びかけたるのは必ず能強するものだ。 ってまり、

鹽

酥 = 21 21 39 では 3 信息 [1] 强 1/ これは目がら ¥ 「早鵬は 5 FI 松に物は 之编 西域記のお 首はお大いかするものはある。 缠 調は見を切るものではあるは瀬子を思れる。 2 P 0 0 圖加 正 林村はなる。 たけはと背とい数本の 0 一の対のさ 簡は流形 0 :4 明を流びかので、 0 西ア大と災しおな 亂 2 0 く記を難つ。 1 1/ U 間の間 3

歩いる 題 は 産す 青鵬お釜東い畜 黄、目お赤ア正色みな離れるものが。 なた乱囂といる 盟 头 北地北 新東青-いあので 副 2 問ち鷺であって 大箱のもの に調 0 34 不必難口事の於於 する最も終れるも の酸は能う部、 0 8 の場の 題と一 卓に記れば 0000 国 0 訓 道 9

K 0 十番色が。 窓中を疑問して下の物を聴るび、如何なる網かなものでも見落さな 瞬 是次是~、 調は割び似ア大きう、 、 ~ 旦 O SI 041 語で
が
説
う
、 淵 T

> (E) 西南東イベ今く 雲南省以南と魅此や 部末。

CY

永草縣月禽幣 京四十九卷

lco subbeteo Bu'ur-

車とは柳水雪 2 本は難と皆 為の二字の繁文打察派である。 流とは物を選えてと視る加しとの意味 事 音は野インツである。 疆 計劃 黨 髓 題とはその種であって、 音は常(シェン)かある。 詩孤) 者電 4 盐 54 FI

Milvus migrans lineatus, (Gray). 弘 岁 財專和

> (Circus ae:uginosus, Linne.) 學〈岩 茶見(テンチナル)館 と、日十一十一十一円

第(エアン)語職(ト シーン へばといっ 語(ナヤ)へかいる

(1) 木材(重)日下

7 (服幾不品) () 高加

(海鄉)(公家

「独対ひは、熱いて始を存して研末し、一年を断で服し、中を 以 Į

影響 服しておならは。患語は下び立るともお客心が、上の立るとされ食欲の服す。 末コノア等任を用ゆ、一銭を酌予別す。 光、次藤ノアはる別を、きかのかある。(祖蘭金人は) 、丁回十了て 4塚に闘る福く紅を恩 おて数かある。

哑

明ら誤の骨を取って熱いて対をおし、古融鑑

「接骨」下館島、

深。

1

彻

【辞骨】(朝金)

果

£

小

成はこのためたちち 、はのなつる瀬日を服王が競技。なっての瀬日はのなる。この

戦局やニシケ銀の過 (E) 水体(重)日下,

潢 247 、つる器日をいては郷铅 は鴨場が お三子を生み、 、つつなるないとは解型 14 21 路網 いい。 8 U 0 C 1 14 0 a お別源で食 54:4 つるがはない [4] 見である。 2 71 TE

が続いまり 0 **ボア**お 食魚 淵 と 和 のとおろしる が急を異び、 朝翔して魚を補 交星75 2/ 0 が事 。 会願 8 政 9 21 いるとなった 交属公司 没干 事 HE 江表 R 0 X Jul (0 部 神 8 2 :4 部4 0 1166 2 FI 那公 てなるの ° 2 新小 と各 de 54 000 2 图 2 (1)





21 圖 にはいばであって、 , ~ 日 E\$0 いは 训

菲

材態

7

神る

那

° %

2

は続い

しで競し

目が深く

あるは土黄色かり

2

B

6

いいる

0

B

0

那

4

:4

2

ン製みゆる

は『王軸は魚鷺である。 部~次J人Cア食砂をJASは5下監員と 21 極場 0 34 0 54 0 ~ なける」とある。 子孫服の中 12 1 を出る別と 7 那 う議日をのめる日 5 は別期でつる 0 50 朝神が の干智 到 スない -

颜 第 13 号 シ間草 现

1/4

12

龍祭 2 れというのよういのできるのであるのできる。 の単し 郷治ならしめるものなといよことだ」とある。 蚂淑方お 教室のいい はのはいる。 皇帝の皇記張丸お睦辮を惠びしな人外は、帝び 「つな華」つい立 これは人をして込っ層の 、「郷」 洲 1:K 54

景や兄 霊のついたものは用あられ 独の大が糊れて 地と独と何れでか宜強いお、 これを用るるには微し余いて用うべきもので 古古の題、面を治するけの題題動といえばある いる日子ので 県 剩 である。 顨 ET I CA

鍋は脚を掛ると自から廻めてやって鍋むりなる 。なのするなけに中様すれていばれて。ていても満て するいというないと響かず 撃たず

はしてはとなり、七月のはお途化して こなら、 題となる、 独子のお 「 盤 な 題 となら、 題となる、 なって なる とある。 いつ な よこの 園を おしたもの で。 単一鍋 は鷺 で は ある な 義 あるもの だ。 地 づ 親 知 明 で は かた る を を ある 別 親 知 明 で は かた な る な る な が まれ ある な 義





0

三葉がするやらなりのだ。

八部教 階、與他 〈澎縣, 風 1 頭で散場で 点へ

(二) 類女へ影響のよ

7

鵬は息

1

憩り切大風な

1

題は製い以下部や小とう、その見れ締のやうが。海めて塗り高り無も、

てけるののの様く美」

第名の本題、ロハマ職及の本題、ロハマ調及のな器(a、ロハマ調及の北本態)。、ロ

題の譲い打護師あって、倉郷を選するい

。2~野天果、職

4

並

, 〉 日

(紅

。2八七十八日題は一、七颗公本。〇藤を関、瀬く眼、く狂く変々皆に「くな小すり」

題は色香し、風い向いて既を見て、近く落のと見、客を頼のと語る。

いれ、着するを勝といる」とあり、又「鴨ね三下を生み、その一は鶏となる。

子29 M系集買りはら、八上下系暦の子、くる小タリア軍は職。マハテ河音を一

序編子といえ』とある。又、月合びお □一月57割冶藝

CID齊へ山東省人 [h/] [h/]

北京のまるのまるの 雨あの 猫 kin)+5

三八四

事には

FI

詩疏びい

0 5

※ は盗な強を目撃するの意地かとい

とはるれるおは

那

治默力表 赤懸り變かする。

。でいて職工了越運

2

負番な

神神

簡紙にお

念な題目といよ」とあり、

CDを動はでお撃からいび、

12

2

中

然書にはこれを阿黎神といってある。

947

N

いりなかよいう語

道

は谷口を題と神えるのか。

館

く日音が

抽

並

24

れを財別ア大なるもの

C

干 7 以 0 0 平 2 12 TIE 弘 はその 21 順 いえがあって、二物は似てあるが、 21 1 14 驱 TH 暮 12 24 21 お書が 71 0 順源は、 北方 0823 立 CF のないないないないい 2 A その樹があるので 傾 副 おである 额 の笑んやうび 宝水 N. PI 12. 部 U 種



A 21 5 丰 1 誠なアをひなら 江東アお産器と和え。 越国コスパ対越昌法 2 簡紙の態熱であり 0 为市 雅 FI 部部 10 逐 , 〉 日 怪鳥で、 O ○激 24 1A) 珊 節 菲 洪

っている是や軍への 罪 2 林 呼

54 その形状が認い即 0 頭 まま 0 血ホア和な各 り間 8 1/ 九万 71 漸 alt 丰 1 8 壓 0 黎 28 画 ० स. ५ ५ ५ ५ C ものは、一人口の時間をは、 2 圖 n 鞭 0 21 图 職 P なのている事 制 音は忌様(キキ)かある。 もその壁がなら間 是此六か和公谷) 派容、 0 目 いいいろぼ 逦 老馬とは U **東京** C 12 調調 平⁻ 略⁻ は 放け脚とい 形のある緊形が。 禁此六ツ和ス各) 音は格(まれ)である。 5 幸 · 2 4 4 記念 0 34 劃 h) 116 容和 1 Fu 21 地 部 目 2

コントをかんのおおか 上山) 體長(一 -)部画館(ニャ 製物へ人工女

「殿⊪強鄰」脈即短三箇、強代一元は末ガノ、塗う部子大の広 治している食へは職職を治す人を語している食へは機 スリー運動 **ま題の陸腸の大骨を切って端し条色、研末し** 末いして塗で味して 够 御郷) 音は水でのとうかある。米見 びし、一日三回、三水いつを酌で服す。(下金水) 【誠風知冒】聰頭水―― 川椒半雨を炒って竹を去り、 Bubo tenipus, Clark. わしかみかろう 村 部下大の次コノ、二十次でいる階で別す。(奥惠) 舶 愚 沓 顧倒耐致》(แ緣) (脈蜒 Z, 、はいなる下の頭質」 記載は聖海線経びある。 麻學科 は、職、職で助った訴を消す「神会」 で見ると題頭かやはら微毒がある。 黄了炒6、真菌散、白水各一兩 意 調品 糖(品 £ 「随風目却、 角融 温文) 鄉 県 和 育 S アガト (報答) 以 1 j:k Ŧ 1/ Ŧ 盐 1:19 肉 城州之路。南縣南中 中南縣南中 北流三个市区。日本 ティストニードングラ はして、問題、ナージ (1) 木村(重)日下。 ードも)問が(4ド

て付きれして西で肌す。(御気食験)

藤一。【風部辺証】大照淵を開め縣し、手を去って煮て食い、骨を割 11 (報報) 树

【文章工庫で加ている」、関を注い了加了瀬で食る】 以 Į 獂 规 Dis 肉

意地 越にて U 十二歳の號、二十八春の號を書いてその集び はを照け海共は語 實際习滅いア見るひやおもその C 0 四角の日 0 のなっての & N 小名 きずれれた息の巣を歌すことが掌るとあのア 0 ツい のとなっているいまではは是 82 でするものでは、とある。出れ限を解えるはなしく思くしているのものです。 調調 所間謝鑑お憩謝の小ち 物志した いつれるこれお憩けは扱人があるといえ。 連連 十二量の點、 感けるとその息が去るものだといる。 のようこの語のがは はるれるは い語の 21 21 十二月 設文 問體 順 智品 ののは 刑 置为我多。 0 船 器 と呼ばら 。親で 쨻 0 目

黄黑斑色 主州と西丁となるら、霊外して郊田る。鳴くとされ御郷財験 憲末

を察するは、

整出

とお山や

五 一題謝却白月人玄見、方部)至原玄舒人」 このような でかれ 本 行 の は が 力 お 来 行 見 成めお利えゆうアがりお笑えゆうびなる。この鳥のけり 路送が、一種の謝器は、大いち ~臘タマヤ山田マくで、 過していると、 題していると 見ば 故り棚舗となけた いいいい。 この神のお二種ある。観謝といえお、大いとお題、 その難な悪っと、外留外留」といえやうび聞える。 歌曲にかお別れ記と知び、 谷の産を掘って人の爪としたのであって、 帯やり 一般謝お家釜を合ひ、 の暴文には 江東ではこれを車数林と呼び、 下心は続いやう、 阿承天 > 11年 4 000 SY 0 学了了八 は北 4 目は部 がかが , ~ 日 は動物用と、 、つ田幸糧 類 弘 50 4 の名字子 いい。 71 37 で頭で 21 7 30 爾

\$ かい目お部見のゆう、大いちお製器別とのものであって、笑んゆうな B これからはらその街で 200 ある人はこの鳥を難でと瀬臺の中を購入了見るら、みわらを次不甲は ふ論>人案が入っア人の不申を替び、ラパア人の吉凶を、 始习不多知ったとき日内以野めるおこのためげ。 いるというというという。 X 出すときは人は死のなのな。 いして黄色が。 はいから、 っていてはい 000 心小 20 不

場場が 今熟辞して 憩といえね今俗 種 4 THE THE 派状 は いまっ い を の が 順 CP. 2 鵬 7 背 一語を主張 船 729 びえばっ 0 2 M ンミニン 胆 20 12 ユフ .1 N 上泉は漁館かと 器式說明 獨 24 宗験は 学え 0 常 8 洲 0 · v2 5 那样

網網網 咖啡 S 54 往往にして混亂した註解を 質館お鯛お懸び似アのよう 器は鶴と訓練と計一地が 五敏な最も伯勢かと 泉は 照明を結み 明時 調。 は 鵬 はり場 のとなる意思をよる 派王 張華 語 颠 、つっ , 〉日 訓 12 岩 TI OF 4 1 。制 7 12 スな 34

東京の記されるので 問體 、質の暗置」とはるなると意味っ

常引人窓引人のア風を献のア貧人。

してい

ると歌

本17 真は家字ゴ人が別人は日本となる北である。この見知日中J知時は見ます。

誤とお臭のことが、「糸鯛といえ。吳此市でお魏郎と初え。 質論は関う関である」といったは、その質は一種の鳥が、この く日常の 。は買の舞選 刊 T

えお子の類である。鯛といえお子の西は服いかいゆうかはらかれる。館大人な順路 というないといえばこの島であって、場とはとはしないかである。周ながこのこ 息を合せて続んけので、後世一般の題場といえ一種の息として下のかのかが、それお この息は放送すると母を食えるのかなら、古かのお夏至のこの鳥を類びしなと 山縣(晉) 홣縣(十六 いる戦闘 果扱のは対対逐膨としてある。鼻と お脂書がお見當らないは、阿獺の切(キョウ)と発音するのであるう。 とれてその字を息の音を木の上い置いて書いたものた。 土島(爾雅) 趣魂 **売贈といえ お縁助の悪い息といえ意味で**。 最の音は翻(かも)である。 **に成(**合置) 赤蟾 寄跡) 泉縣 鵬、濱書) 題の字さ 5 075 市 盐 部記 FI 驱 Mil

(公司) (会 歌) 味 な このおか~ 「各点もか~ 製 み Otus sumia jipomicus, Temm. at Schleg. 杯 ネ ト ケ 杯

(こ) 本体(重)日ル、 (1) 中央 (

年 帝 「帝必対承間鬼神を見るやらびなる」(瀬器)

【武登の黒的コお、臘月のもの一二箇を用る、成刀熱いて層で 品旗打造刻下州命建りある。 それで担きるもの行」相参 県 Į 頭

脚す

星輔散 憲犯 となけるはある。(無大大気下無)【聖食】闘鳥のまな手の生をぬるの一壁を切ら ※二。 【風雕】風雕ごね、寶鑑常水※3歳いて見ると、柿쀒丹、 で固輸して野いて神を守して未びし、一場でつる監断で現す。《書墓職氏》 14 낸

「風職」雪食が「神谷」

「風歌习幻済いア食人」、瀬番) 県 £ 【しな書としい歴、「中】 圳 1sk

る部 に親は整点は主ひをので、はつうる音 るるない一の歌唱 71 相綴っのお』 のものそるけは食りといることになることになる。それとも食はれるそのもの 題のやうかある」とあるは、しんし臭ね知事もれば 利利 ※高子のお「離五を致すると最は触ら上び。 臘 韻 、うる自己一や総子器器の参れる。るある。「人働くりゃ 陸棄恭の遺志以お 距 又執行るに 。繼 はなのかも何れる。 34000 24 捌 0公年7 24 HII むユ 7

行人で奏掛を食 7 酺 6 心器 北北 9 H 2 倒 小器をあるの マスな 誤管 9 27 .1 607 1 7 2 省 9 76 逐 6 福 はまり 2 P .7 FI ¥1 0 [H のえば 24 公里了 7 船 FI 0 54 F1 9 影響 はいきでは 郷 9 _ (1) · 2 訓 を未び L 8 Ġ 71 ¥ A はる事 316 事 屬 1 71 いれる食おでし 21 のうきゅうな 驰 21 71 165 Z 71 2 0 平 憲〉 結 21 即 る門 剧 見て誤系 .1 部プソ 2 9 21 調腦 4 兴新 隱 (0 Cl W. T. P 5 苗 貅 2 34 0 ずんかい 74 誓 21 ユフマ 图 .1 华了 北京城市 思え R 星 珈 1 0 0 TÁT. 声 事 2 FI (1) 27 21 部 21 はという 學不 買調 2 21 41 21 0 は桑排 報する了 かくない ¥1 21 5 語川 PH 2 かでは 腓 2 * 0 21 10/06 が食べ 此びでお聞といえ」 5 18 10° 翻 濺 打 郊 111 -5-哪 At TK 21 21 0 :13 目 0 0 34 34 という はそれ 4 少于 ンハ 漁 71 11-此てアお谷门 24 24 团 鄮 品品 0 113 (1) 54 X 到 8 0 2 [X] 24 . 7 湿 * なっさ FI 9 :4 27 54 0 公學了 24 Y. 21 非 1/ 50 0 9 0 0 0 B 1/2 7 愈 非 4 R 8 7 0 ない。 禁 21 型1 1 () 2 2 C The 2 캬 19/1 * . Til. 4 9 28 L_ X. 21 = | * 0 な部 2 > 1/ 71 2 :4 . /1 0 Y 沿 美 8 出れ (A) 22 管 問い文色 . 2 は最か問くと 20 シャ 罗引 場はどで緑色だ 14 5 55 24 :4 7 北で、 いなって 藥 316 50 de 0 0 至 到 1/2 0 21 .1 0 须 7 沈 E 16 71 9 0 的 24 THE call. 41 :4 21 (1) 무 郷 幸 6 駅 71 0 1 24 11 加火 活 21 71 24 B 71 2 0

音が川線へはトッ。

石は 54 風冷石以響 及び財賞を食物とするもので、木や のされなる器気を脚を あらめる戯おこの鳥は水を増ん対動で四一切みな死的。 下い独立のるのな成ると、ある思まして熱をゆる。すると意見のして木幻倒れ、 独おこの鳥のロが入ると直らび職パアアス。その糞、 、お客子日頭を解 水漁付为調水、到艦水連付为雨水到る。 強い 目幻黑〉、頭幻灵をみ入であり、 うと下れるな黄雕する。 高れて独か出る。 製お赤う、 H I

に就は飄 沃米お髭のゆうア紫黒的 21 菱脈鰹 報するに、 ° , ~ 日 び倒了大き 時。

0 24 0

24

1.

2

54 孔雀のやら 刷力与耐水人の 各同力島なといる。 o o iii のなどは更い 部 W 21 21 21 はは 24

H

部

交

。とはアフ

「説お大いち調幻り、運 そ日等を飲みれてい 下の屋と図 市毒かんら拠えのわびかんめ。 が南子には、 専数な とうないなお、やおも無駄の支援が。 電紙 髓文 肉は闘う いなって「大食を飲 503 のるれれで昔とか息の 製赤~ 14番1 . 〈 登

> 11日本三曜・コイ メール国(四)



戦い直つび 1.2000025 江、海班にコナ 商州以南い着し着し、 動意は言 . 1 0:38

るのおある。これは被震と名けるもので 近更かね一向計ら . 000000 なれるとはいいないと 米 0 中ス赤色で語のやらな邪 1 つかなりず たので、 EN THE 書は職工で帯がる用の 大毒かある 歌 Ke 9 0 2 14 de

(三) 商州《万部丹岛

湖

「いい」といいい。

東京市方。

まり 見る。

& U 施目は派米は黒針驤のゆらず、 元色雑弦で高く 34 C. 5 000 れた独帯を報する 対り江東では同九島と阿えのである。 動点は深まな正確の多で、 C .7 中に流する。 OPA 人は鶏ってその肉を食一割立とり形 城と毎日とは二種の島が。 111 36 の調 いるというという。 0 題も黒〉、製お売 ころうかいつ , ~ 日 · 资 、からかり 0 当 0 7 日 がない 14 [1]

盐

正の様はられび終し人る。

好

7

五年

本草聯目為治 第四十九卷

いち正六代人が 糕 それる対ると語う記を恐って人な書 他の緊山い合鳥といる法 やさな状態が。 単お大 帳類の 07 [(1)数 1番は強七ある、土墨で飾つて赤白麻田 。とおる第二の 神記 5 on 墾 ある樹を見ると難けて以らな 0 樹を窓の 干寶 はの日と、対するび、 は脈紅とで色帯~ 3 0 る器はどか、 17 旗 训 7 02 00 事 71 C ¥

据 据 据 未未未 出出 **珠 學 积**

(三) 述《令、劉東、

體阿地方。

目 とき 訇" 果

學學

城中

月りあ靴ムア人を害する。

大人

on

14

:4

貅

2

他のみ

71

省

0

、 | | |

OF

011

34

0

b

2

喜んで人の子を

雨客があり

胸前に正

31

いるのだといよことだのあれ

からとの鳥に出け

。とする子のれ口ての養をれる

All All

ユー

小子小見のある家か打 が間 女関 を 終る 作い 電

詽

1/2

A

その見が驚癇

この見は本中派んで来と血を強けて続いすると

71

正

到

周鵬で

全な取鳥とおいる。

146

阱

3

。 2年?

7

0

B

減び

来を

o CA

924

71

鳥を根るとあるはこの鳥な。

夫さ以ア天

0 H

漱

· -

0

目

冰

计影 く数く指象 (11)

原州へ行船

第四十九卷

本草縣月盛治

類 シャ (0 数鳥お忠慚 74 牽勵公置 で古の諸名がある 印 野 2 21 いかは女人となる。 1/1 高麗して放をなすといるの 4 o on Mi がいる。 别 る。 0 放動な部ク人 、タなる質 2 0 R 3/6 '> 54 とは 41 F O NI 王公太八 71 は新城市 2 訓 00 Q' 非 0

4 戦に、 回 71 류 一〇日 同)無辜島 はの経 天帝心文 温 細 XM 害 够 [11] 記事法) 取行越女 0 北河 四山 是記 1/2 智 計 即母母 東島 1/ 盐 理中

(明十)かかかいと 据据 未未 **财學**科 歌 管 孤

て未にして金ればその場で添える

6

旧 111 けたときは、 Ŧ 為

カ人を職録する (明経) いと動物の毒を除す 【(制紙) U Y 21 正職 以端るいて 大毒あり 规

1

独の刻閣を受

おらい。

は一部 7 2 部 関数を撃つやうなもの 71 21 事 Ë 戀 0 夫 源 图 71 X 湿 7 。公安? 『北田 瀬 21 訓 71 多年期及業 米 纽 0 2 金市 (DE) 21 中 名削み 111 排 黃 軍品的 4 0 3 116 26

友へ鼻枠へ点へ刺館 な。

(4) 黄翃山、腦北香黄渤湖、阿 北 三 五 OE 智 윘 泉 謝文、指き見 聊州 黄林縣 鱼

古

公安 21 辮狐 記載な 댔 Ŧ

は人と

い循るいる

色黄なり。

こととのでは、

震は上帯なり。

FI

21

副

411

0

なけ

人面パンプー国ジ

状お鼻の吹〉、

。の学賞

「三年の」、

71

21

0分學?

7

まを思れずる

とれを服すれば

冬いお盤す。

。そいて

門(三)

71

분

一一一一一一 8 1711 罪掌ユ 對 -殺す O 0 ・ヘトトイとにはこ

である こるははのるに東 7 | 一個 | 一個 | 一個 | 温チ調フェノ 阿高昌 日(重)村(重)日 成とり。 情上挑響

(二) 劃刻徹へ三國吳二點ル、今、江河省 人對為早

その色は潜く 歐以島 1

雨公海

響お人な融トゆきか

0

郷をお食はな

たが蟲含を食んれけでは、

2 赤、

24

見の鳥は商羊ならといったそのもの

几千〇可謂,

。 〉 简 21 9

とうならも融

[弘治一本,良习文法由6

臨海志に

その輩は自らを呼ぶしとあら

いとお説おどで

X

高いるる。

憲州志以 「圏又鳥お園、

一名山麓鳥。

すると果くの鳥がそれ

朝ひよると重出ることはあるは、

夜郷る。

畫水

口

0

(三) 動動間

帯のあるものお主籍で、それぞれ官職の働い置いはあるのだといえ。

島階おは湖下の闇を一下 学人なれる 大いちお舗到 込をいまりのかとい 現はれ 。如果? 「子 木客島がある。 此かおその東子食人。水は木芸のゆうけ」とある。 階間の虫が食い がいるるのをといれ、 (2) 晶 かり高く那んかのお ユロなう独を話いるいる o Mi 45 「木客鳥お 54 東るけは簡恵はあって、 いる副 え弱しい のある様の 白墨い見ると鳥の形で、夜子の鳴響を間 山麓、 12 見なこれを越雨の っている財富をのなるの 調が入 証 異物部の 島でを治島 解色の形の 21 W 渺水 ある。その中でなだって 543 大るる て生するもので、 対するに の解心はる 本土 9年 源 独 Y :4 〇副 では 品品 水客水 (会) 0 54 なる時 Se 21 Y 21 21 当 間 0 0 これ21 窓が 9 111 30 樹の 見家を天然の持つ 湍 京川 京 111 少 :4 ·4 () -11 9 0 南方 240 2 変お長ちニリン N 44 で食 FI 1,1 Ü 客息 9 九八四級す 业

28

21

瀬

B

57

黄白鳥と

目

21

到

回

は長い。

74

邇

2

X

21

中

0

極

のマスれか

:4

はさつ

S

別が

1200000

0 2 2

54

11:1

(1)

59

111

FI

37

3 LE 21

8

24

0

.1

71

21

TE

34

0

21

11X

挑

斷

17/

0

段淑元

5

で来

Vi

2

0

Y

21

ムつる部

年成数入のでに 村(面)川川 面対1一様ナンド - DE

卡

一一一

级

2

0

R

0

本

सिव

(P)

以

24

0

R

3

-111

TE

:4

0

K

0

16

TE

200

四十九卷 湯 聯目發別

本草

114

熟

24

雪

0

54

行くを 端表 事行志 7 公主 14 イくよ 派んで恋れ。すると同語の公主は憲法したといえ。 圕 21 21 色といるといえてとは心得て置してき 21 4蓋 垂 9 0 國間 周寧 P 罪 頭が 通 9 P ? 温 え質 M 9年1年 0 22 學の必非 5 0 X 撃つ ·N 訚 2 0 21 骨てこ 71 阊 + 9 公安? 了以 まするこ 面次商 51 28 題さー 21 21 2 54 34 21 計 5 :4 臺 In 鳴るや は前が 5 地方長首をしたとき、 60 3 大なるもの打算の をお聞う難のゆ 類ユつくな 0 6 火光を見ると劉落する。 習 腳 車の C 0 赤 泉車 公郊脈入予憩>。 南から北へ行へを打翻集とい III 24 11 60 7 2 頭分 St. 多多大了 脈の監管る響 o N 派 41 20 色赤人 宵響させるとど社 拉 24 は獣鶏のやらか、 21 なるのとな 李壽銀市县沙の (II) 醬小 ユフマ 通 27 0 2 21 5 割さなから 墨墨墨 飾 瓣. 2 温か い金するが 0827 W/ い放異さ 21 0 。当 P え市識ね 0 经处理 71 0 派狀 呼 が高 0 お降る 語を京 H 21 からから 5 宋 状は 泉車お はかい12年12年12日 뿡 近流 ET ET 1 業 鳴色。 月 FI 到 SIE 誀 三年 到 浙 0 21 0 らおおいる M Y 뮢 9 2 2 12 , ~ 日 公里了 シャ うし いる。 * 2 4 IV S CP 車 理 0 7 哥 7 P 411 11 ると那ろる 演 0 は言 Y - July 2 :4 シママ E O (1) 0年 21 M 外 21 用 2 ME 0 0 鄉 X 湿 14 2 PI 54 MA

(1) 秦、金治鐵、建 中見 = 。 (24) 路代《不溶商石 藤純黃、建中見 = 。

京物ははのこ。るるに服てい付り記てつ報を耳の物に門 全九孔子出子员上香 神愁蔵問記ひこれを放逐としたのお題 九箇の首立ある。 34 その二島は似たものかから東島と同名で阿出れたの 行際間にある光鶴には のはいてない 衛の大省を見なといえはいい たが強火を消し、 34 ればずいてるい いっく間 2 面

(こ) 陳参へ 存路 7 場

即単れ ナゴラの一箇玄闇 TIJI 国なる部中が派入か憩を、強う人家が入りて人の いてがんのな すいえ 時の日く 富からお常り血を衝してあるは、 い歳すとある意味を取って名としたものだ。 Sin Sin 間との鳥が お音は十箇あったのを、 奇鯛 (圓盝月 Til コ素トと内事はあるといよ。 いは禁助けずお 蒼鸝 九頭島(同上) ないらかのさ 古りまは背のる 34 は剛 放い各額といった 周易い出を一年、 以中 FI. 9 给置) 21 , ~ 目 34 一量の言 れ簡がけ 東島 の影の影 3 対点であって、 o S 新兴 2 7 锤 0 2 部派を正 54 \$. \v. 盐 扩 24 2 2

未未未 2 2 2 財富組

据据据

意 計 冒 車

習

頂 媝 夏 早 ー・三十万万 7 部 事 豣 鑍 黑 4 * 月入 目八 Y 漏 俳 目 事語日本翻正一·六四 强 替 口 涵 東 京 三丁 T 回廊三丁 * Ξ 圖 運運 画 fret 田 # 翻 翻 鹬 * * * H H H 自 等 酥 * 瓶揺 東京市 华 里 京 氘 東 東 杲 * 调 TÌ 阊 币 强健 颈 Œ 件 個 TÌ 由 發 H H 王 + + A H 事 封 4 4 ɪ珠 胖 盟 쌞

いではた近いアコならは。なへ知人を頭をたのけ」

門類のもの、異しい色のもの、異しい形、異しい語、異しい語、異しい語のもの。

, 日本日珠汁

いるの語回

三型のあの。

で見いして首の白きもの

の多名ない見るつな質り

自死して目を関おたもの 「死して足の怖のみなり、

「凡子鳥お

諸島市帯(沿

意



